

「福岡・釜山圏における
日常交流圏の形成に関する研究」
シリーズ No 2

**船舶利用者の需要動向と
旅行形態、旅行意識に
関する研究
—報告書—**

2008 年 3 月

財団法人 福岡アジア都市研究所

まえがき

福岡市と釜山市は、互いに海峡を挟んで 200km の至近距離にある。福岡からすれば、釜山は鹿児島市あるいは広島市とほぼ同じ距離にある。つまり、福岡を中心に西南日本地域圏の円を描けば、必然的に釜山地域が含まれ、国際的な都市圏が形成される。しかも、その背後にかたや中国大陆があり、かたや日本列島の諸地域が連なると共に、海上には壱岐、対馬といった島々が介在する。このことから、古代より両都市は、朝鮮半島、中国大陆と我が国を結ぶ交流の最前線であり、最重要拠点であった。魏志倭人伝に記述される邪馬台国へのルートであり、遣唐使・遣隋使、遣新羅使、朝鮮通信使がたどった道筋に位置し、海陸を結ぶ拠点である。その一方で、文永・弘安の役(元寇)、文禄・慶長の役(韓国では王辰倭乱・丁酉再乱)といった争いや、昭和期における日本の朝鮮支配や太平洋戦争に巻き込まれた困難な時代もあった。

これらの良し悪しはともかく、それらを通しての交流で、少なくとも互いの文化が伝来し、思想・信条の形成に貢献し、工芸や技術の発達、暮らしに多大の影響を与えたことは事実である。このことを踏まえると、福岡と釜山両都市の間に横たわる海峡の存在は、その間を往来する上で必ずしも障害となるものでなく、むしろ相互交流を促進する基幹ルートであり、相互理解を深める文明・文化の道であったといえる。

しかし、第 2 次世界大戦後は、東西の冷戦構造、朝鮮半島における南北戦争の勃発から、日韓の間に横たわる国境は、単なる国と国との境界以上の厳しい壁としてはだかることとなり、互いの交流は途絶えた。1950 年代の李承晩ラインはより厳しい両国間の関係をもたらし、境界付近で漁をした漁船が銃撃を受けあるいは拿捕されるなどの事件が相次ぎ、交流が中断された。

そして 1950 年代後半になると、朝鮮戦争は終結し、1965 年の日韓漁業協定の成立で李承晩ラインは解消し、両国間の不幸な関係を乗り越えることとなった。以来、日韓関係は改善に向かい、日本の海外渡航の自由化(1964)、円高、押捺指紋制度の緩和策(最終的には 1992 年に廃止)などがあり、まずは多くの日本人が韓国を訪れるようになった。次いで、ソウルオリンピック(1988)を契機に韓国人の渡航自由化が進み、あるいは日韓共催のワールドサッカー、ウオン高による韓国人の海外旅行熱が生み出された。

こうした最近における一連の動きから、福岡と釜山の交流関係の再燃、とりわけ海を介した都市間交流の再生と活発化が見られるに至った。特に、平成 3 年に高速船が就航するやたちまちその旅客需要を掘り起こし、これに航空機やフェリーを加えれば今や 100 万人を超える日韓海峡の往来となった。この膨大な交流人口は、過去 2000 年に及ぶ両都市間の交流史の中で最も多く、福岡と広島や鹿児島といった国内近接諸都市間の交流に決して劣るものでない。

この現代の交流も、交流活発化の初期段階では、珍しいもの、初めてのものに関心が高い海外旅行や訪問旅行が主体であり、非日常性を体験する広域回遊型の旅行であったと推察する。それが、互いの交流の活発化から、身近で多様な歴史遺跡や

自然の景勝地の訪問、癒しなどを目的とするアメニティ型、近隣回遊型の観光へと移行し、さらに今日ではグルメや買い物、美容・健康、アウトドアライフ、留学などと多様な関心を生み出し、日常型、リピート型へと変質しつつあると推察される。つまり、そうした変質こそが 100 万人にも及ぶ福岡・釜山間の往来を創出し、持続させるものである。

この交流人口の拡大と維持、および交流内容の質的变化は、福岡、釜山両都市の観光資源の整備や観光客の誘致政策、都市の歴史や景観を踏まえたまちづくり、市民意識や市民の暮らしに伴うコミュニティの運営のあり方、さらに両都市間の交通基盤の整備と運営のあり方などと深く関わる。福岡・釜山間の人の交流に関し、その実態を把握すると共に、こうした視点で十分に分析しながら将来を展望することが重要である。

本調査研究は、上述のことを踏まえながら、福岡・釜山間の交流の実態を調査し、その動向を把握すると共に、旅行者の旅行形態や旅行意識などの解明を図り、将来を展望するものである。その中で、本報告書は、福釜日常交流圏(FPDIA)の形成に関する研究報告 No. 2 で明らかにした福岡・釜山間の船舶利用者に関するアンケート調査の内容をより掘り下げて検討しなおしたものである。

まずは博多港に出入りする福岡・釜山間の船舶利用の実態を分析し、乗降人員の動向を明らかにする。その上で、こうした船舶利用者がどのような人たちかについて把握する。ついで、日本人と韓国人、男性と女性、世代の各層といった観点で旅行者を対比しながら、そうした人々の旅行形態や体験内容などを明らかし、また、港や船舶利用における満足意識を把握するものである。

こうした実態把握や分析が、今後の福岡・釜山間の旅行需要の推測や旅行実態の展望に示唆を与え、また交通機関利用の満足度を高める施設整備やサービスの向上に資すると期待するものである。

2008年3月

財団法人 福岡アジア都市研究所

船舶利用者の需要動向と旅行形態、旅行意識に関する研究

目 次

1. 博多港における福岡・釜山間の船舶旅客需要の動向について	
1.1 福岡・釜山間の交通を主体的に担う船舶	2
1.2 博多港における福岡・釜山間の船舶乗降人員の推移	5
1.3 船舶乗降人員の月変動に関する考察	6
1.4 高速船利用者の曜日変動について	11
1.5 要約	13
2. 船舶利用者の旅行形態と利用意識に関する調査票の作成および実査の概要	
2.1 調査の目的	14
2.2 調査の内容とアンケート票の作成	15
2.3 調査の実施概要について	16
3. 日本人と韓国人とによる高速船利用者の旅行形態とその相違に関する考察	
3.1 序	18
3.2 旅行者の個人属性などについて	21
3.3 旅行形態と行動内容について	23
3.4 交通機関の利用などについて	30
3.5 高速船の利用意識について	32
3.6 要約	34
4. 日本人旅行者の高速船利用に関する男女間および世代間の相違等に関する考察	
4.1 序	38
4.2 性別にみた旅行形態および高速船利用意識の比較検討	38
4.3 年齢階層別にみた旅行形態および高速船利用意識の比較検討	48
4.4 要約	57
5. 韓国人によるフェリー利用者と高速船利用者の旅行者および旅行形態の比較	
5.1 序	60
5.2 旅行者の個人属性について	60
5.3 旅行目的および訪問先について	62
5.4 旅行形態について	64
5.5 体験内容について	66
5.6 港および交通機関に対する満足意識など	67
5.7 港における端末交通手段について	69
5.8 要約	70
6. まとめ福岡と釜山間の回遊性の向上、船舶利用の活性化を目指して	
6.1 高速船利用者の旅行需要の掘り起こしと拡大を目指して	72
6.2 フェリー利用者の旅行需要の掘り起こし	73
6.3 港およびその周辺の環境整備に向けて	74
6.4 船舶の設備、サービスの改善について	75
6.5 旅行情報の発信のあり方について	76
資料編 ビートル・コピー及びニューかめりあ利用客調査アンケート結果	

1. 博多港における福岡・釜山間の船舶旅客需要の 動向について

1.1 福岡・釜山間の交通を主体的に担う船舶

日本と韓国とは地理的に近接するが、その中であって韓国南端の代表都市釜山と九州北端の代表都市福岡は両国間の交流を支える重要なフロント地域であり、海陸、空陸の交通結節点である。このことから、これまで両都市間を結ぶ海空の交通機関が多様に発達してきた。

すなわち、人の交流のための交通機関についていえば、1991年の福岡、釜山間の高速船航路の開設までは、航空機とフェリーによる交通体系であった。そして、3年に高速船が就航したことで、フェリーの航路変更を含め、福岡、釜山間は航空機、フェリー、高速船の3機関体制へと拡充され、今日の重層的な交通体系が確立された。

各交通機関の特性を、利用者の立場から比較すれば表1.1のとおりである。迅速性について、直接の利用時間でみれば航空機がもっともはやいといえるが、端末交通手段を加えて都心から都心までの旅行時間でみれば、高速船と航空機はともに約4時間の旅行時間であり、ほぼ同じである。費用については、フェリーが最も安く、次いで高速船で、航空機はそれらよりも高く、加えて端末交通費が高速船以上に高くなる。これは両市が港湾都市であるがゆえである。また、便数は、今日では高速船が日に5～7往復、フェリーが1往復、航空機が1または2往復という状態であり、高速船がフリーケント性において極めて優れていることはいうまでもない。

交通機関の快適さは、人によりあるいは旅のスタイルにより評価内容や尺度が異なり、また多分に好みが入ることから、特に3交通機関の間の優劣はつけがたい。空の旅、海の旅それぞれに意味合いが異なる。

港と空港の国際ターミナル施設やその設備は、現在のところ空港の快適さが、港のそれを上回る。また、空港や港へのアクセス性についても、博多港と福岡空港の比較では、地下鉄、高速バス、路線バスのいずれの利用も可能な空港の方が勝り、博多港は公共交通としては路線バスのみに限られ不便である。

釜山港と金海空港では、最近空港ターミナルの整備が進み、釜山港の整備もこれからよ

表 1.1 福岡・釜山間の交通機関、交通施設の比較一覧

項 目		高速船	フェリー	航空機
交通機関	迅速性			
	トラベル時間	アクセスも含めれば 4 時間程度。 乗船者の手続きは簡単。	マイカーの場合 手続きを含めれば 10 時間で、長時間を要する。 (検査のため 3 時間以上前に着く必要がある) 乗船のみの場合 アクセスを含めて 7 時間程度。 乗船のみの手続きは簡単。 約 5 時間 30 分 または 11 時間 30 分 福岡約 20 分 釜山約 20 分 手続き 20 分	アクセス含めれば 3 時間程度。 他の路線との関係から 多客時間帯に出国手続きの時間を要する。
	直接の旅行時間	2 時間 55 分 福岡約 20 分 釜山約 20 分 手続き 20 分	約 5 時間 30 分 または 11 時間 30 分 福岡約 20 分 釜山約 20 分 手続き 20 分	約 50 分 福岡側約 30 分、釜山側約 40 分、手続き 1 時間
	都市からの交通時間等	1 日 5～7 便で、フリーケント性に優れる。	1 日 1 便	1 日 1、2 往復
費用	フリーケント性			
	運賃	往復 24000 円で、各種割引制度がある。 格安運賃 15000 円程度	マイカーの場合 全体で約 9 万円 (保険を含む) 乗船のみの場合 17100 円 格安運賃 10000 円程度	往復 36800 円で、割引制度あり。 格安運賃 17000 円程度
	就航率		いずれの交通機関も 98% 以上であり、特に優秀はない。	
	快適性など	外観から受ける印象のわりに船内雰囲気はいま一。 売店などあり、ある程度サービスが行き届く。 ある程度移動可能 波によっては船酔いの心配がある。	ラウンジなどがあり、船内イメージは良い。 売店、食堂など十分なサービスがある。 移動が自由 ドック入り時のサービス停止あり。	いすなど十分快適な機内印象である。 客室乗務員による限定的サービス。 移動が拘束される。 風速によっては揺れ、運航中止。
港	船内移動			
	その他			
	港などの整備状況			
	ターミナル	建物はある程度は整備が進んでいるが、十分に快適とは言えない。 港の全体的イメージは、周辺を含めれば暗く、また物流イメージが強く必ずしも良くない。 建物周辺の植栽、花壇、芝生が不十分。		建物は近代的で、設備も整い、十分快適である。 空港の全体的イメージは明るく、良い。 建物周辺の植栽、花壇、芝生が不十分。
港	構内設備	港内の設備は一応整っているが、完全とはいえず、改善の余地がある。		空港内設備は十分整備されている。
	周辺	港周辺の景観は十分に良いとはいえず、改善の余地が多分にある。 (特に、人間的な親しみ、温かみ、高質性に欠ける)		空港周辺は殺風景で、必ずしも十分景観に優れているとはいえない。
	港へのアクセス性			
	駐車場 都市高速道との関係 など	十分な駐車場あり (30 分 150 円、24 時間最大 3600 円)。 都市高速道路のランプに近接するが、進入路の迂回が必要で、複雑。 路線バス 地下鉄は最寄駅からの距離があり、直接利用できない。 タクシー利用には問題ない。		十分な駐車場あり (民間で 1 日 800 円程度)。 都市高速道路のランプに近接。混雑することがある。 路線バス、高速バス 地下鉄+構内バスサービスの利用が多い。 タクシー利用には問題ない。

り一層進むことから、快適さにおいてそんな色はない。アクセスは、都心に近いことと空港と鉄道との連携、地下鉄や路線バスなどの利活用の点で釜山港が極めて有利である。

ところで、福岡・釜山間に関してこうした交通機関の内容であるが、その結果として両都市間の旅客がこれらをどのように利用しているかを乗降人員の観点で比較すれば図 1.1 のとおりである。すなわち、福岡・釜山間の旅客に関し福岡空港と博多港からの出入国者を、日本人、韓国人別にみたものである。これより次のような諸特性を読み取ることができる。

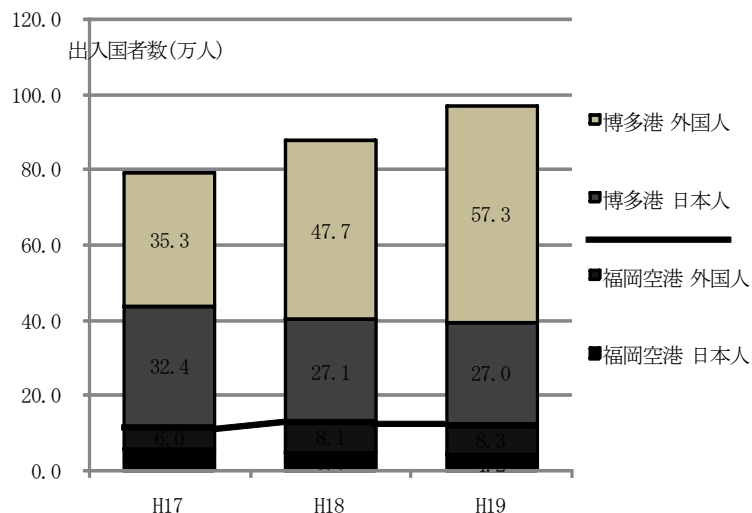


図1.1 福岡・釜山間の博多港、福岡空港におけるの旅客分担状況

- 福岡・釜山間の往来は近年着実に増加しており、平成 18 年で 87.8 万人、平成 19 年で 96.8 万人に達する。
- 平成 18 年でみれば、その中で日本人 37%、韓国人 61%、その他 2%という状況で、韓国人の方が日本人よりもより多くが往来している。
- 福岡空港と博多港との関係では、この 3 年間の平均でみれば、概ね 15%が福岡空港より、85%が博多港からといった割合での出入国である。
- 博多港から発着する船舶に高速船とフェリーがあるが、その分担は、図示の 3 年間でみればおしなべて 75%が高速船、25%がフェリーという状況である。したがって、福岡釜山間の人の移動は、結局のところ 2/3 が高速船で、2 割強がフェリー、残りが航空機という分担状況となる。

こうした実態を踏まえれば、福岡・釜山間の交通機関として船舶が重要な役割を担っていることが明らかである。すなわち、大規模な交通需要を海路主体で担う国際交通路線の存在は、我が国の中で他に例を見ないものであり、しかも、そのことが少なくとも福岡の国際化施策展開の上で重要であることはいうまでもない。

1.2 博多港における福岡・釜山間の船舶乗降人員の推移

平成3年に福岡・釜山間に高速船が就航した。図1.2は、それ以来のフェリーも含めた博多港における福岡・釜山間の乗降人員の推移を示す。途中で様々な紆余曲折があった。特に2000年代に入ってから、ワールドサッカーの日韓共同開催や日本人の韓流ブーム、韓国人の日流ブームがある一方で、日韓の間で領土や歴史認識に関する問題が表面化し、さらにはSARSが猛威をふるい海外旅行が激減するなどのこともあった。しかしながら、全体的に眺めれば、福岡・釜山間の旅客船による乗降人員は、対前年比マイナスとなることなく順調に増加し、今日に至っている。

因みに、年間の乗降人員データに対し近似曲線を当てはめれば、図中に示す曲線がえられる。基本的に指数曲線が当てはまる状況であり、初期の助走的な増加の状態から次第に加速的な増加へと変化し、その結果として、最近では福岡・釜山間における旅客需要の大半を担うに至るものである。

こうした乗降人員の推移と、日韓の間のさまざまな出来事や関係の変化を踏まえてより詳細にみれば、これまでの17年間で3つの区間に分けることができる。最初は図中のⅠの区間（平成3～9年）であり、高速船の就航からアジア通貨危機までの7年間である。この間は、ソウルオリンピック(1988)に合わせた渡航の自由化(1989)を受けた時期であり、あるいは韓国大田市での万博(1993)やわが国の指紋押捺制度の廃止(1993)などがあった。つまり、日、韓双方で相互理解と交流が徐々に進み、乗降人員が着実に拡大した時期である。ただ、この期間の福岡・釜山間の旅客の移動は空路が主体であり、平成6年でみれば、

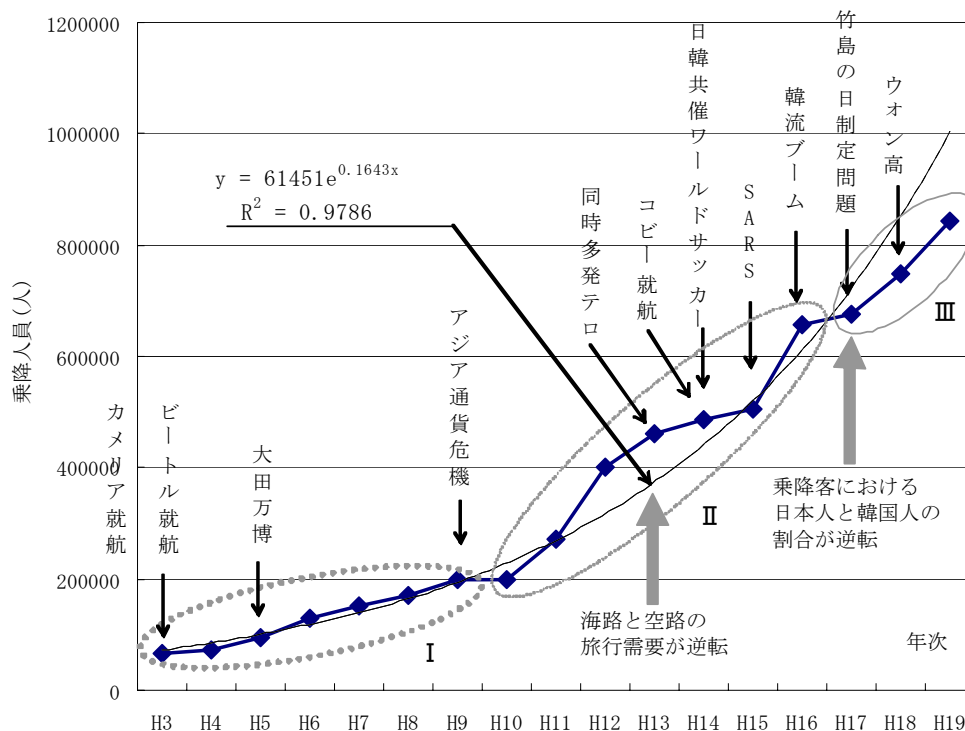


図1.2 博多・釜山間の船舶乗降人員の推移

空路の旅客需要は海路のその 2.4 倍で、これに船舶輸送が加わったという状況である。

アジア通貨危機の後は、日韓ワールドサッカーや韓流ブームがあり、日本人を主体に韓国への旅行が活発化した時期であり、平成 10～17 年の期間である(図中のⅡ)。この間に福岡・釜山間の人の動きが空路から海路へと大きく転換し、平成 13 年には旅客需要の空路と海路の分担がついに逆転し、海路が主体におどりでた点で画期的であった。

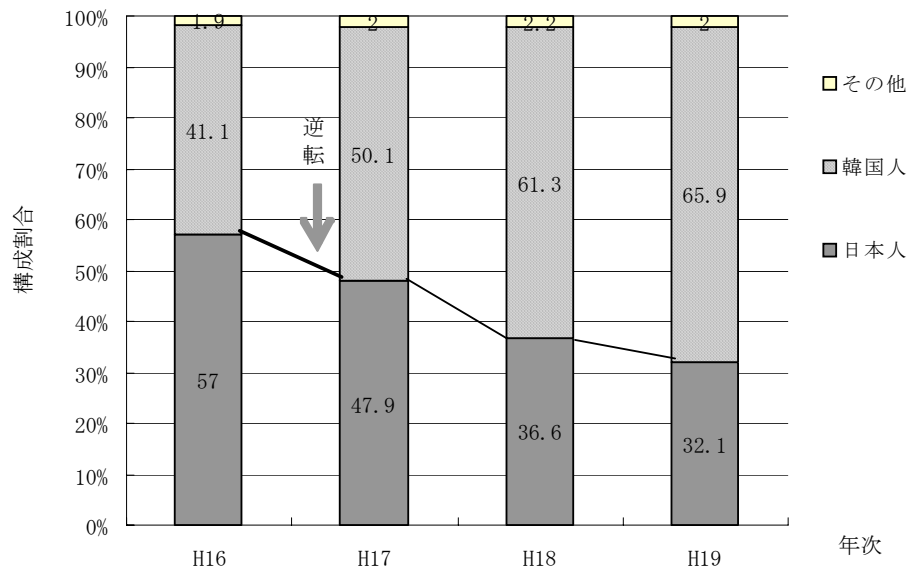


図1.3 博多港における船舶乗降人員の日本人と韓国人の割合

しかしながら、平成 14 年から 15 年の冬にかけていわゆる SARS が発生し、アジアを中心に猛威をふるい、そのことで海外旅行が大きな打撃を受けた。あるいは日本人の韓流ブームは長くは続かず、2 年ほどで終焉した。しかし、これらに代わったのがウォン高のもとでの韓国人の海外旅行の活発化であり、福岡・釜山間における韓国人の乗降人員が急速に伸びた。これが図中のⅢであり、平成 17 年からの顕著な乗降人員の増加である。平成 17 年には韓国人と日本人の乗船客の割合が逆転し(図 1.3)、平成 18 年では韓国人 61%、日本人 37%、平成 19 年ではさらに 66%と 32%になっている。

以上、高速船就航後の 17 年間における福岡・釜山間の旅客流動は、ソウルオリンピック後の相互理解と交流の推進、日本人の韓国旅行ブーム、韓国人の海外旅行ブームの 3 ステップが日替わりメニューのようにつながり、順調に拡大してきた。そして、その間に、利用交通機関の主体が空路から海路へ、また旅客の主体が日本人から韓国人へと変質したといえる。

1.3 船舶乗降人員の月変動に関する考察

(1)月別乗降人員データの変動とデータ期間の平均的な月変動係数

拡大した福岡・釜山間の旅客需要も月別にみれば、多客期もあれば、需要が落ち込む時期もあり、変動している。そこで、いまや旅客需要の大半を担う海路、すなわち、博多港

の乗降人員の月別データをもとに、その変動特性を考察すれば以下のとおりである。

月別の乗降人員データはその月の傾向変動と月変動係数、残差変動の成分で構成されると仮定でき、また残差変動は平均値 0 の正規分布 $N(0, \sigma^2)$ を仮定する。このとき、

ある年のある月の乗降人員データ

$$= \text{月変動係数} \times \text{その年のその月の傾向変動} + \text{残差変動}$$

図 1.4 は、平成 10 年から平成 18 年までの博多港における福岡・釜山間の船舶の月別乗降人員をそのままプロットしたものである。全体としては、乗降人員は月々で変化しながらも経年とともに需要を伸ばして上方にシフトしている様子が分かる。また、月々の変化のパターンも、平成 10、11 年のように類似するものがある一方で、平成 15 年や平成 18 年のように局部的ではあるが特異な変動を示すものもあり、必ずしも一致しない。このことは、いうまでもなく先に述べた日韓の間の大きな出来事や旅行需要の構造的変化が影響していることである。

次に、月別の変動係数であるが、その求め方には連環比率法と対移動平均法の 2 通りが考えられる。しかし、前述のように、SARS による影響で局所的に旅客需要が大きく落ち込んだことや、途中でデータが持つ意味が変化したことから、対移動平均法では、その影響が移動平均をとる際に前後相当の期間に及び十分に検討できない問題がある。また、同法は、データ期間のうち平均期間の 1/2 に相当する最初と最後の期間の変動係数が求まら

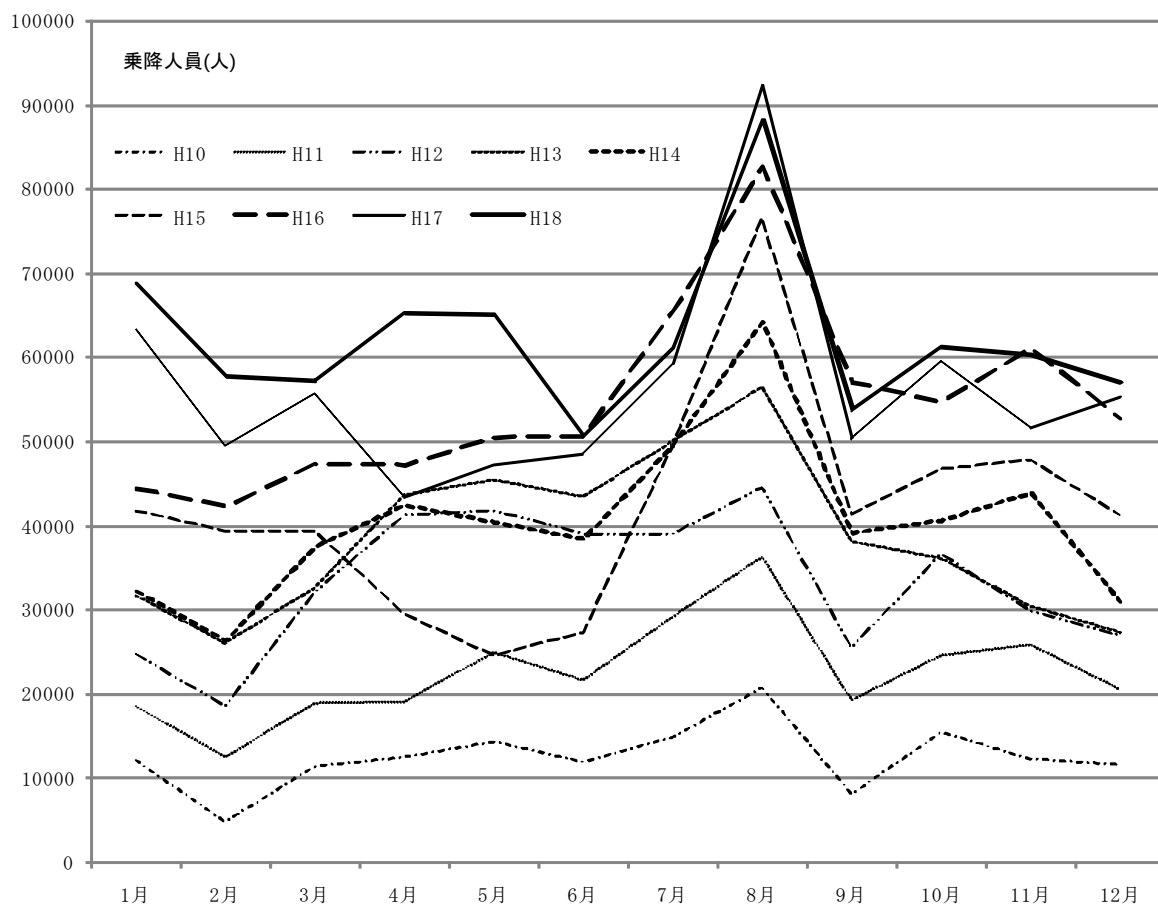


図1.4 博多港における福岡・釜山間の船舶月別乗降人員の推移(平成10～18年)

ない問題がある。このため、短期間のデータしか得られない、時期により需要構造の変化がある時には基本的に適用ができない。これらから、ここではマクロ的な考察に両手法を活用し、両者で大きな差異がないことを確認しつつ、詳細な考察には連環比率法を用いることにする。

平成10年から平成18年までの全データに対して両手法を適用すれば図1.5がえられる。本来ならば対移動平均法の方が理論上好ましいといえなくもないが、図はデータの全期間を通しての月変動係数の平均をしめすものである。いずれの手法ともさほど変わらない結果がえられている。

データの変動および全体平均的な変動係数の値を月別に細かくみてみると、学生の夏休みやサラリーマンの盆休み、夏期休暇が多い8月は、他の月に比して大きな需要したがって大きな変動係数の値になることが明らかであり、この点はデータの年次期間全体を通じて共通する特色である。すなわち、8月の需要を平均すれば、傾向変動(近似的には月別乗降人員の年平均)の値を1.5~1.6倍するほどの値になっている。同様に、7月の変動係数も1.2で、1より大きな値となり、7月を8月に続く多客期と見ることができる。

他方、2、6、9、11、12月は概略的にみれば1より小さな値となり、期間を平均して年間の中でも需要が落ち込む傾向にあることが分かる。特に、2月では0.72、9月では0.80、12月では0.73(連環比率法による)であり、需要が小さく、落ち込むといえる。そして、残りの1、3、4、5、10月は、どちらかといえば傾向変動がそのままその月の乗降人員となり、変動係数は1あるいはそれに近い値である。

(2)年次別の月変動係数に関する考察

上述の検討を踏まえれば、月変動について、たとえば、8月のピーク、2、9月の落ち込みはおしなべて各年次で共通することが指摘できる。しかし、厳密には前述のような世界あるいは日韓の間の出来事や事件による需要構造の変化から、月々の需要パターンも年により変化しているといった方が妥当である。そこで、連環比率法により、前年の12月を含めて年次毎に区切りながら、あらためて年次別の月変動係数を求めれば図1.6の結果が

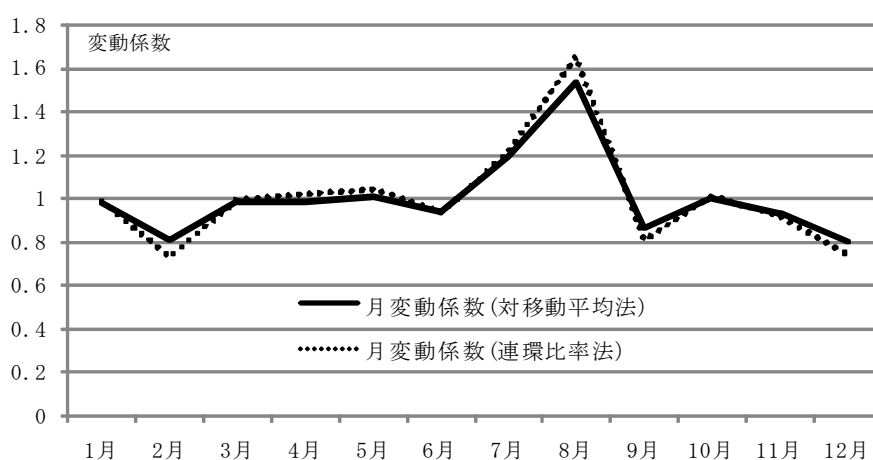


図1.5 平成10~18年データによる平均的な月変動係数

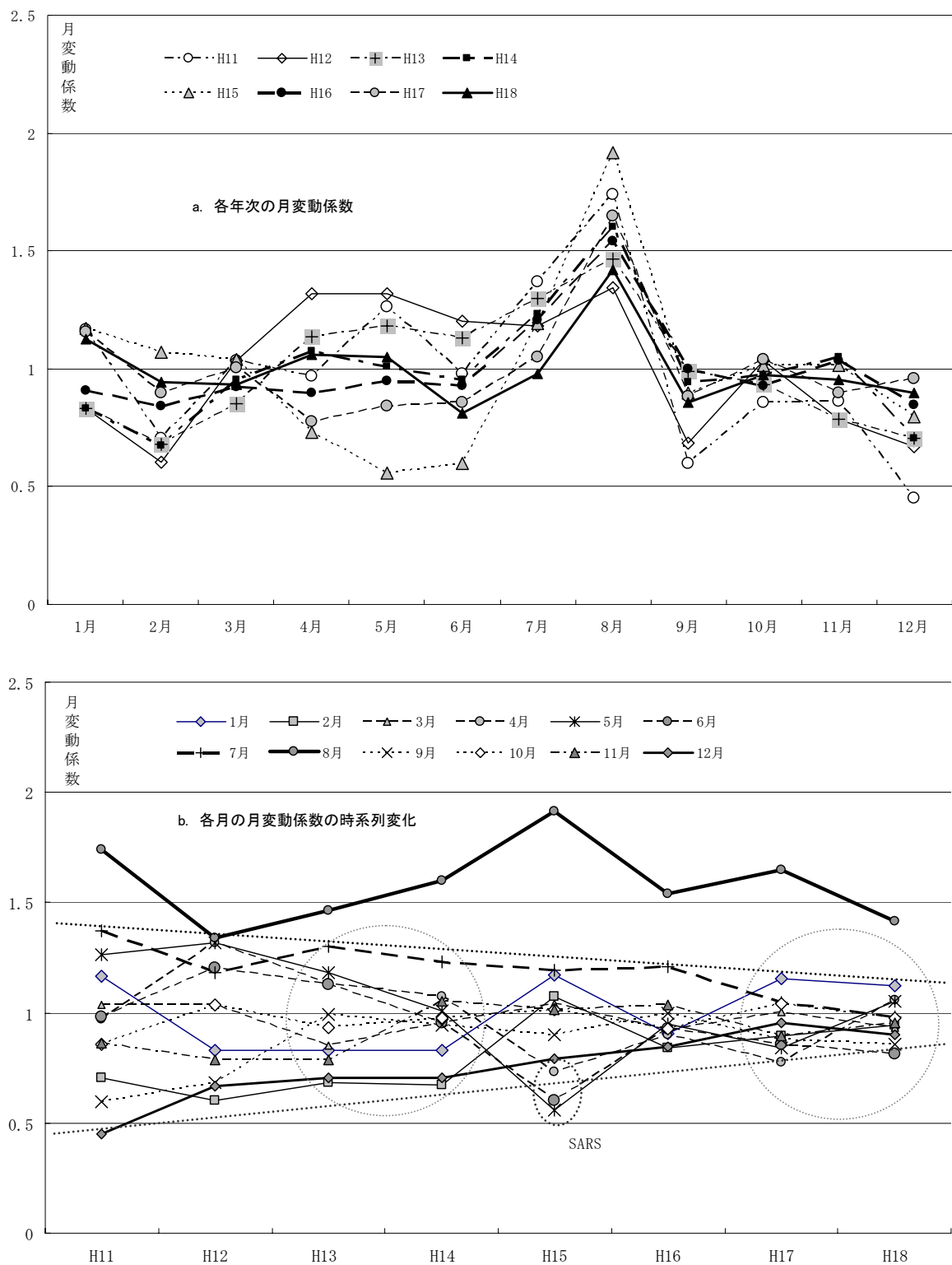


図1.6 年次別の月変動係数とその月別の経年変化

えられる。

図 1.6 の a.より明らかなように、各年次で月変動係数の分布パターンは異なり、重なるものは少ない。特に、H11、H12、H15 の変動係数は他との差異が顕著である。H11 はア

アジア通貨危機が韓国経済を悪化させたことの影響と推察され、H12はそれからの回復に伴う変動期であり、H15はSARSの影響によるものと推察する。

残りについても、月変動係数の分布パターンは似てくるが、それでも3月や9、10、11月を除けばそれぞれのかい離がある。こうしたことから、データ分析期間の平成11年～18年の間では、分布パターンは年次により相違し、必ずしも十分に一致するものでないといえる。

同じ内容を月々の変動係数の経年変化としてプロットし直せば同図b.のとおりである。8月は最も大きな値であると同時に年次による変化が激しく、必ずしも一定の傾向は得られないが、強いていえば1.6程度の値で横ばいに推移しているとみることができる。

他方、8月を除いて、こうした変動係数を概観すれば、図中点線で示すような包絡線が描ける。この包絡線は、年代の推移とともに狭まる傾向にあることが明らかである。平成11年では変動幅が0.95であるのに対し、平成18年は0.4までに半減している。このことは、各月の変動係数の変動が次第に絞り込まれ、いずれも1.0に近づいていることを意味する。つまり、乗降人員の増加と共に、8月以外の月における多客期、少客期の差異が小さくなり、どの月も年平均の月乗降人員に近づいていることを表す。ある意味では、8月だけ船舶を増便し輸送能力を高める必要があるが、他の月の旅客需要はいずれもほぼ同様の値になりつつあり、輸送能力を月ごとに変動させる必要がなくなってきたと解釈できる。

(3)日本人と韓国人それぞれが主体的利用時代の月変動係数の比較

月変動係数の経年変化において、平成15年のSARSの影響があり、あるいは、平成13

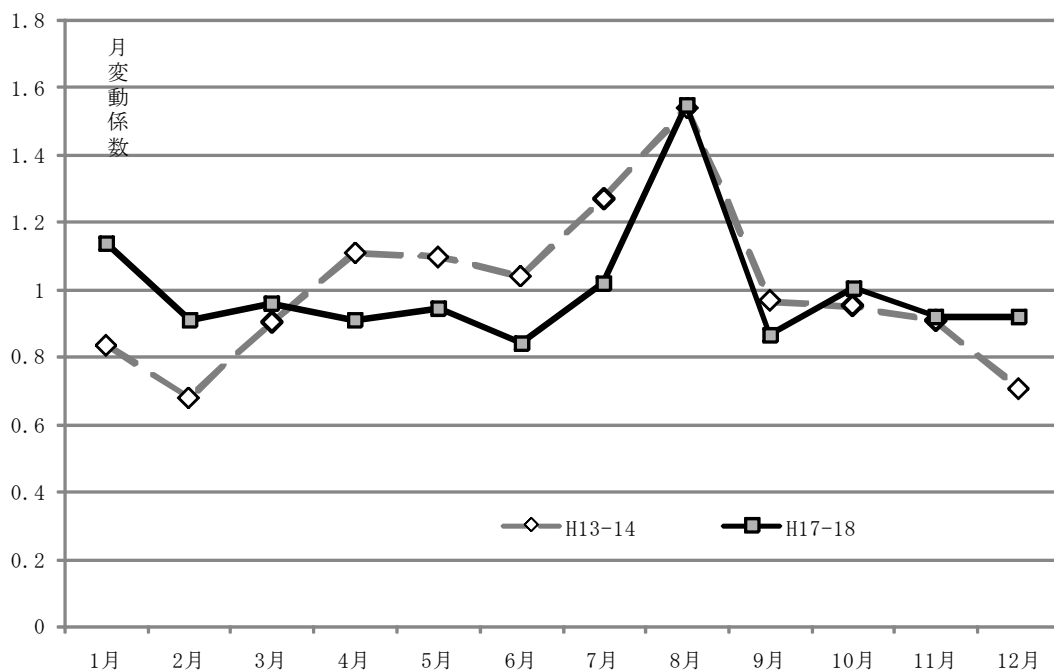


図1.7 日本人主体の利用時代(H13-14)と韓国人主体の利用時代(H17-18)の月変動係数の比較

年で日本人と韓国人の構成割合が逆転したが、このことに関連し韓国と日本とでは休暇の取り方などの習慣が異なることから、月変動係数の値にも変化があるのではと推察される。

そこで、この観点から図 1. 6 の b.を眺めれば、平成 15、16 年は他の年次と異なる性格をもつと考える。すなわち、平成 14 年以前と、平成 17 年以降ということで変動係数が性格を異にし、平成 15、16 年はその間の転換期と解釈できる。

そこで、転換期をはさむ前後において、平成 13、14 年を日本人が主体（データはないが、約 2/3 またはそれ以上が日本人と推定される）の乗降客期間、平成 17、18 年を韓国人が主体（約 2/3 が韓国人。図 1.3）の乗降客期間と判断し、両期間の間で月変動係数がどのように異なるかを検討するために、両期間それぞれの変動係数を求めれば図 1.7 のとおりである。

因みに H13-14 および H17-18 の変動係数の分布について相関係数を求めれば 0.653 であり、両者の間で必ずしも相関があるとはいえない。その中で 8 月は、変動係数の値がほぼ同じであり、ともに 1.5 強の値になっている。また、3、10、11 月も両者でおおむね一致し、1.0 に近い値がえられている。

しかし、これら以外の月は、H13-14 および H17-18 それぞれで異なる。すなわち、H13-14 では 12～2 月の冬場の落ち込みが大きいこと、これに代わって 7 月および 4、5 月の変動係数が 1 を超えて、多客期であることである。一方、H17-18 では、全体として変動幅が小さいこと、1 月がやや多客期であり、6、9 月に小幅な落ち込みがみられ、H13-14 とは異なる状況である。

1.4 高速船利用者の曜日変動について

1 日ごとの乗降人員データから曜日変動を検討するが、2 章に述べる船舶利用者のアンケート実施と同じ時期の 2007 年 10 月 1 日より 10 月 31 日までの日々の乗船者数をもとにする。

データの概要は図 1.8 に示すとおりである。1 カ月間の総乗船人員は 49,051 人であるが、国籍の上では韓国人 51%、日本人 47%、その他 2%の構成である。また、日本人は男性が

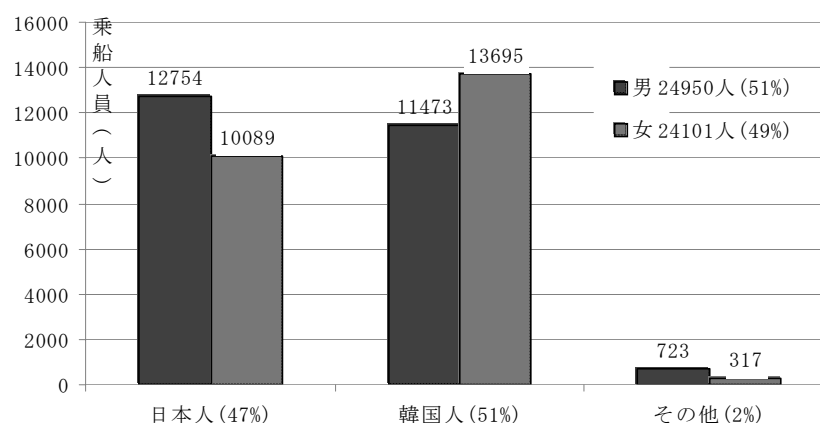


図1.8 高速船乗船者(H17年10月)の国籍、性別人員

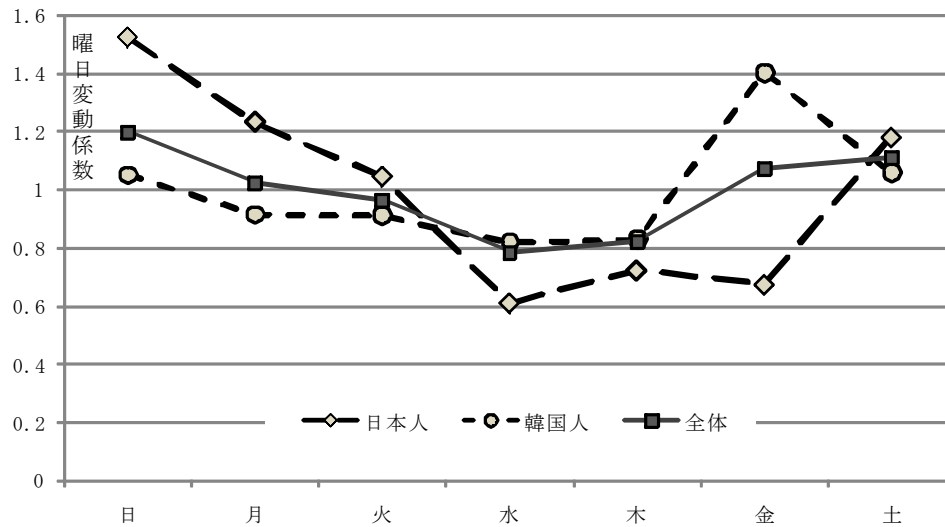


図1.9 日本人、韓国人、全乗船者の曜日変動係数

多く(56%)、韓国人は女性が多い(54%)という逆の状態であるが、総和すれば性別に関し男、女ほぼ同数となる。

日本人のデータを詳細にみれば、平均して 737 人/日の乗船であるが、1000 人を超える日が日曜日に多く、それ以外にも月、火、土の 3 か所に点在する。これらは同じ曜日で他の日に比して大きいことから、団体の乗船があったものと推察される。

韓国人については、金曜日に多くの乗船がある以外は、土、日に一日ずつ 1000 人を超える日があるものの、こうした日は他の曜日に比較して乗船者が特段多いということではない。

こうしたデータであるが、日本人、韓国人の別、および全乗船者で曜日変動係数を連環比率法で求め、プロットすれば図 1.9 のとおりである。なお、曜日変動係数の意味は次式で与えられる。

ある曜日のその日の乗船客数データ

$$= \text{曜日変動係数} \times \text{その曜日のその日の傾向変動} + \text{残差変動}$$

日本人については、特に日曜日の変動係数が大きく、1.52 である。次いで、月、土の 1.2 となる。これに対し、水、木、金の値は小さく、0.6~0.7 である。

他方、韓国人は金曜日がピークで、1.41 の値である。次いで土、日であるが、1 をわずかに上回る程度であり、他は 0.8~0.9 である。全体として、日本人に比較すれば変動幅が小さい。

日本人、韓国人、その他を合わせて全体でみれば、図中の実線に示す曜日変動係数がえられる。0.8~1.2 の変動であり、日、土、金が 1.0 を超え、月、火は 1.0 前後、水、木で 0.6~0.7 前後の U 字型の分布がえられる。これら両者の違いから、押し並べて日本人、韓国人を混在させることは曜日変動の平滑化に貢献するといえるが、それでも週中の水、木は需要が落ち込む傾向にあることが分かる。

1.5 要約

必ずしも十分なデータがなく、得られたデータをもとにして福岡・釜山間の船舶の乗降人員について、その特性を分析し解明したものである。結果を要約すれば以下のとおりである。

旅行需要の構造的変化について

- (1) 福岡・釜山間には船舶と航空機の両交通機関が重層的に運行されているが、旅客需要はかつての航空機利用主体の時代から、船舶利用主体の時代に変質した。このことは、福岡の国際施策の展開、とりわけ釜山都市圏との交流施策を考える上で重要である。
- (2) 福岡・釜山間の船舶利用は、ソウルオリンピックなどを契機とする交流促進時代、日本人の韓国旅行ブーム時代、韓国人の海外旅行ブーム時代と 3 段階の展開で今日に至る。この間、旅行者の主体は日本人から韓国人へと移行している。

船舶旅客需要の月変動について

- (3) 月々の船舶旅客需要は、8 月にピークがあることで各年で共通する。しかし、そのこと以外は日韓のさまざまな出来事やアジアの通貨危機、SARS などの影響を受けて、年次ごとに異なる。
- (4) マクロ的にみれば、8 月を除けば、他の月の変動係数は年次が推移するに伴い相互の変動幅が縮小し、1 に近づく傾向にある。8 月は、年次による変化が大きいものの、平均すれば 1.6 程度の横ばい状態である。
- (5) 日本人旅行客が多かった平成 13、14 年と、韓国人が多かった平成 17、18 年の月変動係数を比較すれば、ピークは一致するが、それ以外は基本的に異なり、日本人の変動幅が大きく、韓国人のそれは小さい。

船舶旅行需要の曜日変動について

- (6) 2007 年 10 月について、曜日変動を求めれば、日本人は日、月、土に多くの客が集まり、水、木、金が少ない。これに対し韓国人は、金曜日がピークで、他は 1 ないしそれ以下であるが、曜日変動についても日本人よりも変動幅が小さいといえる。

２．船舶利用者の旅行形態と利用意識に 関する調査票の作成および実査の概要

2.1 調査の目的

前述するように、福岡と釜山の間の交通機関として、博多港、釜山港の間で運行されている高速船があり、大量の旅行需要を担っている。福岡・釜山両都市間に限れば、いまや航空機利用を大幅にこえ、福岡・釜山間の交流の上で最も重要な交通基盤をなす。両地域やその背後圏の交流発展のために、その持続的で有効な活用こそが強く求められる。

他方、両国、両地域では、高速道路網の発達とともに、それぞれの国を代表する自動車産業の展開がある。このことから、産業活動はもとより、市民活動においてモータリゼーションの進展が著しい。また、車を利用した個人旅行の活発化や風景街道による諸地域回遊型、市民との交流型のツーリズムなどの導入・発展が期待される。したがって、これらに伴い両国間の車の相互乗り入れも十分に考えられ、そのことに関連してフェリーの活用も期待される。

これら両者のことを考え合わせると、博多港、釜山港間の船舶利用とそれによる旅行の実態を調査し、その内容を検討し、両国間の人々の移動の実態を解明することは、両都市・両地域間の交通基盤の整備と、持続的でより発展性のある交流施策の展開および円滑化策を検討する上で大切である。あるいは、旅行者の旅行実態や旅行意識などの把握なくして交通基盤の整備や改善、交流施策の推進はないといってもよい。しかしながら、この点については、これまで必ずしも十分な調査が行われてこなかったことは周知のとおりである。

そこで、日本人および韓国人の船舶利用交通の実態を調査し、その特性を明らかにするとともに、両国の交流施策、交通施策の改善と展開の上で有益な情報を提供するとの考えのもとに、あらためて乗船者対象のアンケート調査を実施するものである。つまり、調査は以下の内容の把握と分析を目的にしている。

- ① 日本人および韓国人による **高速船利用旅行者の個人属性、旅行目的や旅行形態、今後の旅行計画**などを把握し、両国民による旅行の特性やその違いを明らかにする。
- ② 日本人および韓国人旅行者が、**高速船に対してどのように満足しているか**、その利用意識を明らかにする。
- ③ 日本人に関し、性別や世代間の異なる人々が、それぞれにどのような目的で、どのような旅行形態や旅行内容で釜山に出かけているか、あるいはそれらの特性に違いがあるかなどを分析し、実態を解明する。

- ④ 福岡、釜山間の旅行者は大半が高速船である半面、フェリー利用者は限られている。したがって、なぜ高速船利用に偏るのか、フェリーの活用策はありうるのかなどを知る一助として、フェリー利用者は高速船利用者とはどこが異なり、フェリーはどういったタイプの旅行を担っているのかなどを明らかにする。すなわち、**フェリー利用者の旅行形態や体験内容などを明かし、高速船利用者と比較する**ものである。

2.2 調査の内容とアンケート票の作成

調査目的に照らし合わせ、その一方で回答者の負担を考慮して、アンケートにおける設問内容の構成を考えた。その結果が参考資料に添付する高速船およびフェリー利用者に対するアンケート調査票である。全部で 18 の設問と個人属性に関する項目からなる。それらを一括し体系化すれば、旅行者のこと、旅行形態、ターミナルおよび船のサービスなどに対する満足意識の 4 項目となり、以下のとおりである。

○旅行者の個人属性など

一般的な性別、年齢、職業の設問に加えて、利用圏を概略つかむために自国内の居住地についての設問を挿入した。また、国境をまたぐ旅行という特異性から、海外旅行の経験の有無や相手国の言葉に対する会話力の程度についての設問を加えている。

○旅行の形態および内容

旅行形態に関する事項として、

旅行目的、旅行における訪問先(目的地)、
相手都市(福岡、釜山)の市内の訪問(回遊)先、
体験内容（グルメ、買い物、観光、その他）、
旅行日程や訪問回数、訪問頻度
旅行費用(交通費を含む)、
同伴者の有無や同伴者の続柄、
旅行計画のあり方

に関する設問で構成した。いわば、本調査のメインとなる諸内容である。

○高速船、フェリー利用の実態と満足意識

高速船などの情報入手手段、高速船あるいはフェリー、航空機の利用意識、船舶運行や船内サービスに対する満足意識などである。

○ターミナルの満足意識およびそれへのアクセス

博多港および釜山港ターミナルの設備やサービスに対する満足意識、それぞれの港へのアクセスおよびイグレスにおける端末交通手の利用について設問した。

具体的なアンケート調査票は、研究報告書 No.2 に示すとおりである。高速船については基本的には同じ内容であるが、日本人用の日本語対応と韓国人用の韓国語対応の 2 種類を作成した。

フェリー用については、基本構成は同じとしながらも、内容の上で高速船用を若干修正してフェリー用とし、また、韓国人の利用が主であることから韓国人対応の韓国語調査票のみを使用した。

なお、本報告書では、日本語調査票は原本をそのまま添付している。韓国語調査票は、まずは日本語で作成し、これを韓国語に翻訳したが、本報告書には翻訳以前の日本語原本を掲載している。

2.3 調査の実施概要について

調査は、高速船、フェリーの乗船者を対象にする。それぞれの運行会社の協力を得て、高速船は船内でアンケート用紙を配布し、乗船中に記入してもらい、フェリーは博多港ターミナル二階でアンケート用紙を配布し、待ち時間に記入してもらい回収する形式を採用した。

(1) 高速船

調査の期日は、表 1.1 のとおりで、平成 9 年の 9、10 月である。秋の旅行シーズンとし、週末、平日の双方を組み込んで行った。いずれの調査日も天候に恵まれた。また、海上の波高については、9 月 25 日、26 日は約 1.5m をこえ揺れがあり、それ以外は 1m ないしそれ以下であった。いずれにしても、調査前の船便を含めて船の運行に関し支障を来すことはなかった。また、日本人および韓国人のどちらも、旅行の実態および印象などを確実に把握することをねらいとして、それぞれの旅行者が帰国する際を捉えて調査を行った。

具体的には、福岡発の高速船では、韓国人が多い便をとらえ、主として韓国人を対象にした韓国語のアンケート用紙を配布したが、統計的な集計が可能であることを踏まえて、回収数 400 サンプルを目標とした。調査票の配布は、全乗船者（日本人および他国籍者を含む）で、配布数 817 票ある。また、回収数は 474 票で、回収率は 58% であった。回収した 474 サンプルのうち、韓国人の回答は 405 票であり、そのうち個人属性における性別の記入漏れがないものを分析対象としたが、そうした有効票が同じく 405 票えられた。したがって、回収票に対する有効票の割合は 85% である。

釜山発 4 便の調査は日本人が対象であるが、日本語の調査表配布数 607 票に対し、回収票は 532 票で、88% の回収率であった。このうち日本人の回答票は 472 票であり、うち分析可能な有効票は 467 票で、回収票全体に対する有効票の割合は 88% であった。なお、調査票の配布は、福岡発と同様に全乗船者（韓国人および他国籍者を含む）である。

(2) フェリー

福岡発のフェリーにおける旅行客は韓国人が主であり、日本人は少ない。したがって、日本人については 1、2 日の調査でサンプルが十分に確保できる状況にない。このことから今回は韓国人を対象にして、博多国際ターミナルで乗船待ちの客を対象に調査を行った。調査日の天候は共に晴れで、天候および海上も特に問題はなく、船舶の航行に支障を来す状態ではなかった。

表2.1 調査表の配布数、回収数など

調査票の種類		調査日	目標有効数	調査票の配布数	調査票の回収結果				分析対象調査票
					回収数	日本人	韓国人	その他	
高速船	日本語	釜山発9/26, 30. 10/14, 22	400	日本語 607	532	472	20	40	日本人467
	韓国語	福岡発9/25, 29. 10/13, 21	400	韓国語 817	474	3	405	66	韓国人405
フェリー	韓国語	博多ターミナル11/29, 30. 12/1, 2	150	韓国語 ー	208	1	201	6	韓国人189

注1) 調査票は乗船者全員に配布した。

注2) その他は、日本および韓国以外の国籍と国籍無E

調査票の目標数は併せて 150 サンプルである。韓国人と思える乗船者で、協力いただける方に韓国語のアンケート用紙を配布した。配布数及び回収数は 208 サンプルである。また、回収結果は回答者の 97%が韓国人であるが、そのうち性別の記載漏れを除けば、分析可能な有効票は 189 サンプルであった。回収数に対する有効率は 91%である。

以下の各章の分析は、上述の分析可能な有効票にもとづくものである。3 では、日本人と韓国人の高速船利用の旅行実態などを比較検討するものである。また、4 では、日本人の高速船利用者に関して、性別、世代別の旅行実態などを吟味する。さらに、5 では、韓国人を対象に、その旅行における高速船利用者とフェリー利用者を比較するものである。

3. 日本人と韓国人とによる高速船利用者の 旅行形態とその相違に関する考察

3.1 序

調査内容における設問項目別の単純集計にもとづく分析結果については、日本人、韓国人別に研究報告 No.2 に示すとおりである。すなわち、アンケート調査をもとにして、それぞれの旅行形態や内容、高速船利用の満足意識などを、項目内容の特徴や日本人と韓国人の違いを考慮して円グラフなどで対比し考察した。また、それらおよび各設問に対する回答肢や回答内容の分布の集計結果を踏まえて、日本人と韓国人の旅行者の旅行実態などをそれぞれに考察し、その比較内容を項目別に考察して一覧にし、概観できるようにしたものが表 3.1 である。

なお表中の相関性は、回答選択肢の選ばれ方が日本人と韓国人とでどの程度相似するか否かの状況を相関係数の値で判断し、参考までに示すものである。当然ながら、日本人も韓国人も同じような割合で回答肢を選び、あるいは回答を行い、その構成割合または頻度ないし人数の分布パターンが同じであれば相関係数は 1.0 となる。逆の関係では - 1.0、互いが全く異なれば 0 となる。通常は 1.0 と - 1.0 との間の値をとる。

表の注釈に示すように、日本人と韓国人との設問に対する回答内容の状況にもとづく相関係数の値に応じて 6 つのランクに分割し評価している。V の評価がもっとも相関性が高く 0.95 以上であり、以下 0.5 刻みでランク分けをし、0 の評価を 0.75 以下とする内容である。

ただここで留意すべきは“逆は真ならず”であり、相関係数はあくまでも両者の関係が直線的な状況にあるか否かを示すにとどまることである。全体が同じようにずれていても、あるいは選択肢の数が 2 つに限られれば回答肢の選ばれ方にかかわらず 1.0 または - 1.0 となる。こうしたことを考慮すると、相関係数が 1 あるいはほぼそれに等しいからといって、必ずしも両者の回答の関係が同じものにはならない。結局は、具体の設問に対する回答結果を直接見る必要がある。その意味では相関性はあくまでも参考を示すに過ぎず、設問ごとの回答状況をつぶさに検討し解釈する必要がある。

こうしてえられる図や表をみながら、日本人と韓国人による旅行内容および高速船利用意識の実態とその違いを比較検討し、解釈することが本章のねらいである。

表3.1 日本人と韓国人の旅行実態と高速船利用意識の比較

事 項	相関性	日本人	韓国人
1. 旅行者の個人属性について			
性別	0	男女概ね同数	女性が6割を超える
年齢	I	20歳代から60歳代まで広く分布するが その中で50歳代が比較的多くを占める (27%)。	20歳代から50歳代まで分布し、日本に比して 60歳代が少なく、40歳代以下が多い。また15歳未満の子供も多い。
職業	IV	会社員、経営者・自営業で2/3をしめる。	会社員、経営者・自営業が多い点は日本と同様であるが 加えて専業主婦、学生が多い。
自国内居住地	...	福岡県が圧倒的に多く、約9割を占める。その他は九州各県（鹿児島県を除く）が主であり、さほど利用圏は広がらない。	釜山市が多いものの、韓国全土、特に 韓国全土、特に釜山、ソウル間の高速鉄道沿線地域からの集客が見られる。
海外旅行経験	IV	複数国海外経験者が85%を占めるが、 アメリカおよび韓国が主である。	複数国海外経験者が72%をしめるが、 日本、中国が主である。
相手国語理解能力	V	韓国語が話せる人は1割にも満たない。	日本語が話せる人が13%に達する。
2. 旅行形態と内容について			
旅行目的	...	観光、グルメ、買い物为主で、同程度の割合。	観光が8割以上を占める。
同伴者数	0	一人が少なく、2人、3～5人、6人以上に3分される。	一人が17.5%を占める反面、6人以上も44%を占め、比較的面極化している。
続柄	0	友人3割、職場の人25%であり、両者で半数を超える。 ついで、仲間、夫妻であるが、それらは14.5%である。	日本と同様に職場の人が28%を占める。 友人、夫妻、家族、仲間、父母などの同伴も15～12%で、多彩である。
旅行日数	0	1泊2日が半数、2泊3日が37%で、短期間の滞在が主。	2泊3日が57%、3泊4日が31%で、日本人より滞在期間が1日程度多い。
リピート状況 (訪問回数分布)	V	初めてが約4割で最も多いが、リピート訪問が半数を超え、 年に1回以上の訪問頻度が1/3以上に達する。	約6割が初めての訪問であり、 リピート訪問は日本人に比して未だ十分でない。
(訪問頻度分布)	IV		
訪問先	...	釜山市がほとんどで、限られている。	福岡市、阿蘇、別府が主要なところであるが、 比較的北部、中部九州にも広く散らばる。
市内の訪問先	...	南浦洞、西面、海雲台が主である（市内の回遊が多い）。	博多地区が主で、ついで天神地区（市内の回遊は少ない）
体験内容	...		
グルメ		焼き肉、鍋物、その他に3分される。	日本料理が主。
買い物		日用品の割合が高く、次いでブランド品である。	日用品、ブランド品が主であるが、電化製品も18%を占める。
観光		72%がチャガルティ市場などの市場体験であるが、 名所41、歴史文化遺産訪問は41、34%にとどまる。	歴史文化遺産、名所訪問が5、6割である。
イベント参加		イベント参加は14%程度であるが、将来の体験とするものが7割に達する。	また、アウトドア14%、ゴルフ7%は日本人にない特色である。 イベント参加は18%であり、将来の体験も78%と、日本人より関心が高い。
その他		美容、健康は2、3割程度である。	7割が温泉を体験。
旅行費用	II	15万円以内が92%とほとんどを占め、5万円未満も32%。	日本人に比して予算は多く、10万円以上だけでも34%を占める。 5万円未満は2割。
3. 旅行計画について			
旅行計画	IV	1月以内が56%で、半月前以内で24%。	1月以内47%、2～3ヶ月前39%で、日本人よりもより事前の計画期間が多い。
旅行の手配	V	旅行会社で手配が6割強で、個人手配が約27%である。	旅行会社手配が68%で日本人よりやや多く、個人手配は23%であるが、大差ない。
個人手配の切符	...	通常ピートル切符の手配は65%でやや低い。 割引切符の手配ないし認知は39%。	通常コピーの切符の手配は74%。 割引切符の手配ないし認知は24%で日本人よりも低い。
フレンドリーガイド (釜山)	...	他の特定切符の手配少なく限定的である。 利用するに至っていない。	他の特定切符の手配ないし認知もある程度ある。

4. 交通手段について			
相手都市訪問時の利用交通手段 港までの交通手段 港からの交通手段 ターミナル設備、サービス 博多港 釜山港	V	高速船88%、飛行機8%、フェリー4%。 大多数が高速船である。	高速船71%、飛行機22%、フェリー10%。 大多数が高速船であるが、航空機、フェリーもある程度利用されている。
	...	自家用車、列車、タクシーが主であり、バス類も比較的多い。	観光バスが主で、次いでタクシーであるが
	...	観光バス、タクシーが主である。	高速鉄道、自家用車、地下鉄なども1割程度ずつ占める。
	V	満足意識は39%で、多いとはいえない。	観光バスが約2/3を占める。
	V	博多港に比してやや不満が多い。	日本人よりは満足意識がある。 日本人より満足意識はあるが、逆の不満も多い。
5. 高速船の利用意識について			
高速船情報の認知手段 船舶サービス、運営等 手続き カウンタースタッフ 船内設備、サービス 運行スケジュール 運賃 今後の再利用の可能性	0	友人・知人、パンフレット、テレビが主である。 その他（インターネット、新聞、雑誌、ポスター）も含め多様。	知人・友人とインターネットが主で、両方で65%を占める。 なお、インターネットは24%であり、日本人の11%を大きく上回る。
	V	全体としてある程度満足する状況ではあるが、そうした中での項目ごとのさほどの不満はない。 満足意識は項目の中で中程度。 満足意識は項目の中で中程度。 項目の中で最も不満が多い。 満足意識が最も低い。	評価を強調すれば以下のとおりである。 さほどの不満はない。 満足意識は高い。 満足意識は項目の中で中程度。 満足意識は項目の中で中程度。 満足意識が最も低い。
	V	85%と高い。	72%程度の利用希望であるが、日本人よりも低い。
	...	海雲台、西面が多く、次いで南浦洞、東萊温泉。 （どちらにしても、今回の旅行でいけなかったところを回るとの意識である。）	近郊地区、天神地区。
	...	就学・留学・ボランティアが多く、ついで美容、健康、イベントの参加が多い。 観光で歴史文化遺産を訪ねるも半数が希望している。	ゴルフ、アウトドア、イベントが多く、また就学・留学・ボランティアも多い。 買い物で電化製品の購入とするものが69%を占める。
注) 相関性のレベル評価		(R=回答分布の相関係数)	
0		相関は弱い (R≤0. 75)	
I		十分に相関があるとはいえない (0. 75≤R≤0. 80)	
II		どちらからいえば相関がある (0. 80≤R≤0. 85)	
III		相関がある (0. 85≤R≤0. 90)	
IV		ある程度強い相関がある (0. 90≤R≤0. 95)	
V		強い相関がある (0. 95≤R)	

3.2 旅行者の個人属性などについて

本節では旅行者の個人属性（性、居住地、年齢、職業）と海外経験の有無、相手国の言葉の会話力について検討するものである。こうした内容の設問項目は、アンケート票にある通りであり、回答肢の内容を含めて特に日本人用、韓国人用で違いはなく、同じである。

(1)日本人

日本人の旅行者を居住地で見れば（表 3.2、図 3.1）、福岡県が極めて多く全体の 61%を占める。また、九州・山口・広島といった西南日本地域全体では 96%に達する。その中で鹿児島県は少なく、宮崎県は 0 である。したがって、高速船の集客範囲は九州南部を除いた九州の北部、中部と山口・広島県下の諸地域であり、その中でとりわけ福岡県内に集中していることが分かる。

また、旅行者を性別に見れば、男性(51%)、女性(49%)がほぼ同数であり、両者の間で大きな差異はない。

年齢は 20 歳代から 60 歳代まで広く分布する（図 3.2）。そうした中で 50 歳代が最も多く 28%を占める。また、20 歳代から 40 歳代まではほぼ同じような構成割合であり、16~18%であるが、加えて 60 歳代以上も合計すればほぼ同程度の構成割合となる。これに対し、20 歳未満の子供や学生が少ない。これらのことから、日本人は、50 歳代が他の年齢層に比して多くピークをなすものの、20 歳代以上の各年齢層に広くまたがって旅行し、釜山を訪れているといえる。

職業は、会社員、公務員といったいわゆるサラリ

表3.2 船舶利用者の居住地分布

日本人の居住地		韓国人の居住地	
福岡県	292	釜山市	77
熊本県	40	ソウル市	49
長崎県	38	慶尚北道大邱市	42
佐賀県	33	慶尚南道蔚山市	30
山口県	23	全羅南道光州市	28
大分県	17	京畿道九里市	15
広島県	16	慶尚南道巨済市	12
東京都	4	慶尚南道	11
鹿児島県	2	慶尚南道馬山市	9
神奈川県	2	大田市	8
大阪府	2	その他	58
その他	7	(単位 人)	

日本人乗船者の居住地分布

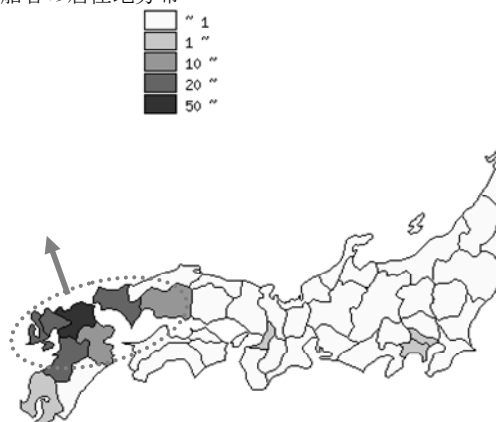


図 3.1 日本人、韓国人高速船利用者の居住地分布

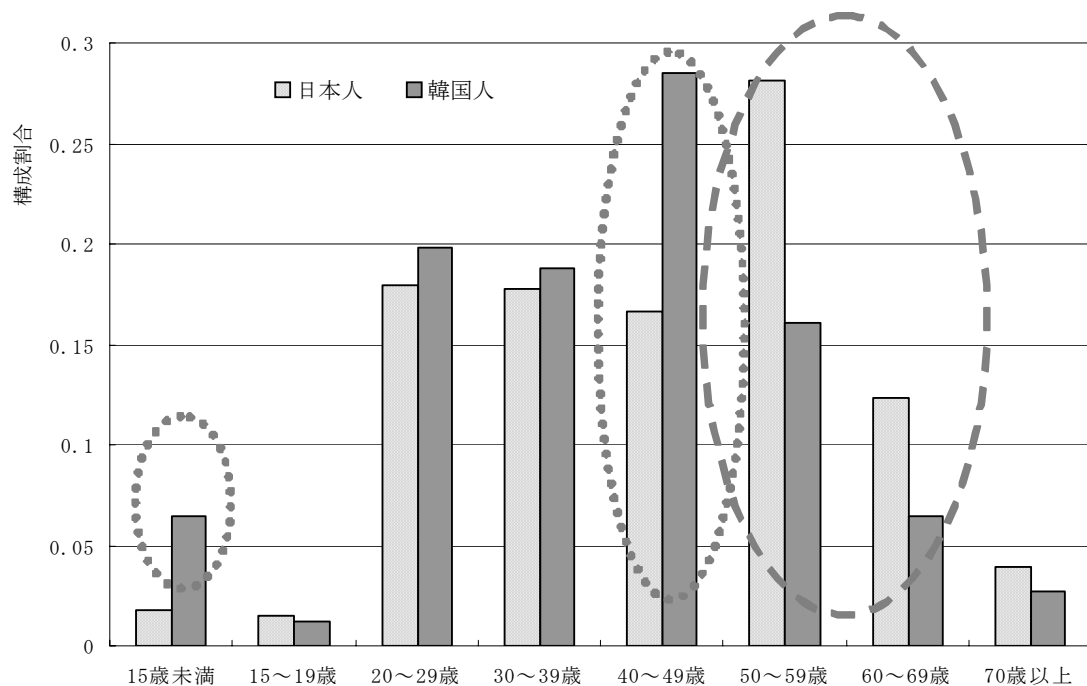


図3.2 日本人、韓国人旅行者の年齢構成

ーマンが 45%を占め、これに自営業などの 26%が続き、合わせれば 66%に達する。専業主婦・無職・学生の構成割合は全体で 19%にとどまる（図 3.3）。なお、学生は夏休みとそれ以外など季節による変動が大きいと推測され、調査した 9 月末と 10 月下旬などはどちらかといえば少ない時期であったものと推測する。

日本人の海外経験は比較的多く、複数国経験者が 85%を占める。主な行く先はアメリカおよび韓国であり、これらに続くのが中国、台湾、ハワイなどである。しかしながら、その割に韓国語を理解できる者は少なく、“基本的会話ができる”、“流暢に話せる”を合わせても 8%弱にすぎない。

なお、釜山では観光協会などが選抜して日本語が話せる現地学生の手軽な通訳ガイドの制度（フレンドリーガイド）がある。しかし、上述のように会話力がないものの、こうし

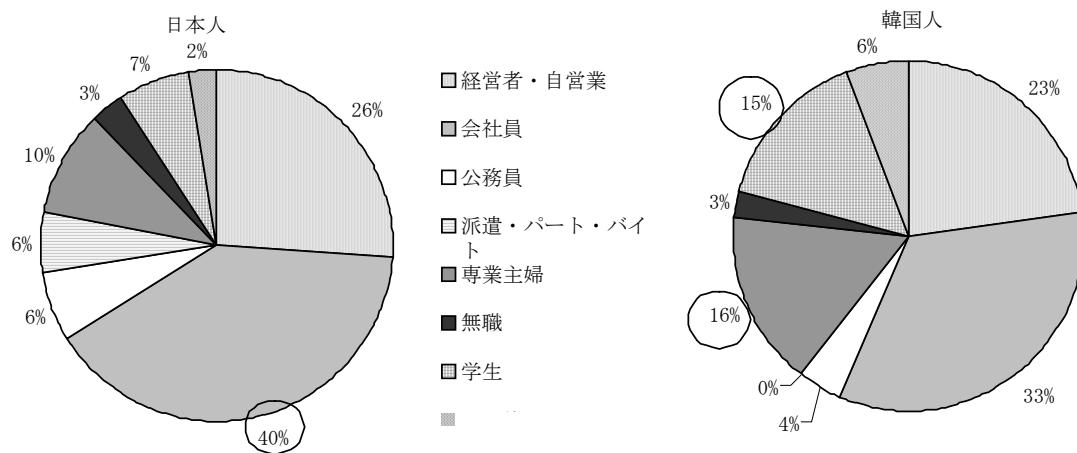


図3.3 日本人、韓国人旅行者の職業構成

た制度を利用したと答えたものが皆無に等しかった。このことは、一般の旅行者がこの制度を利用する状況に至っていないということである。つまり、本制度が新しく、十分に知れ渡っていないと推察でき、あるいは、その申し込み方法に不慣れである、面倒くさい、観光地や商店では日本語のパンフレット類がある、訪問回数が多く必ずしも必要としないなどに原因があるものと推察する。

(2) 韓国人

韓国人旅行者の韓国における居住地は釜山市が最も多いが、圧倒的というほどではなく1/5程度に止まる。釜山市以外では韓国南部と、ソウル、大邱、九里、大田といった北部地域からが2分する状況である（表 3.2、図 3.1）。多分に高速道路、高速鉄道の発達もあって、韓国全土とりわけ南部地域や鉄道沿線地域などから広く集客しているものと推察する。

性別については女性が64%を占め、多いことが日本と異なる特色である。日本人女性に比して韓国人女性の外出意欲が大きいこと、男性は既に会社などで日本に来た経験があり、その上での女性の海外進出であることなどが原因であると考えられる。

また、このことを反映してか、職業では専業主婦が16%、学生が15%を占め、したがって、会社員・公務員は合わせて36%、経営者・自営業は23%などと日本人に比して少ない割合にとどまる（図 3.3）。

年齢構成は、40歳代が最も多く約28%を占めるが、20、30、50歳代も17～20%を占め、広く分散する状況である（図 3.2）。これに対し、60歳以上の高齢者の割合は合わせても1割に満たず、この点は日本人の場合と異なる。すなわち、高齢社会の進展から日本人の旅行者が韓国人に比して高齢化しており、あるいは韓国が高齢化の点で日本の10年あとを追いかけけているといわれるが、そのことの反映と解釈する。

海外経験に関し複数国経験者は72%で、日本人に比して少ない。また、主な訪問国は日本と中国であり、これにタイが続いている。日本語の会話力に関しては、13%が能力ありと答えており、日本人に比して多い。

3.3 旅行形態と行動内容について

旅行パターンや旅行内容は、国の制度や社会・経済情勢、民族的習慣などを反映して一概に比較することはできない。しかし、あえてアンケートの結果として日本人と韓国人を対比しながら、その特性を把握し、あるいは違いを探るものである。

当然のことながら、訪問先や行動内容は日本人と韓国人とで異なり、そのことを設問における回答内容の上で考慮した。また、旅行日数や同伴者、旅行回数、旅行計画のあり方に関する設問と回答選択肢の内容は双方で同じである。

旅行費用については、本来的に日本人と韓国人の所得や、ホテル代、交通費などに関する物価の差があることから、厳密にはそうした状況を考慮すべきである。しかし、日本人、韓国人の比較という観点に立てば、同じカテゴリー区分にすることもやむを得ないといえ、また、近年では、ウォン高もあって韓国人の所得が先進国に近づいていることを配慮して、

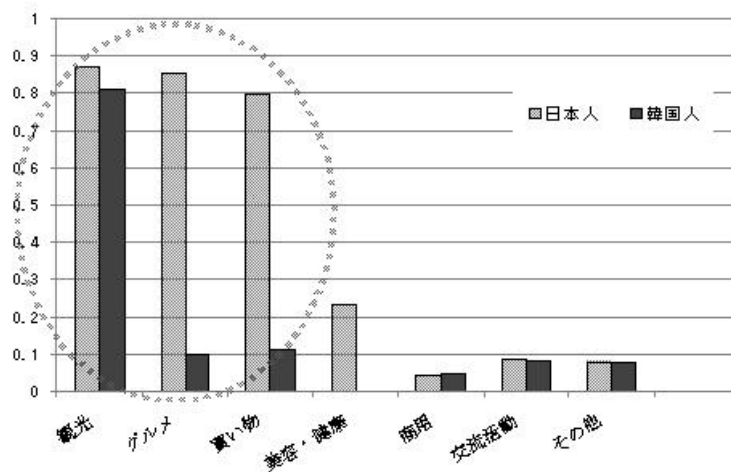


図3.4 日本人と韓国人の旅行目的

あえて同じカテゴリーによる内容とした。

(1)旅行目的 (図 3.4)

日本人の旅行目的は、観光、グルメ、買い物にほぼ3等分され、いずれも8割の人が旅行目的の1つにあげている(複数回答)。つまり、これらが釜山訪問の3大目的である。そして、これに続くのが美容・健康の22%であり、他は1割に満たない。

これに対して、韓国人は観光が圧倒的であり、82%の人がそうした目的を持つと答えているが、他の地域の訪問はせいぜい1割程度にとどまる。

(2)訪問先、市内の訪問箇所

日本人旅行者の訪問先(図 3.5(a)の右図)は現状では釜山市がほとんどであり、それ以外では大邱、慶州が1割り程度である。このことは、旅行目的にグルメ、買い物が多いことと関係するものと考えられる。

これに対して、韓国人は、観光旅行が主であることもあって、福岡市を直接の訪問先とするよりも、福岡市を経由しながら阿蘇(約61%)、別府(約45%)、ハウステンボス(約21%)へと、九州の北部、中部の諸地域の観光地を広く訪れるものが多い状況である。

市内の訪問地区については、日本人の場合、釜山市にあっては釜山タワーや龍頭山公園、チャガル市場などがある南浦洞(83%)と免税店、百貨店、食堂など商業機能が集積する西面(72%)に圧倒的に集中している。また、それらの半分程度の32%の旅行者が海雲台に流れるという構図である。

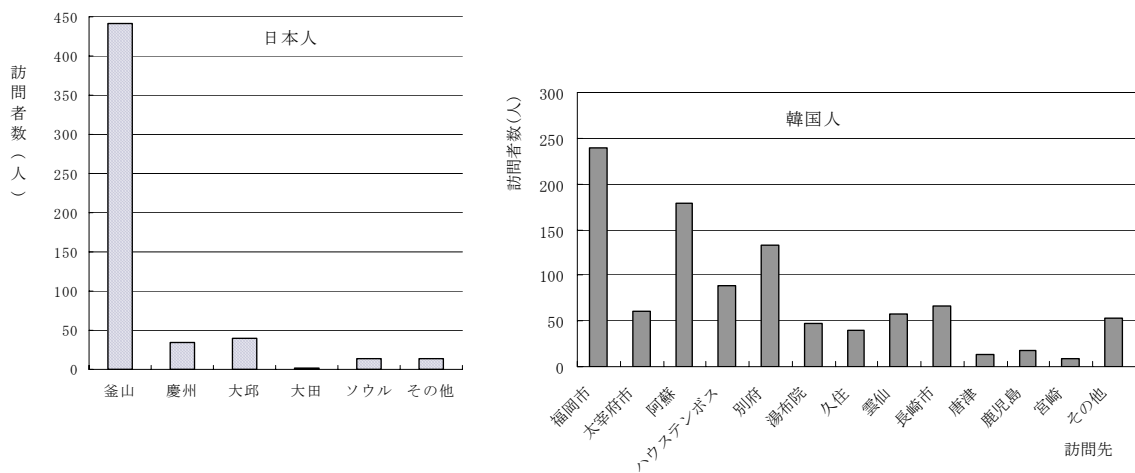
韓国人の場合、福岡市内については、キャナルシティ、中州の歓楽街、博多駅などが存在する博多区が福岡来訪者の約5割を占め、天神地区はその半分にとどまる。このことは博多地区に大規模なアミューズメント施設や歓楽街があることと、九州各地への回遊の中継拠点が博多駅であることによるものと推察される。また、マリノアシティや二日市温泉などの近郊地区にもある程度の流れが見られる。

(3)体験内容

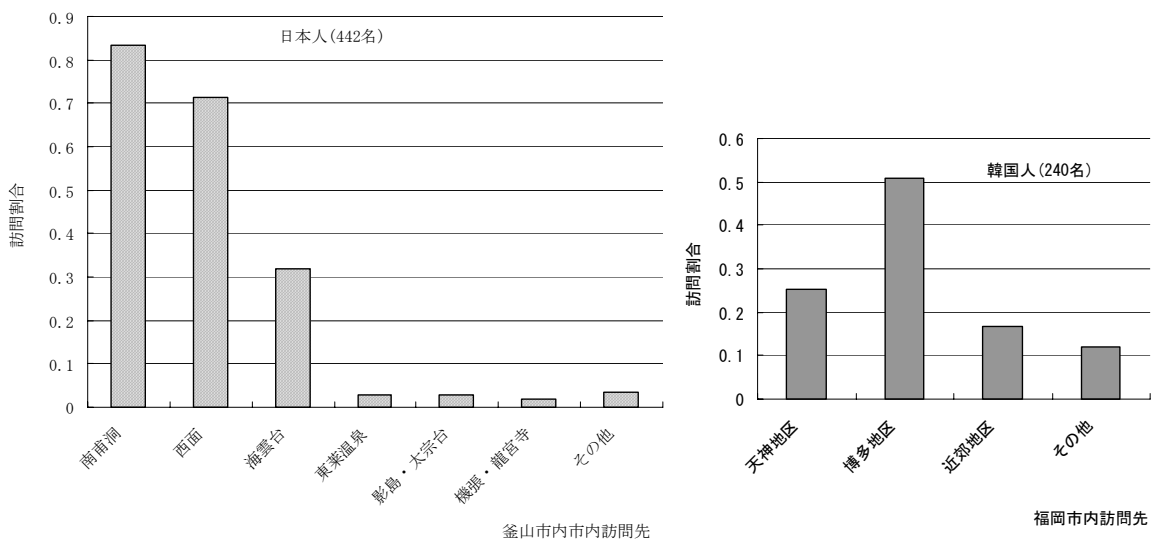
旅行中の体験として観光、グルメ、買い物、各種交流活動、商用などが考えられるが、そうした内容について詳細に見れば、図 3.6 のとおりである。

グルメは、当然ながら共に関心が高いが、その内容については、日本人は焼肉、鍋物、その他に 3 分され、その中でどちらかといえば焼き肉が多いといえる。韓国人は日本料理(すし、天ぷら、うどんなど)に 6 割以上と多くが集まり、九州の郷土料理については 2 割程度に止まる。

ある意味では、日本人の韓国におけるグルメは、韓国全土に共通する特定の品目がはっきりしており、このことからソウルでも釜山でも同じであるといえ、韓国の細かな地域区分にもとづく郷土料理の概念はあまりないものと推察する。これに対して、すしや天ぷらなどの日本料理は日本を代表するものであり、韓国料理の場合と同様に全国に共通するものである。設問はこれと対比しながらの九州の郷土料理ということから、上記の結果は韓



(a) 日本人の韓国到着後の訪問先と韓国人の日本到着後の訪問先



(b) 日本人の釜山市内訪問先と韓国人の福岡内訪問先

図3.5 日本人と韓国人の訪問先について

国人と日本人とで特に差異があると見ることは早計である。

郷土料理は内容について広域に通用するものでなく、特定地域での通用に限定される。

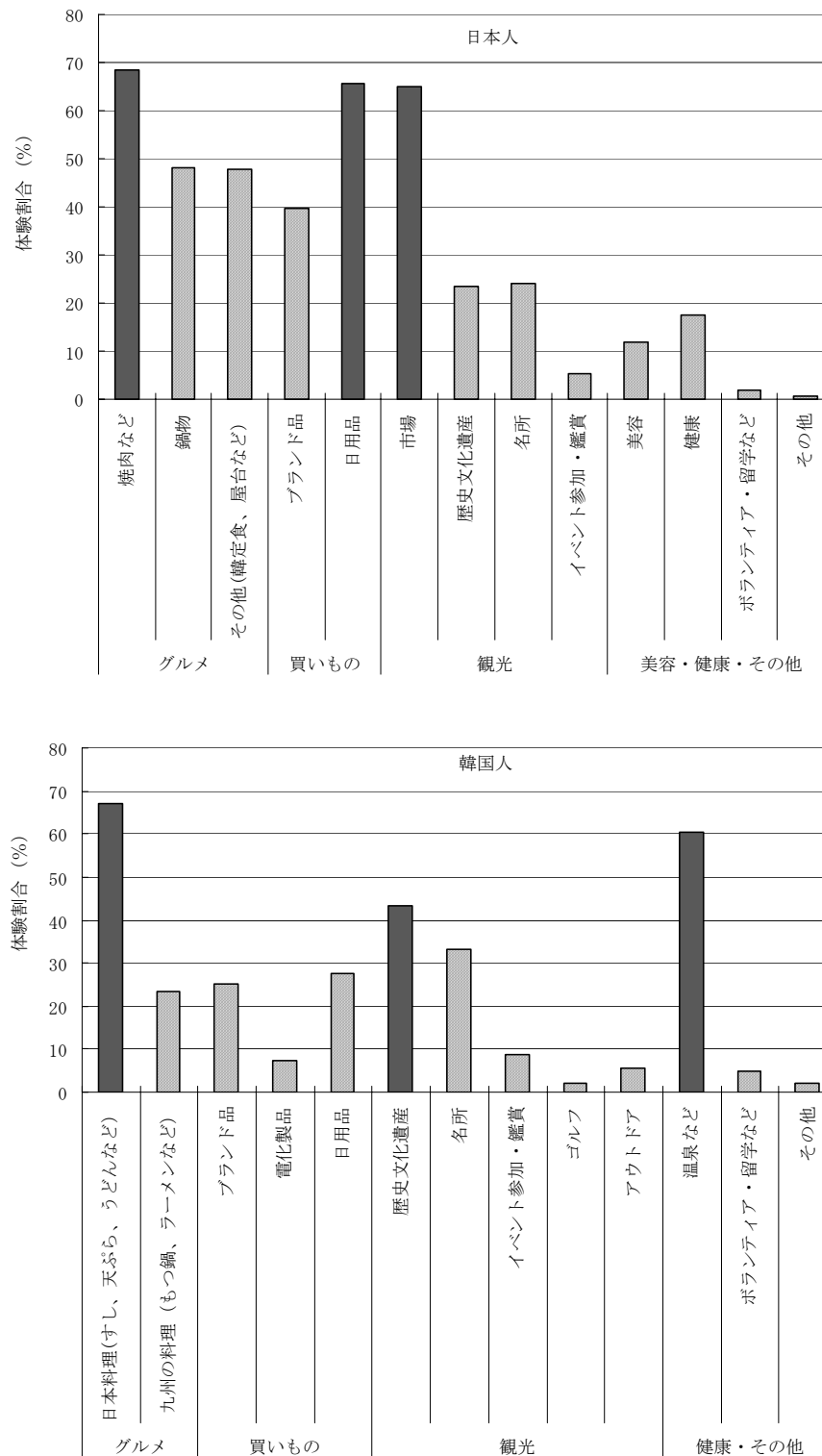


図3.6 日本人、韓国人旅行者の体験内容

あるいは、それが故郷の郷土料理である。こうしたことから、韓国人の目で見れば上述のアンケート結果になることもうなずける。つまり、日本人にしても、韓国人にしても、グルメの上では相手国の代表的な料理に多くの関心がある点で共通するということである。

買いものについては、日本人は日用品とブランド品に2分される中で、どちらかといえば日用品が多い。韓国人も同様であるが、日本人ほど偏ることなくほぼ同程度である。その上で、韓国人には電化製品についてある程度の割合で買いものがある点で日本人に相違する。

観光については、日本人は国際市場やチャガルチ市場などの市場を訪れてグルメを楽しむ、名所を訪問し、歴史文化遺産を訪ねるといった構図である。これに対して、韓国人は、歴史文化遺産を訪ね、名所を訪問すると行ったところが主なところである。これら以外では、韓国人では温泉につかるといった癒しあるいは健康志向が強く、旅行者の6割が体験するとこたえている点が目立つ。

以上要するに、日本人は名所、歴史文化遺産を訪ね、合わせて市場を訪れて焼肉や鍋物、その他を食し、都心部で日用品、ブランド品の買いものをするという旅のスタイルが浮かび上がる。いわば、非日常性から日常性に移行しつつある旅のスタイル、あるいは非日常性と日常性が混じり合う旅のスタイルといえる。

他方、韓国人は、歴史文化遺産、名所を訪ね、合わせて温泉につかりながら、日本料理を楽しみ、また日用品やブランド品中心の買いものをすると同時に、それらに加えて電化製品の購入もあるとの旅のスタイルを描くことができる。一言でいえば、非日常性を主と

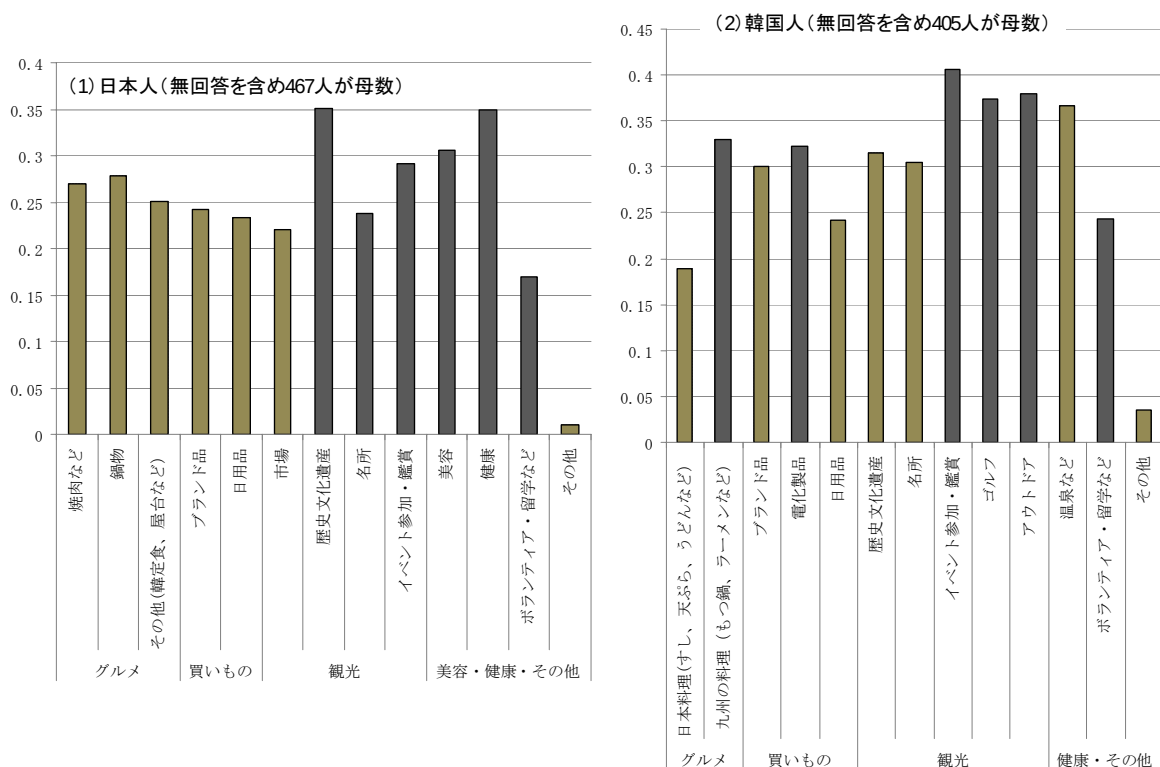


図3.7日本人、韓国人が次回以降に希望する体験内容

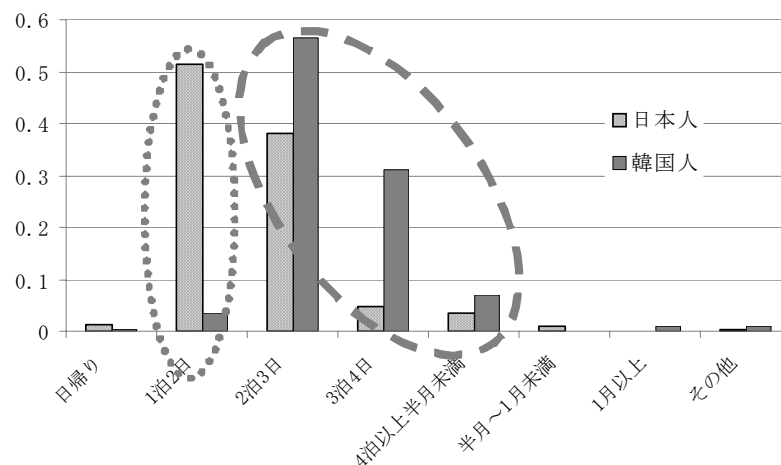
しながら、一部に日常性を内包する旅であり、あるいは一部に買い出しを含む旅であるといえる。

上述は今回の旅行についての体験内容であるが、それならば次回以降はどういった内容の体験を希望するのかについてみたものが図 3.7 である。

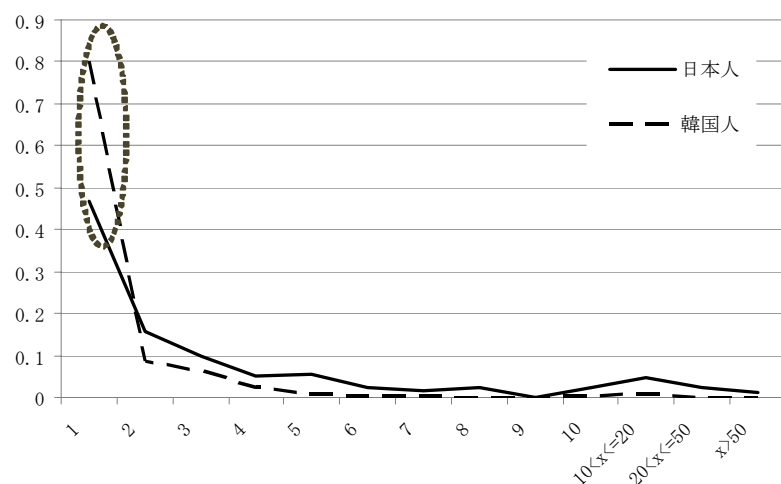
日本人については、今回体験したグルメ、買い物、観光という 3 大内容からの脱却がみられる。歴史文化遺産を訪ねる、美容・健康に関心を抱く、イベントに参加・鑑賞する、ボランティア・留学にかかわるといった内容への関心が次回以降の体験内容としてより希望がある。

韓国人については、温泉に対する衰えぬ期待があるうえで、グルメでは九州の料理、買い物では電化製品に関心がシフトし、イベントへの参加・鑑賞、ゴルフ、アウトドア、ボランティア・留学への関心の高まりがみられる。すなわち、これまた単なる観光旅行からの脱皮であり、レクリエーション性や癒しを含む内容に期待がある。

(4) 旅行日数と費用、同伴者の有無など



(1) 日本人、韓国人旅行者の旅行日数



(2) 日本人、韓国人の相手地域（福岡、釜山）訪問回数

図3.8 日本人、韓国人の旅行日程および訪問回数

旅行日数について、日本人は1泊2日が半数を占め、次いで2泊3日が36%で、両者を合わせれば85%に達する（図3.8(1)）。また、僅かではあるが日帰りもある。

これに対して、韓国人は2泊3日が半数以上を占め、3泊4日が29%で、合わせて81%に達する。日本人に比べて旅行日数がカテゴリーで1ランク長い実態であるといえ、また、日帰りもほとんどない点で相違する。

訪問回数については、日本人、韓国人いずれにしても初めての訪問が最も多くを占める（図3.8(2)）。その中で、日本人の初めては47%であり、2回以上が5割を超える、5回以上も合計すれば18%に達するなどからリピート率が比較的高いといえる。

これに対し、韓国人の初めては80%にも達し、大半を占める。なお、5回以上になると僅か2%に過ぎず、韓国人の日本への旅行は基本的に初期段階にあるといえよう。

費用は、日本人の場合、3万～10万円程度が大半で約2/3を占める。韓国人は3万～10

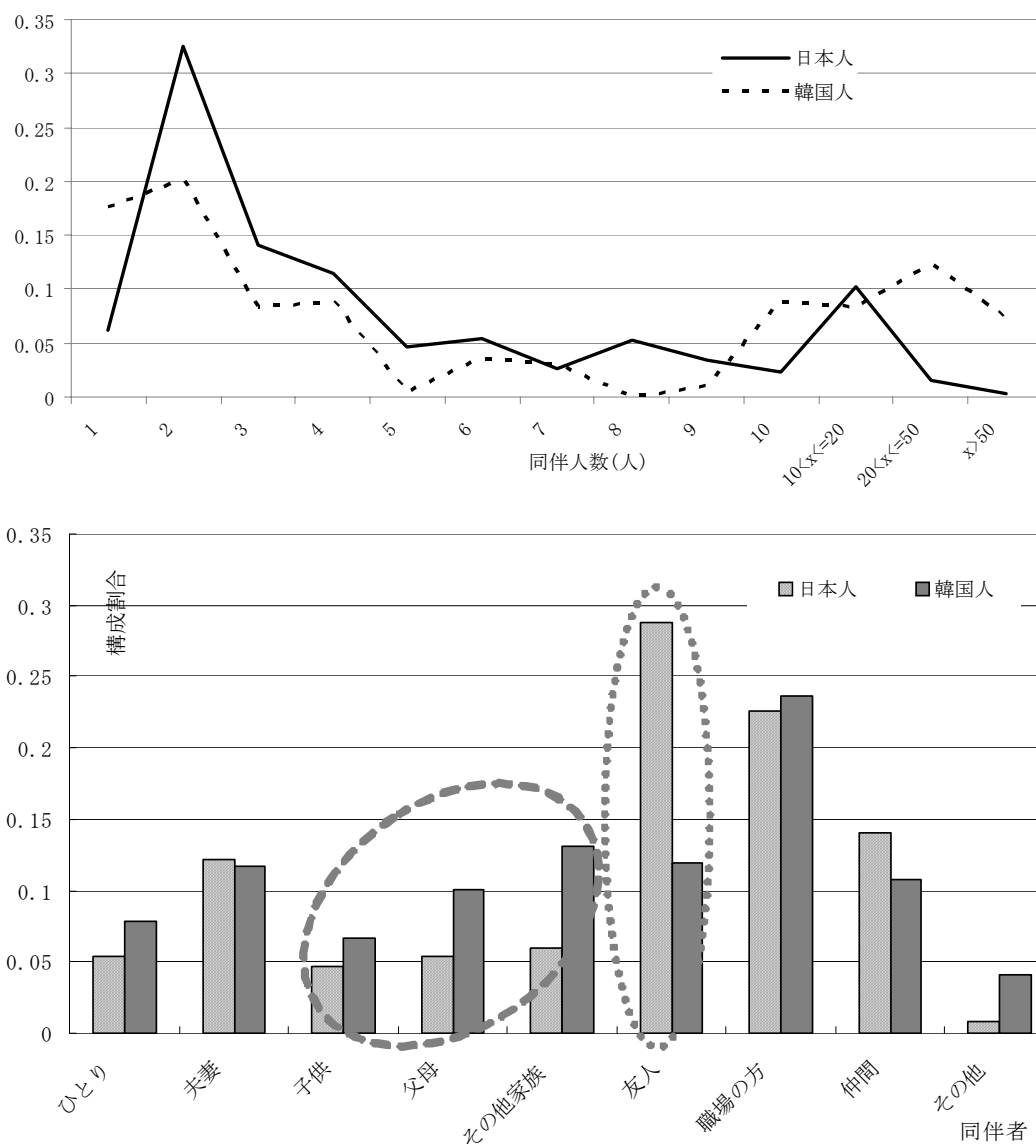


図3.9 旅行における同伴者の有無と、同伴の場合の続柄など

円が最も多く、4 割を占めるが、さらに高額な費用も多い。これは旅行日数がより長いこと、初めての訪問であることによるとともに、昨今のウォン高の反映であると推察する。

旅行は、ひとり旅と、同伴者がいる場合に大別でき、さらに同伴者については身内か友達かなどのタイプや人数が問題となる。

この点に関し、日本人を見てみれば（図 3.9）、2 人での旅行が最も多く、次いで 3、4 人の規模であることから、少人数主体の旅行であるが、その割りにひとり旅は少ない。そして、そうした場合の同伴者の多くが友人や職場の人であり、次いで仲間、夫妻と続く。

一方、韓国人は、1 人、2 人と 10 人以上の団体の両極に分かれ、職場の人とが最も多い。次いでその他家族、友人、夫妻、仲間、父母と続き多様である。これらを概観すれば、日本人に比較して家族との同伴旅行が多く、その分友人との同伴が少ないといった特色が浮かび上がる。

(5)旅行計画のあり方について

旅行計画は、日本人にしても、韓国人にしても 1 ヶ月～3 ヶ月前が 6 割強を占め最も多いが、頻度分布からして日本人が旅行日近くになったの計画、韓国人がより事前での計画になるという傾向が読み取れる。

また、個人手配か、旅行会社の手配かについては、共に 6 割が旅行会社の手配（パックもの）であり、個人手配は 2 割程度、残りがその中間（パックものではなく、交通機関、宿泊など内容別に個人手配、旅行会社手配の組み合わせ）といった構図である。したがって、日本人、韓国人の間で特に大きな違いはなく、同じ状況にあるといっていよい。

個人手配の場合の切符は、日本人、韓国人ともに往復割引を含めて通常の切符利用が最も多く、特定割引切符（学生・身障者割引、6 枚回数券など）の利用も 2、3 割に及び、よく利用されているといえよう。

これら以外の特種な割引切符（日本人用としてはビートル平日・誕生日割引、コリアビートル&レール、インターネット割引、日韓共同切符。韓国人用としては JR 九州レールパス、ジャパレンレールパス、韓日共同切符、KYUSHU レールパス、KTX+コビーパス、SUNQ パス。）の利用は各々 1 割ないし 1 割弱程度である。ある程度の利用ではあるが、いずれにしても種類が多様過ぎてわかり難いとの印象であり、もう少し集約の上単純化し、分かりやすくする、使いやすくすることが望まれる。

3.4 交通機関の利用などについて

(1) 利用交通機関

本調査では、高速船利用者が対象であり、また、全体で見ても § 1.1 に述べるように、福岡、釜山間の交通機関利用の大半が高速船である。このため、当然のことであるが高速船利用に偏る傾向になるが、“釜山(あるいは九州)訪問の場合の交通機関を、どのような割合で利用されていますか”を問うものが設問 11 である。この利用者意識にもとづいて、釜山、福岡間の 3 タイプの交通機関がどの程度の利用率であるかを概略つかむことができる。

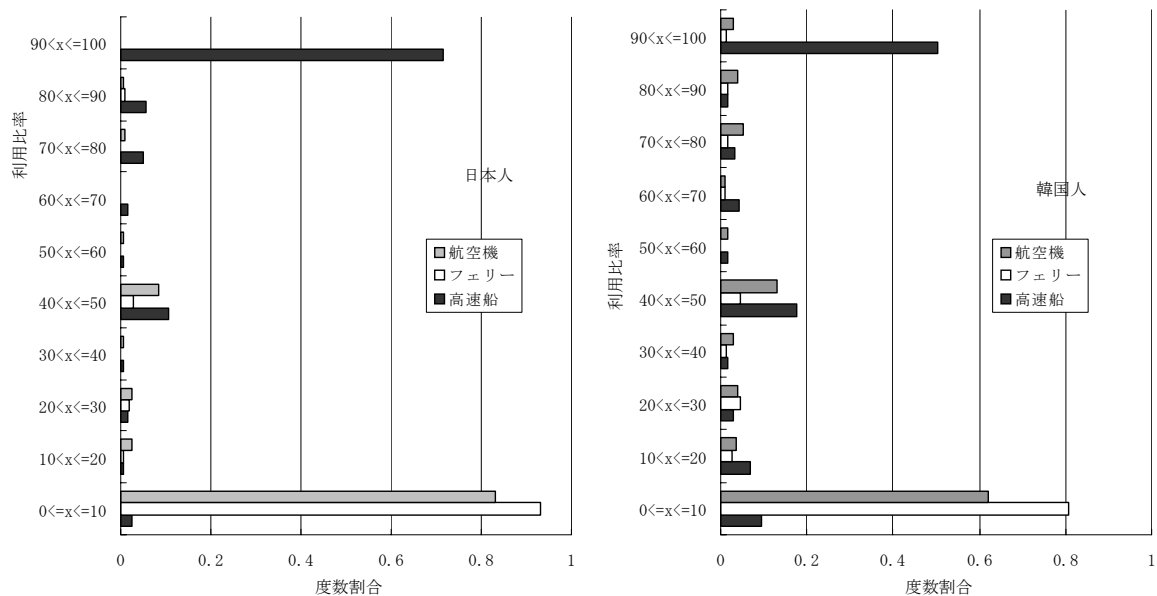


図3.10 交通機関の利用比率

結果は、日本人にしても、韓国人にしても高速船利用が圧倒的割合となるが（図 3.10）、日本人の方がその割合が高く 88%に及び、フェリーの利用は極めて小さい。また、航空機の利用率も小さいが、それでもフェリーよりは利用可能性は高く、8%程度ある。

韓国人についても同様の傾向であるが、日本人ほど高速船に利用が偏るものではない。平均すれば航空機利用 22%、フェリー利用 10%という状況であり、意識の上でそれぞれにある程度の利用を見込むことができる。

(2) 港まで、港からの端末交通手段

日本人の博多港までのアクセス交通手段は、タクシー利用が最も多く、これに送りの車、列車が続き、さらにその他(マイカーなど)もある程度あり、これら 4 つが主なものである。このことは旅行者として福岡県内居住者が多いことの反映と推察する。続いて路線バス、高速バスが 1 割前後を占める。なお、タクシーについては、タクシーのみによる利用に加えて、列車や高速バス利用者が、それらの駅および停留所からの乗り継ぎで利用したものをも含むと推測され、その結果としての利用が多くなっているものと推察する。

釜山港からの端末交通手段は観光バスが 46%と半数近くを占め、続いてタクシーが 31%で、これら 2 つで約 8 割である。また、地下鉄、友人などの迎車が 1 割程度ある。

韓国人の釜山港までの交通手段は観光バスが 44%と突出し、日本人のアクセス交通手段と大きく相違する。これは、観光目的や団体の旅行者が多いことの反映と見ることができる。なお、タクシーについては 18%、列車や送りの車、地下鉄については 1 割前後である。博多港からの端末交通手段も観光バスが 64%と圧倒的に突出し、路線バス、タクシーはそれぞれ 1 割程度にとどまっている。

(3) 港の設備やサービスの満足意識について

福岡、釜山間の交通の主体であり、需要が多い船舶を利用する上の拠点が港であり、その顧客満足度を高めることは大切なことである。その意味で、博多港、釜山港の玄関ともいべきターミナルが高速船利用者にどのように意識されているかを満足度で回答しても

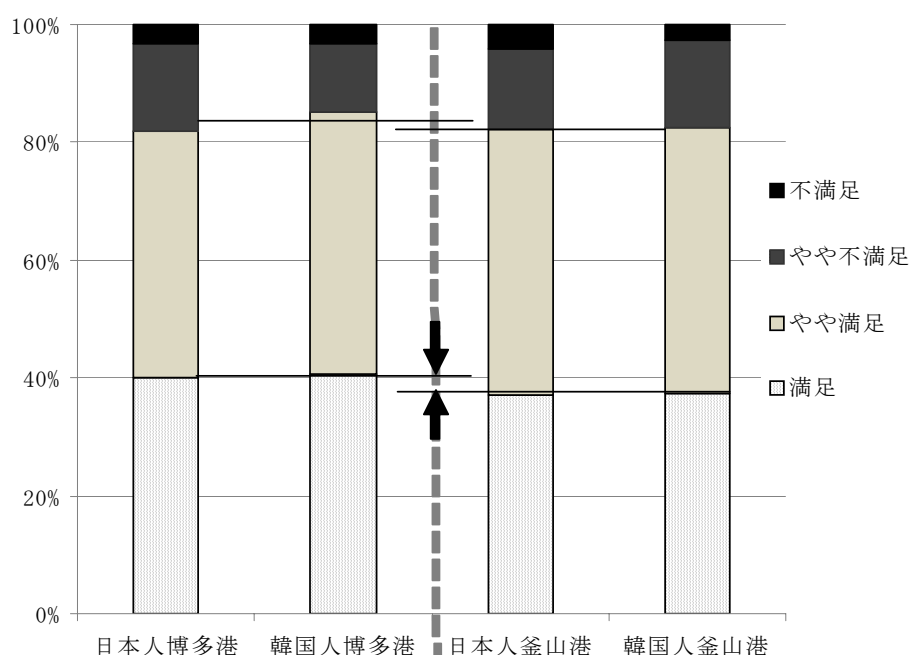


図3.11 博多港および釜山港の国際ターミナルの設備、サービスの満足意識

らったが、その部分を抜き出せば図 3.11 のとおりである。

概略的には、博多港、釜山港ともに、また日本人、韓国人ともに満足するが 4 割程度を占め、不満、やや不満が 2 割弱である。やや満足も 4 割程度あるが、これは逆に考えれば多少なりとも不満があることを意味し、必ずしも十分に満足していないことの意味表示であるともいえる。あるいは、データの持ち合わせがなく推測にすぎないが、福岡空港国際ターミナルで同様のアンケート調査をすれば、より多くの満足があるものと考えられる。こうしたことから、港のターミナルに関する上述の調査結果は、十分に高い満足意識があるとは考えにくく、改善の余地が残されているとみるのが妥当といえる。

また、そうした中で、どちらかといえば博多港よりも釜山港に対する不満意識が大きい、これは博多港のターミナルの方が新しいことによるものと推察する。しかし、その一方で博多港は、ターミナルビルが新しいにもかかわらず釜山港のそれに比して決して十分な差が認められないことも事実であり、胡坐をかく状況にはない。

3.5 高速船の利用意識について

本節は、高速船利用者の利用意識について、船の設備やサービスをどのように満足しているのか、高速船のことに关しどのような手段で情報を得ているか、および今後の高速船の利用意識はどうなっているかについてみるものである。

(1) 船のサービスなどに対する満足意識について

図 3.12 は、船に関することで、乗船までの手続き、カウンターサービス、船内の設備・サービス、運行スケジュール、運賃の 5 項目について、日本人、韓国人それぞれでどのような満足意識にあるかを比較対照しながらグラフに示すものである。全体としては満足、や

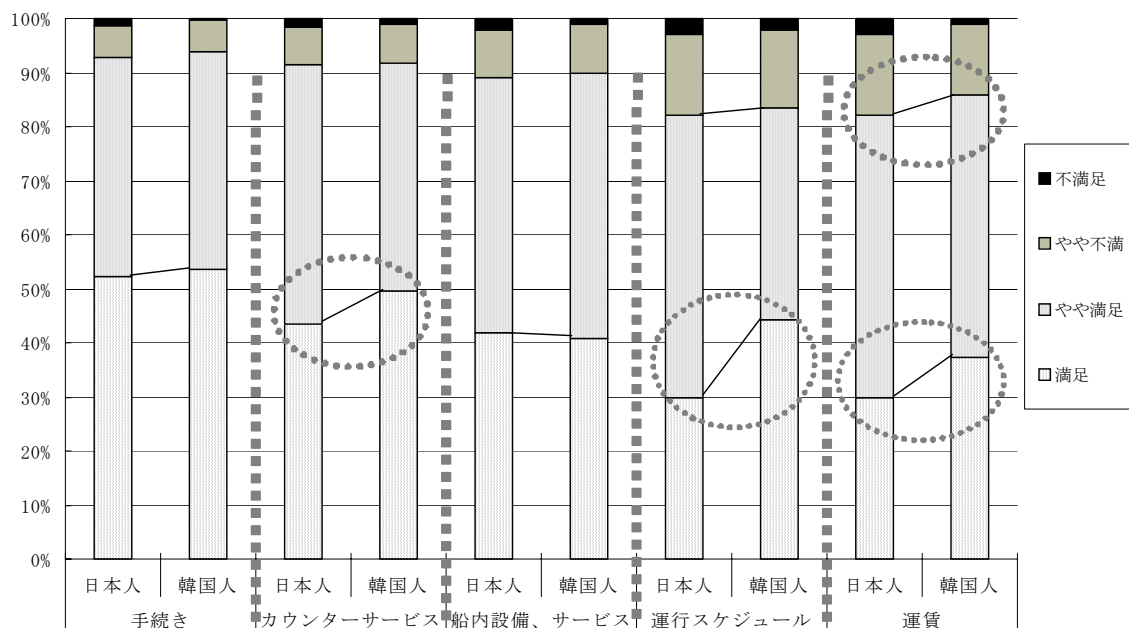


図3.12 高速船におけるサービスなどに関する満足意識

や満足が合わせて 8 割以上に達し、満足しているといえるが、あえて項目間を対比の上、問題点を抽出する意味で解釈を行えば以下のとおりである。

手続きについては、日本人、韓国人ともほぼ同じ評価であり、不満およびやや不満は合わせても 1 割に満たないことから問題ないといえる。また、カウンタースタッフのサービス・おもてなしについては、手続きほどに満足意識の度合いは高くなく、日本人と韓国人で差はあるものの、不満は 1 割程度であり、これまた問題ないとして取ることができる。船内設備、サービスに関しては、不満は低いものの、カウンターサービスよりも満足意識が低く、40%程度にとどまり、注意が必要である。

運行スケジュール(頻度や時間帯)、運賃については日本人、韓国人を合わせてみれば約 3 割強の満足、2 割近い不満である。他の項目に比して不満の度合いが高いことが目立つ。そうした中で、日本人と韓国人の間で満足意識に差があり、韓国人に比して日本人の満足意識が低く、不満の度合いが高いといえる。これは、日本人は観光以外のグルメや買いものにも多くの関心があること、短期間の旅行で、日常性に近いものがあるということを考えれば必ずしも運行頻度や運行時間帯(特に夕方)が十分でない、旅行費の総額にしめる運賃や買い物の額に比しての運賃ということから必ずしも満足できないなどの意識の表れと推察する。

(2) 船に関する情報獲得手段について

図 3.13 は高速船に関する情報を何によっているかを見たものである。特徴的なことを拾いだせば、

- ①日本人、韓国人いずれにしても知人・友人が最も多く、約 4 割を占める。
- ②上記以外では、日本人はパンフレット、テレビによる情報の獲得が多いが、韓国人はインターネットおよびその他(直接店頭での情報の取得など)によるものが多く、違いを見せている。

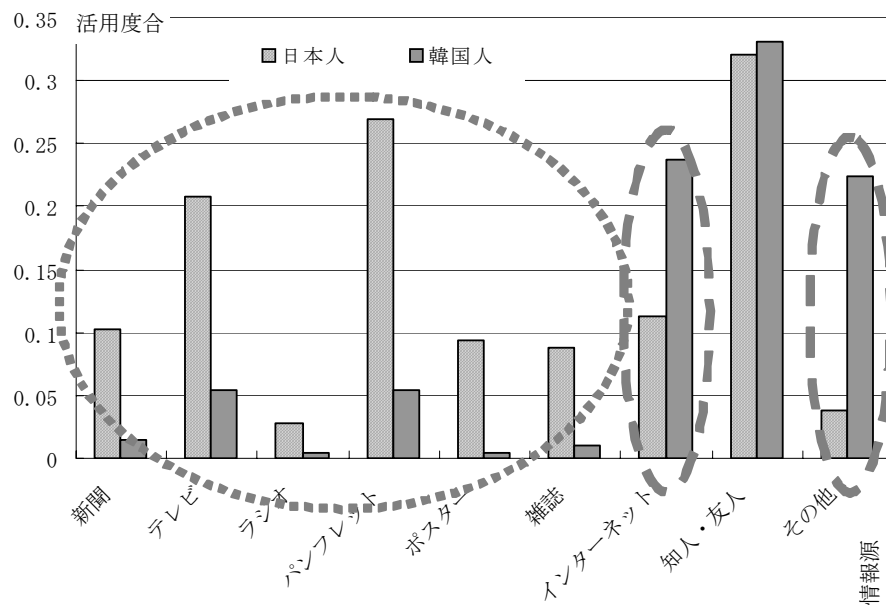


図3.13 日本人、韓国人の高速船に関する情報源

③日本人は多様な手段による情報の獲得であるが、韓国人は知人・友人とインターネット、その他以外は極めて少ない。

本調査は高速船に関する情報源についての設問であるが、旅行全般についても交通機関に対するものと同様の情報検索になると推察される。このことから、現状ではほぼ同様の情報源の活用であるものと推測する。しかし、情報化については韓国の方が一歩進んでいる面があり、このことを踏まえると日本人も今後により多くインターネットを活用するものと推察される。

(3) 今後の高速船利用について

今後も機会があれば高速船を利用したいかについての設問に対しては、日本人はほとんど(80割)が利用するとの答えである。また、韓国人は66%が利用すると答えているが、日本人に比して少ない割合にとどまる。これは、福岡、釜山間における高速船と他の交通機関の利用意識と同様の結果である。

3.6 要約

前節までに述べることは、日本人と韓国人による高速船利用者の旅行状況であり、個別の設問をもとにした考察である。

また、調査票に自由記述欄を設け、今回の旅に対する魅力や不満を記入してもらったが、それらは性別・年齢階層別の記述一覧として報告書 No. 2 の参考資料に示すとおりである。旅行については前述と多くのことが重複する。したがって、ここでは、日本人および韓国人旅行者がそれぞれの相手都市をどのようにみているかという観点に絞って追加的に整理すれば、表 3.3 のとおりである。

以上の考察および表 3.3 の結果を総括し、これに著者の考えをも交えて日本人と韓国人

の旅行実態や交通機関に対する満足意識、都市の印象などを概観し要約すれば、以下のとおりである。

(1) 旅行者や旅行状態、高速船利用意識に関する日本人と韓国人の全般的な比較

アンケート調査結果を全体で眺め、旅行者や旅行状態、高速船利用意識について日本人と韓国人の大きな類似性がどこにあるかを探れば、大局的には、旅行者の属性では相手国語の会話力、旅行計画では個人旅行における手配のあり方、また、港に対する満足意識、高速船の利用意識の点で互いに類似し、ほぼ同じような結果を与えているといえる。しかし、これら以外については異なる部分があり、その意味で個別の項目について十分な比較検討が必要である。

(2) 旅行者について

日本人は、高齢化の進展を受けて概して高齢者の旅行割合が大きくなるとともに、広い世代にまたがり、また会社員、自営業者が中心である。これに対して、韓国人は日本人よりも若い世代の構成が多く、女性が多いことに特色があり、こうした人たちの海外旅行の体験はまだこれからであるとの印象である。

(3) 旅行形態について

日本人は観光のみでなく、グルメ、買い物目的の旅行も多く、釜山市の訪問が主であり、市内を回遊することが主体である。友達、職場の人との同伴で、比較的少人数グループであり、短期間の滞在である。また、旅行費用も 15 万以内が殆どである。こうしたことから、特別の休暇を取ることなく、気楽に、訪問を繰り返しながら週末を隣国で過ごすといった類の手軽旅行であり、旅の日常化、普段着の旅への移行としてとらえることができる。

これに対して、韓国人は観光旅行が圧倒的であり、観光バスを仕立てて、阿蘇などの自然の名勝地や歴史文化遺産、テーマパークなどを巡るといった類の旅行であり、一人を含め小人数と多人数のグループに 2 極化し、家族との旅行も可成りの割合を占めている。また、滞在日数は日本人より 1 ランク多く、費用もより高額である。要するに、かつて日本人が経験した団体観光旅行の様相がかなり含まれる旅行形態とみることができ、その中に癒しや日用品に加える電気製品の買い物が含まれることから、日常性を内包する観光の旅、買い出しを内在する観光の旅であるといえる。

(4) 次回以降の体験希望について

日本人については、歴史文化遺産を訪ねる、美容・健康により関心を抱く、イベントに参加・鑑賞する、ボランティア・留学にかかわるといった内容への関心が高い。このことは、従来型からの脱却であり、週末型、さらにはより一層の日常性への高まりがあるととらえることができる。

韓国人については、グルメでは九州の料理、買い物では電化製品に関心がシフトし、イベントへの参加・鑑賞、ゴルフ、アウトドア、ボランティア・留学への関心の高まりがある。どちらかといえば、観光が主体の旅から、よりレクリエーション型、アミューズメント型へのシフトがみられるものと推察する。

(6) 港に対する満足意識

港に対する満足意識は高いが、必ずしも十分とはいえない。特に、博多港は新しい国際

ターミナルであるにもかかわらず、釜山港とあまり変わらない評価である。このことは、今後の施設の整備や改善、運営に十分な対応が必要であり、より満足意識を高める努力が必要であることを意味する。

(7) 高速船に対する満足意識

高速船について、設備、サービスに対する満足意識は高いが、運航スケジュール、運賃について不満がある程度あり、一層の経営努力が求められる。

表3.3 自由記述から読み取れる乗船者による相手都市の印象や魅力など

事 項	日本人からみた釜山	韓国人から見た福岡
街のイメージ	港町で、海、山があり、福岡に似た印象であり、身近である一方で、異文化もあり、おもしろい。 歴史、文化がある 夜景がきれい。	自然があり、街や道がきれいである。 近郊地域に温泉、観光地がある。 伝統的な文化がある。 夜景がきれい。 韓国にない風景、美しい海がある。
行きやすさなど	近くて、身近な印象であり、気楽かつ容易に行ける 旅費が安い。 特別な休暇を取る必要がない。週末に行ける。 タクシーなど交通費が安い。	近くて、交通の便が良い
行 動	食事に関心があり、おいしい(焼肉、海鮮、粥、キムチ、チヂミなど)。ショッピング(日用品、ブランドなど)を楽しむ。 経済的に安く、日本にない買い物ができる。市場と屋台がある。 健康、美容、カジノなどの体験ができる	タクシーやホテル代などが高い 日本料理(すし、てんぷら、うどんなど)やラーメンがおいしい。 市内外に遊ぶところがあり、楽しめる。
街の状況	活気・雑踏の賑わいがあり、治安もよい。 人が親切であり、親しみを感ずる。 日本語が通じるところが多い。 免税店があり、また日本で買い物ができる 街がコンパクトに感じる。	やや活気がある。おもしろみにかけるが、静かな街。 人が親切である。 韓国語が通じず、意思疎通が大変であった。 韓国語案内が充実している。 アウトレット、ゴルフが楽しめる。

(8) 相手都市に対する印象

自由記述にもとづいて両国の旅行者が相手都市をどのようにみているかを要約すれば、日本人は釜山を、活気やにぎわいがあり、物価が安いとのイメージである。また、身近であること、港町という点で福岡と共通するところがあることから親しみを感じているといえる。

一方、韓国人は、福岡を自然があり、きれいな街、ひとが親切であるとの印象である。ただ、活気の点や面白みなどの点では必ずしも十分であるとの印象ではなく、また、近くではあるが、必ずしも気楽であるということではないなどの不満を抱く一面を読み取ることができる。

(9) 言葉の問題

国境を越えて交流する上での最大の問題は言葉であり、日本人、韓国人ともに互いの相手国語の会話力が十分ではない。

この問題について、釜山では看板やメニューに日本語や漢字をよく見ることができ、また観光地や店では福岡以上に日本語を話すガイドがいることから、韓国語を話すことができなくても決定的に不自由を感じるものでないと推察する。

これに対して、福岡では、確かに案内板などにおけるハングル語表記は進んでいるが、会話が通じないとの印象であり、意思疎通に苦慮しているとの印象である。

最近では、日本では観光地や名所あるいはまち歩きといった中で、ボランティアの養成や実践活動が活発である。また、韓国語によるパンフレットや地図づくり、看板の表示も盛んになってきている。そうした中で、韓国語が話せるボランティアガイドも見られるようになってきている。

他方、韓国にあっても、たとえば前述の釜山市におけるフレンドリーガイドの制度や、市民に対する大学での観光ガイド養成講座、名所におけるボランティアガイドの育成が見受けられる。

しかしながら、日本にしても、韓国にしても、必ずしも十分に相手国語標識の整備やボランティア通訳の制度化、活用が進んでいるとはいえず、問題がある。

○歴史的に日韓の関係がある名所や、日韓の間での姉妹都市の締結があるなどで日本、韓国と関わりがある地域や自治体では、パンフレットや地図の作成などの進展がある。しかし、そうでないところ、あるいはそうした地域を繋ぐ中間地域での関心や翻訳が不十分である。このことが、訪問先をスポット的にし、他の諸地域への繋がりによる旅行形態の形成を阻害し、旅の楽しさを半減させ、興味がつながらないなどの点で大きな悪影響があると考えられる。

○ボランティアの養成は必ずしも十分でなく、現状は多分に個人の趣味の域にあるといっても過言でなく、そのことが利用の広まらない要因の1つと推察する。組織的にもっと多くの人に関心を抱かせる努力が必要である。

○相手国語による情報整備やボランティア活動は、必ずしもシステム的でなく、各地域、各グループなどでバラバラである。このことが互いの情報発信のあり方や情報内容を複雑にし、利用しにくくしているともいえ、秩序あるシステム作りが必要である。

4. 日本人旅行者の高速船利用に関する男女間 および世代間の相違などに関する考察

4.1 序

前章で明らかなように、日本人は、男性と女性とがほぼ同程度の割合で高速船を利用する状況である。また、世代間については、50歳代にピークはあるが20歳代から60歳代あるいはそれを超える年齢層までの広い範囲での利用がある。そして、こうした多様な人々の間で社会的におかれている環境や関心事、旅の経験が異なることが考えられ、そのことに起因して旅のスタイルや旅の体験内容などに関し異なる点がある。

そこで本章では、福岡・釜山間の高速船による旅行形態や内容などが、男性と女性との間で、また世代の間でどのように類似するか、あるいは逆に相違するかなどを検討し把握するものである。すなわち、男性、女性の別に、あるいは年齢に関し若者、壮年者、高齢者に区分した世代別に、福岡・釜山間の高速船利用による旅行パターンやその体験内容、満足意識などについて、比較検討するものである。

なお、調査票の設問についての意味や回答内容は、前章の当該節に述べているので、ここでは回答結果の考察を主に述べる。また、性別については前章のデータですでにその回答がないものは除かれていることから、同じデータの分析となり、467の調査票すべてが分析対象である。世代は、467票のうちから、年齢について回答が寄せられたもののみが対象であり、このとき447票となる。

4.2 性別にみた旅行形態および高速船利用意識の比較検討

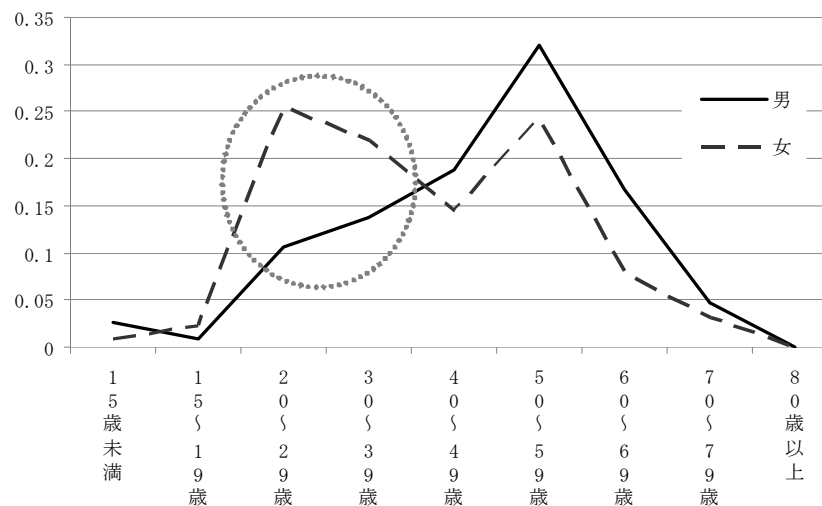
有効調査票467を男性、女性別に区分すれば、男性236票、女性231票がえられる。これらを項目別に相互比較して、特徴的な内容を拾い出し比較すれば表4.1のとおりである。これをもとに、男、女の旅行者特性や旅行内容、高速船利用の満足意識などを検討し解釈すれば以下のとおりである。

(1) 旅行者の個人属性について

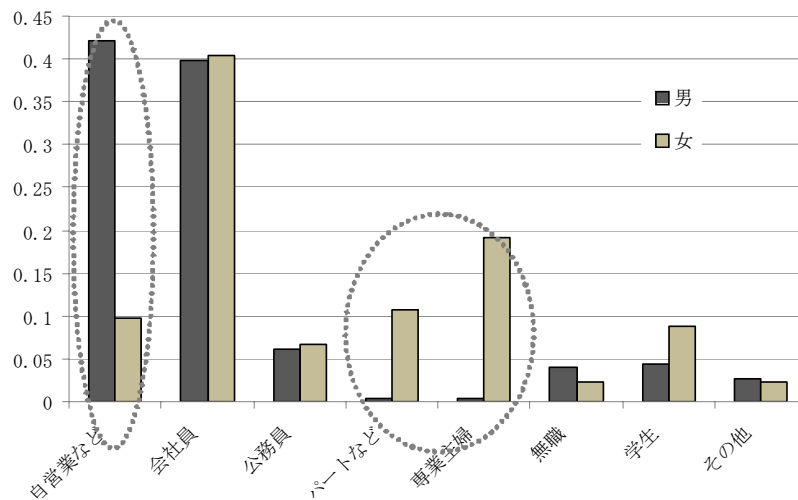
男性と女性とで年齢階層の構成が異なり、職業構成も異なる（図4.1）。

表4.1 日本人の性別による旅行実態と高速船利用意識の比較

事 項	相関性	男性	女性
1. 旅行者の個人属性について			
年齢	0	20歳代から60歳代まで分布するが、 その中で50歳代が多い。	20歳代から50歳代まで一様に分布し、 男性に比して20、30歳代の若い世代が多い。
職業	0	経営者・自営業と会社員でほとんどを占める。	会社員が多く、次いで専業主婦、さらに派遣社員など、自営業、学生と続く。
海外旅行経験	0	2～6か国程度の海外経験者が多いが、11 か国以上も1割強いる。	1か国の割合が20 %を占め、また2、3か国の経験にとどまり、男性に比して必ずしも多くの国の経験があるとは言えない。
語学力の実態	V	ほとんど韓国語の会話はしない。	ほとんど韓国語の会話はしない。
2. 旅行形態と内容について			
旅行目的	V	観光、グルメ、買い物为主で、同程度の割合。	観光、グルメ、買い物为主で、同程度の割合。
同伴者数	II	一人が少なく、2人が最も多いが、突出するほどでなく2～8人。	2人が約4割を占め、3、4人と合わせると2/3で、男性に比して小人数である。
続柄	I	の間で分布し、かつ10以上の団体も3割近くを占める。	友人が大きく1/3強を占め、次いで職場の18%が主である。夫婦12%、仲間10%。
旅行日数	V	1泊2日、2泊3日が主。	1泊2日、2泊3日が主。
リピーターの状況	V	初めてが4割で、次いで2、3回目が多いが、10回目以上も1割程度あり、女性比してリピーターが高い。	約5割が初めてであり、2、3回目が28%で、両者で大半を占める。
訪問先	V	釜山市がほとんどで、限られている。	釜山市がほとんどで、限られている。
市内の訪問先	V	南浦洞、西面、海雲台が主である（市内の回遊が多い）。	南浦洞、西面、海雲台が主である（市内の回遊が多い）。
体験内容	V	これら以外で東萊温泉(17%)、機張・龍宮寺(11%)をあげる者もいる。	これら以外では東萊温泉をあげる者が30%おり、男性よりも高い。
グルメ		焼き肉、鍋物、その他に3分されるが、前2者がやや多い。	焼き肉、鍋物、その他に3分されるが、 グルメの焼肉が主であり、その体験度合いは男性以上に高い。
買い物		日用品の体験度合いが高く主であるが、女性ほどの高い体験率ではない。	買い物自体男性よりも体験度合いが高く、 その中で日用品が主である。
観光		市場に関心が高く、次いで歴史文化遺産、名所である。	市場に関心が高く、次いで名所、歴史文化遺産である。
イベント		イベントへの関心は女性よりも低い。	イベントへの関心が7%程度あり、次回以降の体験を希望する者が1/3以上存在する。
その他		やや健康に関心がある。	男性よりも健康、美容への関心が高い。
旅行費用	IV	3～10万円程度に分布する。	3～10万円程度に分布するが、男性より少ない傾向である。
3. 旅行計画について			
旅行計画	IV	36%が2～3月前で、26%が1月前。	1/3強が1月前、1/3が2～3月前。
旅行の手配	V	旅行会社で手配が6割で、個人手配が約23%である。	旅行会社手配が66%で男性よりやや多く、個人手配は23%であるが、大差ない。
個人手配の切符	V	通常ピートル切符の手配は51%でやや低い。 特定割引切符の手配は約1/3。 特殊割引切符の手配は少ない。	通常ピートル切符の手配は56%である。 特定割引切符の手配は約1/3。 特殊割引切符の手配は少ないが、男性に比して
フレンドリーガイド	V	利用するに至っていない。	平日・誕生日割引、コリアレール&ピートルパスの利用もある程度ある。 利用するに至っていない。



(a) 年齢階層の分布



(b) 職業の構成割合

図4.1 男女別の年齢構成および職業構成

男性は、20歳代から60歳代までの広い範囲に分布し、その中で熟年層である50歳代にピークがある。また、職業については、自営業などおよび会社員がほとんどであり、両者を合わせれば8割を超える。これらを全体的に眺めてみると、定年退職後の高齢者を釜山旅行に必ずしも十分に取り込むに至っていないとの印象である。また、子供や学生については季節変動があるものと推察され、調査した9月、10月は学校行事などとの関係で子供の旅行が少ない時期であると推測される。

これに対して女性は、20代、30代が多く、また50代が多い。つまり、男性と同様の50歳代にピークをもつ分布状況に、20歳代、30歳代が特に増えて、その分他の年齢階層の構成割合が押し下げられ、結果として図示するような2こぶをもつ分布状態になったと解釈することができる。

職業については、会社員の比率が高く、それだけで約4割を占めるが、この点は男性に

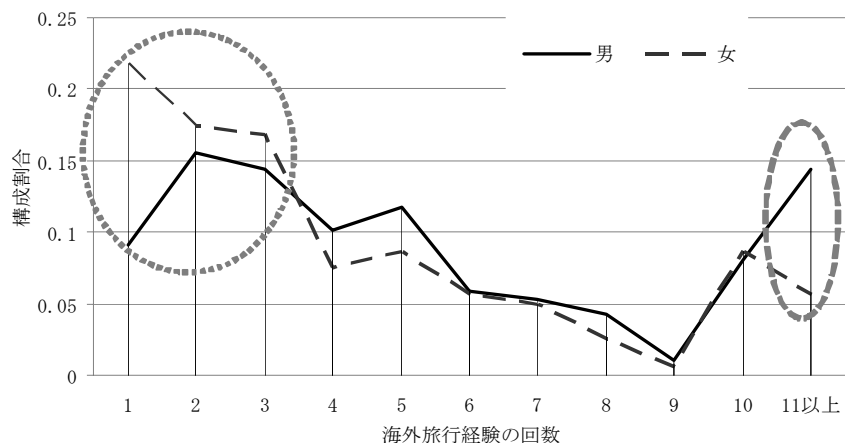


図4.2 男性、女性の海外旅行経験の回数分布

同じである。しかし、当然のことながら、会社員以外では専業主婦の構成割合が高く、約2割を占め、また、男性に比較してパート、学生の比率が高い。

海外にかかわることで、韓国語の会話能力をもつものは男、女ともにほとんどおらず、この点で差はないが、旅行経験については図4.2のとおりであり、相違がある。すなわち、女性は、1回あるいは2回、3回の経験が多く、合わせれば56%に達する。これに対して男性は、女性よりも海外旅行経験が多く、4回以上の構成割合はいずれも女性を上回り、あるいは11回以上も14%に達し、女性の6%を大きく上回る。

(2) 旅行形態と体験内容について

男、女ともに旅行目的は観光、グルメ、買い物が主であり、それぞれが同程度を占め、差異はない。また、旅行日数、訪問先も差異はなく、しがって、当然のことながらこれらについての旅行特性は§3.3に述べる日本人全体に関する記述内容に一致する。このことから、ここではこうした内容以外の旅行形態などについて、男、女間の違いを主にしながら検討することにする。

○ 市内の訪問個所については、旅行目的と同様に男、女の間でほぼ同じであり、主要な訪問先は南浦洞、西面、海雲台の3地区が主である。ただ、それ以外のところで若干の相違がみられる。すなわち、上記以外で細かくみれば、男性は東萊温泉を17%、機張・龍宮寺を11%が訪問するとの回答であるのに対し、女性は東萊温泉に集中し30%が訪れると回答している。

○ 体験内容の度合いを男女の別に求めれば図4.3のとおりである。男性にしても、女性にしても、グルメの焼肉、観光の市場、買い物の日用品が主要な3つの体験内容であることが分かる。しかし、具体的な体験割合になると相違し、女性はこれら3者に関していずれも7～8割の体験であるのに対し、男性は6割程度にとどまる。これら3内容に続いて体験度合いが高いのは、女性ではグルメのその他、買い物のブランド品、グルメの鍋物であり、5割程度の体験度合いである。男性では、グルメの鍋物、その他であり、4～5割の体験度合いである。

こうした体験内容の体験度合いの違いは、恐らく女性の方が積極的に多くの個所を回遊

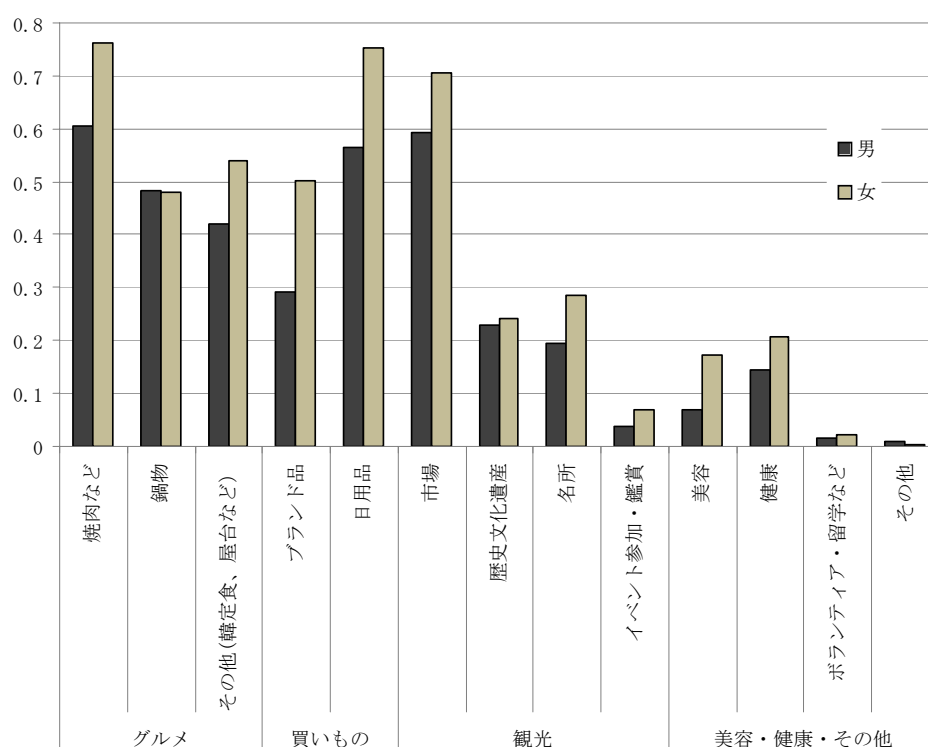


図4.3 男女別の体験内容

訪問し、男性はそれに比較して少ないことによると推察する。また、特に男性と女性とで相違がある内容は、グルメでは焼肉、その他であり、買い物はブランド品、日用品の両者、さらに名所の訪問、美容、健康の体験である。これらでは女性が男性に比して大きいことが指摘できる。

○ 旅における同伴者数および同伴者の続柄は、男性と女性とで大きく異なる(図 4.4)。すなわち、同伴者数については、女性では 2、3 人の同伴数による旅行が主であり、合わせて 2/3 を占める。これに対して男性ではピークがあるものの、ピーク率は低く、その分、多人数での同伴となる度合いが高い。

同伴者の続柄については図 4.4 の下段に示すとおりである。女性では友人が最も多く、1/3 強を占め、次いで職場の人の 18% である。男性では、職場の人が最も多く、約 27% を占めるが、次いで友人 23%、仲間 19% の順であり、さらに夫妻が続く。こうした同伴者の状況に関して特に男女で異なる点は

- ・友人との同伴では女性が男性よりも大きな割合を占める、
- ・逆に、職場、仲間の同伴については、男性が大きな割合を占める、
- ・男性に比して、女性は夫婦に加えて、子供や父母、その他の家族などといった家族との同伴旅行が多い、
- ・ひとり旅は、男女ともにさほど多くはないが、その中で男性の比率が女性のそれよりも高く、6%ほどを占める、

といったことがあげられる。

○ リピートの状況を、男、女別に求めれば図 4.5 のとおりである。

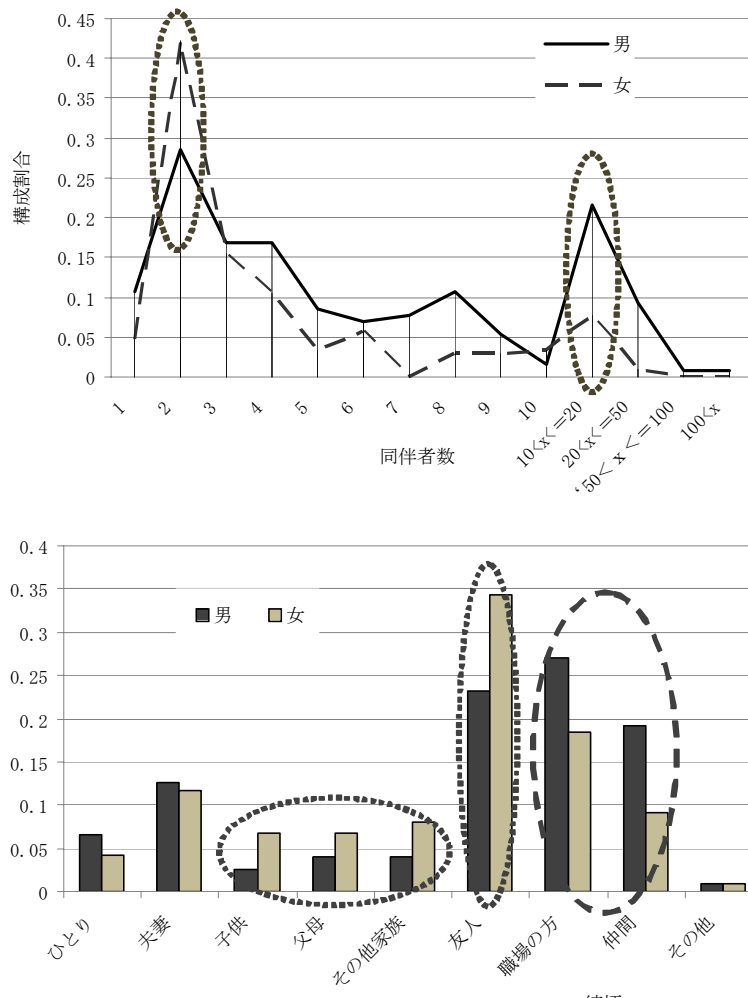


図4.4 男女別旅行者の同伴者数とその続柄

今回の調査における釜山の訪問が何回目かということについては、男、女ともに1回目が多く、男で4割、女で5割を占める。また、女性では1～3回という段階にとどまるものが多く、いまだ訪問回数は少ないといえるが、これらで全体の8割を占める。他方、男性では、女性よりも訪問回数が多く、1、2回が半数、それ以上が半数という状況である。5回以上になるといずれの回数も男性が女性を上回る状況であり、合計すれば約1/4に達する。

訪問頻度は同図下段に示すとおりである。当然のことながら今回初めてが多いものの、男性では、1年に1回未満、1年に1回以上、半年に1回以上といった訪問頻度も15～20%の割合で存在する。女性は、1年に1回未満が約2割であり、それ以上の頻度は1割あるいはそれ以下である。

○ 旅行費用の分布は図4.6のとおりである。男性、女性ともにほとんどが15万円以内の旅行費用である。その中で、女性の方が安い旅行費用にとどまるものが多く、5万未満でみれば、男性の28%に対して、女性は40%に達する。逆に、10万円以上の費用は、男性27%に対して、女性は16%である。

○ 旅行計画について

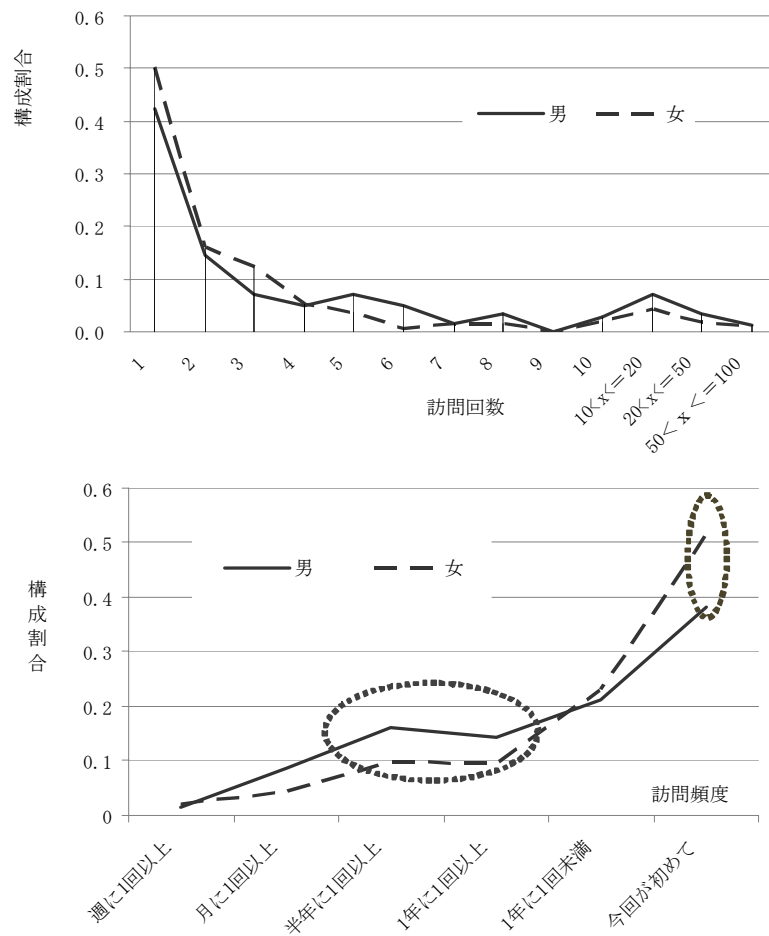


図4.5 釜山の訪問回数および訪問頻度（男、女別）

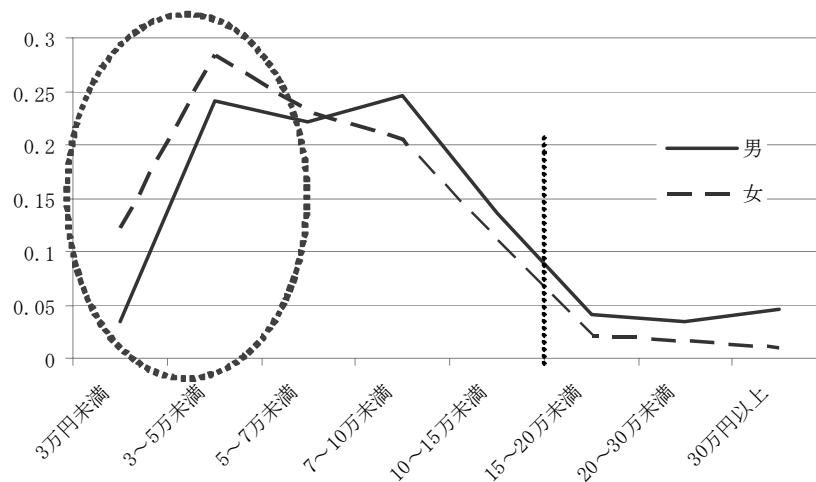


図4.6 旅行費用の分布（男、女別）

旅行計画の取りかかりや手配の仕方は、男性、女性で大きな差異はない。強いていえば、男性の方が早くから取りかかる傾向にある。また、個人手配に対しては女性の方が特殊割引切符の利用が若干多いといえる程度の差異である。

(3) 利用交通機関などについて

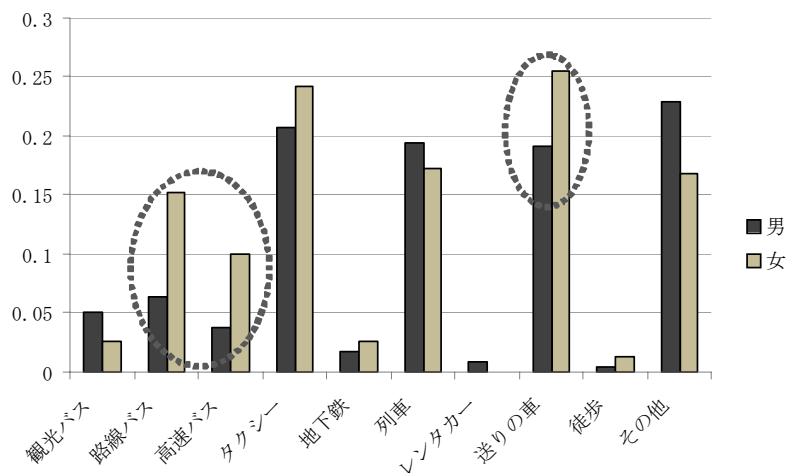


図4.7 博多港までのアクセス交通手段の利用状況（男、女）

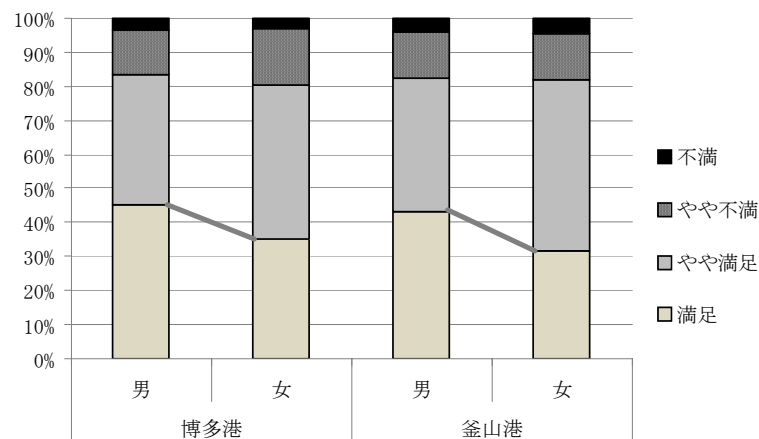


図4.8 港の設備などに対する満足意識（男、女別）

釜山を訪問する際の利用交通機関として、高速船利用が圧倒的に多い点、および釜山港からの末端交通手段として観光バス、タクシーが主である点は男、女間でさほどの差異はない。

また、博多港までのアクセス交通手段については、男、女ともにタクシー、列車、送りの車が主であるものの、女性はこのほかに路線バスや高速バスの利用もある程度存在する（図 4.7）。その他はマイカーや２輪車などであるが、送りの車と同程度の利用であり、男性が女性よりも多い。

さらに、博多港、釜山港の満足意識は図 4.8 のとおりである。どちらの港もおおむね満足な状況にあるといえる。その中で、どちらかといえば女性の満足意識が男性に比較して低い結果である。これは女性の方がより快適さ、良好な雰囲気を求めることによるものと推察する。

（４）高速船の利用意識について

高速船の設備やサービスなどに関する男、女別の満足意識は図 4.9 のとおりである。満足と答えた者の割合でみれば、手続きが最も高く、男、女ともに 50%を超えるが、以下、

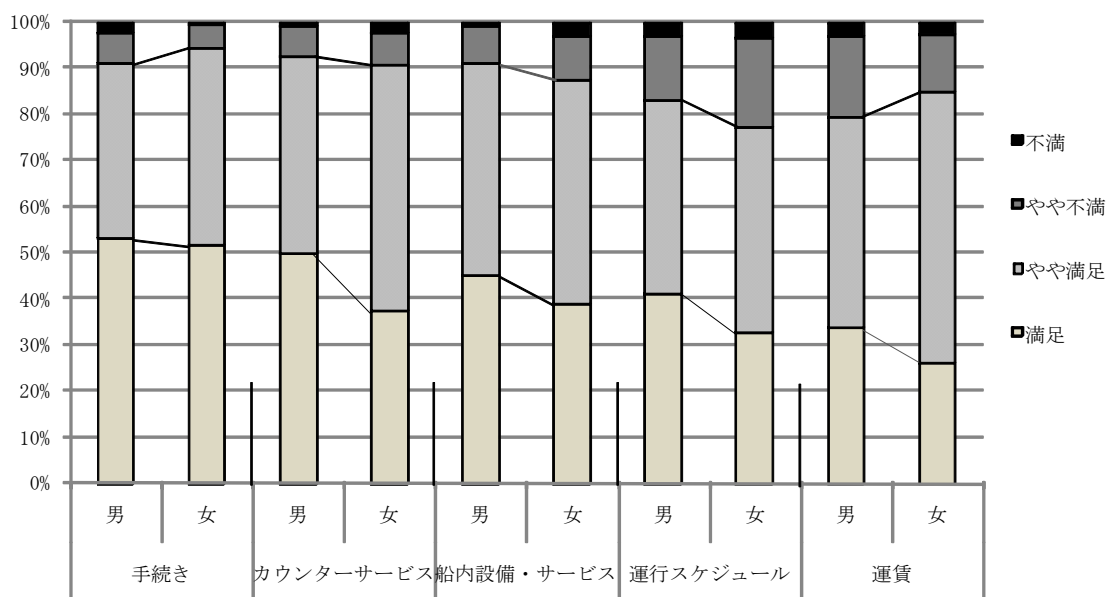


図4.9 高速船利用における満足意識（男、女別）

カウンターサービス、船内設備、運航スケジュール、運賃の順に低下し、運賃については、男性 34%、女性 26%の満足にとどまる。

また、どの項目も男性に比較して女性の方の満足度が低い。特に、カウンターサービスや設備および運航スケジュールについての男、女間の満足意識の差が大きく、いずれも10%ほどの開きがある。

速船の情報を何でえたかについては、男、女で大きな違いがある。図 4.10 に示すように、男性は知人・友人、テレビ、パンフレットに分散するが、女性は知人・友人とパンフレットに集中しており、これら 2 者で 7 割を占める。また、インターネットの利用はそれほど多くはないものの、男性で約 14%であるが、女性はそれよりも少なく、1 割に満たない状況である。

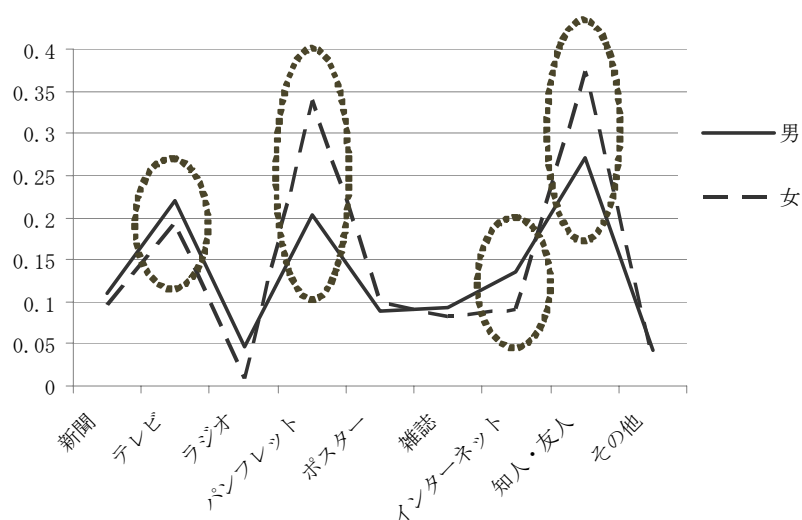


図4.10 高速船情報の取得源（男、女別）

4.3 世代別にみた旅行形態および高速船利用意識の比較検討

§ 4.1 に述べるように、日本人旅行者の年齢は 20 歳代から 60 歳代まで広く分布し、年齢に応じて職業や所得、海外経験の度合いなどは様々である。また、会社に勤めるものの多くは 60 歳が一応の定年であり、60 歳代に入ると年金生活者が増える実情である。したがって、年齢で収入や家族・社会環境が異なり、あるいは旅行に対する考え方が異なることになる。このことを踏まえれば、年齢によって旅行形態や体験内容などが異なるものと推察され、その実態を明かにするものである。

調査票の総数は 447 である。このことから詳細に分割することはできない。そこで、アンケート回答者を若者グループ（20、30 歳代）、壮年グループ（40、50 歳代）、高齢者グループ（60 歳代以上）に大別することとすれば、若者 165、壮年 207、高齢者 77 のサンプルがえられる。高齢者のサンプルが必ずしも十分でなく問題も残るが、それでも 3 つの世代に関して、旅行実態などについての傾向や特徴をある程度掴むことができるものと判断する。

世代 3 グループごとに整理した集計結果にもとづいて旅行形態などを比較対照し、一覧にすれば表 4.2 のとおりである。これをもとにして概略的に考察すれば以下のとおりである。

(1) 旅行者の個人属性について

個人属性のうち、性別については世代間で差がある。若者は女性が多く約 2/3 を占め、壮年者は男性が約 6 割を、高齢者も男性が 2/3 を占める。

また、職業については、若者では会社員が約 6 割で、次いで学生が多い。これに対し、壮年者では、会社員、自営業などが約 7 割を占め、次いで専業主婦である。高齢者については、自営業等と専業主婦が多く、両方で 2/3 を占める。

海外旅行の経験については図 4.11 のとおりである。概略的にみれば、若者の経験回数は少なく、壮年、高齢者になるほど多くなることはいうまでもない。韓国語の会話能力はこの世代もほとんどないが、その中で若者の理解者が若干みられた。

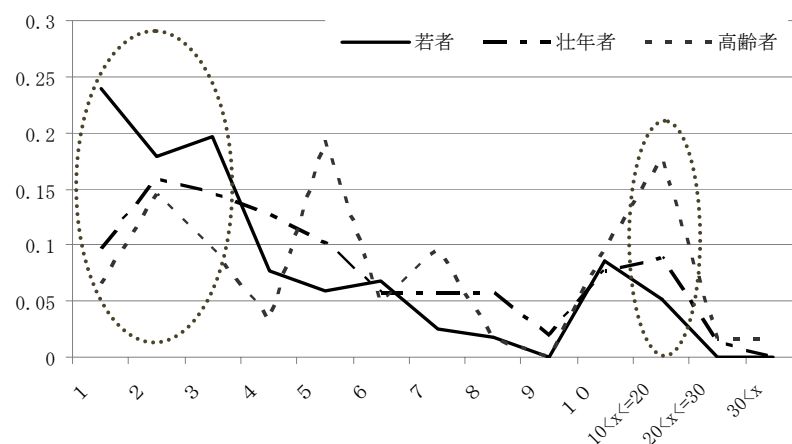


図4.11 海外旅行経験回数（世代間別）

表4.2 日本人の世代別による旅行実態と高速船利用意識の比較

事 項	相関性		若者 (20, 30歳代)	壮年者 (40, 50歳代)	高齢者 (60歳代以上)
	若者・壮年	高齢・若者			
1. 旅行者の個人属性について					
性別 職業 海外旅行経験 語学力の実態	0	V	0	男性が57%を占める。 会社員と自営業が多く、次いで専業主婦、さらに派遣社員と続く。 2～4か国が多く、次いで5か国、1か国、10か国以上と続く。 必ずしも経験が多いとはいえない。 ほとんど理解がない。	男性が2/3を占める。 自営業が主で、ついで専業主婦である。 1～7か国に広く分布し、10～20か国も15%程度を占める。 ほとんど理解がない。
	0	0	0		
	0	0	0		
	V	V	V		
2. 旅行形態と内容について					
旅行目的 同伴者数 経路 旅行日数 レポートの状況	V	V	観光、グルメ、買い物に3分され、ほとんどを占める。 これらに健康・美容が続く 2人の割合が他よりも高く、次いで2, 3人。 友人、職場が主で、これらに夫妻が続く。	観光、グルメ、買い物物が主で、同程度の割合。 これら以外では健康・美容、さらに交流活動がある。 友人が多いが、3, 4人および10人以上も多い。 友人、職場、仲間が主で、これらに夫妻が続く。	観光、グルメ、買い物に3分されるが、これらウエイトは3世代の中では低く、交流活動・健康・美容も少なからずある。 10人以上が多く、これに2, 7, 6人が続く。 仲間、友人が主であり、夫妻が意外と少ない。
	III	0	0		
	0	0	0		
	V	V	IV	1泊2日に集中し、次いで2泊3日で、他層より短め。 初めてが多く、これに2, 3回が続く、これらで全体の3/4を占める。 初めてと年1回未満が大半を占める。	1泊2日が主で、次いで2泊3日。 初めては35%で、2, 3泊を合わせて約6割である。 他の層に比較して多回数が多い。 他の世代に比較して多頻度の訪問である。
訪問先 市内の訪問先 体験内容 グルメ 買い物 観光 イベント その他	V	V	9割以上のほとんどが釜山市。 南浦洞、西面、海雲台が主で、東萊温泉も少しある。	97%と、ほとんどが釜山市。 南浦洞、西面、海雲台が主で、東萊温泉が続く。 また、他の世代に比較し、他の訪問先もある程度見られる。	9割以上とほとんどが釜山市で、他世代と同じ。 南浦洞、西面、海雲台が主である。
	V	V	V		
	V	V	V		
	V	V	V		
	V	V	V		
	V	V	V		
旅行費用	IV	0	0	3～7万円が主であり、3世代の中で最も少額である。	5～15万円が主で、15万円以上の高額負担も2割程度ある。
3. 旅行計画について					
旅行計画 旅行の手配 個人手配の切符 フレンドリーガイド	V	V	2～3月前、1月前が多く、次いで半月前、1週間前と続く。 他の世代に比して1週間前も多い。 旅行会社率が2/3と主であるが、個人も2割を占める。 通常ビートル切符、次いで特定割引切符の利用がおおい。 特殊割引切符も他の層に比すれば多い。 基本的には利用はないが、1名の利用があった。	2～3か月前、1か月前が多く、次いで半月前、1週間前と続く。 旅行会社が60%であるが、個人手配も2割を占める。 通常ビートル切符と特定割引切符の利用に2分される。 利用するに至っていない。	2～3か月前、1か月前と、他層に比して早い段階からの計画が多い。 旅行会社が約2/3を占め、個人手配は13%と少ない 通常ビートル切符がほとんどで、特殊割引切符などの利用はわずかである。 利用するに至っていない。
	V	V	V		
	V	III	IV		
	V	V	V		

2960780

[illegible]

2. 6. 3. 4. 5. 新製品の開発費について

[illegible]

2. 今般の計はついで

[illegible][illegible]

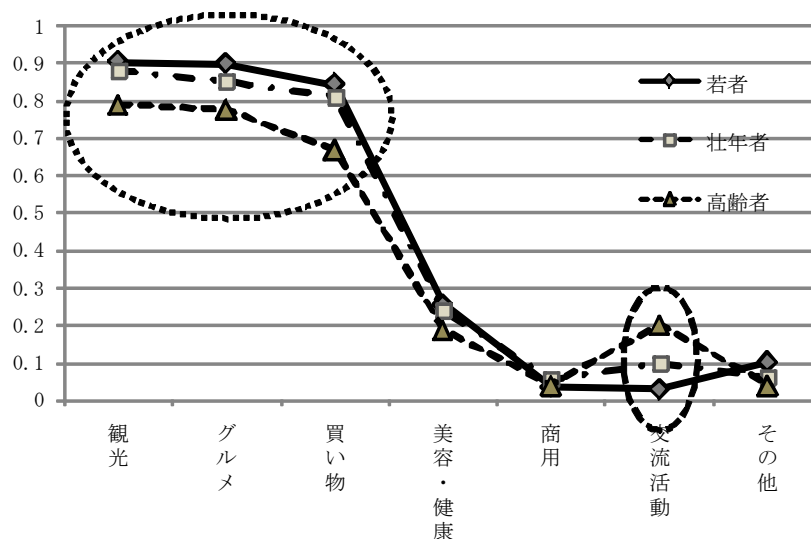


図4.12 旅行目的(世代間別)

旅行形態と体験内容について

大まかにみれば、旅行目的、訪問先、市内の訪問箇所、体験内容について世代間で抜本的な相違はなく類似する。しかし、詳細にみれば相違するところもある。また、これら以外の旅行形態（同伴者数やその続柄、リピート状況、旅行費用）については世代間で大きく相違する。

○旅行目的(図 4.12)

旅行目的は、いずれの世代も観光、グルメ、買い物が主体であることに変わりはない。しかし、高齢者は他の世代よりもそれら3つの目的を掲げる者の割合が10%ほど低く、80~70%にとどまり、その分、交流活動が多く、約20%占める。この点が他の世代と異なる。美容・健康については、世代間で大きな差異はなく、いずれの世代も約2割程度を占めている。

なお、若者から高齢者になるほど旅行目的曲線が下方に位置しているが、これは若者の行動が活発で、多様な目的内容を兼ね、高齢者になるほど少ない目的に絞られることの表れと推察する。

○訪問先および市内の訪問先

訪問先についてはどの世代も圧倒的に釜山であり、これに続くのが、1割程度ではあるが、若者、壮年世代の慶州、高齢世代の大邱である。

また、釜山市内での訪問先についてはどの世代もほぼ同じであり、南浦洞、西面が主で、80、70%の割合で体験し、これに半分程度の割合で海雲台が続く。

○同伴者数とその続柄

小人数、とりわけ2人の旅行は、若者がずば抜けて多く、半数近くを占めるが、加齢とともにその割合は減少し、高齢者では他のカテゴリーに比して特に多いという状況ではない(図 4.13 の上)。逆に、多人数による旅行が高齢者になるほど増え、10人以上の団体でみれば、高齢者22%、壮年者12%、若者4%という状況である。

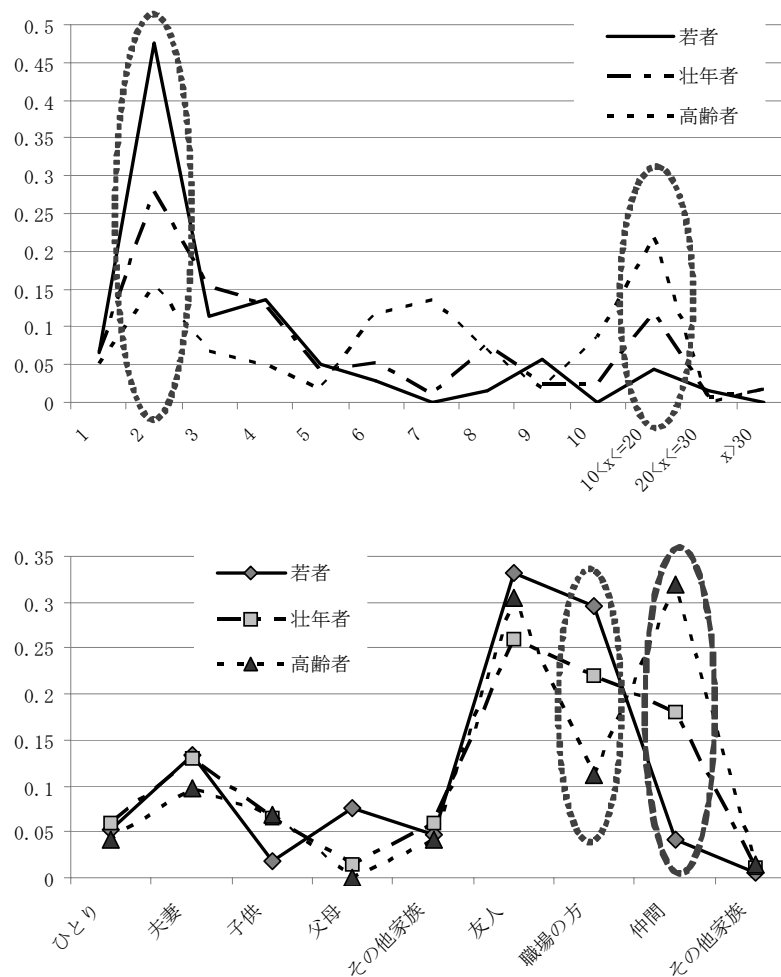


図4.13 同伴者およびその続柄（世代別）

また、こうした実態と符合し、若者は友人、職場の人との同伴が多く、壮年者は友人、職場、仲間といったところが主なところである(図 14.3 の下)。高齢者は、仲間と友人が主であり、グループ旅行の特徴が如実に表れている。

家族との同伴はどの世代もそう多くない点で共通するが、その中で若者は夫妻、父母との同伴、壮年者および高齢者は夫妻、子供との同伴が主であり、これらにその他家族が続く。

○旅行回数およびリピートの状況

訪問が1回目というのは、当然のことながら若者世代では多く、6割近くを占める。壮年者、高齢者になるとこの割合は小さくなり、高齢者では2割程度にとどまる(図 4.14 の上)。

若者から高齢者へと移行するに従って訪問回数の多いものの割合が増えるが、特に4回以上で高齢者とそれ以外の世代で顕著な差異がみられる。

訪問頻度については図 4.14 の下図のとおりである。今回が初めては訪問回数の今回が1回目に同じであることはいうまでもない。リピートという観点でみれば、高齢者、壮年者の訪問頻度は1年に1回未満が主であるが、特に高齢者は4割近くに達する。これら以外

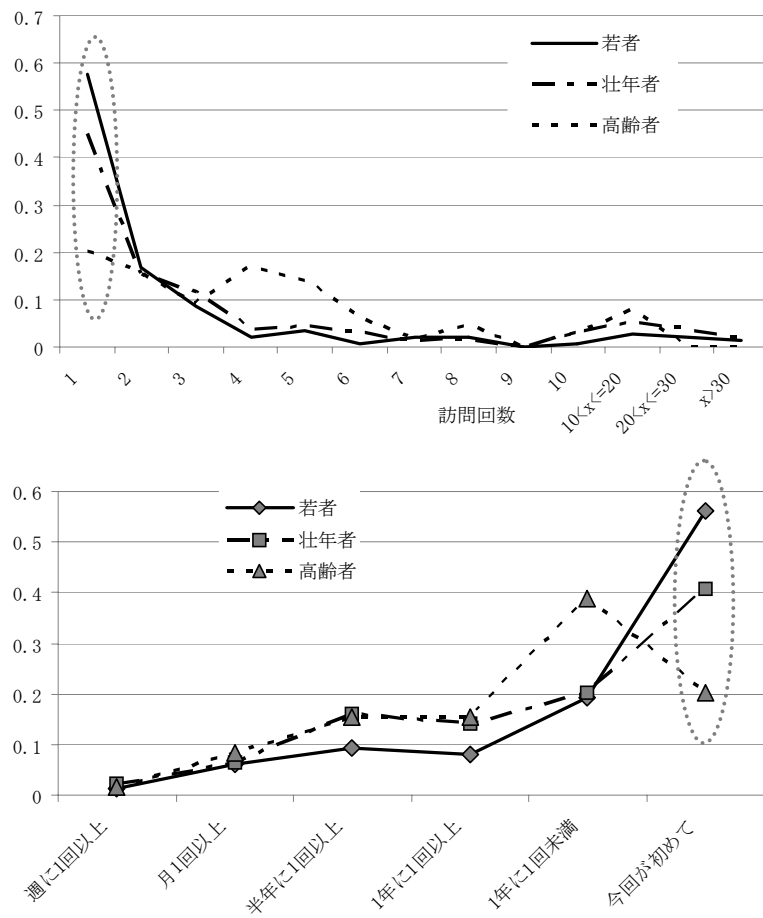


図4.14 訪問回数および訪問頻度（世代間別）

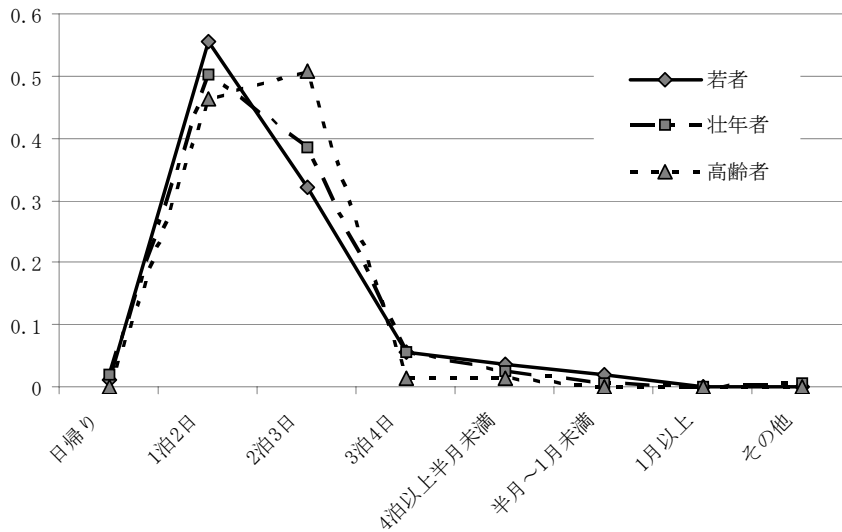


図4.15 旅行日程（世代間別）

では半年に1回以上、1年に1回以上が高齢者、壮年者ともにそれぞれ15%程度を占めている。

○旅行日程(図 4.15)

旅行日数については、若者は1泊2日が最も多く56%を占め、次いで2泊3日が32%

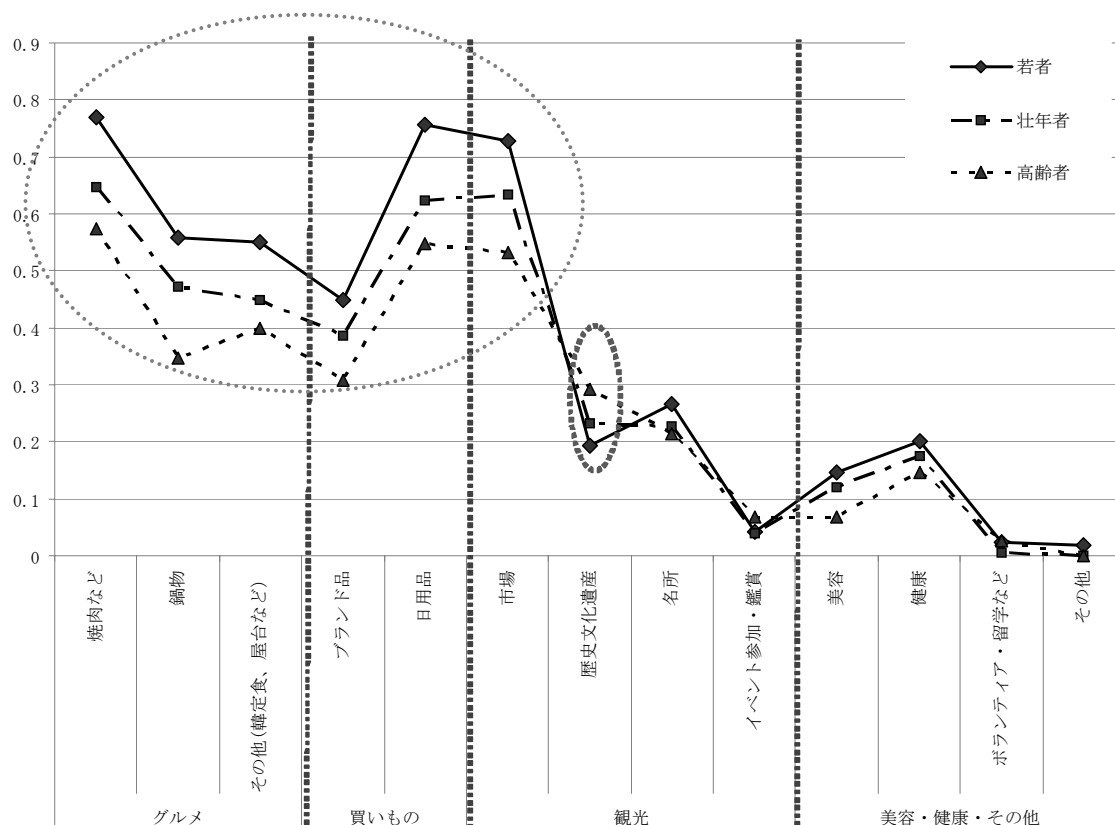


図4.16 今回の旅行における体験内容（世代間別）

で、両者合わせて9割近くに達する。壮年者は、1泊2日50%、2泊3日39%であり、高齢者は逆転して46%と51%である。いずれにしても、世代に関係なく1泊2日ないし2泊3日の旅行日数であり、日帰り、長期滞在はまれで、ほとんどない。

○体験内容

グルメ、買い物、観光などの体験内容について、世代との関係を探れば図4.16に示すとおりである。

各世代とも、グルメの焼肉、買い物の日用品、観光の市場の3者が主たる体験内容であるが、若者から高齢者になるほど折線全体が下方に移動している。このことは、設問に際して体験したことが複数あればそれらを上げさせているが、若者は同じような旅行日数でも活発な回遊があり、多くのことを体験するのに対して、壮年者、高齢者になるにしたがって体験内容の数は絞り込まれ少なくなることによるものと推察する。

因みに、体験したとして○印を付した数の平均値を求めれば、若者4.7個／人、壮年者4.0個／人、高齢者3.5個／人である。

そうした中で、高齢者が若者や壮年者より多くの割合で体験する内容は、歴史文化遺産を訪ねるであり、若者約2割、壮年者24%、高齢者約3割である。要するに、訪問箇所ごとの訪問者数の総和は、旅行需要の総量とでもいうべき旅行規模を表すものであるが、高齢者はその世代の旅行規模の中で、歴史文化遺産訪問の割合が他の世代に比して大きいことを意味する。

次回以降で体験したい内容を問い、それを世代別に整理したものが図4.17である。若者

については、前章の § 3.3 の (3) に述べた日本人全体とほぼ同じ状況であり、観光の歴史文化遺産、イベントの参加・鑑賞、美容・健康に多くの関心があり、ボランティア・留学もある程度の関心がある。すなわち、今回の体験内容に関する図 4.16 では、市場より右寄りにある内容項目の体験度合いが高く、左よりの諸項目が低かったが、次回以降の体験内容の希望に対する問いかけではその逆の姿である。このことは、若者に関して今回の 3 大要素中心の旅行とは異なる旅行への変質が推察できることを示唆し、体験内容の構成に変化があることを予見させるものである。

壮年者については、グルメの焼肉、鍋物、観光の歴史文化遺産、健康といったところにわずかながら回答が多くみられる。しかし、全体としてはどの項目も 25～30% 程度の関心事である。こうした状況は、見方によっては今回の体験内容で関心が低かった内容に対しても、関心が高かった項目と同程度の関心があるといえ、今回の体験内容と異なる次回以降の体験も場合によっては想定される。

高齢者については、今回関心が高かった内容項目、低かった内容項目という関係がそのまま次回以降の体験希望の姿でもある。したがって、高齢者については若者や壮年者程に今後の釜山訪問にける体験内容が変わるとは考えにくい。

○旅行費用

若者は 3 万円から 7 万円未満が多く、約 6 割を占める。次いで 7 万～10 万円未満が 17% 程度であり、3 万円未満も 11% ある。したがって、10 万円未満で 9 割近くを占め、ほとんどすべての人を網羅している。

壮年者は、3 万円から 15 万円未満が大多数で、3/4 を占め、次いで 10 万円～15 万円未

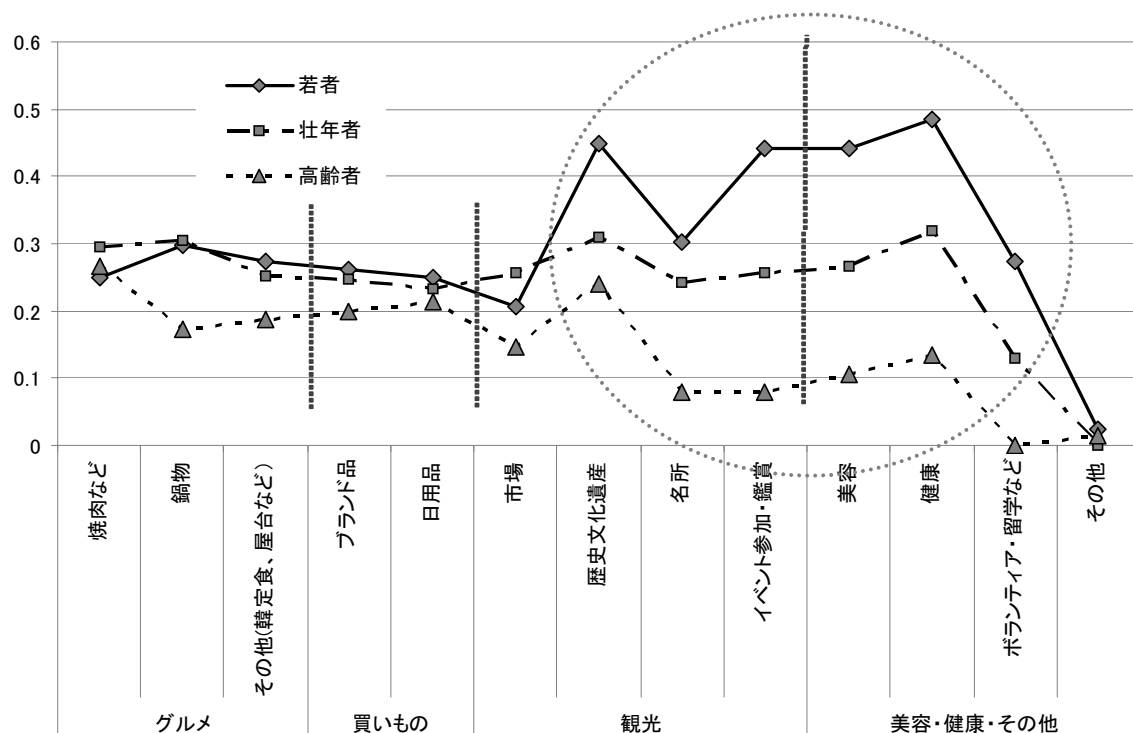


図4.17 次回以降で体験したい内容（世代間別）

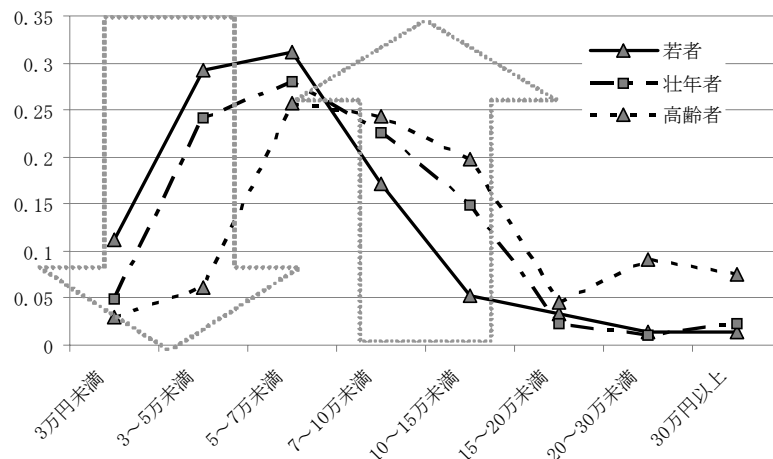


図4.18 旅行費用（世代間別）

満が 15%である。

高齢者は、多くが 5 万円から 15 万円までがほとんどであり、約 7 割を占める。また、20 万円以上の高額費用を費やす者も 17%に達する。

要するに全体でみれば、若者、壮年者、高齢者になるにしたがって旅行費用が高額になる傾向にある。

(2) 交通機関および国際ターミナルについて

福岡、釜山間の交通機関の利用意識は、年齢階層により特段の違いはなく、どの世代も高速船利用意識が高く、航空機、フェリー低い。

博多港までの端末交通手段は図 4.19 のとおりである。路線バスを除けば、利用パターンはほぼどの世代も同じである。

若者はその他（マイカーなど）が最も多い利用率（約 25%）であり、ついでタクシー、送りの車の順であり、さらに列車、路線バスも 15%程度の利用があるという実態である。

壮年者は送りの車とタクシーが 23%程度、ついで列車、その他であるが、路線バスの利用は一割弱である。

高齢者については、送りの車が最も多く 27%を占め、これにタクシーの 25%が続き、両

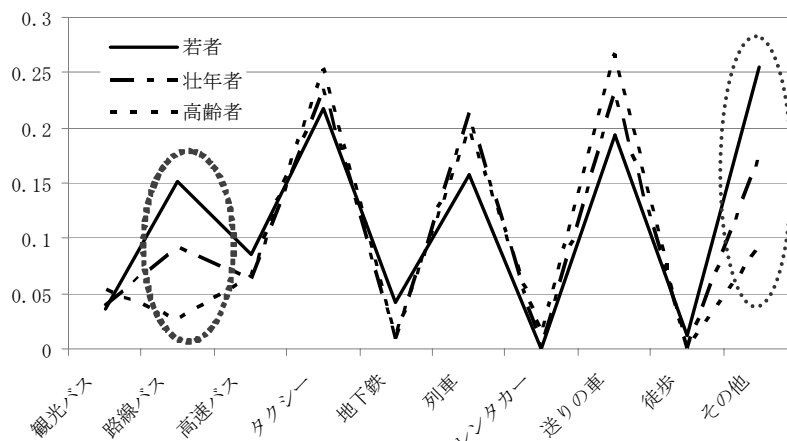


図4.19 博多港までのアクセス交通手段（世代間別）

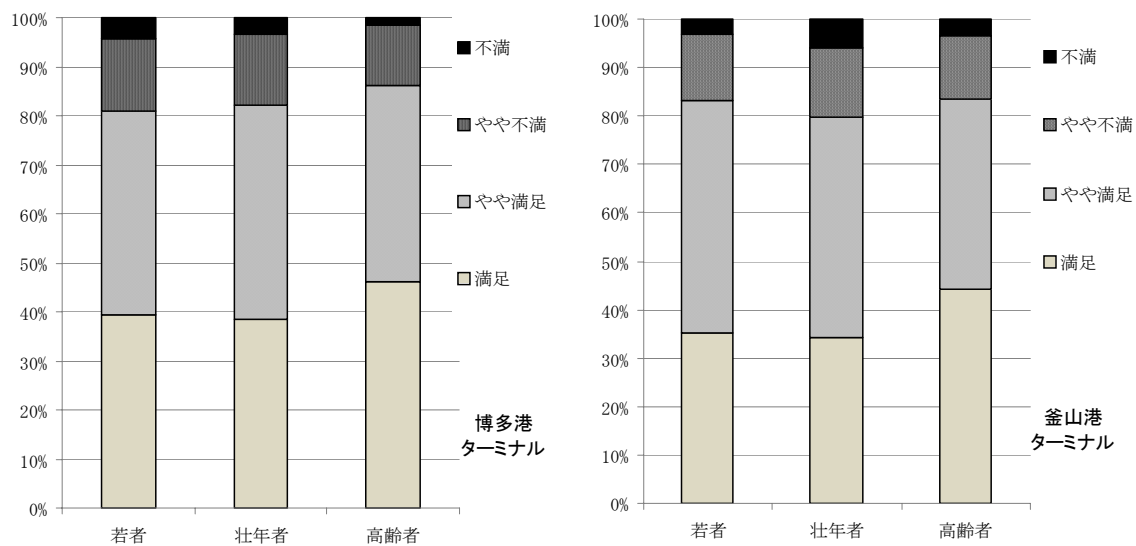


図4.20 博多港、釜山港の国際ターミナルに関する満足意識(世代間別)

者合わせると 5 割を超える。次いで列車が 2 割程度を占めるが、これら 3 者以外ではその他が 9%にすぎないなどである。

釜山港からの端末交通手段については世代間で大きな差異はなく、日本人全体と同じ状態である。

博多港および釜山港の国際ターミナルに対する満足意識を図 4.20 に示す。両者とも他の世代に比較して高齢者の満足意識が高いが、これはターミナルの設備やサービスについてあまり問題にしていないことの表れと推察する。

(3) 高速船利用の満足意識

高速船のサービスや運行などの諸内容に関する世代間の満足意識を求めれば図 4.21 のとおりである。

○どの世代も運賃、運航スケジュールに対する満足意識が他の内容に比して小さく、不満も大きい。

○手続きは、全体として満足意識が高いものの、高齢世代ほど満足意識が低くなる。

○カウンターサービスや船内サービスなどは逆に高齢者の満足意識が他の世代よりも高い。

○運行スケジュールについては、他の世代に比較して高齢者の不満は少ない。

○運賃については、高齢になるほど満足意識が低くなっているが、その半面で必ずしも不満が増えるといった傾向にはない。このことは、高齢者が全体として旅行費用が高額であることから、運賃に関する関心がさほど大きくないことの表れである。

4.4 要約

同じ日本人でも、性別、世代間で福岡、釜山間の旅行形態や高速船利用意識にいかなる違いがあるかを考察した。その結果を要約すれば以下のとおりである。

旅行者について

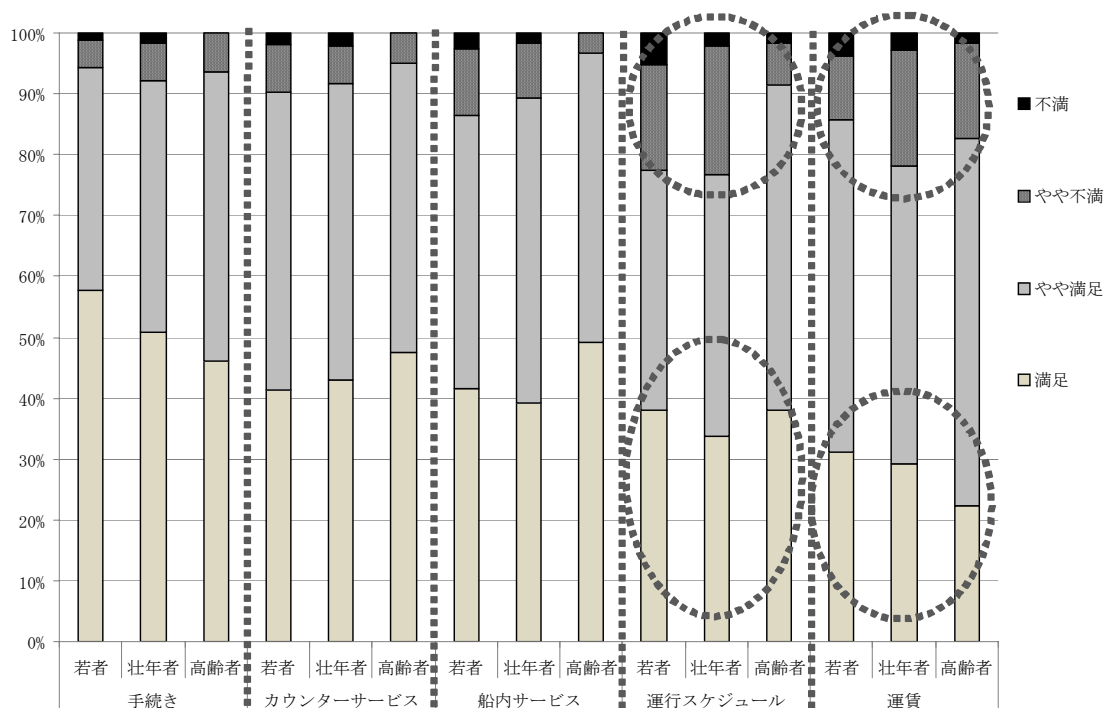


図4.21 高速船利用に関する満足意識（世代間別）

(1) 性別、世代別にみれば、旅行者の個人属性は異なり、若い世代では女性が、壮年者、高齢者では男性が多い。また、これに伴い職業構成や海外経験の度合いが性別、世代別で異なるが、詳細は当該節に述べるとおりである。

旅行形態、体験内容について

(2) 旅行目的は、性、世代にかかわらず観光、グルメ、買い物が主であり、それらの間の差異は小さく、同程度である。

(3) 旅行形態のうち、訪問先、市内の訪問箇所、体験内容といった受け入れ先に関することは、性および世代間で大きな相違はなく同質である。したがって、これらの内容は前章に述べた日本人全体と同じことである。その中で強いていえば、女性の方が買い物や美容・健康への関心が高いこと、高齢者ほど歴史文化遺産の訪問が多くなることで相違がみられる。

(4) 同伴者数とその続柄は性別で見ても異なる。男性は女性よりも、また世代が高齢になるほど少人数から比較的多人数の同伴まで広く分布し、女性および若い者ほど2人での旅が多い。同伴者の続柄は、男性で若者や壮年者では、あるいは女性では友人、職場の人が主である。これに対して高齢者は仲間、友人が主である。

(5) 旅行日数については、性別による差異はないが、世代間では若者が1泊2日に集中し、高齢者は2泊3日と1泊2日が同程度である。また、リピートは女性よりも男性が、若者よりも高齢者の方が多い。

(6) 旅行費用については、女性よりも男性が、若者よりも高齢者の方が多額を費やすといえる。

旅行計画のあり方について

(7) 旅行計画のあり方については、本質的には性別、世代別で大きな相違はない。そうした中で、どちらかといえば、男性よりも女性が、若者よりも高齢者の方が早い段階からの計画となる。また、個人手配の切符に関しては、女性および若者の方が特定割引切符や特殊割引切符の利用が多い。

交通機関、交通手段について

(8) 福岡、釜山間の交通機関として高速船利用が主であることは、性別、世代間で相違はない。また、釜山での端末交通についても変化はない。これに対して、博多港までの端末交通については、路線バス利用およびマイカーなどのその他利用が性別、世代別で異なる。女性は男性に比較して路線バスや高速バス、送りの車の利用が多く、若者はマイカーなどの利用が多い。

(9) 港湾の設備などについて性、世代間で満足意識に差があり、男性よりも女性の方が、高齢者より若者の方が、満足意識は低い。

高速船の利用意識について

(10) 高速船の利用に関しては、その設備やサービスについて、男性より女性の方が満足意識は低い。また、世代間では内容により満足意識が異なり、カウンターサービスや船内については高齢者の方が、手続きについては若者の方が、満足意識はより高い。

(11) 高速船の運行および運賃に関しては、男性に比較して女性の不満が高い。世代別では、運航に関しては壮年者の満足意識が低く、運賃に関しては高齢者の満足意識が低い。

(12) 高速船に関する情報源は知人・友人とパンフレットが最も多いが、その度合いは性別、世代間で異なる。また、インターネットの利用は女性よりも男性が、高齢者よりも若者が多いことは当然である。

(13) 高速船を福岡・釜山間の交通機関として利用する意識は、性別、世代にかかわらず極めて高く、いずれも8割近い。

今後の旅行について

(14) 釜山市内で今後に訪問したい場所については、性別、世代の間で特に大きな差異はない。

(15) 次回以降の体験希望として、これまでの主体である観光・グルメ・買い物以外のものへの関心が高いのは、若い世代、女性である。

5. 韓国人によるフェリー利用と高速船利用 との旅行者および旅行形態の比較

5.1 序

博多港から釜山港へはフェリーが運行されている。平成 16 年からは新造船“ニューかめりあ”が投入され、それまでの週 3 便体制から、博多発を昼便、釜山発を夜行便として週 6 便のディリーとなり、利用客も一定の量を確保している。したがって、高速船利用者とフェリー利用者とではその性格に違いがあるのか、旅行形態などは同質といえるのかなどを明らかにすることが、高速船とフェリーが競合する今後の博多港・釜山港間の船舶利用の動向やその内容を展望し、その発展策を模索する上から望まれる。そこで、この観点にたって、高速船の利用者調査に合わせて、フェリーの利用者についてもアンケート調査を実施した。

フェリー利用者は大半が韓国人である。日本人は少なく、したがって、日本人について十分なサンプルを得ることは容易でない。このことから、今回は韓国人に的を絞って調査し、分析するものである。

調査は平成 19 年 11 月 29 日～12 月 2 日の 4 日間をかけて行ったが、フェリー利用者で、韓国籍を明示し、かつ性別を明らかにした調査票のみを対象にすれば、全部で 189 票がえられた。同様に、高速船については、先に述べるように 405 票である。フェリーの有効票が高速船に比較して必ずしも十分であるとはいえないが、これらをもとにして、フェリーと高速船の利用者の特性や旅行実態の相違や類似性などについて分析し考察するものである。

5.2 旅行者の個人属性について

フェリーの利用者は、高速船利用者と同様に、女性(0.571)の方が男性(0.429)よりも多い点で同じ状況であるが、高速船利用者に比較してその差は小さい。また、

表 5.1 乗船者の居住地分布

居住地	高速船	フェリー
釜山市	0.227	0.344
慶尚南道蔚山市	0.088	0.124
慶尚南道金海市		0.059
慶尚北道大邱市	0.124	0.054
慶尚南道昌原市		0.048
慶尚南道巨済市	0.035	
慶尚北道慶州市		0.038
慶尚南道居昌市		0.032
慶尚北道聞慶市		0.032
慶尚南道	0.032	
慶尚南道馬山市	0.027	
小計	0.534	0.731
全羅北道全州市		0.027
全羅南道光州市	0.083	
大田市	0.024	
ソウル市	0.145	0.038
京畿道九里市	0.044	
その他地域	0.171	0.204
合計	1.000	1.000

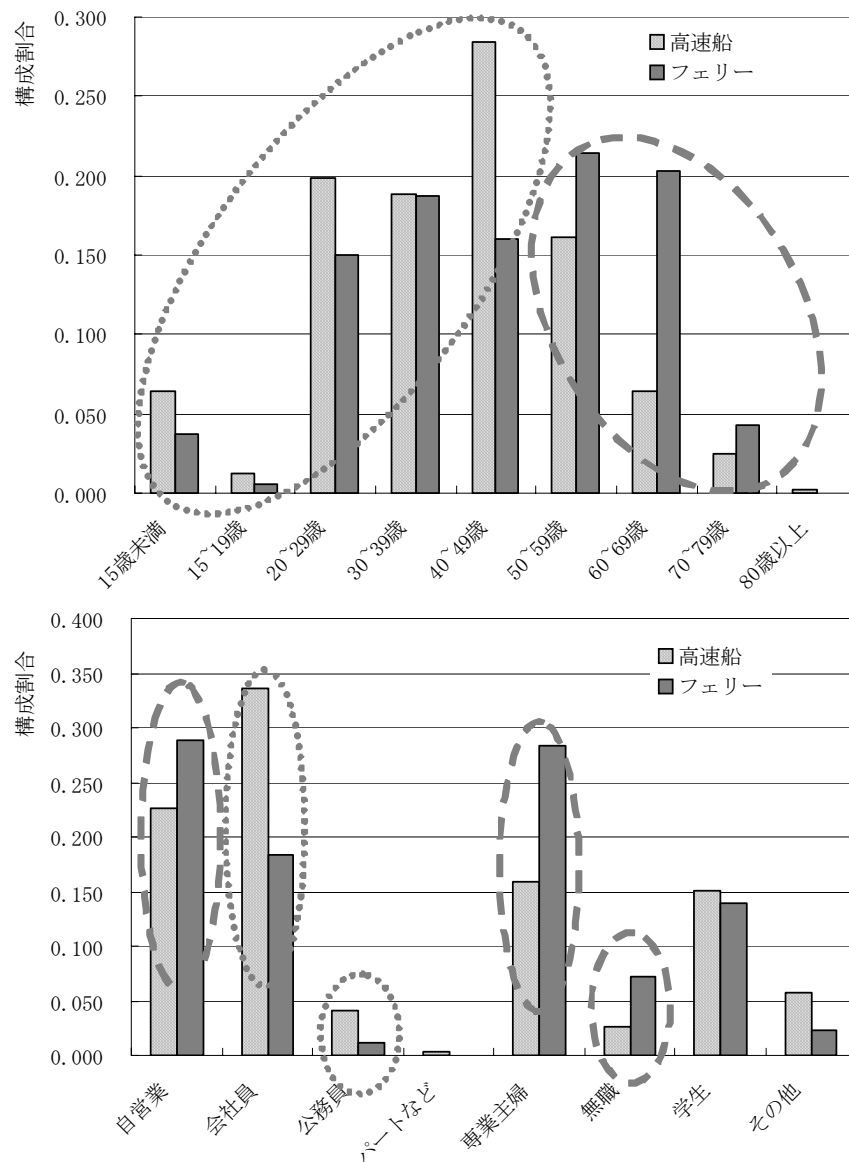


図 5.1 船舶利用者の年齢分布および職業分布

居住地については、表 5.1 に示すとおりである。必ずしも十分なサンプルがえられていないので正確なことはいえないが、概略的に全体を眺めてみると、高速船利用者に比して、フェリー利用者は、釜山市と全羅南道、全羅北道といった、いわゆる釜山港の背景的な勢力圏地域からの集客の割合が高いといえる。つまり、フェリーは必ずしも高速船利用者ほどの広域的な集客でないものと推察される。

利用者の年齢および職業構成については図 5.1 に示すとおりである。年齢は、高速船では 20～50 歳代の比較的若い世代の人の利用が多いといえるのに対し、フェリーは 20 歳代から 70 歳代までと比較的幅広く利用されている。このことから、高速船に比較してフェリーの利用者は 50、60 歳代の割合が多い結果である。

職業については、高速船利用者は会社員、公務員が比較的多いのに対し、フェリーは専業主婦、自営業、無職といった人々の利用が多いことが読みとれる。このことと、上述の

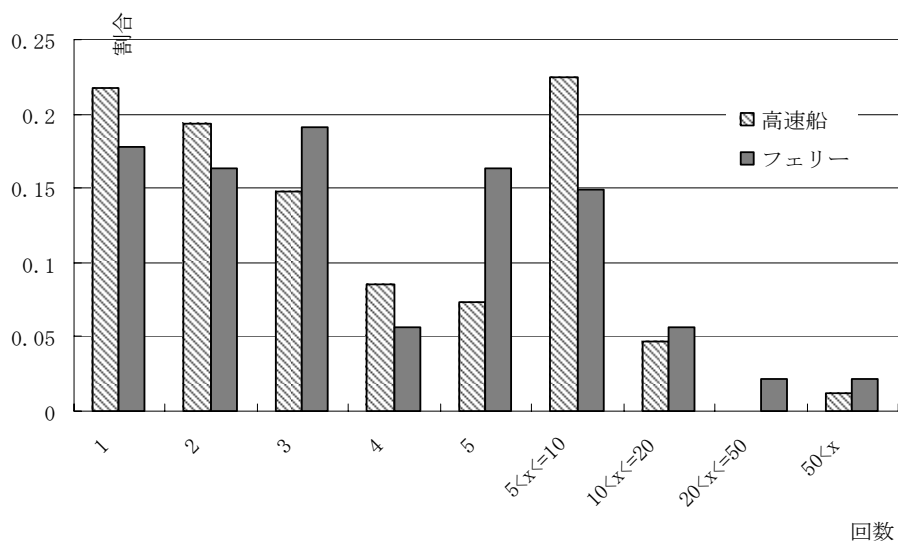


図 5.2 海外旅行の経験について

年齢構成の相違が互いに関係するものと推察する。ある意味では、フェリーは経済性が評価され、高速船は迅速性が評価されての個々人の選択結果を反映していると見ることができる。

海外経験の状況および日本語の理解の度合いについては、特に高速船とフェリーの利用者間で差異はない。また、フェリー利用者の海外旅行についてはせいぜい3回までが大半を占める（図 5.2）。さらに、言葉については、13%程度が基本的な会話ができるとしている。

5.3 旅行目的および訪問先について

旅行目的を図 5.3 に、九州内の訪問先の構成割合の比較を図 5.4 に示す。これらは、複数の回答であることから、全旅行者の何割がそうした目的あるいは訪問先を訪れたかを意味するものである。

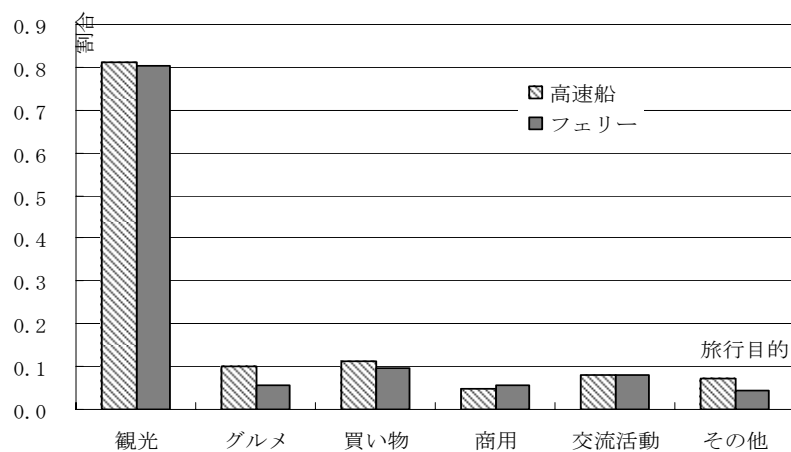


図 5.3 旅行目的について

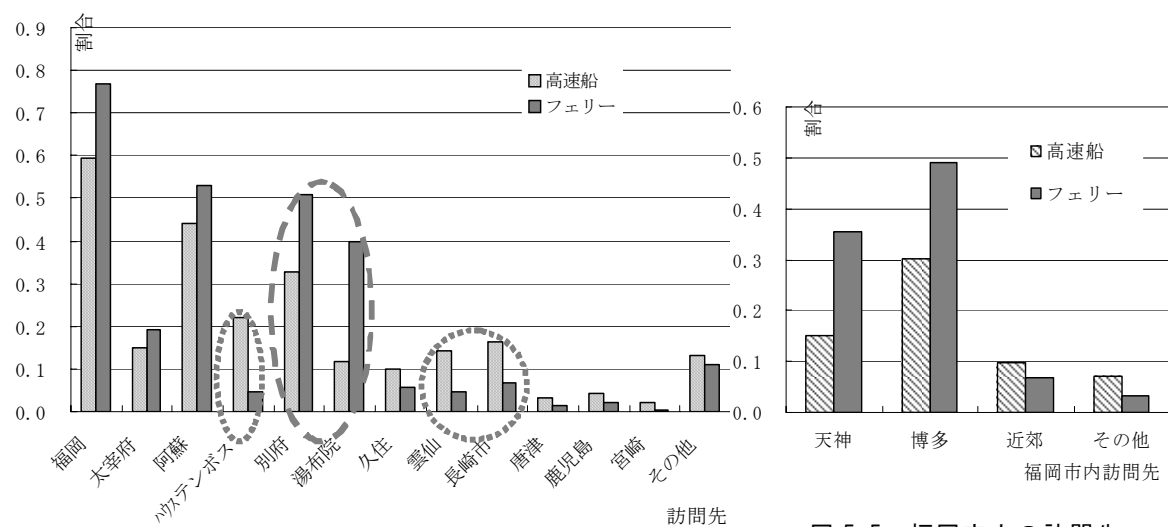


図 5.4 訪問先について

図 5.5 福岡市内の訪問先

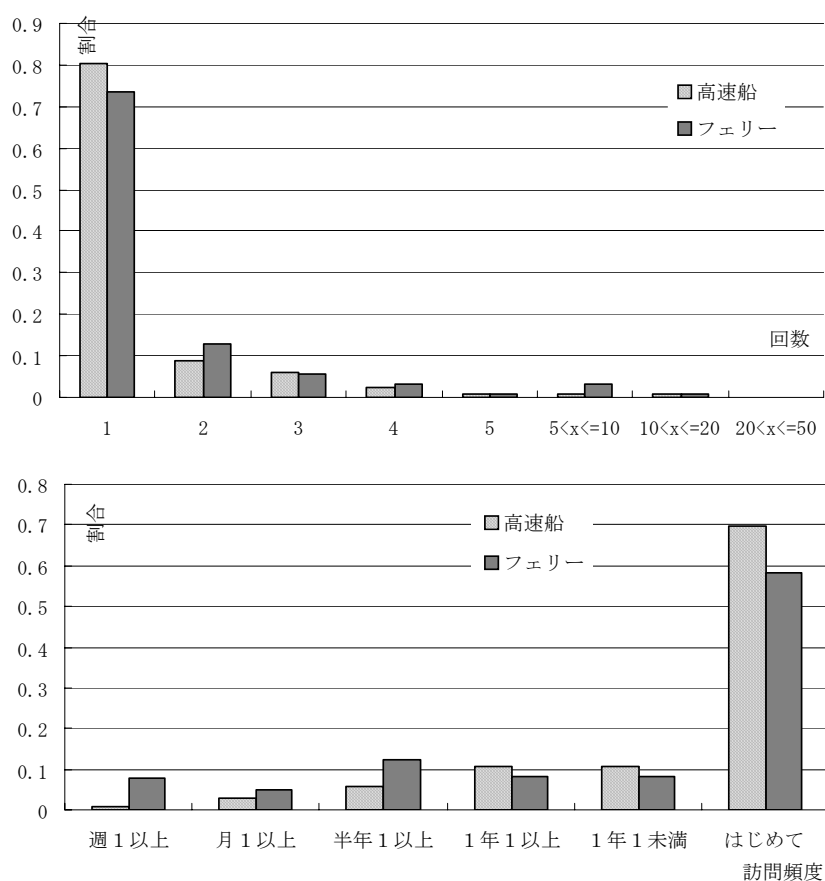


図 5.6 九州への旅行回数と旅行頻度

旅行目的については、フェリー、高速船の両利用者とも特に変わりはなく、観光が約 8 割と大半を占める。それ以外についてはいずれも小さいが、フェリーでいえば 2 番目は買い物が約 1 割を占める程度である。

しかし、訪問先については両者で相違が見られる。すなわち、図 5.4 で丸囲いするように、高速船利用者では、福岡市以外で、阿蘇、別府に加えて、ハウステンボスや雲仙、長崎といった西九州への回遊があることを読み取ることができる。これは、先に見るように、子供を含めて若い世代が比較的多いことの反映であると推測する。

これに対してフェリーの利用客は、福岡および阿蘇、別府、湯布院の訪問が主で、次いで太宰府が続く内容であり、長崎方面への回遊は少ない。この点は高速船利用者と顕著な差異である。

福岡市における訪問先は図 5.5 のとおりである。博多が天神を上回るが、高速船に対比しながらフェリーに関していえば、図 5.4 で福岡市訪問が多いこと、そして図 5.5 の博多および天神の回遊が多く、これらのことは後述の体験内容における買い物が多いことと関係してのことと推察する。

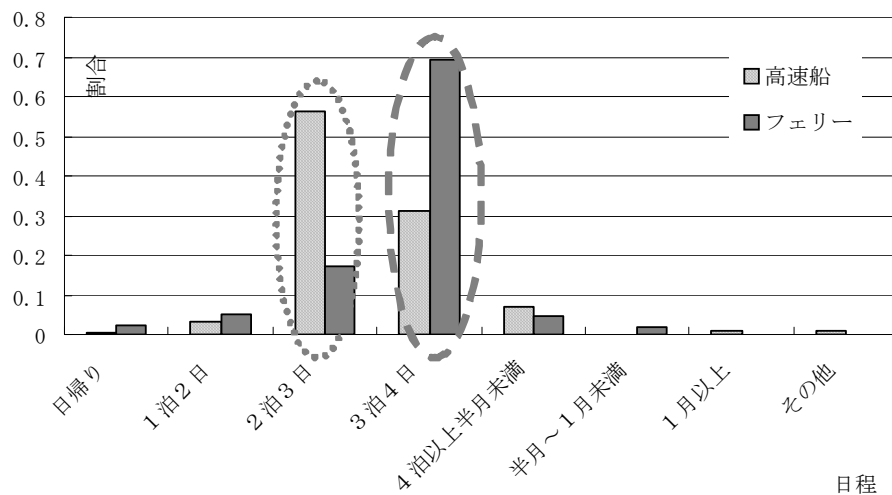


図 5.7 旅行日程について

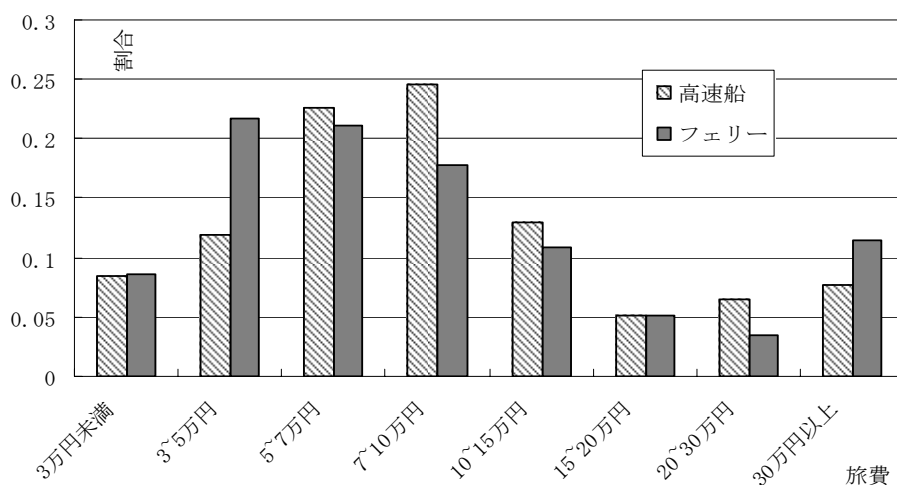


図 5.8 旅行費用

5.4 旅行形態について

今回の九州への旅行が何回目か、どのくらいの頻度で九州に来ているかを高速船とフェリーの利用者別に問い、その結果を比較するものが図 5.6 である。図より明らかなように、両利用者の間で特に相違はなく、はじめての訪問が大半を占めている。そうした中で、強いて違いを探せば、どちらかといえばフェリー利用者の方が複数回の訪問が多く、また、半年や1ヶ月に1回、1週間に1回の割合で訪問する人が多いという傾向にある。訪問回数が多いことは、年輩者の割合がフェリーの方が多く、フェリー運賃の経済性や夜間運行といったスケジュールなどが影響してのことといえなくもない。

さて、旅行形態を規定する項目には日程、費用、同伴の有無などがあるが、まずは旅行日程についてみれば図 5.7 のとおりである。明らかに、高速船とフェリー利用では差がある。高速船が2泊3日の日程を主にし、半数以上を占めるのに対し、フェリーは3泊4日が約7割を占め、殆ど大半がそうした日程である。

旅行費用については図 5.8 のとおりである。フェリー代が概ね高速船の半額で、1万円

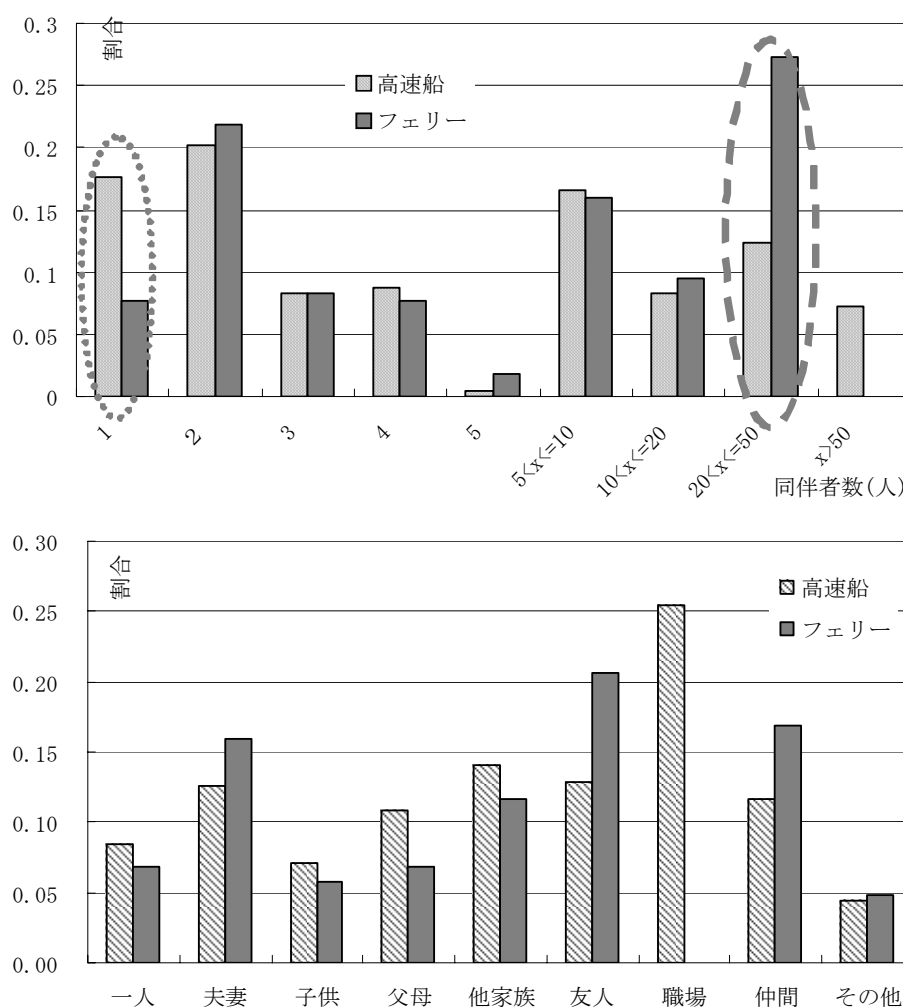


図 5.9 同伴者数および同伴者の続柄

程度以上の差がある。このことから、その分全体の旅費も安くなり、3～5 万円が 21%近くを占め、高速船利用者のそれに倍する割合を占める。これに対し、7～10 万円は 17%程度の割合にとどまり、高速船利用の場合よりも 7 ポイントほど小さい。要するに、フェリーは 3～10 万円が主であり、全体の約 6 割の利用客がそうした費用であるが、この点は高速船も同様である。

同伴者の数の分布を図 5.9 に示す。高速船とフェリーとの間での顕著な違いは、高速船が一人での利用が多いのに対し、フェリーは 20～50 人といった団体利用の割合が多いことである。また、たまたまと考えるが、同伴者の続柄において、フェリーでは職場の同僚との同伴が皆無であり、友人、仲間、夫妻とするものが多く、これら 3 者で約 55%を占める。この結果は、特異なデータであるといえなくもないが、先に述べた個人属性における職業構成からすれば、こうした続柄についての状況は十分にありえることであり、少なくともそうした傾向にあることは否定できない。

旅行計画を何時立てたかについて見たものが図 5.10 である。明らかに、フェリーの場合、高速船利用に比較してより旅行日に近い段階での計画となる傾向にある。1ヶ月前から1週間前とするものが高速船よりも多く、それら全体で約 3/4 を占める。これは、フェリーの方が高速船に比較して需要が少ないことや収容能力が大きく混まないことなどから、申し込みが容易であること、あるいは後述の案内情報の収集のあり方と関係があるものと推測される。

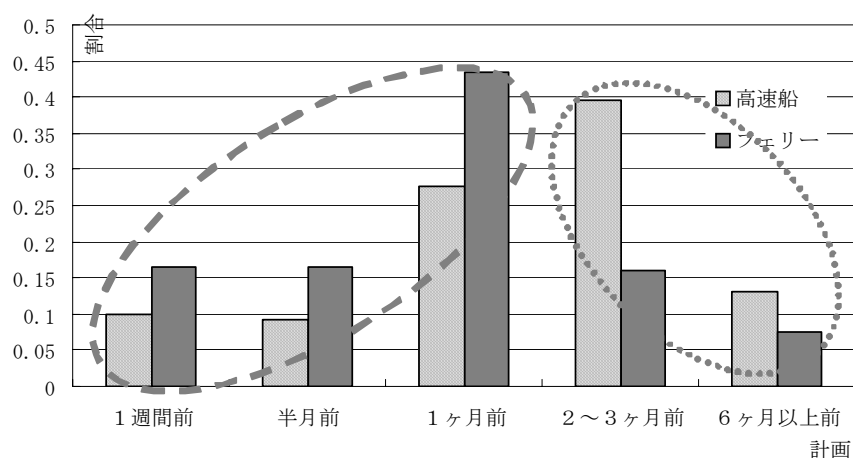


図 5.10 旅行計画の立案時期

5.5 体験内容について

図 5.11 の上段は、今回の旅行における体験内容について、高速船とフェリー利用者の間で相違があるか否かを比較するものである。概略的には比較的類似するといえるが、詳細に見れば、高速船利用者は、日本料理、温泉、歴史文化遺跡の回遊など、いわゆる観光旅行の定番的な体験が主であることが分かる。これに対して、フェリー利用の旅行者は、確かに温泉、日本料理が他の項目よりも多くの人が体験する項目ではある。しかし、他の体

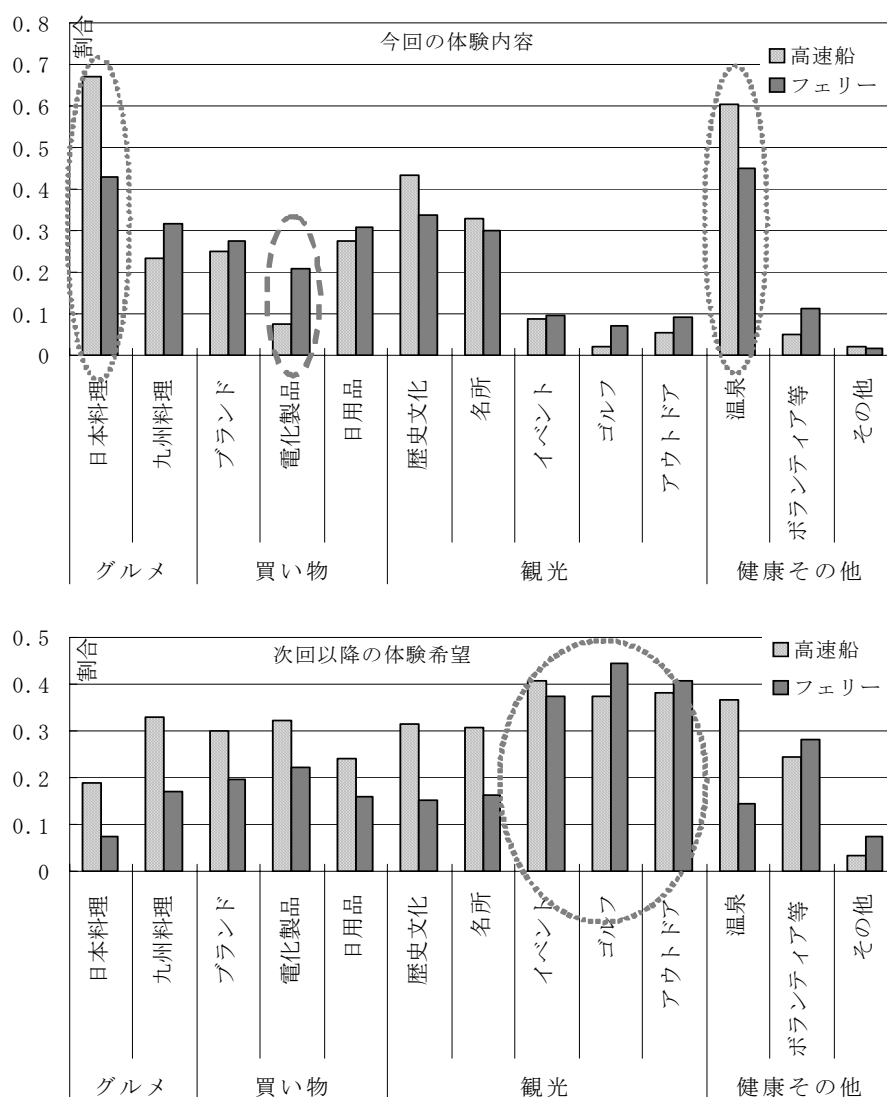


図 5.11 旅行における今回の体験内容と次回以降の体験希望

験にずば抜けて多いというほどではなく、多様な内容を万遍なく、あるいはそれぞれの旅行者が個別に種々の異なる体験しているといえることが一つの特色である。その中で、高速船利用者に比較して、電化製品の買い物が多く、アウトドア、ゴルフの体験内容がある程度あるといった違いが読み取れる。これらのことは、先の訪問回数がやや多いことや、旅行者に年配者や主婦が多いことなどに関係するものと推察する。

次回以降に希望する体験については、当然のことながら今回の体験が少なかったイベント、アウトドア、ゴルフなどがより多くあげられ、約4割前後の人がそうした体験を希望している。これに対して、グルメや観光への期待は、高速船利用者に比して少ない。

5.6 港および交通機関に対する満足意識など

高速船、フェリー利用者が、国際ターミナルや船舶の設備、サービスに対してどのよう

に満足しているかを比較すれば図 5.13 のとおりである。釜山港ターミナルの設備や高速船の船内設備、運賃といった一部の内容項目に満足意識が 5 割、あるいはそれ以下というものがある。しかし、やや満足を含めて全体を眺めれば、ある程度の満足意識があるといえる。そうした中で、特に不満意識があるもの、高速船との違いなどを、今後の検討の参考にと強調的に書き出せば以下のとおりである。

○いずれの項目についても、高速船に比較してフェリーの満足意識が高い。これは、フェリーが最近新造されたものであることや、ゆとりなどの点で大型船の方が優位であること、船旅独特の雰囲気を持つことなどによるものと推察する。

○フェリーに関し、特に満足と応える割合が 6 割に達する項目は、乗船までの手続き、カウンターサービス、運賃である。できれば他の項目もこの程度に満足意識が高まることが望ましい。

○高速船に比較して、特に 10 ポイント以上フェリーの方が満足意識の高い内容は、釜山港のターミナル設備やサービス、カウンターサービス、船内設備やサービスおよび運賃である。運賃に関しては 20 ポイント以上の開きがある。フェリーに関し一定の利用需要があるのも、この運賃の安さゆえであることは当然である。

○フェリーに関し不満、やや不満が 2 割近く達する内容は、乗船までの手続き、釜山港ターミナルの設備やサービス、運行スケジュールである。これらのうち前 2 者についてはある程度の満足意識がある反面、不満も多いという状況であり、なお改善の余地があると考ええる。また、運行スケジュールについては現状が精一杯といえなくもないが、より需要が高まるとき、たとえば入国審査を運行に合わせて時間短縮を図るなどの余地があるといえよう。

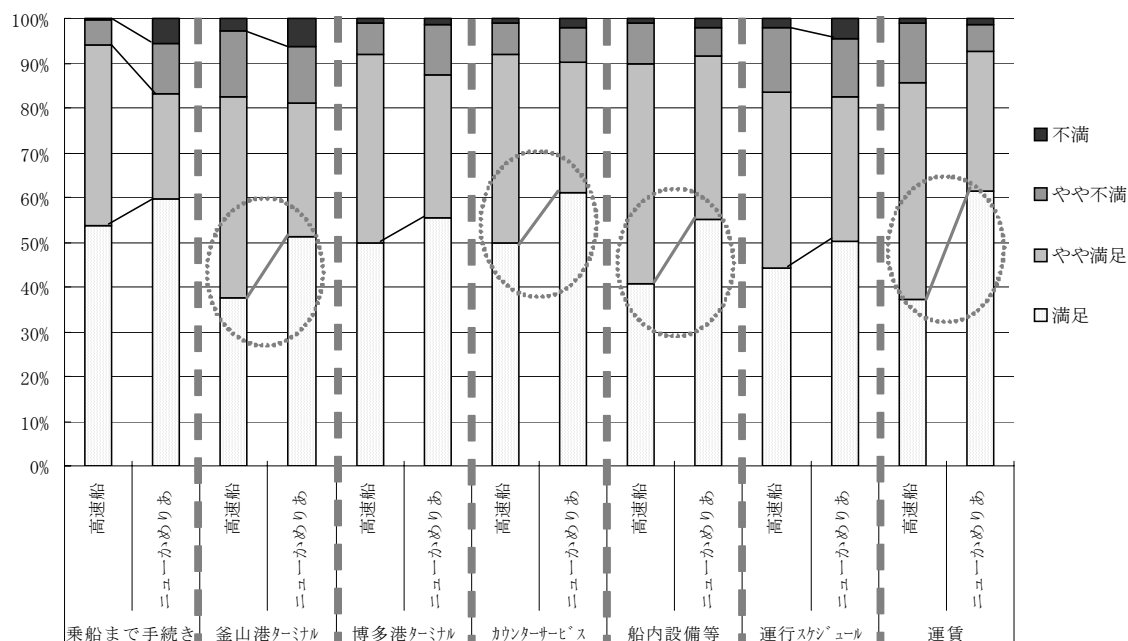


図 5.12 利用者の満足意識

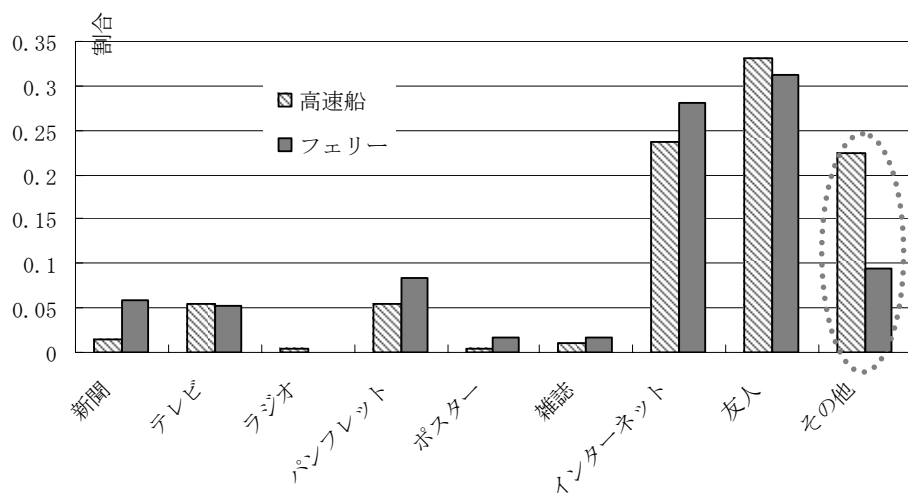


図 5.13 フェリー、高速船についての情報源

フェリーに関する情報を何によって得たかについては図 5.13 のとおりである。基本的には高速船と同様で、友人およびインターネットが二大主体であるが、その他で違いが見られる。その他は、旅行会社の店頭などでの情報入手であるが、フェリーは高速船に比較して少なく、半分以下の 1 割弱にとどまる。

5.7 港における端末交通手段について

港との関係で、釜山港へのアクセス交通手段および博多港からのイグレス交通手段について、どういったものがよく利用されるかを見たものが図 5.14 である。

いずれの端末交通も、高速船とフェリーで基本的には変わりなく類似するが、強いて違いを挙げれば、フェリーは、高速船よりも観光バスの利用が 10 ポイントほど減って、その分公共交通およびタクシーの利用が増えていることである。

釜山港へのアクセス交通手段については、観光バスの利用は 28%程度にとどまり、タクシー 20%、路線バス 12%、送りの車 11%、列車 9%、高速バス 7%と幅広く分散して利用されている。フェリー利用者の居住地が、釜山市およびその周辺地域に多いことの反映であると考えられる。

一方、博多港からの端末交通手段は、高速船が 6 割近く観光バスであるのに対し、フェリーは 45%にとどまる。これに対し、タクシーが 20%、路線バスが 15%を占める。これは、フェリーでは訪問先を福岡市とし、博多および天神地区に行く先にするものが高速船よりも多いことの反映であると考え、またこの結果は博多港へのアクセス公共交通として路線バスしかないことの反映でもある。

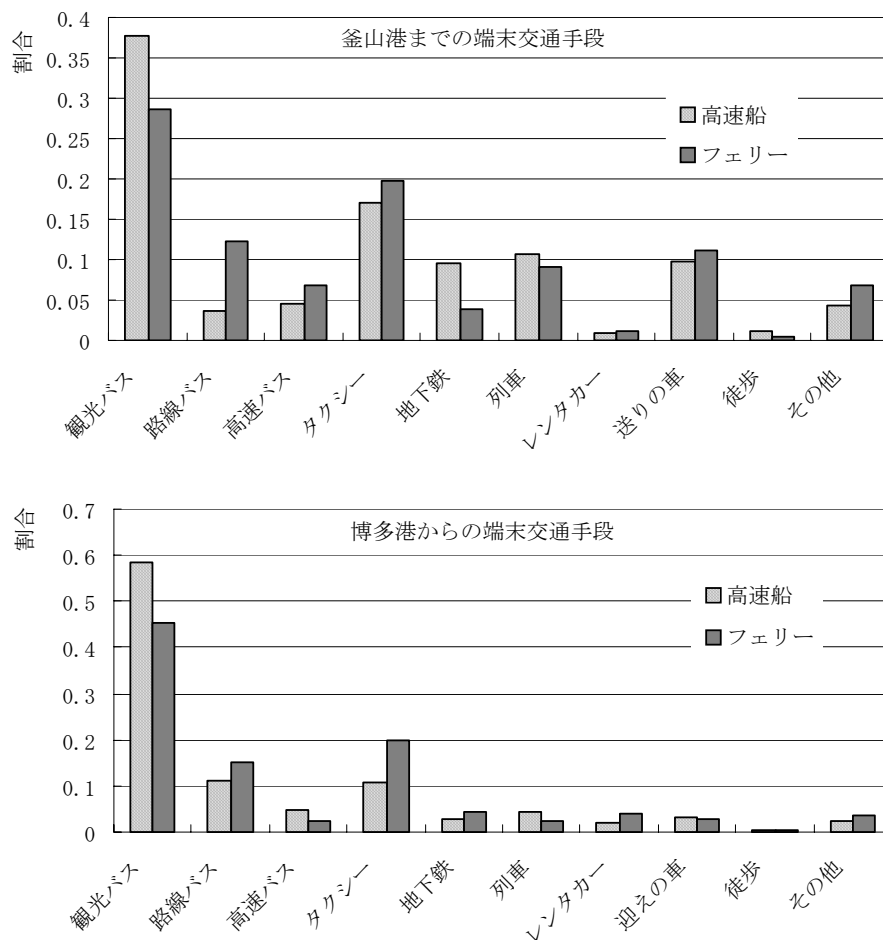


図 5.14 港における端末交通手段分布

5.8 要約

高速船と比較しながら、フェリー利用者の特色について分析した。フェリー利用者は高速船利用に比較して量的に少ないこと、韓国人の利用が多く日本人の利用は十分でないことなどから、必ずしも対等な比較にはならない。しかし、今後のフェリーの動向を探る上で参考に資すべき内容であるといえ、また、高速船にしてもフェリーと対比することでその特色や問題を掴む手がかりになる。こうした意味を踏まえて、前節までの分析結果を整理し、要約すれば以下のとおりである。

(1) 旅行者の特性について

フェリー利用者の居住範囲は、釜山港の背後圏が主体であり、高速船のように高速鉄道の開通を十分に取り込むまでに至っていない。これは、スピード感が全く異なる交通機関を結びつけることの難しさ、フェリーの運航が昼便、夜便の1日1便に限定されることによるものと考ええる。

また、フェリー利用者は、子供や若者よりも50歳代、60歳代の利用も多いこと、専業主

婦、自営業、無職が多いことが特色であり、運賃が安いといった経済性、旅行日数にゆとりがあることの反映と見ることができる。

(2)旅行目的および訪問先

旅行目的はフェリーも高速船も変わらない。しかし、訪問先は高速船が若者志向を反映してハウステンボスなどへの回遊がある程度認められるのに対し、フェリーは少なく、また福岡市を訪問先にするものが多く、湯布院、別府、阿蘇と回遊するものも多い。

(3)旅行日程および旅行費用

旅行日程は、フェリーの場合3泊4日が主で、7割を占め、高速船よりも1日多い。また、費用は、運賃が安いことを反映して、高速船よりの安いが、概ね3~10万円であるといえ、全体の約6割を占める。

(4)同伴者について

高速船に比較してひとりが少なく、その分、20~50人の団体がおおい。同伴者の続柄は、友人、仲間、夫妻が主であり、職場関係は皆無であった。要するに、個人的関係の同伴者が殆ど全てであり、フェリー利用者の特色といえる。

(5)体験内容

今回の体験内容は、フェリーの場合とくに特定の項目に絞られることはなく、多様であるが、強いていえば温泉と日本料理が多いといえる程度である。また、量的に多いということではないが、買い物の電気製品が高速船に比較して倍以上の2割に達する。旅行者として年配が多いこと、訪問先に福岡市を上げるものの割合が高いことの反映であると推察する。

次回以降の体験内容については、イベント、ゴルフ、アウトドアがやや多く希望している。

(6)港および交通機関に対する満足意識

フェリー利用者、港や交通機関の設備やサービスにたいして満足意識が高い。特に、乗船までの手続き、カウンターサービス、運賃に対する満足意識は高く、6割に達する。その一方で、満足意識が5割程度にとどまり、不満、やや不満が2割近くに達するものは釜山港のターミナル設備と運行スケジュールである。

(7)フェリーに関する情報源

フェリーの情報源は、友人とインターネットが主である。

(8)港における端末交通手段

高速船に比較して、観光バスの割合が低下し、その分、タクシーや路線バスの利用割合が高い。

6. まとめ－福岡と釜山間の回遊性の向上、船舶利用の活性化 を目指して－

まとめとして、これまでの分析結果を全体として眺め、これに著者らの考えや感想などを加えながら、福岡、釜山間の回遊性の向上による旅行需要の一層の活発化や、港の改善をいかに図るかを思いつくままに記せば、以下のとおりである。

6.1 高速船利用者の旅行需要の掘り起こしと拡大を目指して

旅行目的や訪問先から判断すれば、日本人は従来の非日常性を体験する旅から、グルメや買い物などにも多くが関心を寄せ、友人や職場の人と訪れる日常型、釜山市内を回遊する都市型へと移行していると見ることができる。しかし、現在の博多港の集客範囲における日本人の韓国への旅行回数は、はじめての訪問が減少し、繰り返し訪問の割合が次第に増える傾向にあることから、いかに今後も継続的に訪問を繰り返させ、需要を維持するかが大きな課題となる。

他方、韓国人は、福岡での買い物やグルメはどちらかといえばメインの目的ではなく、家族や職場の関係者と阿蘇や別府、湯布院を巡り、あるいはハウステンボスを回遊しながら、温泉で癒されるといった構図の観光である。これは従来の日本人の週末型国内観光旅行、あるいは家族型観光旅行に近い性格を持つといえる。

こうしたことから、日本人と韓国人とでは旅に対する意識が大きく異なるが、日本人は健康や美容、イベントへの参加や観賞を含めて今後より日常的な内容で韓国南部地域を訪問するものと推測される。これに対し、韓国人は、アウトドアやゴルフ、イベント参加・観賞といったいわばレクリエーション重視の旅に変質するものと推察される。このように旅の内容には、日本人と韓国人とで違いがあり、そうした状況は当面続くといえるが、いずれにしても旅の内容が団体型からより個人型に移行する状況にあるという点では同じである。

したがって、今後旅行需要を掘り起こし、拡大策を模索するとすれば、日本人に対しては、日本では体験できないような日常性、日本人の性格や考えを踏まえた日常性、日本よりも手軽で経済的である日常性、韓国の特色を十分に踏まえ売り物にする日常性を中心に旅の内容を開発することも一方策である。

その一方で、歴史文化遺跡や名所を回遊したいとの志向もある程度見込まれることから、釜山市やその周辺地域で、日本との関係が深い歴史遺跡や、信仰や自然などの名所などをベースにして回遊ルートを開発し、せいぜい2泊3日程度の週末旅行感覚で気楽に行ける旅を企画することも考えられる。

さらに日本人についていえば、女性は若い世代で、2、3人での少人数の友人との旅行が多く、グルメ、買い物志向が強い。一方、高齢社会を迎え需要の掘り起こし対象が増え

と思われる高齢者は若者に比較して特定の目的へのこだわりがそれほど強くはなく、友人や仲間との旅が多い。これらを考え合わせれば、個人属性によって旅の質的内容が異なることになる。したがって、性別、年齢別にグループ分けを行い、それぞれの嗜好や期待に応じた旅行商品を開発することを十分に念頭に入れることが望ましい。

他方、韓国人に対しては、福岡市およびその近郊的な中部・北部九州地域で、都市型と自然型を組み合わせ、健康・美容、癒し、アメニティ、イベントへの参加・観賞、買い物などの週末型に近い旅のスタイルを創出工夫し、グルメも含めて家族で回遊しても飽きがこない高品質の旅を提案する努力が必要であるといえる。その際、ややもすれば奇をてらって独りよがりな旅行計画となったり、自己満足的な企画になることは避けなければならない。

また、北部九州は韓国に繋がり、関係が深い歴史遺跡や文化、郷土芸能、工芸品が多い。これらを題材に韓国の地方諸地域との交流を、市民のレベルで強める施策の展開の余地が十分にある。韓国人の旅行者が増えている今こそ、いかにその需要を掘り起こし、あるいはつなぎ止め、リピーターを増やすか、新たな視点での関心を引き起こすかが大切なことである。

さらに、韓国人にしても、日本人にしても共通する施策として、韓国および九州の双方で進む高速鉄道の建設を踏まえれば、レール&シーの交通体系を確立し、鉄道沿線地域を十分に取り込んで、旅の企画および旅行者の掘り起こしをすることも提案できる。この点は、韓国人の高速船利用者が既にレール&シーに様相を呈していることから十分にありうることといえ、点から線への旅行需要の掘り起こしである。

要するに、福岡と釜山の旅行需要の動向を見ると、両国の不幸な関係から漸くに脱却し、規制緩和や日韓のビッグイベントから、まずは日本人の韓国旅行がブームとなり、次いで韓国人の日本旅行がブームといった変遷をたどっている。これまでは、主役を交代しながら、旅行需要を順調に伸ばしてきたといえるが、問題はその後をどのように対処するかである。先にも述べる日本人、韓国人の旅行に対する趣向の変化を常に把握分析しながら、また地域的な集客力を拡大しながら、個人旅行を主にする需要の掘り起こしと拡大策を展開することが重要であることはいうまでもない。

6.2 フェリー利用者の旅行需要の掘り起こし

フェリー利用は、日本人が少なく、韓国人が主であることから、その実態を踏まえて今後にどのように需要を掘り起こせばよいか、慎重な検討が必要である。

現状では、韓国人が主な対象であるが、その旅行の目的や訪問先は高速船と大きな差異はない。しかしながら、とにもかくにも運賃が安いこと、船舶が大きくゆとりがあり、クルーズ的に船旅を楽しむことができるという点で高速船にはない特色がある。この点を踏まえれば、時間に余裕がある人や、経済性に関心が高い人を対象に需要の掘り起こしをすることが十分考えられる。修学旅行や学生仲間のグループ旅行、退職後の高齢者グループの旅行、専業主婦をターゲットにした荷物の多い買い物旅行などが考えられる。あるいは、

船上でのパーティやグルメ、講演や鑑賞、講習会などのイベントなどの催しとセットにした旅のスタイルも十分にありえる。

本調査の直接の対象ではないが、フェリー“ニューかめりあ”には乗用車、二輪車の積み込みが可能である。しかし、現実にはそれほど利用されている状況ではない。別途の調査によれば月に40～50台の利用である。しかしながら、今後には個人旅行、友人との旅行の活発化が期待される。その際問題になるのが、港からの交通手段である。確かに、釜山港ではバス、鉄道、地下鉄との連結があり、博多港からは路線バスの活用、それに結びつく列車や高速バスの利用が考えられる。しかし、個人旅行などは、移動に対する時間、空間の自由度を強く求めるものであり、また嗜好性が強いことから、自家用車や自動二輪車、自転車の相互輸送、乗り入れがある程度普及するものと推測する。特に、九州北部や韓国南部で進められつつある観光回遊路やテーマ観光の整備、ボランティアガイドの充実、あるいはそれらを総合する風景街道が普及すれば、より一層マイカーに依存する旅行形態も生まれるものと推察する。その意味での旅行スタイルの開発と、運営システムの展開、宣伝・普及に向けた努力があれば、フェリーの車などを利用した新たな利用需要の掘り起こしになり、期待するところである。

6.3 港およびその周辺の環境整備に向けて

博多港、釜山港の設備やサービス、手続きなどについては、約半数程度の人が満足と答えている。しかし、博多港に比較して釜山港の満足意識が低い、博多港といえども日本人について若者や女性の満足意識が低いといったことを踏まえれば、現状に甘んじることなく、より一層の改善努力が必要である。

釜山港は、今後、港およびその周辺の大規模開発が計画され、それに伴ってターミナルの近代化が大きく進む、鉄道駅と港の連携強化が図られる、港の環境や雰囲気は全くといってよいほど大幅に改善されることが予定されている。その意味では、今後には大いに改善が期待でき、問題はないと考える。

しかし、博多港については、必ずしも抜本的な改善は期待できず、現在の国際ターミナルとその周辺環境が土台にならざるをえない。その中で、特に要望することは、市内を回遊する路線バス、鉄道駅やバスターミナルと直結する路線バスの強化である。また、国際ターミナルそのものもデザイン的に必ずしも洗練されているとはいえないことから、内装の質や室内の質的環境を十分に高め、暖かみある、人間性豊かな、旅客のためのターミナルにする改善が必要である。

さらに、ターミナル周辺が物流施設に取り囲まれることや、緑地などの修景が十分でない、人の視線や動線、休憩について海を意識したレイアウトに欠けるといった問題が指摘できる。加えて、対岸の古い倉庫が並ぶ須崎埠頭や重々しいデザインの都市高速道路の現状が景観を損ね、福岡のまちへの玄関口としてみれば、港への導入道路に沿う街並みが良くないといったことが指摘できる。さらにいえば、シンボリックな彫刻ないし建物、大木あついは並木など、なにか博多を代表し、玄関あるいは出迎えとなる築造物を配置するこ

とも1つのアイデアである。

国際ターミナル地区は、もともとは物流拠点であったが、そのことから人の交流拠点への変化である。このため、いまはその変化に対処した改善の途上にあるといえなくもない。しかし、釜山港の改善が大きく進む状況にあること、および旅行者の多くが友人などの口コミを重視する現状を踏まえれば、これまでの経緯のいいわけをする前に、即断的にかつ思い切った博多港国際ターミナルおよびその周辺の環境や良好な街並みの形成に取り組む必要がある。

6.4 船舶の設備、サービスの改善について

船舶の設備やサービスの状況についても、ある程度の満足意識はある。しかし、項目によっては部分的ではあるが、あるいは一部の人に限られると推察するが、不満があるとみることでもある。たとえば、当然のことであるが、高速船については運賃に関し、フェリーについては運行スケジュールに関し不満が残されている。また、カウンターサービスや船内設備については、フェリーに比較して高速船の方が不満の度合いは高いといえ、男性よりも女性、高齢者よりも若者の満足意識が低い。これらのことから、特に若者や女性の目線で見たこうした内容の改善策を模索することも一方策である。

カウンターサービスは、従業員の訓練により改善でき、航空機のスチュワーデス並みの向上を期待する。船内設備は、多分にイスや船内の雰囲気、トイレ、売店などの質的向上を求めるものであると推察する。直接の意見ではないが、ブログの書き込みに、フェリーの船内の壁や天井の仕上げが安っぽいとの批判があった。旅行者が日常的になるほど、居住家屋や仕事空間と対比しての評価になるといえるが、トイレはウォッシュレット、室内はゆとりある室内感覚、応接室感覚を、イスはせめて航空機のエコノミークラスや九州新幹線の普通車並みを期待しているものと推察する。

また、これもブログによるが、免税品という割に、たとえば缶ビールなどの値段が市販と変わらない、量販店に比較して割高である、航空機ならば無料サービスが主であるがそうしたこともない、などの批判もある。こうしたちょっとしたことが船内設備やサービスの評価を悪くしているものと考ええる。これらは、旅行者の身の回りや他の交通機関と比較しての相対的な評価になりがちであるから、そうした状況を十分に調査しながら、設備やサービスの改善に努めることを勧めるものである。

運賃については需要との兼ね合い、運行スケジュールについては両国の入国手続きとの関係によるところが強い。したがって、にわかに改善はできないが、少なくとも旅行者のニーズを常に把握しながら運行スケジュールの改善の糸口を見つけること、入港審査の体制づくりをすることが大切である。北朝鮮問題が解決した後になると考えるが、場合によっては福岡、釜山の出入国を、パスポートをみせるだけのものにするなど、特区的扱いをすることも十分考えられる。古代はパスポートもなく自由に往来していたことへの回帰である。

また、各種の特定の割引制度が、交通事業者ごとといってもよいほど多様であり、複雑

である。このことから個々の割引の利用者対象や利用範囲が限定され、分かりにくいものになっている。ヨーロッパのユーレイルパスのように多様な交通事業者や地域を超えて、統一的で、分かりやすい割引制度とその利活用を単純で分かりやすくする工夫も必要と考える。ICチップが発達したことから、せめて、九州、韓国それぞれのレール系（JR、私鉄、地下鉄、モノレール、路面電車など）と、バス系（高速バス、路線バス）の2種類に統一し、外国人限定の期日限定割引切符を発行するなどである。

また、これも本調査とは直接関係ないが、福岡・釜山の交通システムをより普遍化し、拡大するという意味では、福岡と釜山間の直接の船舶というだけでなく、壱岐、対馬といった離島航路との連携を工夫することも将来的に必要と考える。対馬には、島の人口以上の韓国人が訪れ、アウトドアなどを楽しむ状況があり、あるいはアリラン祭などが釜山でも、対馬でも開催され交流を深めている。こうしたいわば週末型、イベント型、レクレーション型、日韓の歴史遺跡回遊型の島の旅行形態は、釜山から福岡を経由して北部九州を回遊する人々のそれには変わらない。また、日本人が夏などに壱岐、対馬を訪れ、自然を満喫することも少なくはない。したがって、壱岐や対馬も含め、福岡、釜山とのトライアングル型の回遊路の形成は十分に考えられるところである。そして、そのためにトライアングル型回遊が可能な往復割引切符や回遊切符の開発、出入国の煩わしさに対する規制緩和などの工夫を期待するものである。

あるいは、これもアイデアに過ぎないが、高速船に対する運行スケジュールに対する不満は、運行間隔というよりも、夜間運行ができないことへの不満であると考えられる。したがって、その改善策は、高速船とフェリー、さらにはそれらと航空機との組合せによる往復割引などを工夫することも一法である。

いずれにしても、より旅行者の立場で旅の楽しさ、便利さを引き出す交通システムの開発を追求することである。

6.5 旅行情報の発信のあり方について

高速船やフェリーの情報源は何かに対する旅行者の回答は、日本人では知人・友人の口コミとパンフレット、テレビであるが、若者や男性の間ではインターネットもある程度利用が進みつつある。一方、韓国人については、知人・友人とインターネット、および店頭などのその他である。

こうしたことから、日本人と韓国人の旅行情報源は異なるが、それにしても知人・友人の口コミは共通して大きく重要である。また、インターネットは既に韓国で普及していること、日本人にしても、個人旅行の進展から切符や旅館の予約にインターネット利用が増加する実態である。さらに、これらの情報の受け取り方は、船舶のみならず旅行全般についても同様のことであるものと推察する。

これらを踏まえて、友人・知人の話題づくりとしての情報提供を如何に推進するかがまずは問われる。このためには、日常生活や暮らしと深く関わる日韓の情報提供を推進すること、単に観光名所の案内だけでなく日韓に共通する歴史やストーリーなどを整理し話題

提供すること、地方にあって日韓の日常的な交流と連携のための機会を増やす努力をすること、互いの言葉の理解や会話能力を身につける機会を増やすことなどの施策を推進することが必要と考える。

また、将来的には、インターネットで互いが個別に情報交換できること、相手国語も含めてそのためのコンテンツを充実すること、互いの国の言葉の翻訳システムを開発し普及することが望まれる。

あるいは、個人旅行の高まりを見ながら、ICチップや日本のQRコードの共通した活用、韓国の電話案内 1330 のようなシステムを九州にも作り上げること、それぞれの名所や遺跡にもうけられた個別的なボランティアガイドを組織し、誰でもが手軽に利用できるシステムの確立と普及をはかることが望まれる。

最後に、本調査に当たってはJR高速船（株）、およびカメラライン（株）の皆様にも多大の支援を受けた、記して謝意を表する次第である。

ビートル・コビー及びニューかめりあ 利用客調査アンケート結果

資 料 編

資料 1	ビートル・コビー利用客調査	1～45
資料 2	ニューかめりあ利用客調査	46～70
資料 3	ビートル・コビー利用客自由意見	1～24
資料 4	ニューかめりあ利用客自由意見	25～29
資料 5	アンケート調査票	31～42

目 次

調査結果の要約

ビートル・コビー利用客アンケート

■調査概要	1
■対象者の属性	2
■調査結果	6
Q 1. 今回の訪問地	6
Q 2. 福岡市・釜山市での訪問先	8
Q 3. 今回の旅行で目的とする体験・行動	10
Q 4. 日本・韓国における体験経験および体験意向	12
Q 5. 旅行同伴人数	14
Q 5. 同伴者の続柄	16
Q 6. 日本・韓国への旅行回数	18
Q 6. 日本・韓国への訪問頻度	20
Q 7. 今回の旅行日程	22
Q 8. 今回の旅行計画時期	24
Q 9. 今回の旅行タイプ	26
Q 10. 購入および認知しているきっぷ、商品	28
Q 11. 福岡市・釜山市訪問における利用交通機関の割合	30
Q 12. 次回以降行ってみたい場所	32
Q 13. 今回の一人当たりの旅行予算	34
Q 14. 高速船ビートル・コビーの認知経路	36
Q 15. 博多港・釜山港までの交通手段	38
Q 16. 博多港・釜山港から目的地までの交通手段	40
Q 17. ビートルに関する満足度	42
Q 18. ビートルを利用した今後の韓国・釜山への旅行意向	44

ニューかめりあ利用客アンケート

■調査概要	47
■対象者の属性	48
■調査結果	50
Q 1. 今回の訪問地	50
Q 2. 福岡市での訪問先	51
Q 3. 今回の旅行で目的とする体験・行動	52
Q 4. 旅行同伴人数	53
Q 4. 同伴者の続柄	54
Q 5. 日本への旅行回数	55

Q 5. 日本への訪問頻度	56
Q 6. 今回の旅行日程	57
Q 7. 今回の旅行計画時期	58
Q 8. 福岡市訪問における利用交通機関の割合	59
Q 9. 次回以降行ってみたい場所	60
Q10. 今回の一人当たりの旅行予算	61
Q11. ニューかめりあの認知経路	62
Q12. 釜山港までの交通手段	63
Q13. 博多港から目的地までの交通手段	64
Q14. ニューかめりあを利用した今後の九州への旅行意向	65
Q15. ニューかめりあに関する満足度	66
Q16. 今回の旅行タイプ	67
Q17. 購入および認知しているきっぷ、商品	68
Q18. 韓国における体験経験および体験意向	69

【 調査結果の要約 】

本調査は、福岡～釜山間を運航する高速船（ビートル・コビー）及びフェリー（ニューかめりあ）利用客向けのアンケート調査を通じ、福岡～釜山間航路を利用した日韓の往来者の実態把握を行ったものである。その結果、主に以下のような特徴が明らかとなった。

○訪問先について

韓国での訪問先は「釜山市」内に行く先が限定される傾向が見られる。日本では「福岡市」を含めた、「阿蘇」や「別府」、「湯布院」など九州北部のいくつかの地域に比較的分散している。

○旅行の目的について

韓国では、「観光」、「グルメ」、「買い物」の割合が高く、次いで「美容・健康」となっている。一方、日本では「観光」が最も高くなっており、そのほかに目立った旅行の目的はみられない。

○体験意向について

次回以降に体験してみたいこととしては、韓国では、ゴルフ、アウトドアに次いでではあるが「ボランティア、就学・留学に関わることをする」の割合が日本と同様に約 8 割と高くなっており、交流活動に対する関心の高さが伺える。

○旅行人数について

韓国への旅行（主に日本人）「2 人」、「3～5 人」といった小グループが 3 割を超えている。一方、日本への旅行（主に韓国人）は「6 人以上」の団体が多く、5 割程度と多くなっている。

○旅行回数について

韓国への旅行（主に日本人）は、2 回以上と答えた合計は 5 割を越えている。日本への旅行回数は「1 回目」が最も高く 8 割程度となっている。

○旅行の日程について

韓国へは、「1 泊 2 日」が 5 割を越えている。一方、日本への旅行日程は「2 泊 3 日」、「3 泊 4 日」と長い日程の割合が高く、9 割近くとなっている。

上記のような結果から、日本からは「一番近い海外『釜山』に、友達や職場の人など少人数で 1 泊程度の気軽な旅行」に出かけていると考えられ、韓国からは「初めての海外旅行は『福岡・九州』に、職場の人や親族などグループで比較的長めな 2～3 泊の団体旅行」に来ていると考えられる。

しかし、両国とも次回以降に体験してみたいこととして、「ボランティア、就学・留学に関わることをする」の割合が高く、交流活動に対する関心の高さから、今後の傾向としては、交流活動の促進による日常交流化の可能性あると思われる。

よって、今後の両都市の日常交流圏形成のためには、観光目的の旅行だけではなく、交流活動の促進化を含めた普段の生活に近い行動がとれるような交流の仕組みが必要

になってくるものと考えられる。

【 調査結果利用上の注意 】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すN及びnは、比率算出上の基数(標本数)である。
- (4) 無回答を除外して集計しているため、設問によって基数(標本数)が違う場合がある。
- (5) 数表、図表に示す選択肢は、スペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。
- (7) 2つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の基数(標本数)の合計をもとに算出しているため、選択肢個々の回答比率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。
- (8) 報告書内の「《日本》」の表記については日本語調査票を示しており、同様に「《韓国》」の表記は韓国語調査票を示している。
- (9) 図表内のパーセンテージ及びコメントは全体結果の数値を表している。また、項目別分析の数値はクロス集計の結果(別紙数表を参照)を表している。
- (10) 項目別分析の内容については以下のとおりである。
 - 出発日別:「平常日」と「ピーク日」を示す。
 - 性別・年齢別:「男女別」及び「各年代別」を示す。
 - 旅行スタイル別:「同行人数別」、「旅行回数別」、「旅行頻度別」を示す。

ビートル・コビー利用客調査

■調査概要

1. 調査の目的

ビートル・コビー利用客における福岡、釜山の両都市訪問の実態調査を行う。利用客の属性、満足度及びニーズ等を把握し、両都市における日常交流圏形成に関する研究の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象

福岡発のビートル・コビーの乗船中の男女個人（主に韓国人を対象）

釜山発のビートル・コビーの乗船中の男女個人（主に日本人を対象）

※旅行等の体験を踏まえてアンケートを実施するため、出国者が対象

3. 調査方法

集合調査・自記入式

※ビートル・コビーの船内で乗船客にアンケート用紙を配布し、記入後に回収

4. 調査期間

出発地	主な対象者	乗船日設定	調査日	
福岡発	韓国人	平常日	9月29日（土）	10月13日（土）
		ピーク日	9月25日（火）	10月21日（日）
釜山発	日本人	平常日	9月26日（水）	10月22日（月）
		ピーク日	9月30日（日）	10月14日（日）

※利用客の多い日をピーク日と設定

5. 回収目標・回収実績

出発地	主な対象者	回収目標	回収実績
福岡発	韓国人	400 サンプル	474 サンプル
釜山発	日本人	400 サンプル	532 サンプル
計		800 サンプル	1,006 サンプル

※福岡発の回答者のうち約99%が韓国人であり、
釜山発の回答者のうち約95%が日本人となっている。

6. 調査実施主体・調査実施機関

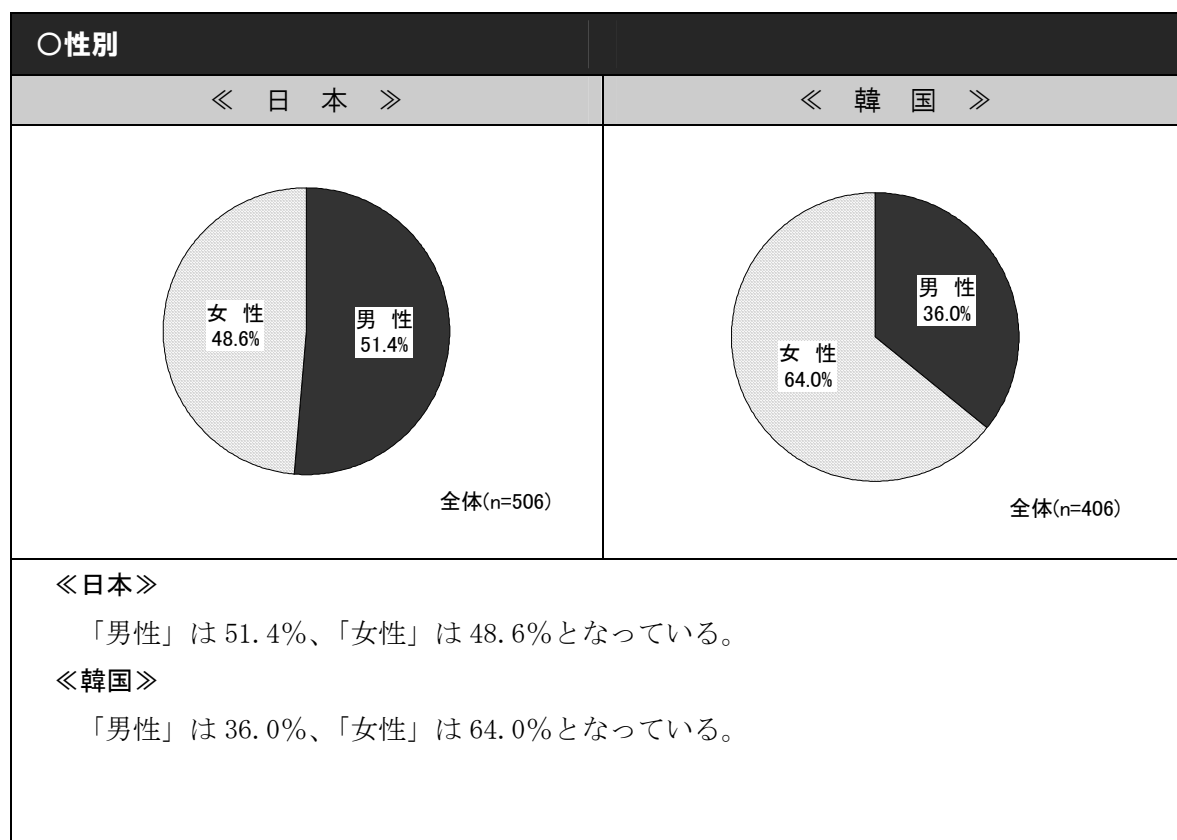
調査実施主体：財団法人 福岡アジア都市研究所

調査実施機関：株式会社 西日本リサーチ・センター

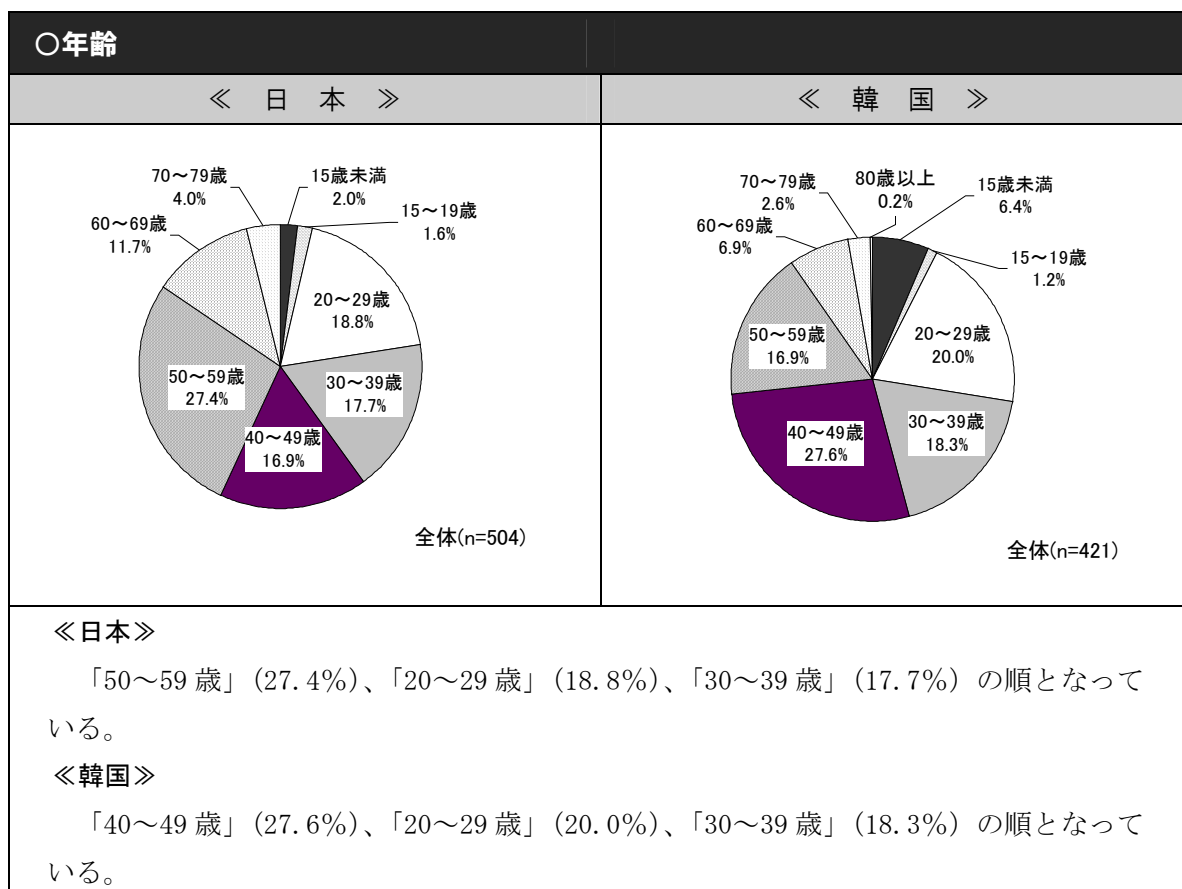
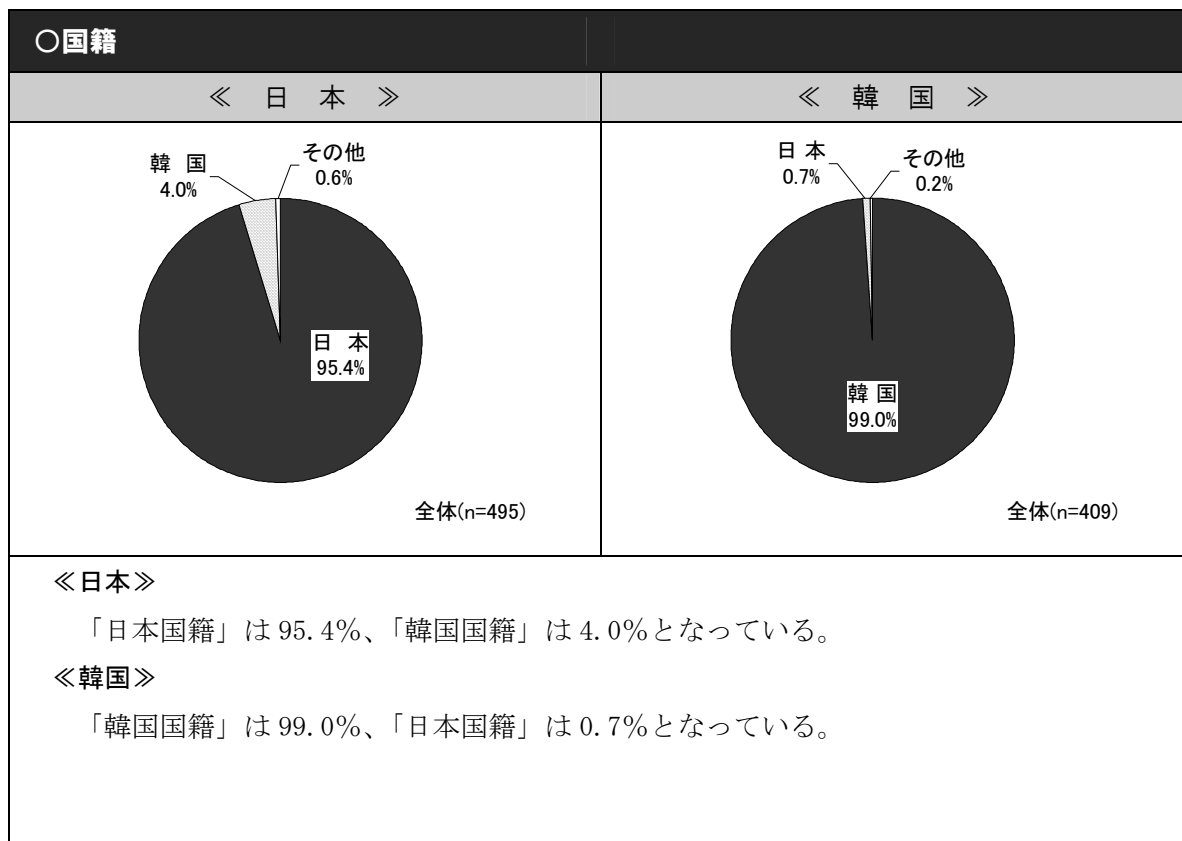
調査協力：J R九州高速船株式会社

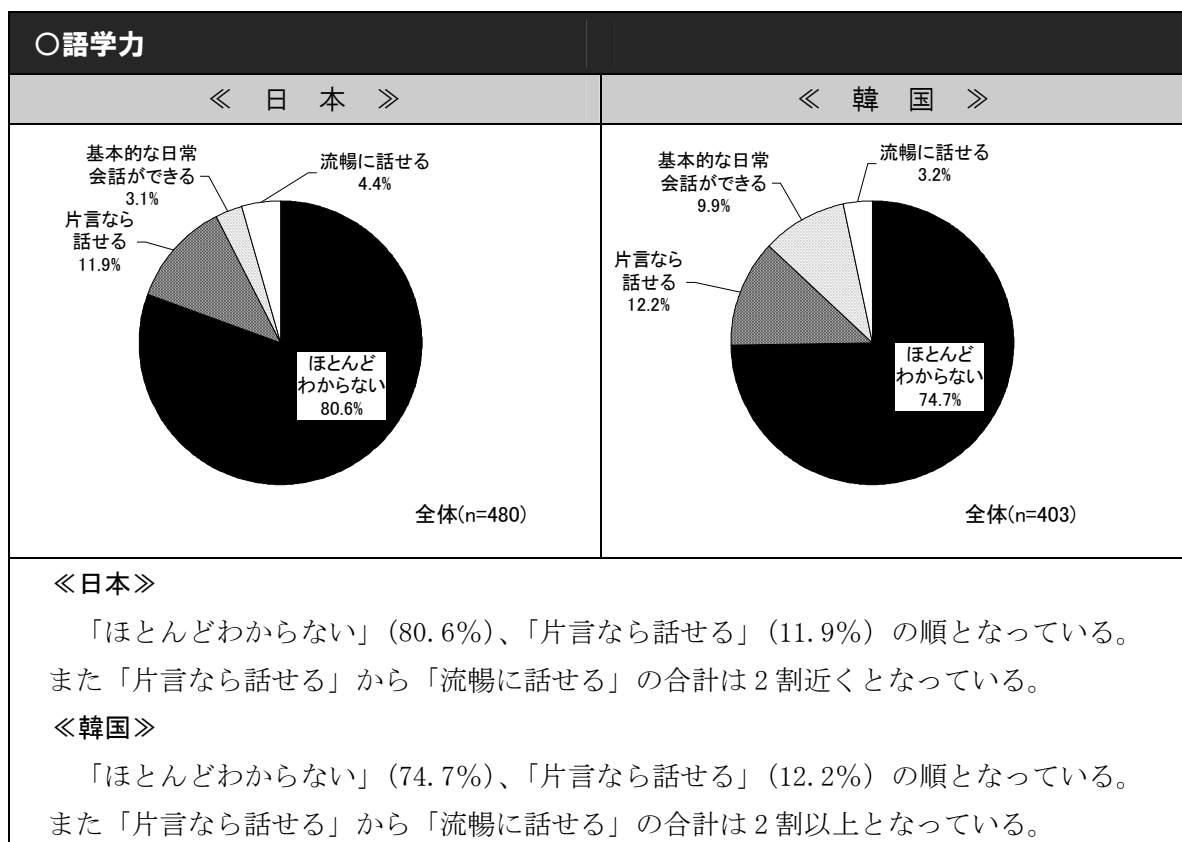
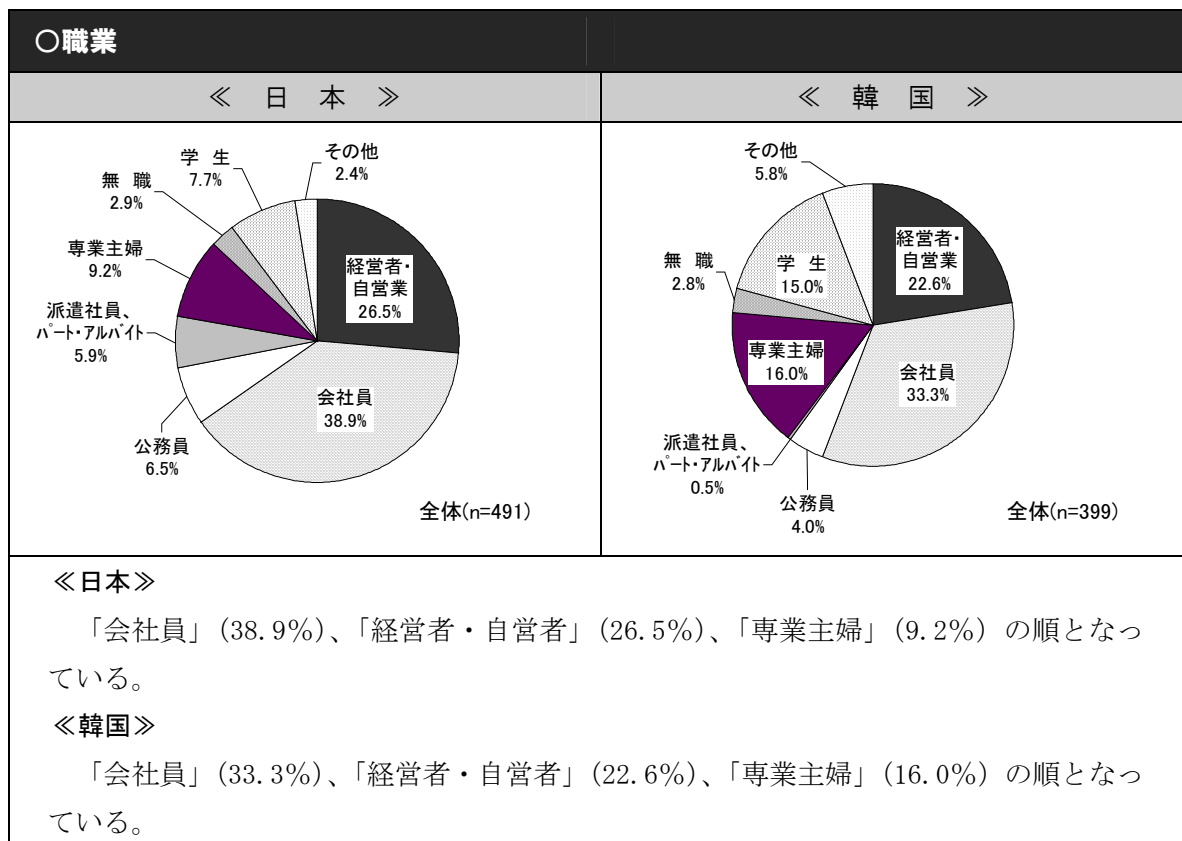
未来高速株式会社

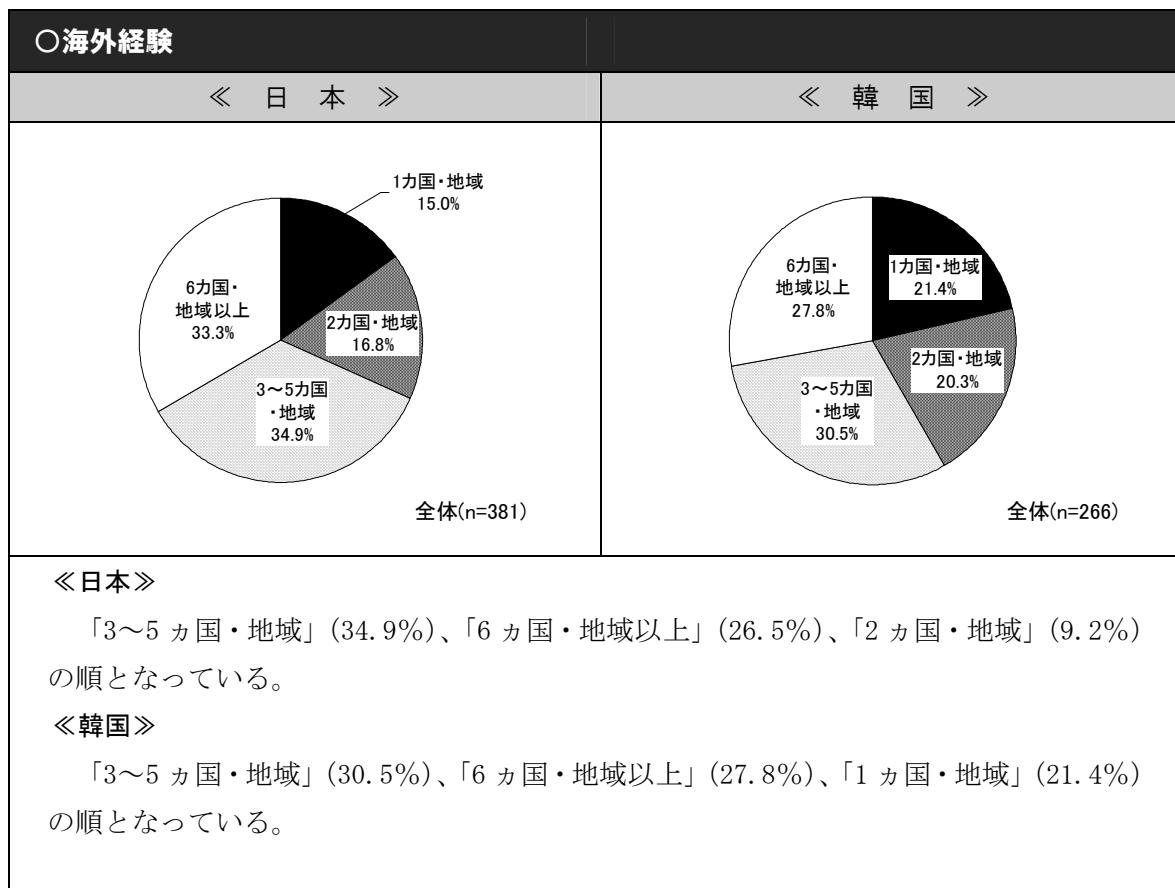
■対象者の属性



○居住地																																																			
《 日 本 》	《 韓 国 》																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>居住地</th><th>件 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>福岡県</td><td>292</td></tr> <tr><td>熊本県</td><td>40</td></tr> <tr><td>長崎県</td><td>38</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>33</td></tr> <tr><td>山口県</td><td>23</td></tr> <tr><td>大分県</td><td>17</td></tr> <tr><td>広島県</td><td>16</td></tr> <tr><td>東京都</td><td>4</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>2</td></tr> <tr><td>神奈川県</td><td>2</td></tr> <tr><td>大阪府</td><td>2</td></tr> <tr><td>その他の地域</td><td>7</td></tr> </tbody> </table>	居住地	件 数	福岡県	292	熊本県	40	長崎県	38	佐賀県	33	山口県	23	大分県	17	広島県	16	東京都	4	鹿児島県	2	神奈川県	2	大阪府	2	その他の地域	7	<table border="1"> <thead> <tr> <th>居住地</th><th>件 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>釜山市</td><td>77</td></tr> <tr><td>ソウル市</td><td>49</td></tr> <tr><td>慶尚北道 大邱市</td><td>42</td></tr> <tr><td>慶尚南道 蔚山市</td><td>30</td></tr> <tr><td>全羅南道 光州市</td><td>28</td></tr> <tr><td>京畿道 九里市</td><td>15</td></tr> <tr><td>慶尚南道 巨濟市</td><td>12</td></tr> <tr><td>慶尚南道</td><td>11</td></tr> <tr><td>慶尚南道 馬山市</td><td>9</td></tr> <tr><td>大田市</td><td>8</td></tr> <tr><td>その他の地域</td><td>58</td></tr> </tbody> </table>	居住地	件 数	釜山市	77	ソウル市	49	慶尚北道 大邱市	42	慶尚南道 蔚山市	30	全羅南道 光州市	28	京畿道 九里市	15	慶尚南道 巨濟市	12	慶尚南道	11	慶尚南道 馬山市	9	大田市	8	その他の地域	58
居住地	件 数																																																		
福岡県	292																																																		
熊本県	40																																																		
長崎県	38																																																		
佐賀県	33																																																		
山口県	23																																																		
大分県	17																																																		
広島県	16																																																		
東京都	4																																																		
鹿児島県	2																																																		
神奈川県	2																																																		
大阪府	2																																																		
その他の地域	7																																																		
居住地	件 数																																																		
釜山市	77																																																		
ソウル市	49																																																		
慶尚北道 大邱市	42																																																		
慶尚南道 蔚山市	30																																																		
全羅南道 光州市	28																																																		
京畿道 九里市	15																																																		
慶尚南道 巨濟市	12																																																		
慶尚南道	11																																																		
慶尚南道 馬山市	9																																																		
大田市	8																																																		
その他の地域	58																																																		
《日本》 「福岡県」が 292 件と最も多くなっている。九州各県からの利用が大半を占めているが、九州外からの利用もみられる。 《韓国》 「釜山市」が 77 件で最も多く、次いで「ソウル」（49 件）、「大邱市」（42 件）となっている。																																																			





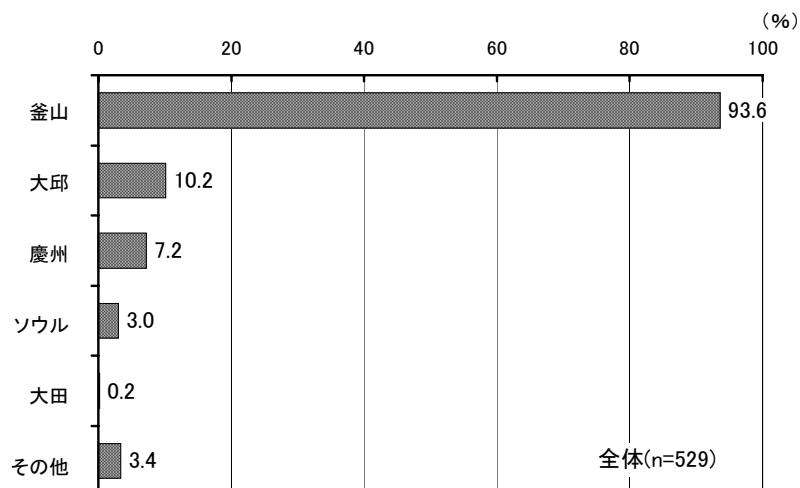


○海外経験																																													
《 日 本 》	《 韓 国 》																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>海外経験</th><th>件 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>アメリカ</td><td>39</td></tr> <tr><td>韓国</td><td>33</td></tr> <tr><td>中国</td><td>18</td></tr> <tr><td>台湾</td><td>17</td></tr> <tr><td>ハワイ</td><td>14</td></tr> <tr><td>シンガポール</td><td>12</td></tr> <tr><td>オーストラリア</td><td>10</td></tr> <tr><td>タイ</td><td>8</td></tr> <tr><td>香港</td><td>8</td></tr> <tr><td>マレーシア</td><td>8</td></tr> <tr><td>その他の地域</td><td>87</td></tr> </tbody> </table>	海外経験	件 数	アメリカ	39	韓国	33	中国	18	台湾	17	ハワイ	14	シンガポール	12	オーストラリア	10	タイ	8	香港	8	マレーシア	8	その他の地域	87	<table border="1"> <thead> <tr> <th>海外経験</th><th>件 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>日本</td><td>49</td></tr> <tr><td>中国</td><td>34</td></tr> <tr><td>タイ</td><td>19</td></tr> <tr><td>シンガポール</td><td>8</td></tr> <tr><td>アメリカ</td><td>8</td></tr> <tr><td>香港</td><td>7</td></tr> <tr><td>台湾</td><td>6</td></tr> <tr><td>フィリピン</td><td>6</td></tr> <tr><td>その他の地域</td><td>44</td></tr> </tbody> </table>	海外経験	件 数	日本	49	中国	34	タイ	19	シンガポール	8	アメリカ	8	香港	7	台湾	6	フィリピン	6	その他の地域	44
海外経験	件 数																																												
アメリカ	39																																												
韓国	33																																												
中国	18																																												
台湾	17																																												
ハワイ	14																																												
シンガポール	12																																												
オーストラリア	10																																												
タイ	8																																												
香港	8																																												
マレーシア	8																																												
その他の地域	87																																												
海外経験	件 数																																												
日本	49																																												
中国	34																																												
タイ	19																																												
シンガポール	8																																												
アメリカ	8																																												
香港	7																																												
台湾	6																																												
フィリピン	6																																												
その他の地域	44																																												
《日本》 「アメリカ」(39 件)、「韓国」(33 件)、「中国」(18 件) の順となっている。 《韓国》 「日本」が 49 件と最も多くなっており、次いで「中国」(34 件)、「タイ」(19 件) となっている。																																													

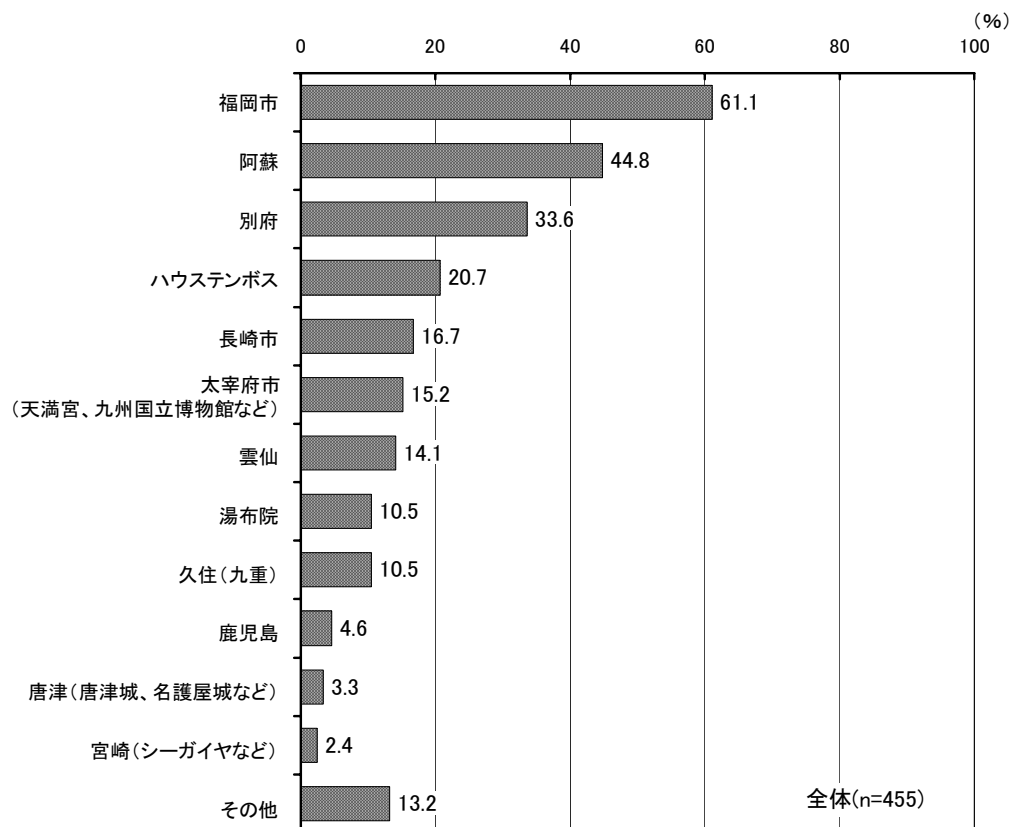
■調査結果

Q1. 今回の訪問地

《日本》今回の訪問地は「釜山」(93.6%)が最も高くなっており、その他の地区はほぼ1割以下となっている。



《韓国》今回の訪問地は「福岡市」(61.1%)が最も高くなっており、ついで「阿蘇」(44.8%)、「別府」(33.6%)、「ハウステンボス」(20.7%)となっている。
またその他の意見として、「東京」や「大阪」など九州外の地域もみられた。



出発日別

《日本》

平常日は「釜山」(95.3%)がほとんどを占めているが、ピーク日は「大邱」(17.6%)や「慶州」(8.6%)への訪問がみられる。

《韓国》

平常日は「福岡市」(74.9%)が最も高く、次いで「阿蘇」(47.9%)、「長崎市」(25.1%)、「別府」(22.7%)となっている。ピーク日は「福岡市」(49.2%)、「阿蘇」(43.2%)、「別府」(43.2%)、「ハウステンボス」(34.7%)の順となっている。

性別・年齢別

《日本》

性別では大きな差はみられない。年齢別に見ると50代以上は40代以下に比べて「大邱」への訪問がやや高くなっている。

《韓国》

性別でみると、女性は男性に比べ訪問先が多岐にわたっている。年齢別にみると全体的にはほぼ大きな差はみられないが、10代から30代は「ハウステンボス」への訪問が高くなっている。

旅行スタイル別

《日本》

いずれの項目も「釜山」が最も高く、その他の訪問先に大きな差はみられない。

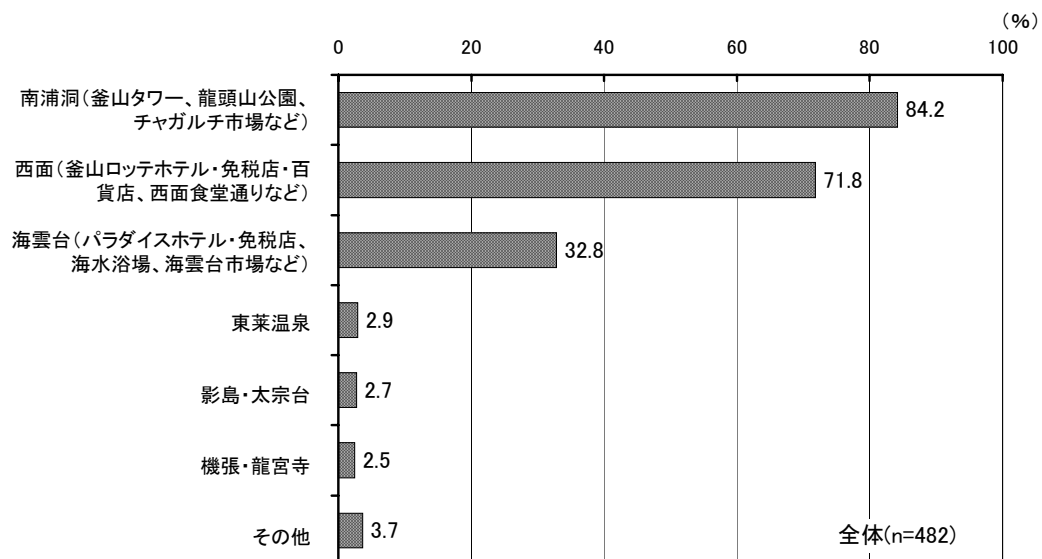
《韓国》

同行人数別でみると、2人以上は「阿蘇」や「別府」等、訪問先が多岐にわたっている。

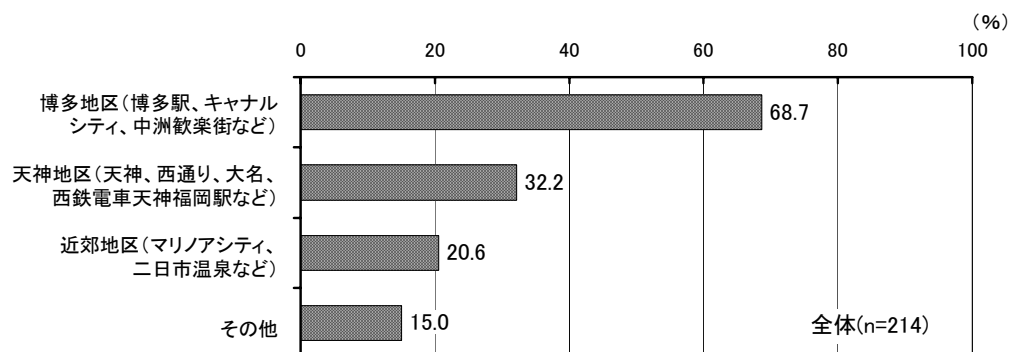
旅行回数別でみると、6回未満では訪問先が多岐にわたっているが、6回以上では「福岡市」が最も高くなっている。

Q2. 福岡市・釜山市での訪問先

《日本》釜山市での訪問先は、「南浦洞」(84.2%)が最も高く、「西面」(71.8%)、「海雲台」(32.8%)の順で続いている。



《韓国》福岡市での訪問先は、「博多地区」(68.7%)が最も高く、「天神地区」(32.2%)、「近郊地区」(20.6%)の順で続いている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

平常日、ピーク日ともに「博多地区」が最も高くなっている。またピーク日では「天神地区」が平常日に比べ高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

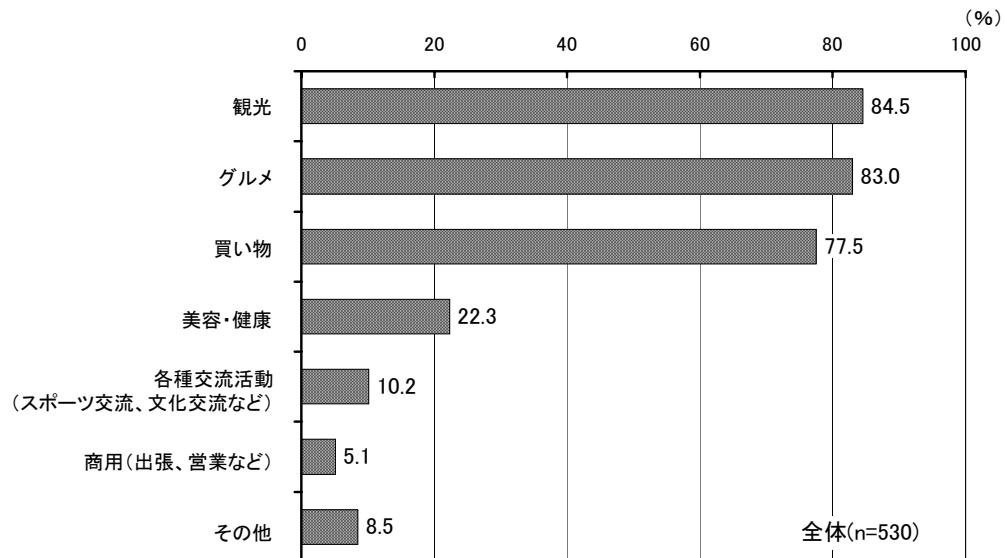
《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q3. 今回の旅行で目的とする体験・行動

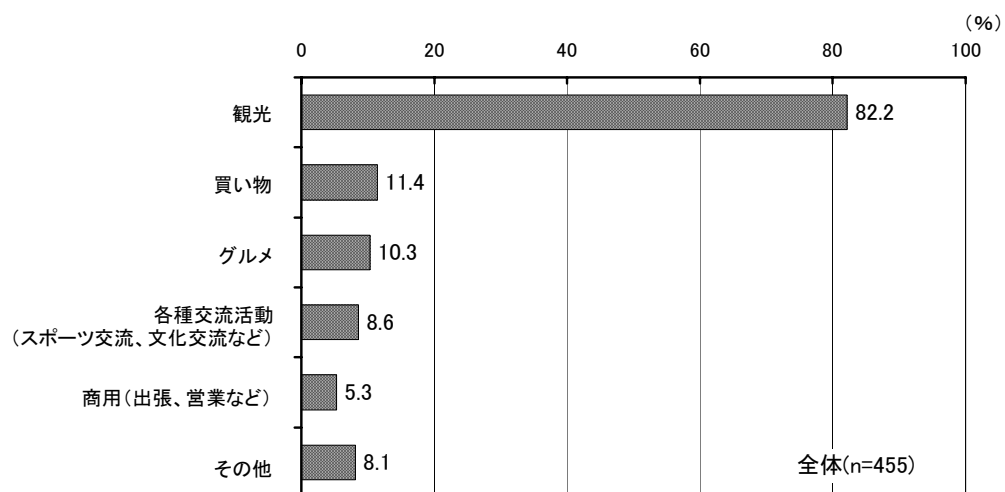
《日本》今回の旅行の目的は、「観光」(84.5%)、「グルメ」(83.0%)、「買い物」(77.5%)が8割前後で多くを占めている。一方、「商用(出張、営業など)」は僅かに5%程度である。

また、その他の意見として、「カジノ」や「親族・友人を訪問する」といった意見がみられた。



《韓国》今回の旅行の目的は「観光」(82.2%)が最も高くなっており、その他はほぼ1割以下となっている。

また、その他の意見として、「ホームステイ」や「留学・勉強」といった意見がみられた。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

平常日、ピーク日ともに「観光」が最も高くなっているが、ピーク日では「グルメ」、「買い物」の割合が平常日に比べ高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別でみると、女性に比べ男性の「各種交流活動」、「商用」の割合が高くなっている。

年齢別でみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別でみると、男女ともに「観光」が最も高くなっている。男性では「各種交流活動」、「グルメ」の順となっており、女性では「買い物」、「グルメ」の順となっている。

年齢別でみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

旅行回数別にみると、6回以上では「グルメ」、「買い物」の順となっているが、6回未満で「観光」が最も高くなっている。

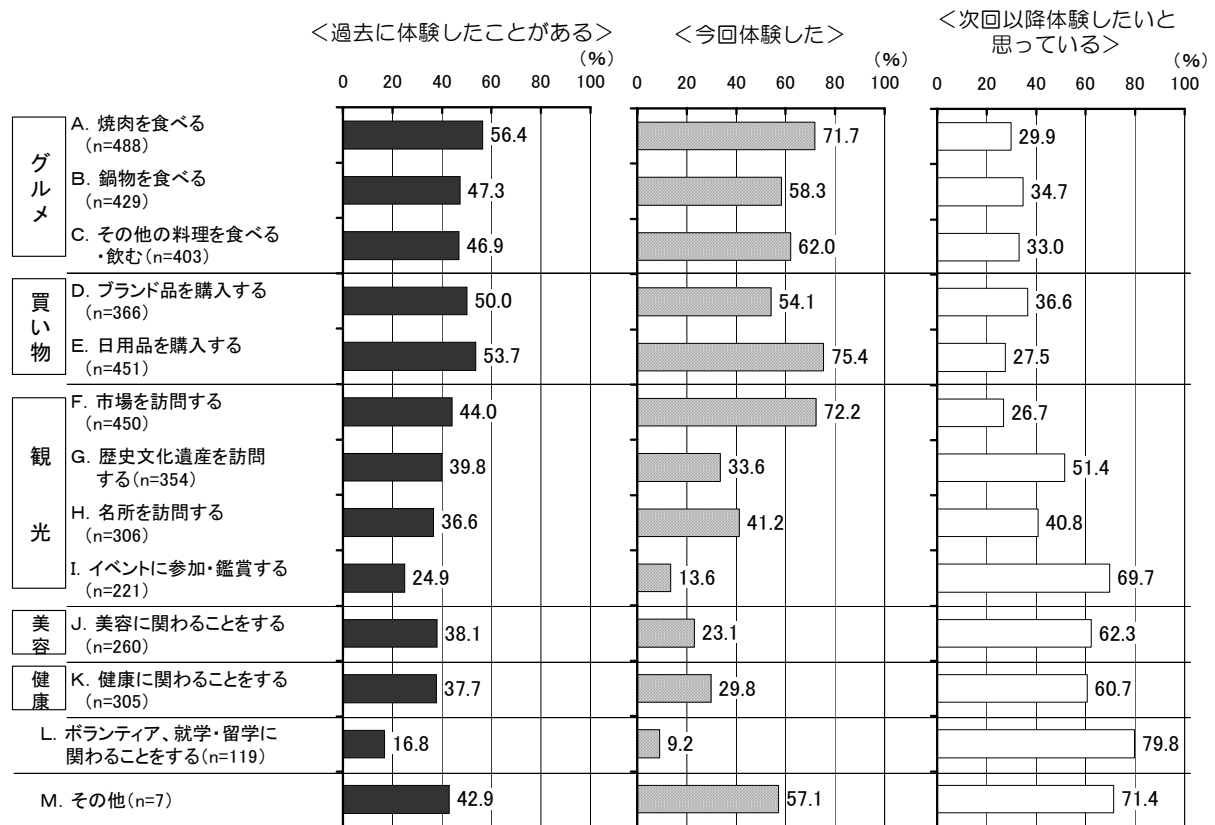
《韓国》

旅行回数別にみると、いずれも「観光」が最も高くなっているが、3回以上では「グルメ」、「買い物」の割合も高くなっている。

Q4. 日本・韓国における体験経験および体験意向

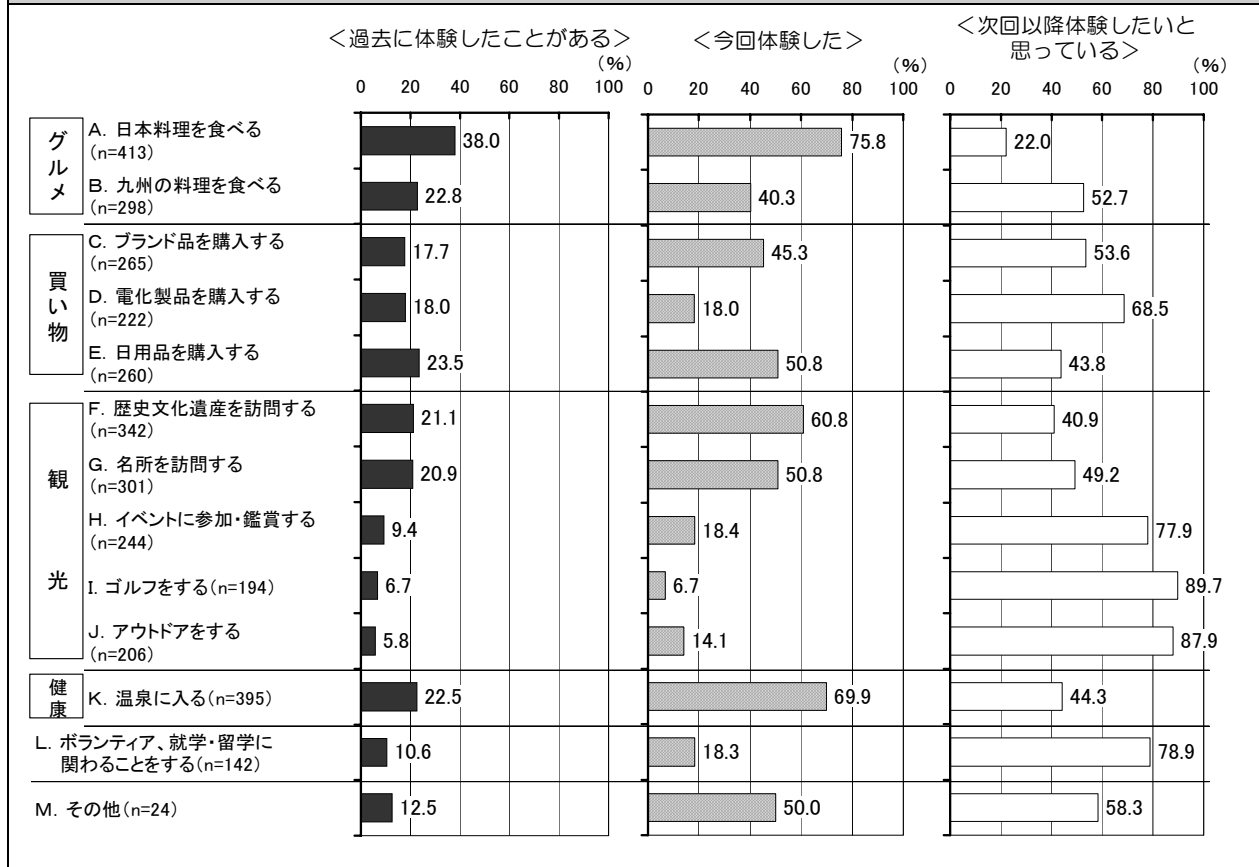
《日本》今回の旅行の目的を項目別にみると、「日用品を購入する」(75.4%)、「市場を訪問する」(72.2%)
「焼肉を食べる」(71.7%)、が7割を超えている。

次回以降に体験してみたいこととしては、「ボランティア、就学・留学に関わることをする」
(79.8%)、「イベントに参加・鑑賞する」(69.7%)、「美容に関わることをする」(62.3%)の順
となっている。



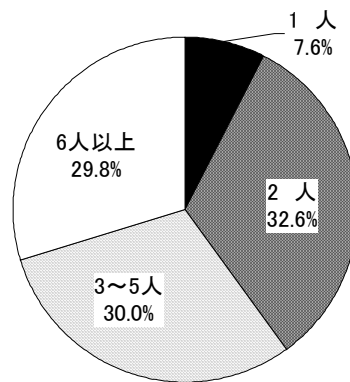
《韓国》今回の旅行の目的を項目別にみると、「日本料理を食べる」(75.8%)、「温泉に入る」(69.9%)、「歴史文化遺産を訪問する」(60.8%)となっている。

次回以降に体験してみたいこととしては、「ゴルフをする」(89.7%)、「アウトドアをする」(87.9%)、「ボランティア、就学・留学に関わることをする」(78.9%)、の順となっている。



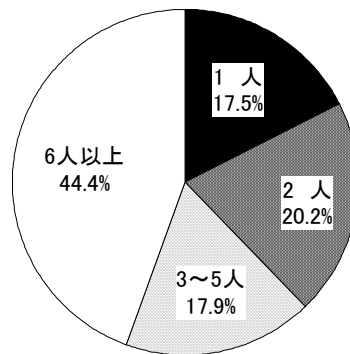
Q5. 旅行同伴人数

《日本》「1人」(7.6%)が最も低くなっているが、その他は大きな差は見られない。



【平均 5.88人】
全体(n=436)

《韓国》同伴人数は「6人以上」(44.4%)が最も高くなっている。



【平均 14.63人】
全体(n=223)

出発日別

《日本》

出発日別にみると、平常日では「2人」が最も高く、ピーク日では「6人以上」が最も高くなっている。

《韓国》

平常日、ピーク日ともに「6人以上」が最も高くなっているが、ピーク日ではその他の割合も平常日に比べ高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別でみると、男性に比べ女性の「2人」の割合が高くなっている。

年齢別でみると、60歳以上では「6人以上」(64.5%)が最も高くなっている。また20代では「2人」(53.8%)が最も高くなっている。

《韓国》

性別でみると、女性に比べ男性の「1人」の割合が高くなっている。

年齢別でみると、20代では「1人」(40.9%)が最も高くなっているが、その他の年代では「6人以上」が最も高くなっている。

旅行スタイル別

《日本》

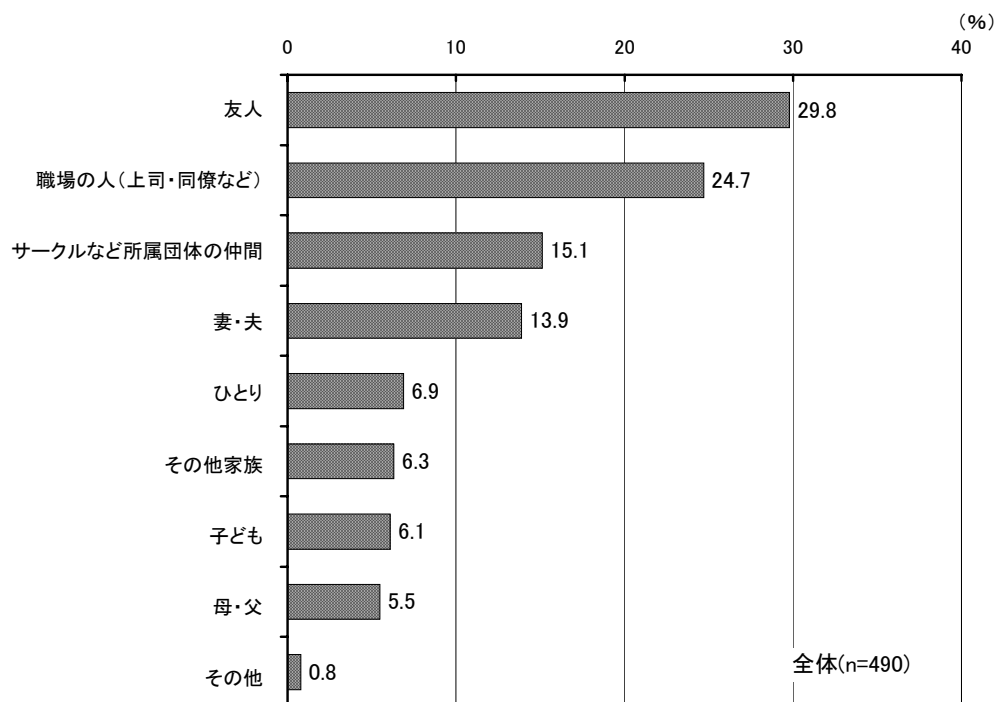
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

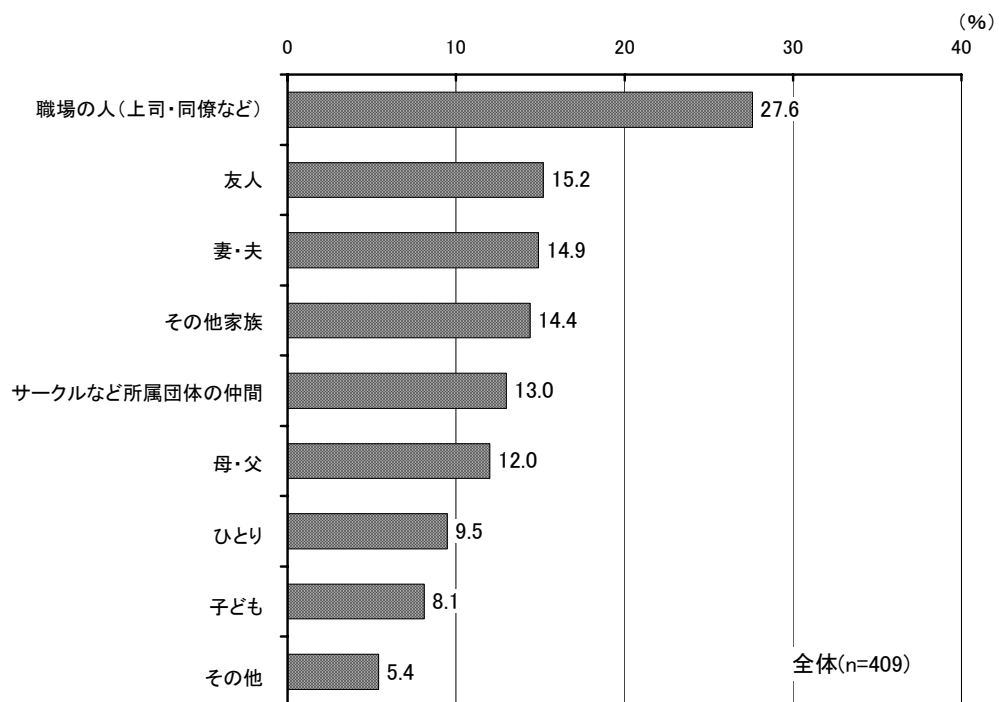
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q5. 同伴者の続柄

《日本》同伴者の続柄は「友人」(29.8%)が最も高く、次いで「職場の人」(24.7%)となっている。



《韓国》同伴者の続柄は「職場の人」(27.6%)が最も高く、次いで「友人」(15.2%)、「妻・夫」(14.9%)となっている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

平常日に大きな差はみられないが、ピーク日では「その他の家族」(24.2%)や「妻・夫」(20.1%)など親族の割合が高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別でみると、男女ともに「職場の人」が最も高くなっている。男性では女性に比べ「1人」(15.4%)が高くなっており、また女性では「友人」(19.1%)、「その他の家族」(17.8%)が高い割合となっている。

年齢別みると、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

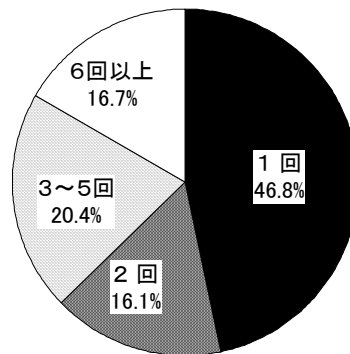
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

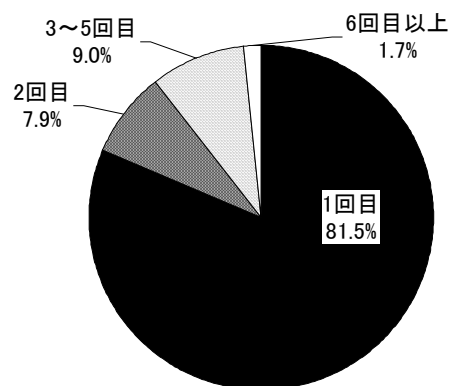
Q6. 日本・韓国への旅行回数

《日本》旅行の回数は「1 回」(46.8%) が最も高くなっている。また「2 回」から「6 回以上」の合計をみると 53.2%となっている。



【平均 4.48回目】
全体(n=436)

《韓国》旅行の回数は「1 回」(81.5%) が最も高くなっている。また「2 回」から「6 回以上」の合計をみると 18.6%となっている。



【平均 1.46回目】
全体(n=356)

出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別でみると、男女ともに「1回」が最も高くなっている。男性では女性に比べ「6回以上」の割合が高くなっている。

年齢別みると、60歳以上では「3～5回」が最も高くなっているが、その他の年代では「1回」が最も高くなっている。

《韓国》

性別でみると、男女ともに「1回」が最も高くなっている。また男性では女性に比べ「3～5回」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

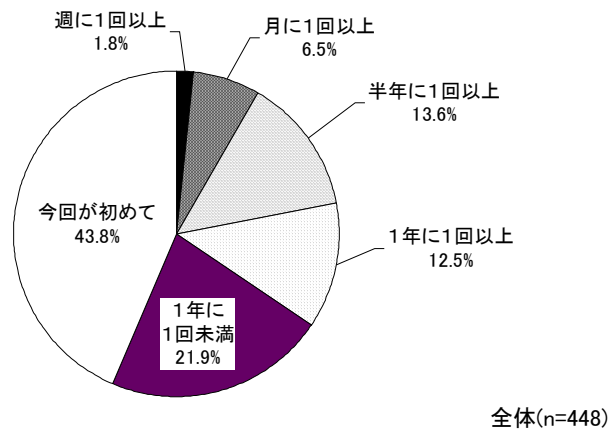
旅行目的別にみると、商用では「3回以上」の割合が高くなっている。

《韓国》

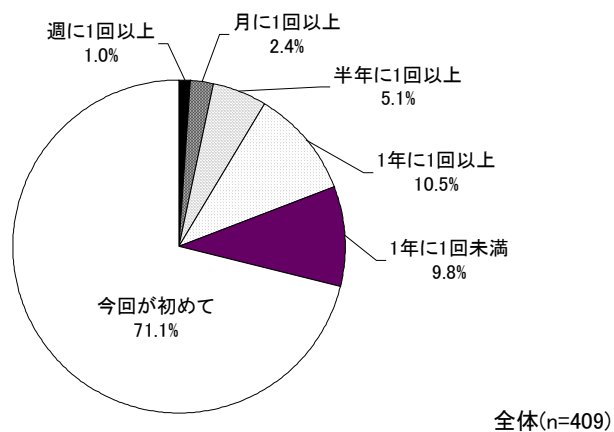
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q6. 日本・韓国への訪問頻度

《日本》訪問の頻度は「今回が初めて」（43.8%）が最も高くなっている。また「週に1回以上」から「1年に1回以上」の合計は34.4%となっている。



《韓国》訪問の頻度は「今回が初めて」（71.1%）が最も高くなっている。また「週に1回以上」から「1年に1回以上」の合計は28.8%となっている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

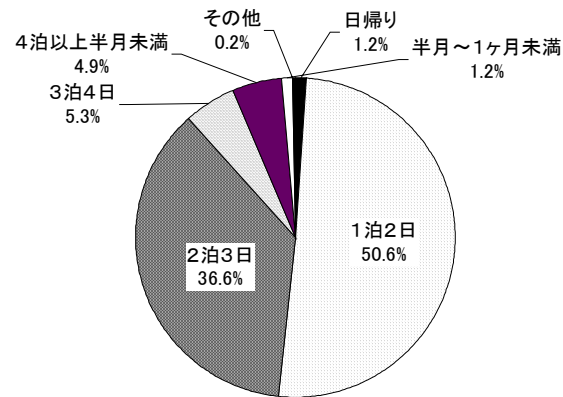
旅行回数別にみると、6回以上では「半年に1回以上」の割合が5割近くとなっている。

《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

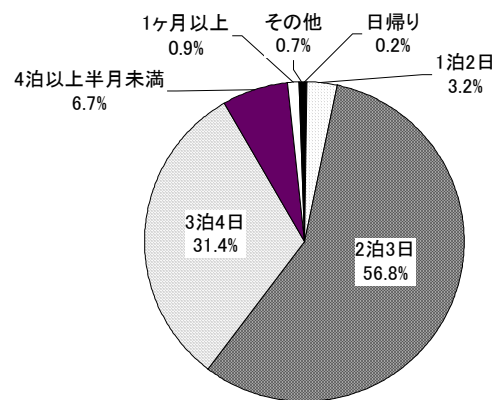
Q7. 今回の旅行日程

《日本》旅行の日程は「1泊2日」(50.6%)が最も高く、次いで「2泊3日」(36.6%)となっている。



全体(n=508)

《韓国》旅行の日程は「2泊3日」(56.8%)が最も高く、次いで「3泊4日」(31.4%)となっている。



全体(n=433)

出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

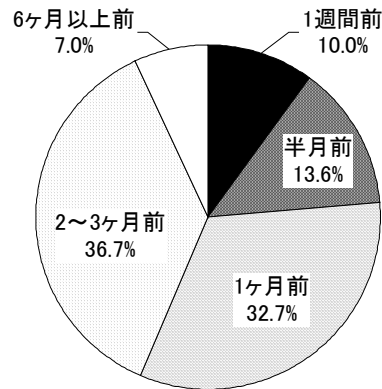
同行人数別でみると、6人以上では「2泊3日」が最も高くなっているが、その他は「1泊2日」が最も高くなっている。

《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

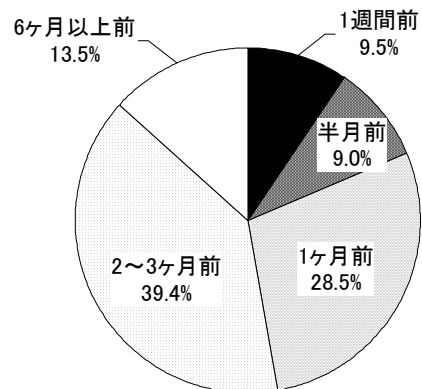
Q8. 今回の旅行計画時期

《日本》旅行の計画時期は「2～3ヶ月前」(36.7%)が最も高く、次いで「1ヶ月前」(32.7%)、「半月前」(13.6%)となっている。



全体(n=499)

《韓国》旅行の計画時期は「2～3ヶ月前」(39.4%)が最も高く、次いで「1ヶ月前」(28.5%)となっている。



全体(n=431)

出発日別

《日本》

出発日別にみると、平常日では「2～3ヶ月前」が最も高く、ピーク日では「1ヶ月前」が最も高くなっている。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別でみると、男性では「2～3ヶ月前」が最も高く、女性では「1ヶ月前」が最も高くなっている。

年齢別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別でみると、男性では「1ヶ月前」が最も高く、女性では「2～3ヶ月前」が最も高くなっている。

年齢別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

【旅行スタイル別】

《日本》

同行人数別でみると、1人では「1週間前」、「半月前」が高くなっている。

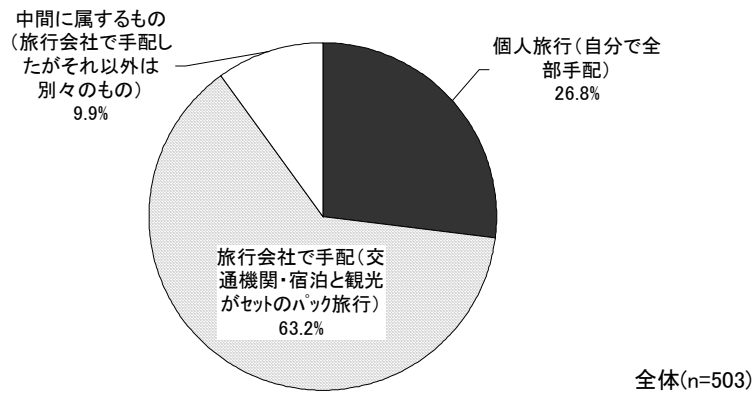
旅行頻度別でみると、半年に1回以上では全体とくらべて大きな差はみられないが、月に1回以上では多岐にわたっている。

《韓国》

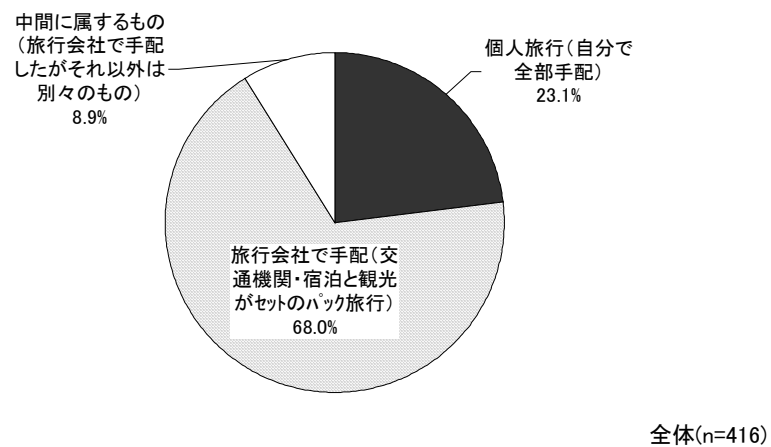
旅行頻度別でみると、半年に1回以上では全体と比べて大きな差はみられないが、月に1回以上では「1週間前」が最も高くなっている。

Q9. 今回の旅行タイプ

《日本》旅行のタイプは「旅行会社で手配」(63.2%)が最も多くなっている。



《韓国》旅行のタイプは「旅行会社で手配」(68.0%)が最も多くなっている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別にみると、男女ともに全体に比べて大きな差はみられない。また男性では女性に比べ「個人旅行」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに全体に比べて大きな差はみられないが、20代、30代ではその他に比べて「個人旅行」の割合が高くなっている。

旅行スタイル別

《日本》

同行人数別でみると、1人では「個人旅行」が最も高くなっている。

旅行頻度別でみると、1年に1回以上では全体と比べて差はないが、月に1回以上、半年に1回以上では「個人旅行」が最も高くなっている。

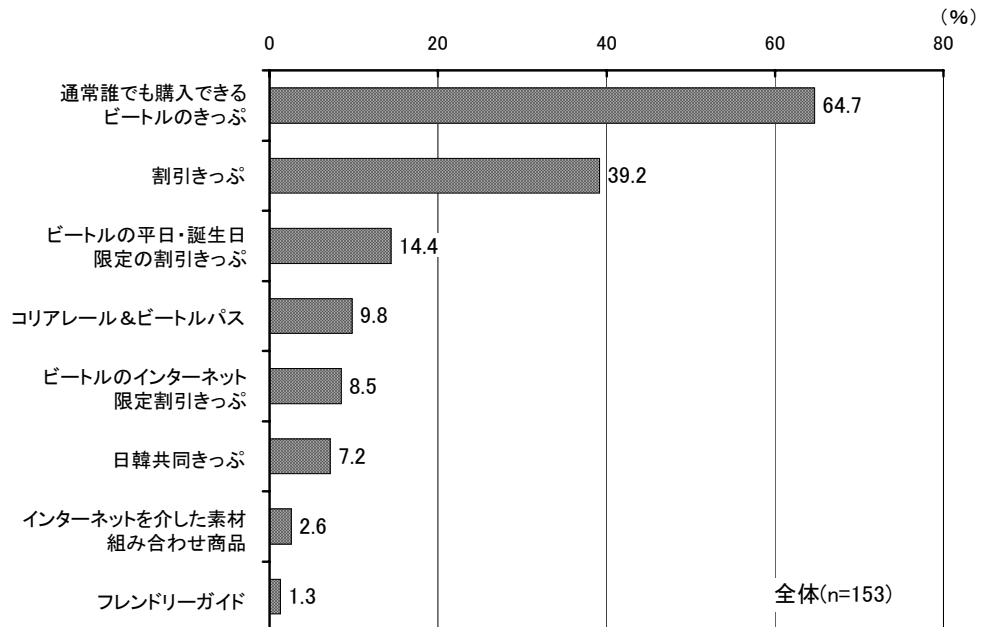
《韓国》

同行人数別でみると、1人、2人では「個人旅行」が最も高くなっている。

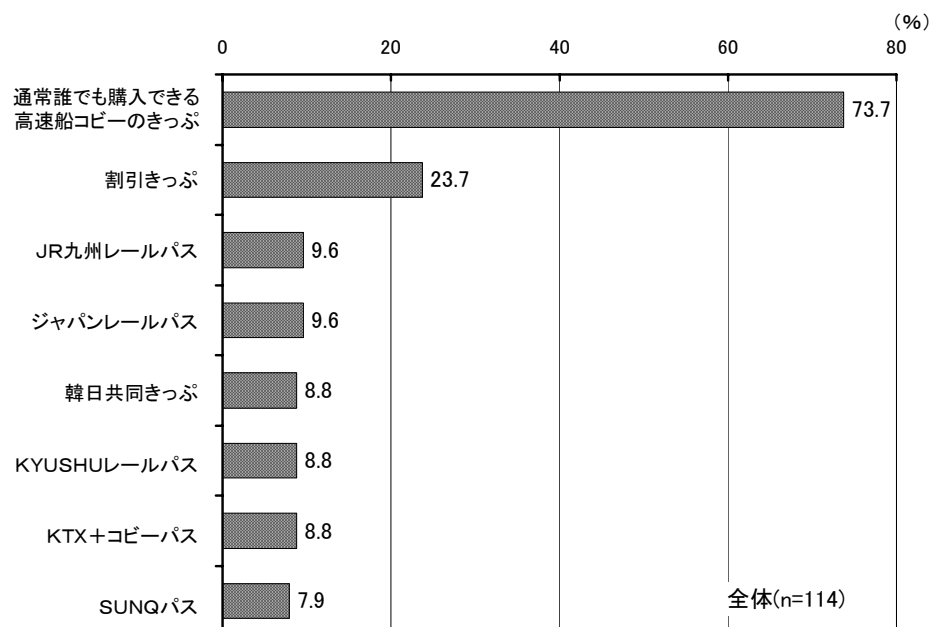
旅行頻度別でみると、今回が初めてで「旅行会社で手配」が最も高くなっている。

Q10. 購入および認知しているきっぷ、商品

《日本》「通常誰でも購入できるビートルのきっぷ」以外をみると、「割引きっぷ」(39.2%)が最も高くなっているが、その他は1割前後の認知度となっている。



《韓国》「通常誰でも購入できるビートルのきっぷ」以外をみると、「割引きっぷ」(23.7%)が最も高くなっているが、その他は1割以下の認知度となっている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

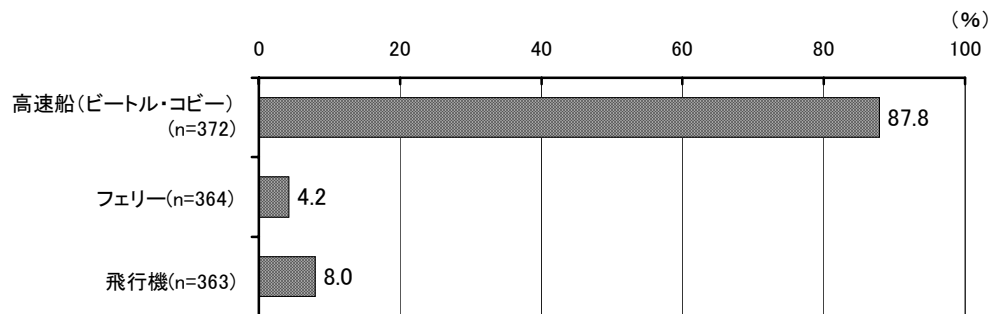
旅行回数が多い場合や、旅行頻度が高くなるにつれて、認知している商品の範囲が広がっている。

《韓国》

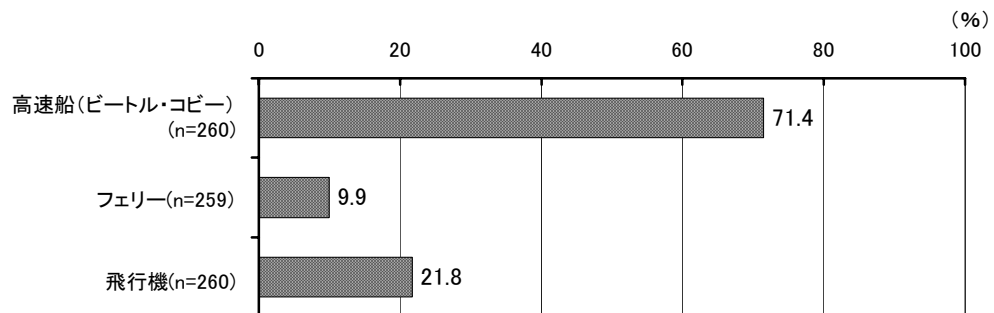
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q11. 福岡市・釜山市訪問における利用交通機関の割合

《日本》利用交通機関の平均をみると、「高速船」(87.8%)が最も高くなっている。



《韓国》利用交通機関の平均をみると、「高速船」(71.4%)が最も高くなっている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

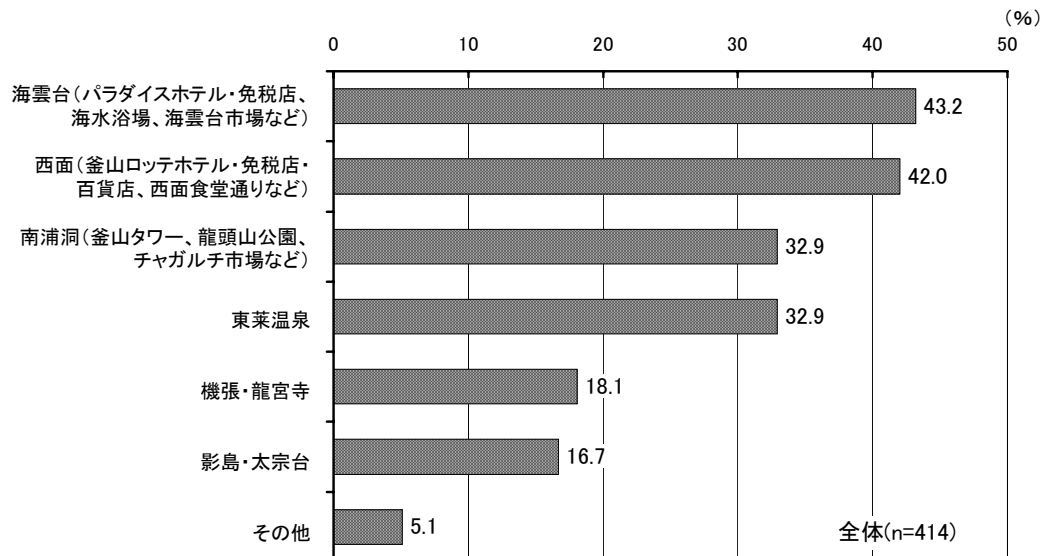
《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q12. 次回以降行ってみたい場所

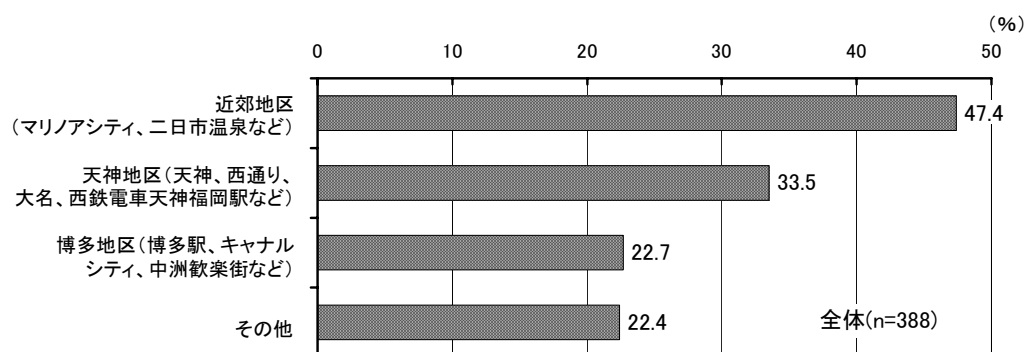
《日本》次回以降行ってみたい場所としては、「海雲台」(43.2%)と「西面」(42.0%)が4割を超えている。

また、その他の意見として、「ソウル」や「慶州」といった意見がみられた。



《韓国》次回以降行ってみたい場所としては、「近郊地区」(47.4%)と「天神地区」(33.5%)、「博多地区」(22.7%)となっている。

また、その他の意見として、「東京」、「大阪」、「北海道」といった意見がみられた。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、ピーク日では「天神地区」の割合が高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

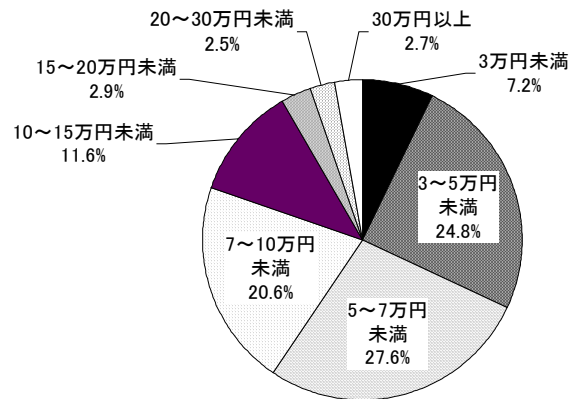
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

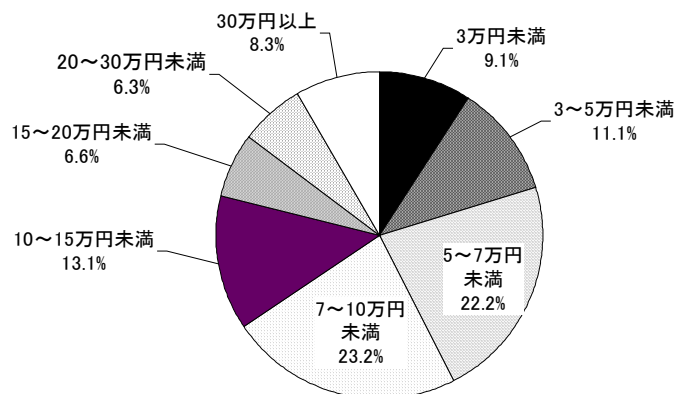
Q13. 今回の一人当たりの旅行予算

《日本》一人当たりの旅行の予算は「5～7万円」(27.6%)が最も高く、次いで「3～5万円」(24.8%)、「7～10万円」(20.6%)となっている。



全体(n=475)

《韓国》一人当たりの旅行の予算は「7～10万円」(23.2%)が最も高く、次いで「5～7万円」(22.2%)、「10～15万円」(13.1%)となっている。



全体(n=396)

出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

年齢別にみると、20代、30代では「3～5万円」が最も高くなっている。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

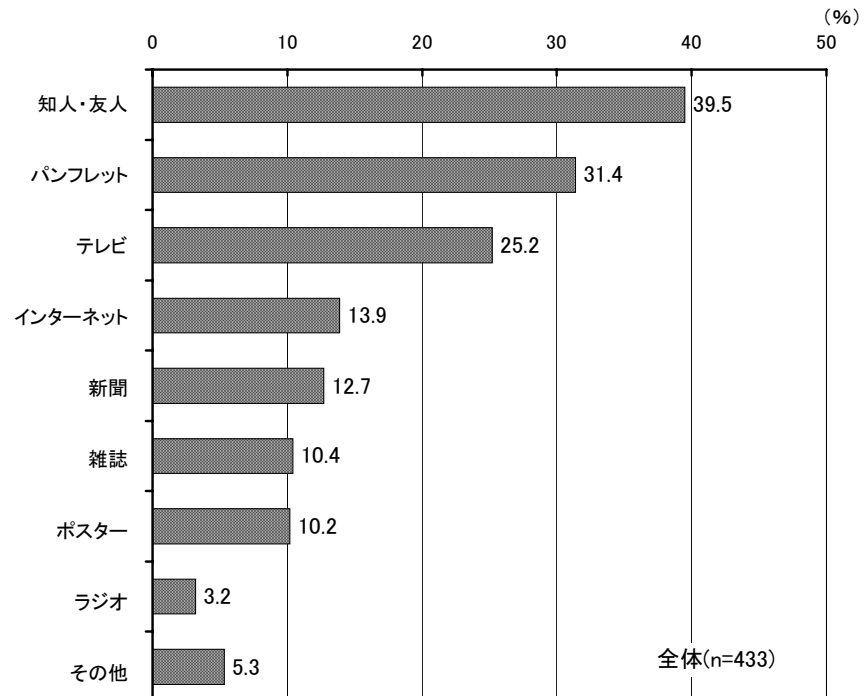
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

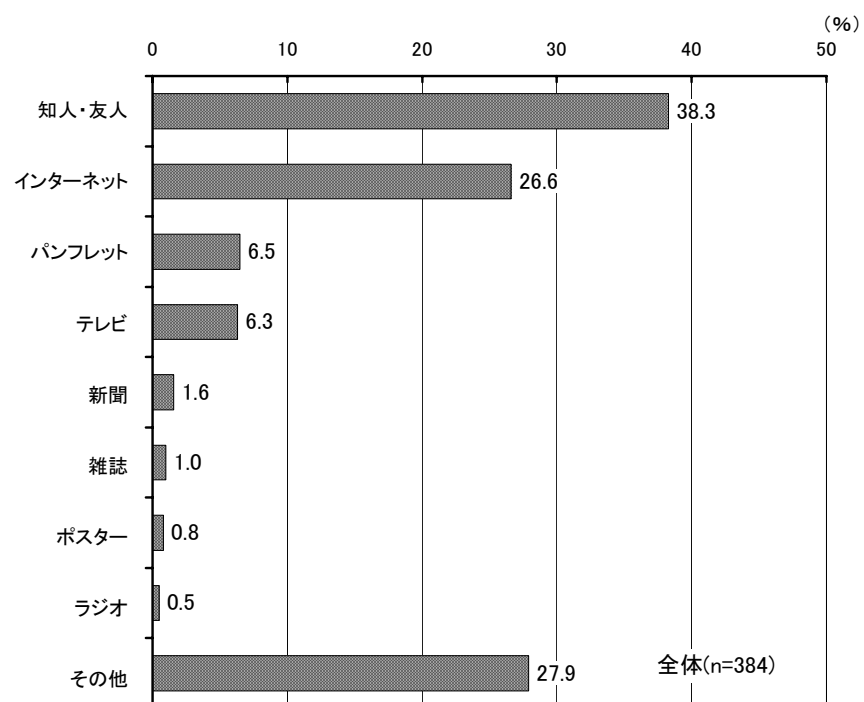
Q14. 高速船ビートル・コピーの認知経路

《日本》ビートルの認知経路としては、「知人・友人」(39.5%)が最も高く、次いで「パンフレット」(31.4%)、「テレビ」(25.2%)となっている。



《韓国》ビートルの認知経路としては、「知人・友人」(38.3%)が最も高く、次いで「インターネット」(26.6%)となっている。

またその他の意見として、「旅行会社」といった意見がみられた。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

年齢別にみると、60 歳以上では「パンフレット」が若干高くなっているが、その他は全体と同じ傾向である。

旅行スタイル別

《日本》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

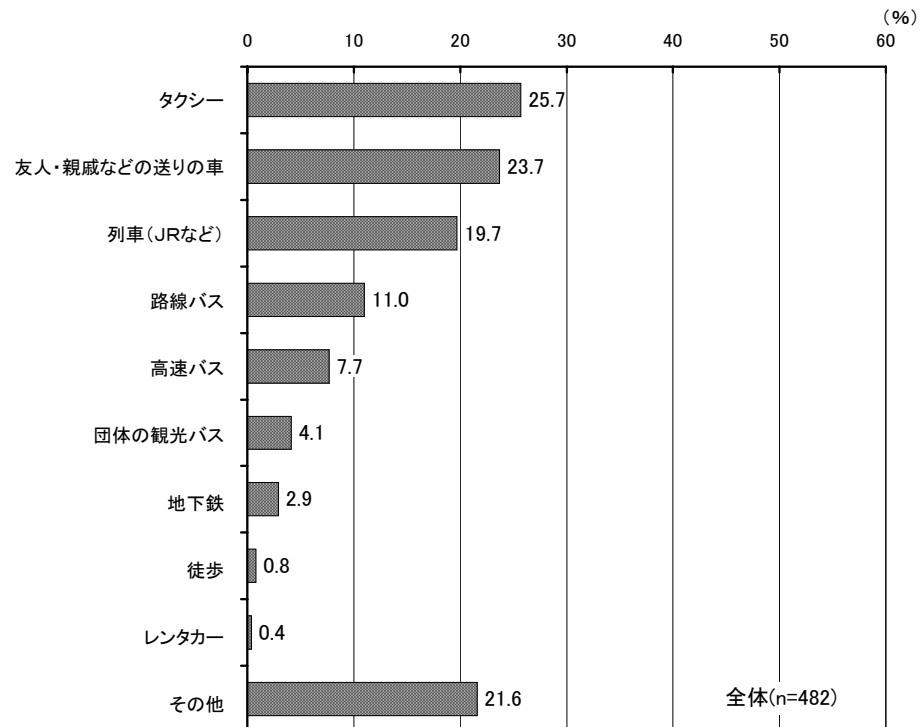
《韓国》

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q15. 博多港・釜山港までの交通手段

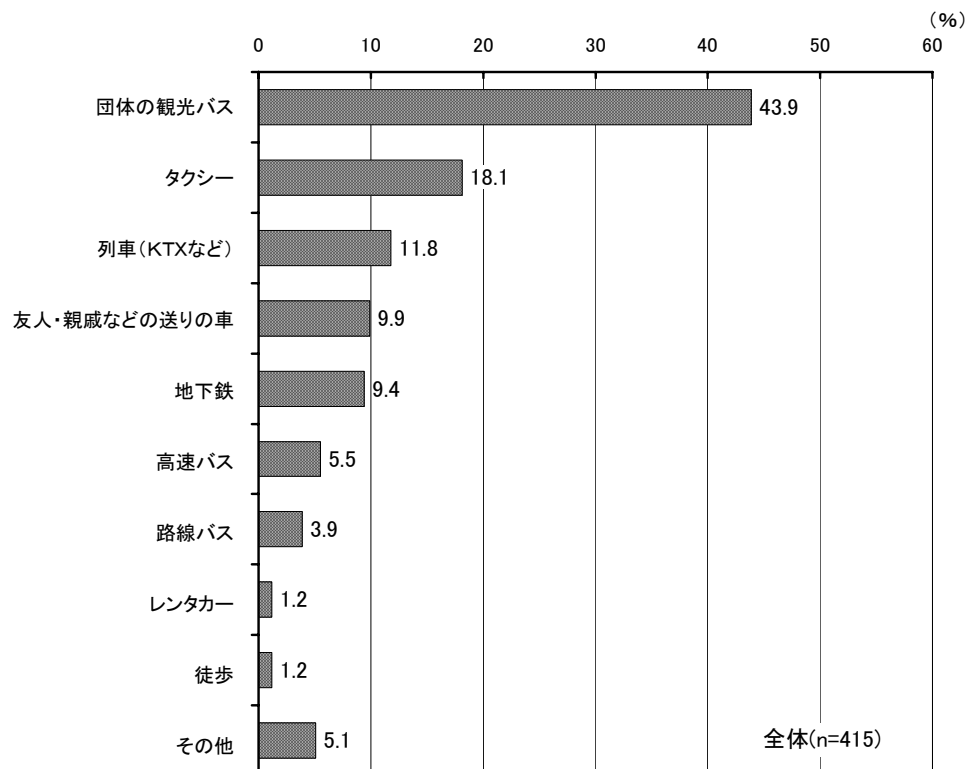
《日本》博多港までの交通手段としては、「タクシー」(25.7%)が最も高く、次いで「友人・親戚などの送りの車」(23.7%)、「列車」(19.7%)となっている。

また、その他の意見として、「自家用車」といった意見が多くみられた。



《韓国》釜山港までの交通手段としては、「団体の観光バス」(43.9%)が最も高く、次いで「タクシー」(18.1%)、「列車」(11.8%)となっている。

また、その他の意見としては「自家用車」があがっていた。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

平常日、ピーク日ともに「団体の観光バス」が最も高くなっているが、ピーク日では「タクシー」や「友人・親戚などの送りの車」の割合が高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

性別、年齢別ともに、全体の結果と同様の傾向を示している。

旅行スタイル別

《日本》

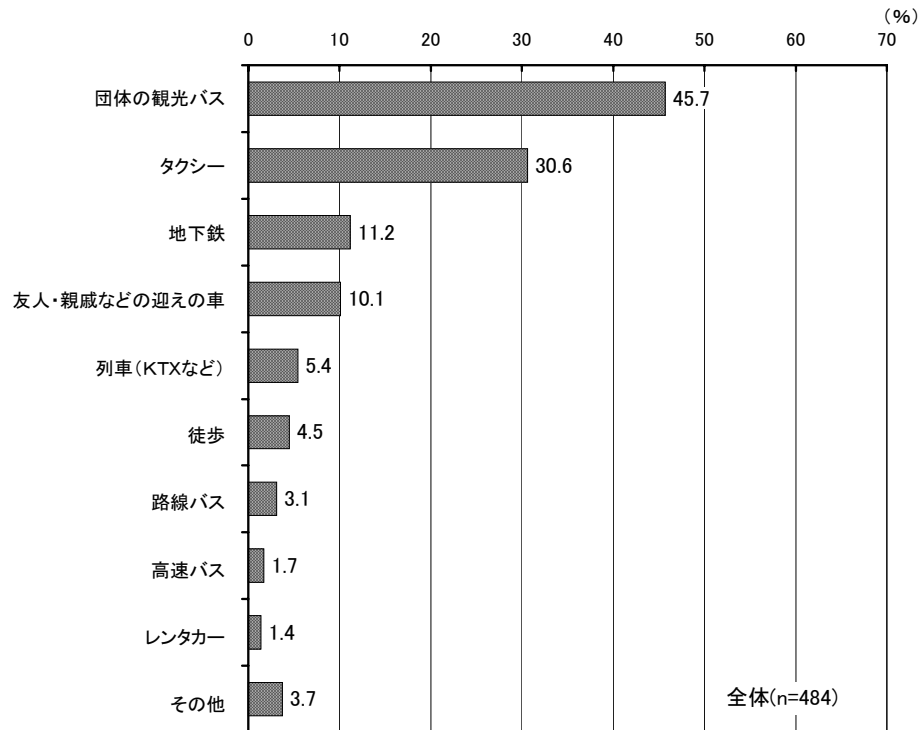
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

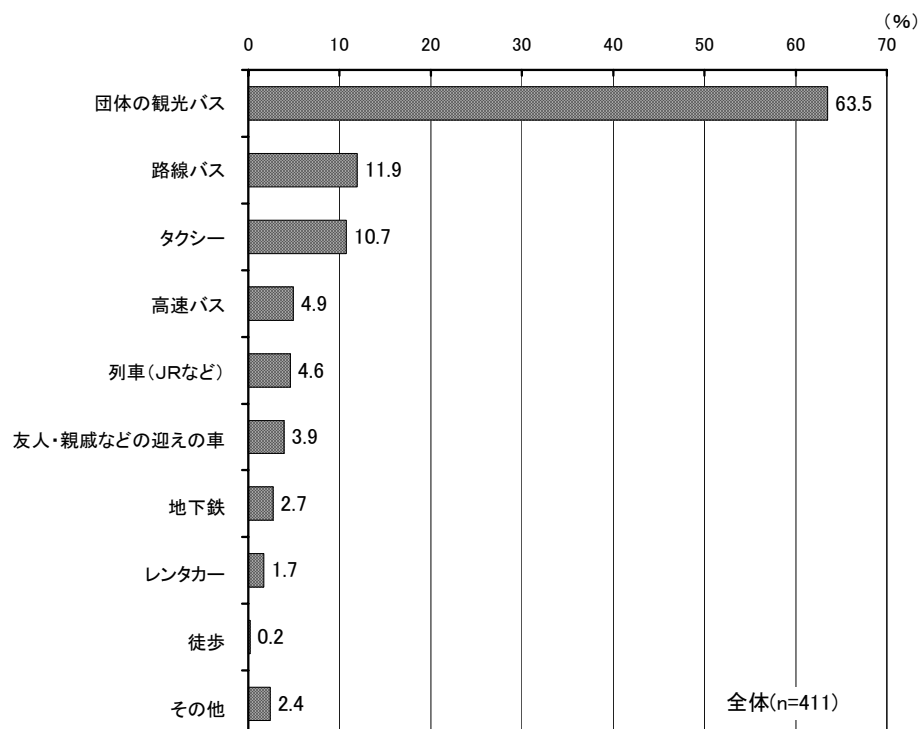
同行人数別にみると、6人以上では「団体の観光バス」が最も高くなっている。

Q16. 博多港・釜山港から目的地までの交通手段

《日本》釜山港からの交通手段としては「団体の観光バス」(45.7%)が最も高く、次いで「タクシー」(30.6%)、「地下鉄」(11.2%)となっている。



《韓国》博多港からの交通手段としては「団体の観光バス」(63.5%)が最も高く、次いで「路線バス」(11.9%)、「タクシー」(10.7%)となっている。



出発日別

《日本》

出発日別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

《韓国》

平常日、ピーク日ともに「団体の観光バス」が最も高くなっているが、ピーク日では「タクシー」や「友人・親戚などの送りの車」の割合が高くなっている。

性別・年齢別

《日本》

性別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

年齢別にみると、50 歳以上では「列車」の割合が若干高くなっている。

《韓国》

性別にみると、全体の結果と同様の傾向を示している。

年齢別にみると、20 代、30 代では「タクシー」の割合が最も高くなっている。

旅行スタイル別

《日本》

同行人数別にみると、6 人以上では「団体の観光バス」が最も高くなっている。

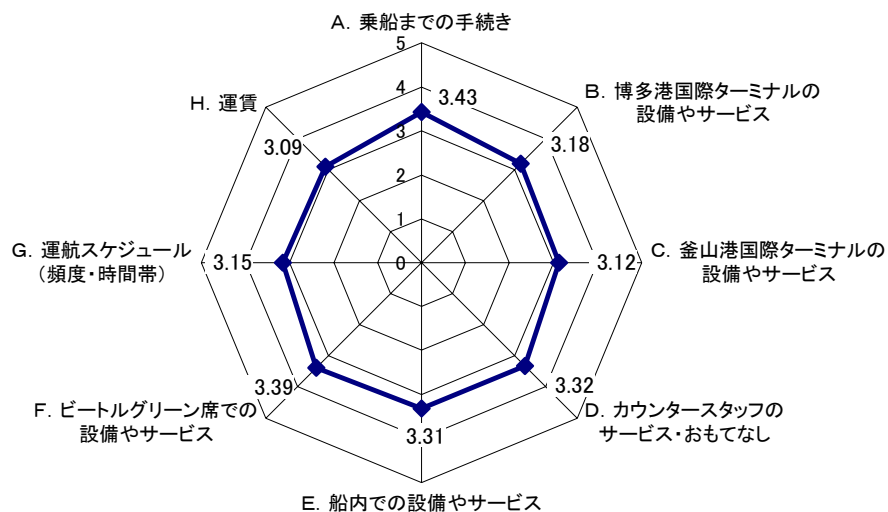
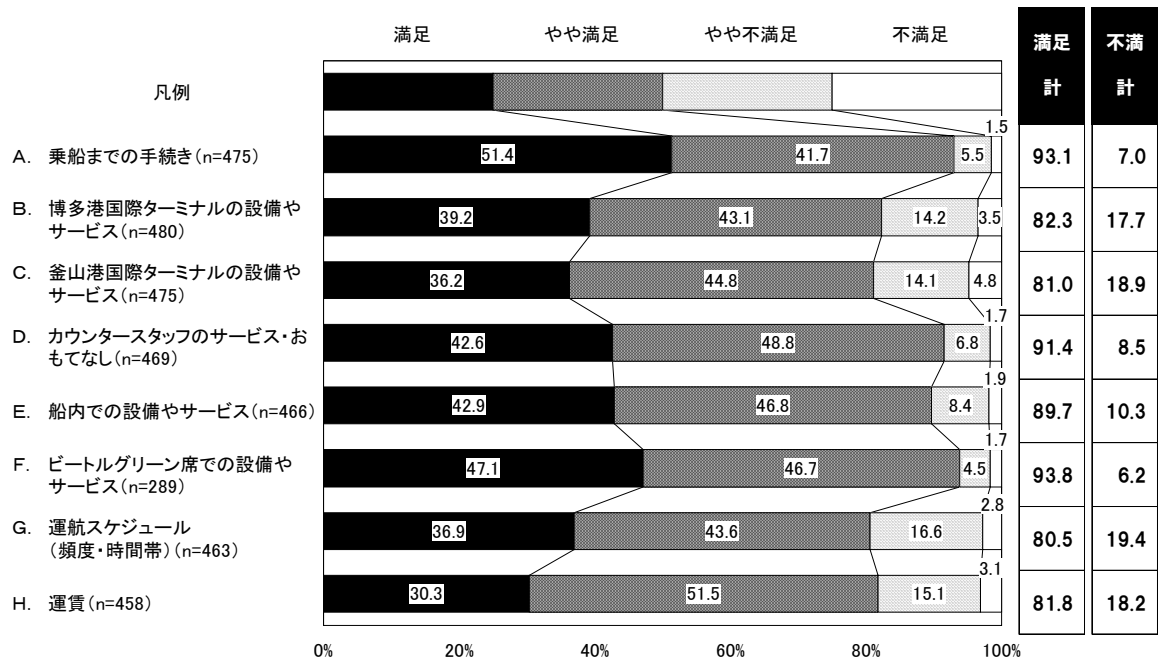
旅行頻度別にみると、1 年に 1 回以上の頻度が高い層では「タクシー」の割合が高くなっている。

《韓国》

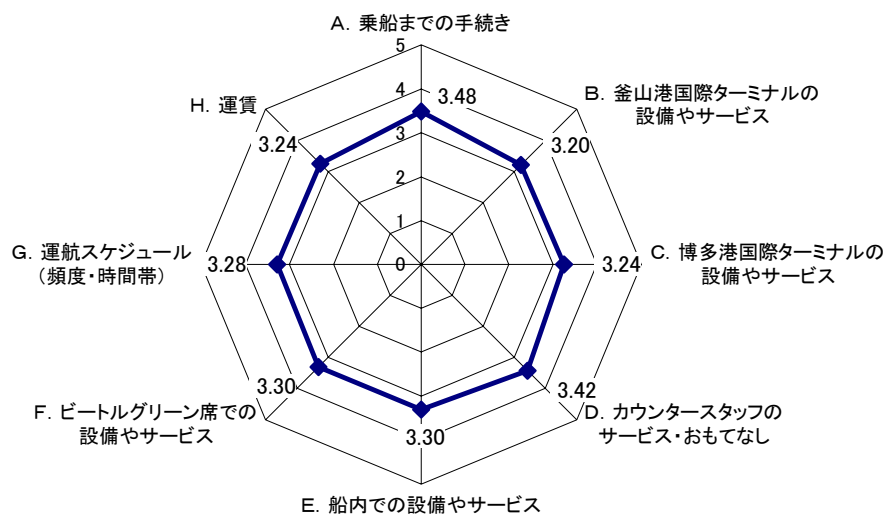
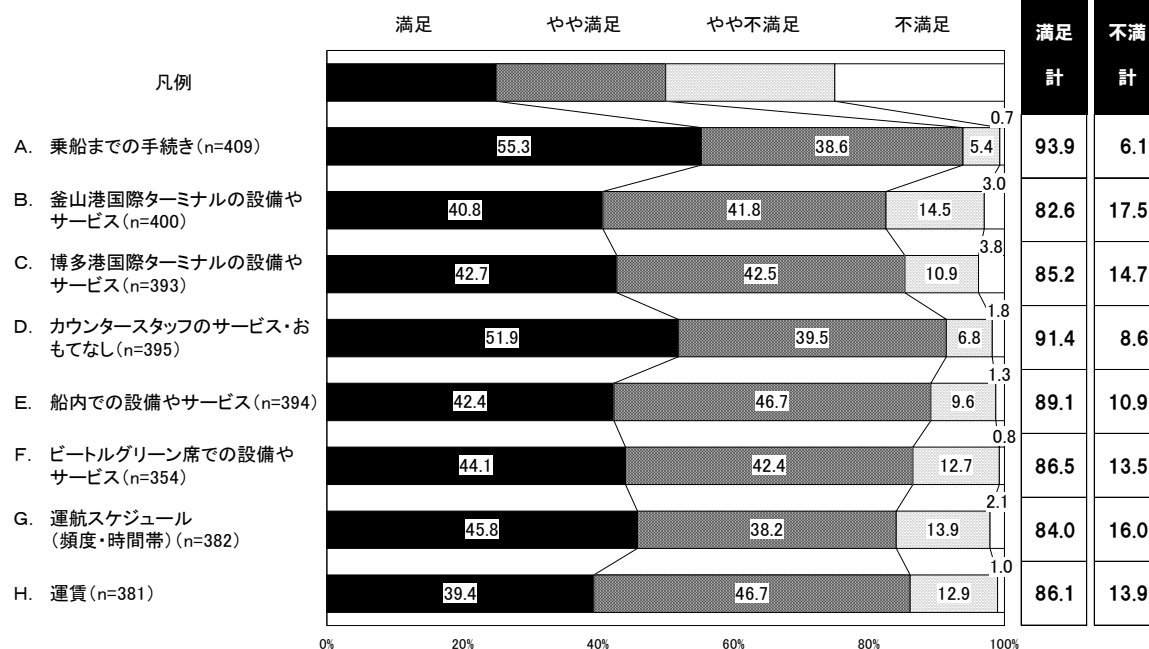
いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q17. ビートルに関する満足度

《日本》満足計（満足とやや満足の合計）は「ビートルグリーン席での設備やサービス」（93.8%）が最も高く、次いで「乗船までの手続き」（93.1%）、「カウンタースタッフのサービス・おもてなし」（91.4%）となっている。また不満計（不満とやや不満の合計）は「運行スケジュール」（19.4%）、「釜山港国際ターミナルの設備やサービス」（18.9%）が高くなっている。

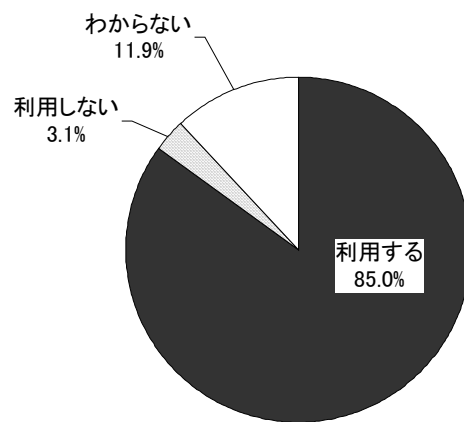


《韓国》満足計（満足とやや満足の合計）は「乗船までの手続き」（93.9%）が最も高く、次いで「カウンタースタッフのサービス・おもてなし」（91.4%）となっている。また不満計（不満足とやや不満足の合計）は「釜山港国際ターミナルの設備やサービス」（17.5%）、「運行スケジュール」（16.0%）が高くなっている。



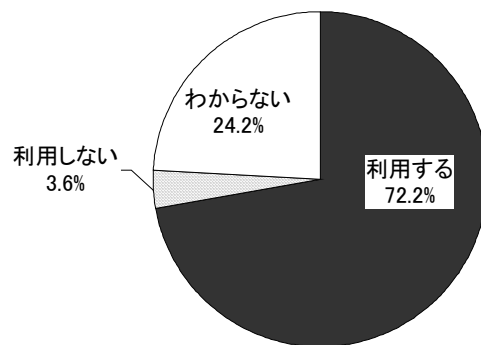
Q18. ビートルを利用した今後の韓国・釜山への旅行意向

《日本》ビートルの今後の利用意向としては、「利用する」(85.0%)となっている。



全体(n=488)

《韓国》ビートルの今後の利用意向としては、「利用する」(72.2%)となっている。



全体(n=413)

FA. 訪問地の魅力について

《日本》釜山市の魅力

焼肉や海鮮などの「食事がおいしい」といった意見や「一番身近な海外」といった意見が多くみられた。また「活気のある街」といった意見も多く見られた。

(巻末資料参照)

《韓国》福岡市や九州の魅力

「街がきれい」、「人が親切・優しい」といった意見が多くみられた。また「温泉」や「自然環境」についての好意的な意見も多くみられた。

(巻末資料参照)

ニューかめりあ利用客アンケート

■調査概要

1. 調査の目的

ニューかめりあ利用客における福岡、釜山の両都市訪問の実態調査を行う。利用客の属性、満足度及びニーズ等を把握し、両都市における日常交流圏形成に関する研究の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象

福岡発のニューかめりあ乗船客の男女個人

※旅行等の体験を踏まえてアンケートを実施するため、出国する韓国人が対象

3. 調査方法

集合調査・自記入式

※博多港国際ターミナル内で乗船待ちのお客様にアンケート用紙を配布し、記入後に回収

4. 調査期間

出発地	主な対象者	乗船日設定	調査日	
福岡発	韓国人	平常日	11月29日(木)	11月30日(金)
		ピーク日	12月1日(土)	12月2日(日)

※利用客の多い日をピーク日と設定

5. 回収目標・回収実績

乗船日設定	主な対象者	回収目標	回収実績
平常日	韓国人	70 サンプル	92 サンプル
ピーク日		80 サンプル	106 サンプル
計		150 サンプル	208 サンプル

※回答者のうち約99%が韓国人

6. 調査実施主体・調査実施機関

調査実施主体：財団法人 福岡アジア都市研究所

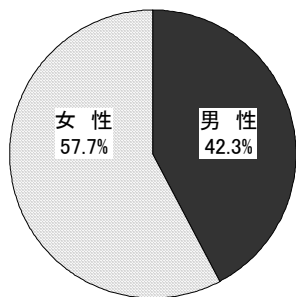
調査実施機関：株式会社 西日本リサーチ・センター

調査協力：カメラライン株式会社

：博多港開発株式会社国際ターミナル管理事務所

■対象者の属性

○性別



全体 (n=194)

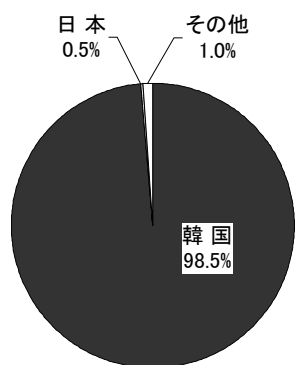
「男性」は 42.3%、「女性」は 57.7%となっている。

○居住地

居住地	件数
釜山市	64
慶尚南道 蔚山市	23
慶尚南道 金海市	11
慶尚北道 大邱市	10
慶尚南道 昌原市	9
ソウル市	7
慶尚北道 慶州市	7
慶尚南道 居昌市	6
慶尚北道 聞慶市	6
全羅北道 全州市	5
その他の地域	38

「釜山市」が 64 件で最も多くなっている。

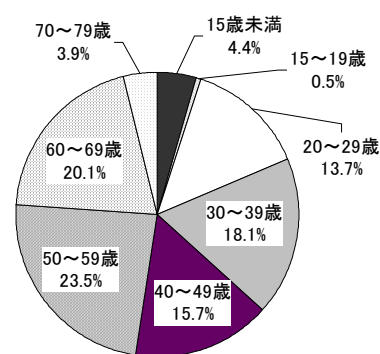
○国籍



全体 (n=204)

「韓国国籍」は 98.5%となっている。

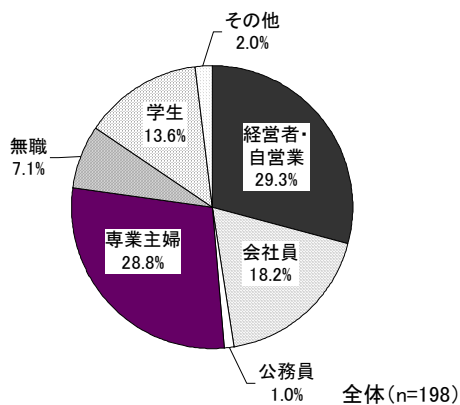
○年齢



全体 (n=204)

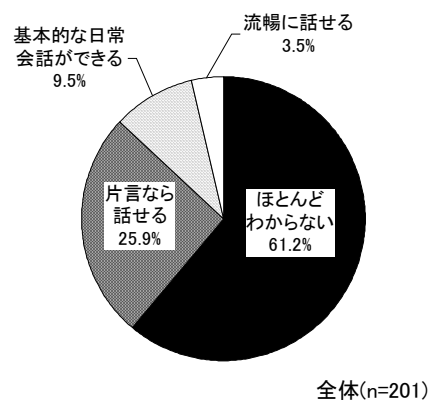
「50～59 歳」(23.5%)、「60～69 歳」(20.1%)、「30～39 歳」(18.1%) の順となっている。

○職業



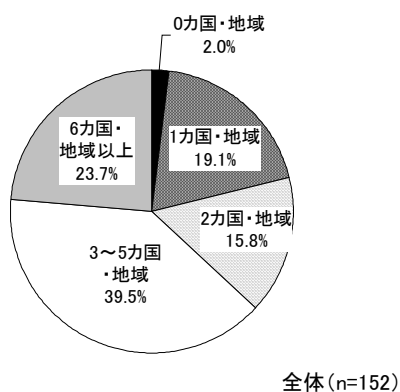
「経営者・自営業」(29.3%)、「専業主婦」(28.8%)、「会社員」(18.2%)の順となっている。

○語学力



「ほとんどわからない」(61.2%)、「片言なら話せる」(25.9%)の順となっている。また「片言なら話せる」から「流暢に話せる」の合計は4割近くとなっている。

○海外経験



「3～5カ国・地域」(39.5%)、「6カ国・地域以上」(23.7%)、「2カ国・地域」(15.8%)の順となっている。

○海外経験

海外経験	件数
日本	118
中国	66
タイ	34
アメリカ	33
香港	17
オーストラリア	15
シンガポール	13
マレーシア	11
ベトナム	11
カナダ	11
台湾	9
フィリピン	9
カンボジア	8
その他の地域	67

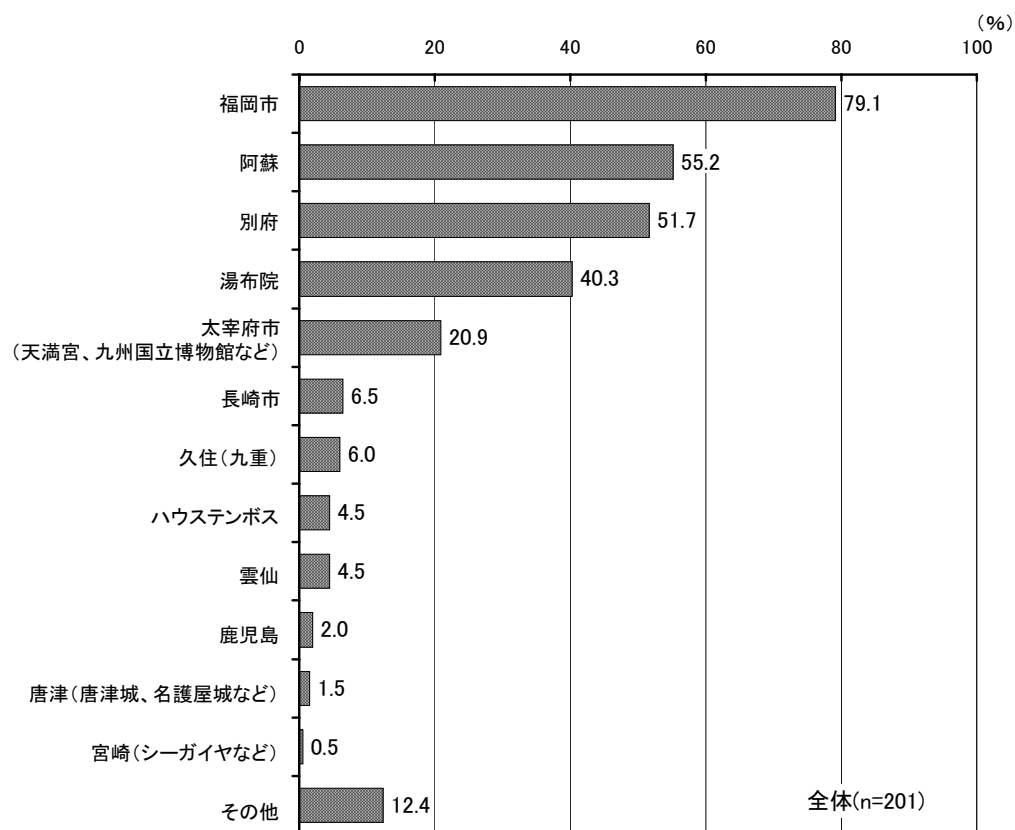
「日本」が118件で最も多く、次いで「中国」(66件)となっている。

■調査結果

Q1. 今回の訪問地

《韓国》今回の訪問地は「福岡市」(79.1%)が最も高くなっており、ついで「阿蘇」(55.2%)、「別府」(51.7%)、「湯布院」(40.3%)となっている。

また、その他の意見としては、「嬉野」や「熊本(黒川、菊池など)」の意見が多くみられた。



ビートル・コピー利用客との比較

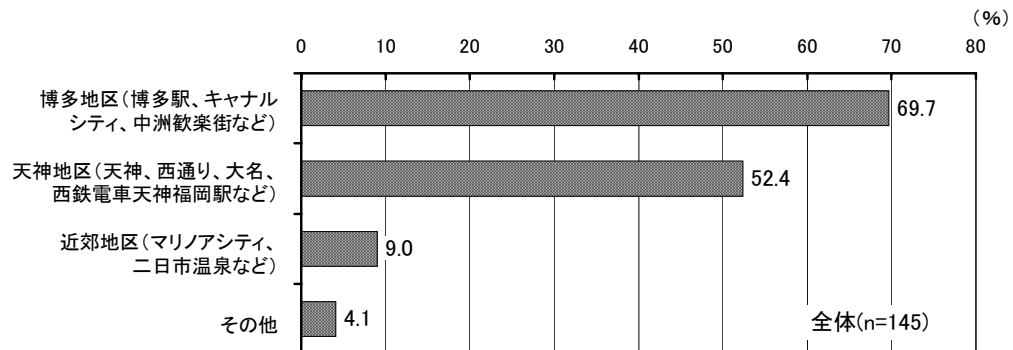
訪問地としては、「福岡市」、「阿蘇」、「別府」の順番になっており、先の調査と同様の傾向を示している。

項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q2. 福岡市での訪問先

《韓国》福岡市での訪問先は、「博多地区」(69.7%)が最も高く、「天神地区」(52.4%)、「近郊地区」(9.0%)の順で続いている。



ビートル・コピー利用客との比較

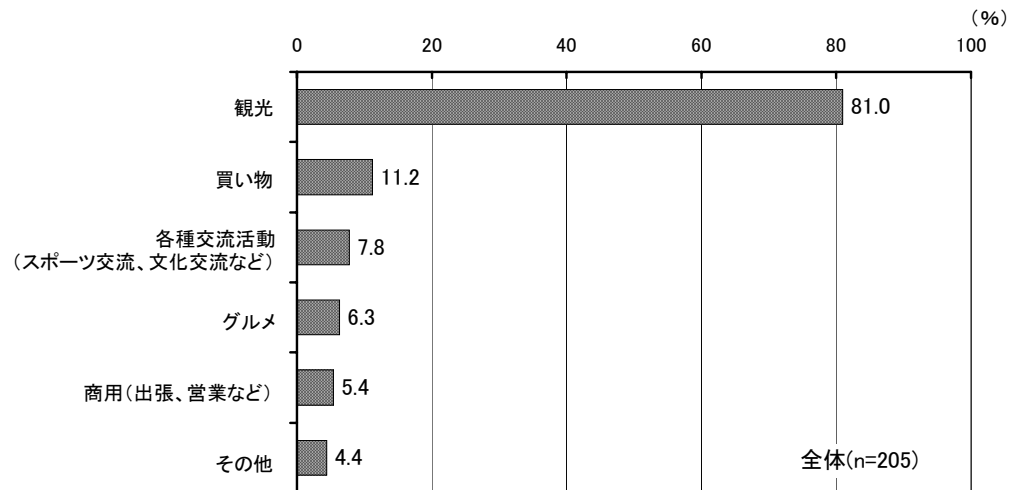
福岡での訪問先としては、「博多地区」、「天神地区」の順番となっており、先の調査と同様の傾向を示している。

項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q3. 今回の旅行で目的とする体験・行動

《韓国》今回の旅行の目的は「観光」(81.0%)が最も高くなっており、その他はほぼ1割以下となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

旅行の目的としては、「観光」が最も高くなっており、先の調査と同様の傾向を示している。

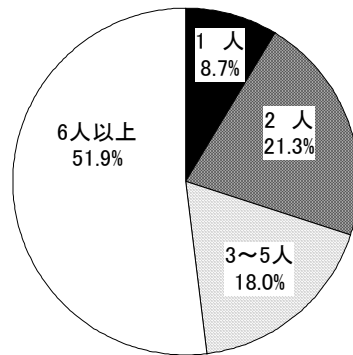
項目別の比較

性別でみると、男性に比べ女性の「買い物」の割合が高くなっている。

旅行頻度別にみると、月1回以上では「商用」、「買い物」の割合が高くなっている。

Q4. 旅行同伴人数

《韓国》同伴人数は「6人以上」（51.9%）が最も高くなっている。



【平均 11.70人】
全体(n=183)

ビートル・コピー利用客との比較

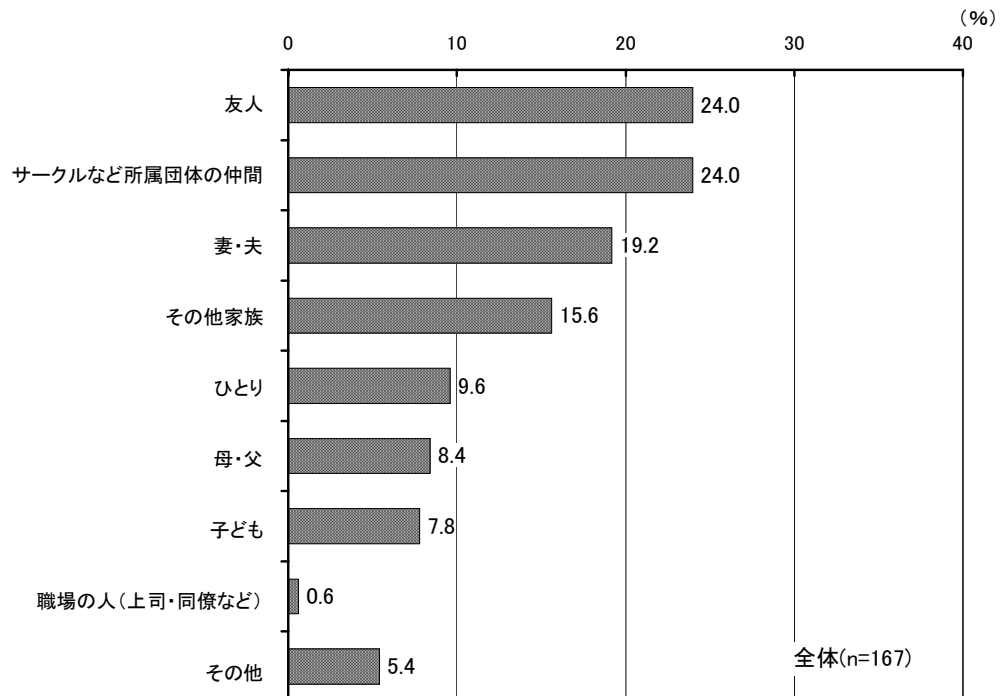
同伴人数としては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

項目別の比較

年齢別にみると、20代、30代では「2人」の割合が高くなっている。

Q4. 同伴者の続柄

《韓国》同伴者の続柄は「友人」、「サークルなど所属団体の仲間」(24.0%)が最も高く、次いで「妻・夫」(19.2%)、「その他の家族」(15.6%)となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

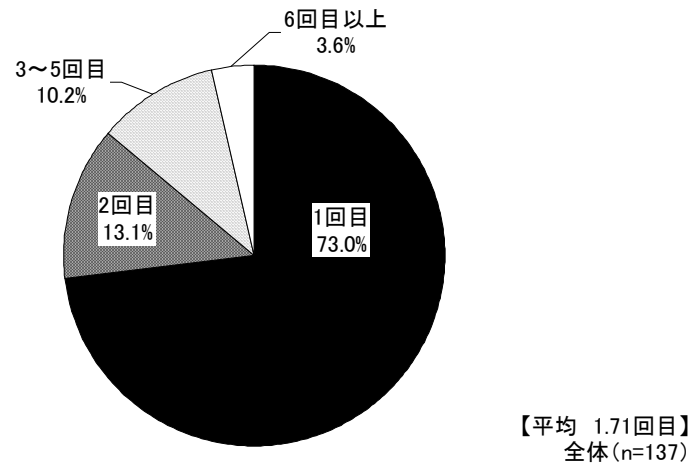
同伴者の続柄としては、先の調査では「職場の人」が最も高かったのに対し、本調査では「友人」、「サークルなど所属団体の仲間」が最も高くなっている。

項目別の比較

性別でみると、男性に比べ女性の「友人」の割合が高くなっている。

Q5. 日本への旅行回数

《韓国》旅行の回数は「1 回」（73.0%）が最も高くなっている。また「2 回」から「6 回以上」の合計をみると 26.9%となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

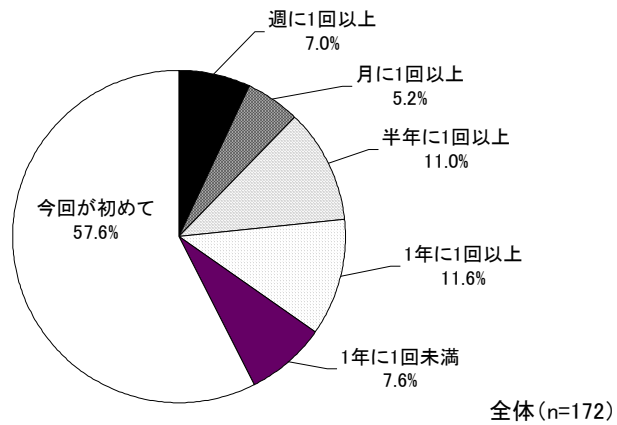
旅行回数としては、先の調査よりも「2 回目」以上の割合が高くなっている。

項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している

Q5. 日本への訪問頻度

《韓国》訪問の頻度は「今回が初めて」(57.6%) が最も高くなっている。また「週に1回以上」から「1年に1回以上」の合計は42.4%となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

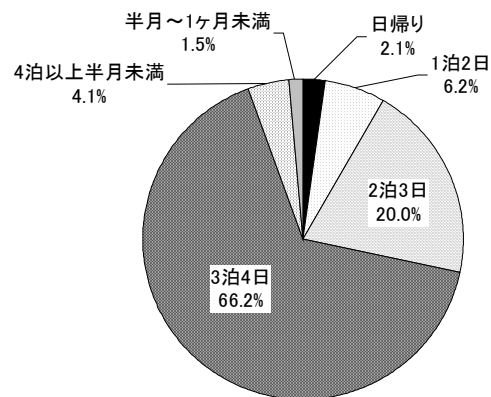
訪問頻度としては、先の調査よりも複数回訪問している割合が高くなっている。

項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q6. 今回の旅行日程

《韓国》旅行の日程は「3泊4日」(66.2%)が最も高く、次いで「2泊3日」(20.0%)となっている。



全体(n=195)

ビートル・コピー利用客との比較

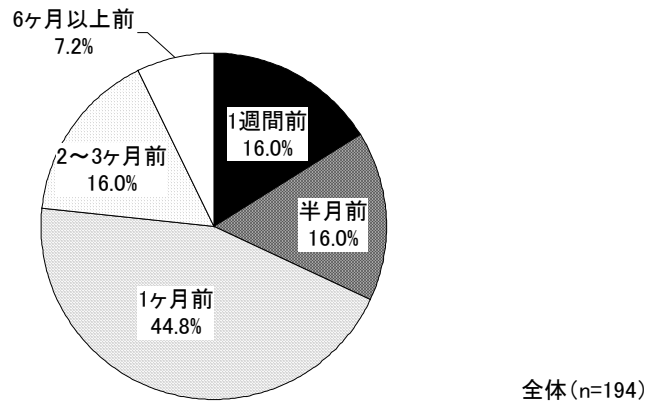
旅行日程としては、先の調査よりも「3泊4日」の割合が高くなっているが、2泊以上の割合に大きな差はみられない。

項目別の比較

旅行頻度別にみると、月に1回以上で「1泊2日」が最も高くなっているが、その他は「3泊4日」が最も高くなっている。

Q7. 今回の旅行計画時期

《韓国》旅行の計画時期は「1ヶ月前」(44.8%)が最も高く、次いで「1週間前」、「半月前」、「2～3ヶ月前」が16.0%で並んでいる。



ビートル・コピー利用客との比較

計画時期としては、先の調査では「2～3ヶ月前」が最も高かったのに対し、本調査では「1ヶ月前」が最も高くなっている。また「1週間前」、「半月前」の割合が先の調査を上回っている。

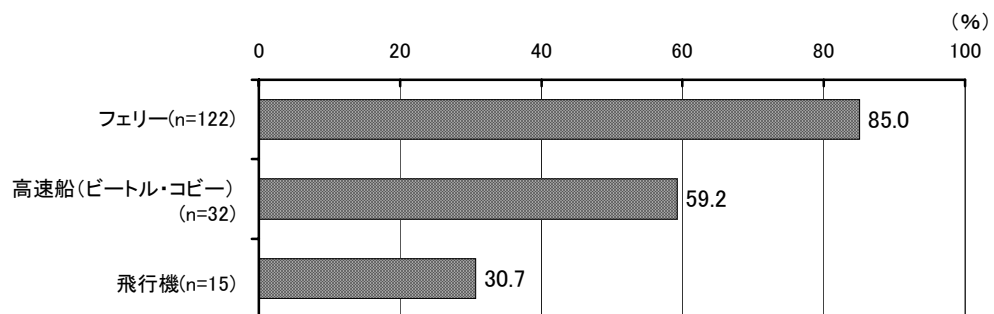
項目別の比較

同行人数別にみると、2人で「1週間前」が最も高くなっている。

旅行頻度別に見ると、月に1回以上で「1週間前」が最も高くなっている。

Q8. 福岡市訪問における利用交通機関の割合

《韓国》利用交通機関の平均をみると、「フェリー」(85.0%)が最も高くなっている。



ビートル・コピー利用客との比較

利用交通機関としては、先の調査では「高速船（ビートル・コピー）」が最も高かったのに対し、本調査では「フェリー」が最も高くなっている。

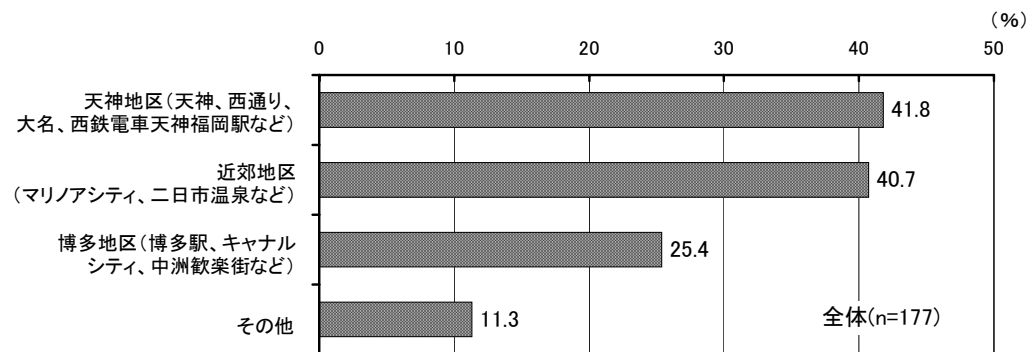
項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q9. 次回以降行ってみたい場所

《韓国》次回以降行ってみたい場所としては、「天神地区」(41.8%)と「近郊地区」(40.7%)、「博多地区」(25.4%)となっている。

また、その他の意見としては、「東京」や「大阪」といった九州以外の地名もみられた。



ビートル・コビー利用客との比較

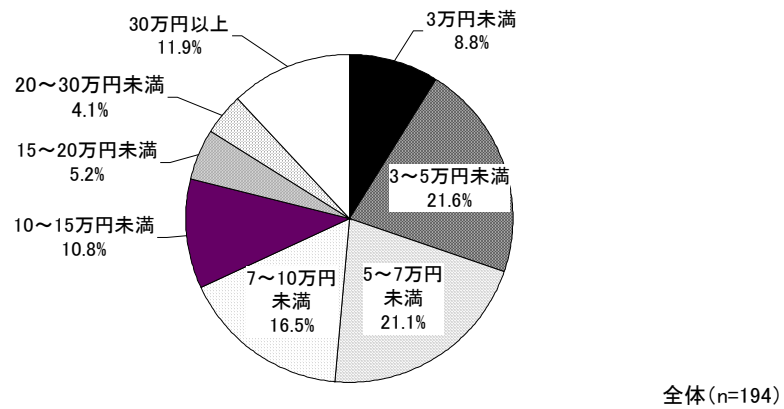
今後の訪問意向としては、先の調査では「近郊地区」が最も高かったのに対し、本調査では「天神地区」が最も高くなっている。

項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q10. 今回の一人当たりの旅行予算

《韓国》一人当たりの旅行の予算は「3～5万円」(21.6%)が最も高く、次いで「5～7万円」(21.1%)、「7～10万円」(16.5%)となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

旅行予算としては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

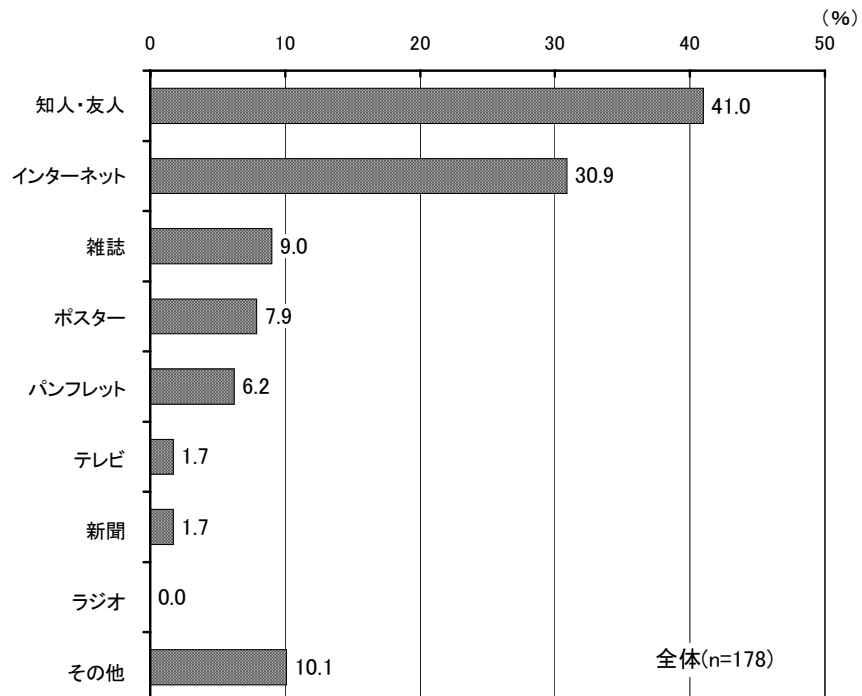
項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q11. ニューかめりあの認知経路

《韓国》ニューかめりあの認知経路としては、「知人・友人」(41.0%)が最も高く、次いで「インターネット」(30.9%)となっている。

また、その他の意見としては、「旅行会社」が最も多い意見だった。



ビートル・コピー利用客との比較

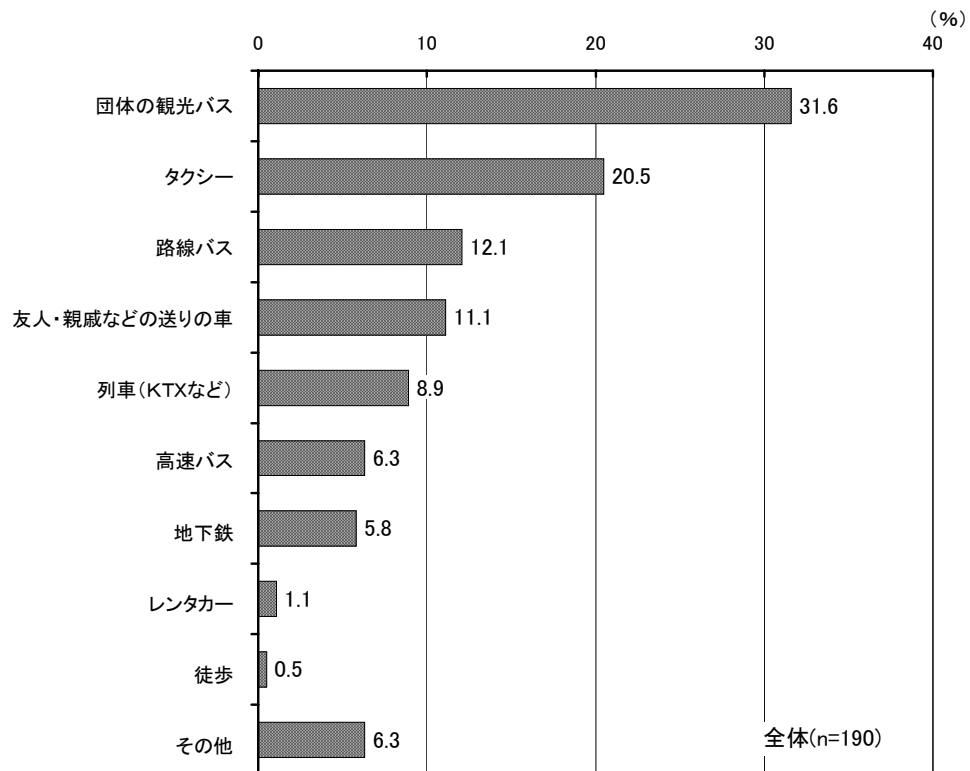
認知経路としては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

項目別の比較

年齢別にみると、20代以下では「インターネット」が最も高くなっており、6割を超えている。

Q12. 釜山港までの交通手段

《韓国》釜山港までの交通手段としては、「団体の観光バス」(31.6%)が最も高く、次いで「タクシー」(20.5%)、「路線バス」(12.1%)、「友人・親戚などの送りの車」(11.1%)となっている。
また、その他の意見としては「自家用車」があがっていた。



ビートル・コピー利用客との比較

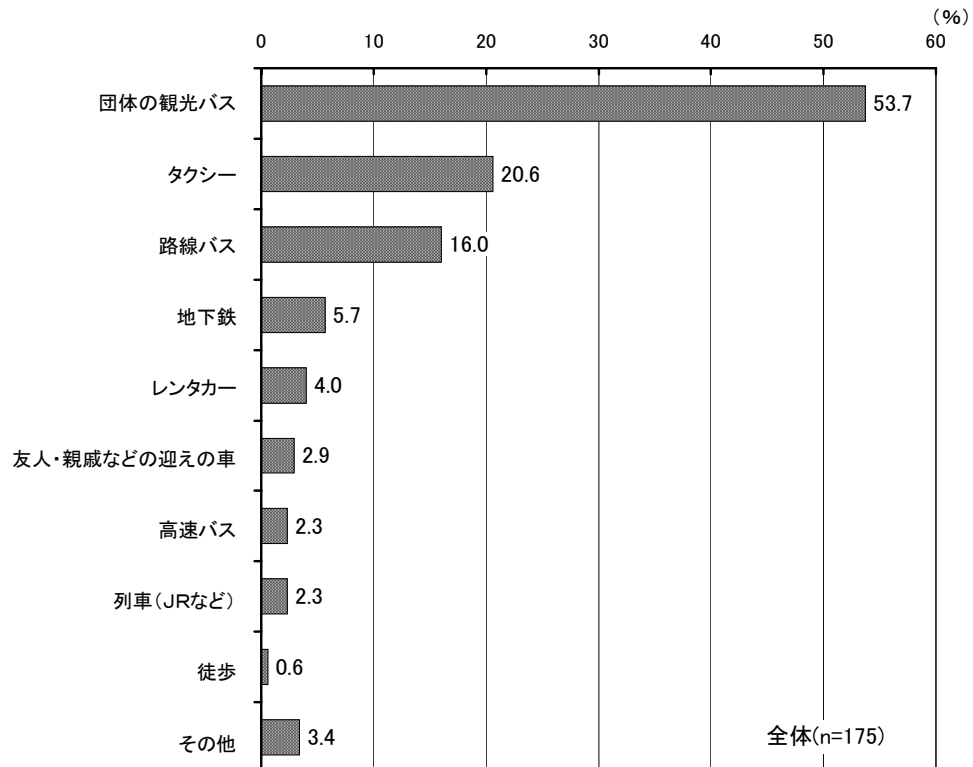
交通手段としては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

項目別の比較

同行人数別にみると、6人以上では「団体の観光バス」が最も高くなっている。

Q13. 博多港から目的地までの交通手段

《韓国》博多港からの交通手段としては「団体の観光バス」(53.7%)が最も高く、次いで「タクシー」(20.6%)、「路線バス」(16.0%)となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

交通手段としては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

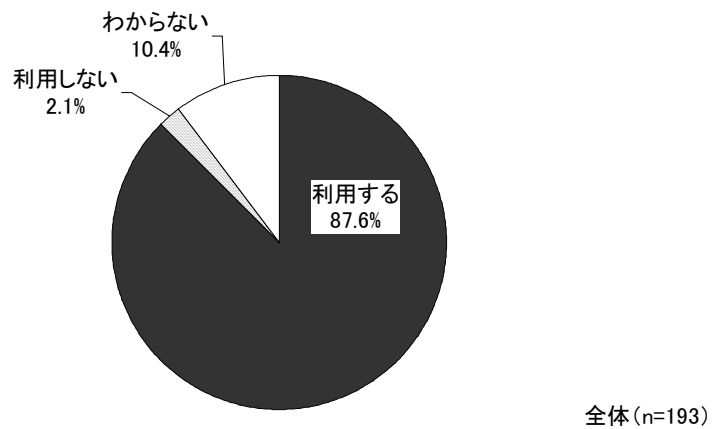
項目別の比較

同行人数別にみると、2人以下では「路線バス」の割合が高くなっている。

旅行頻度別にみると、月に1回以上で「タクシー」の割合が最も高くなっている。

Q14. ニューかめりあを利用した今後の九州への旅行意向

《韓国》ニューかめりあの今後の利用意向としては、「利用する」(87.6%)となっている。



ビートル・コピー利用客との比較

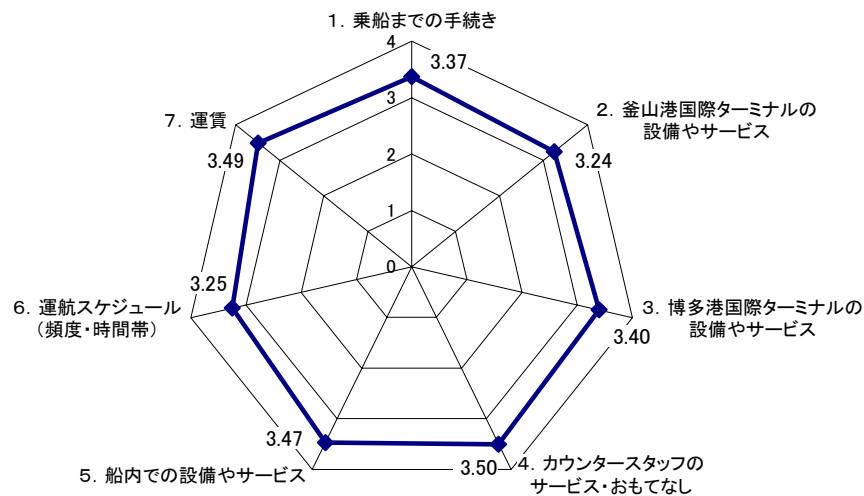
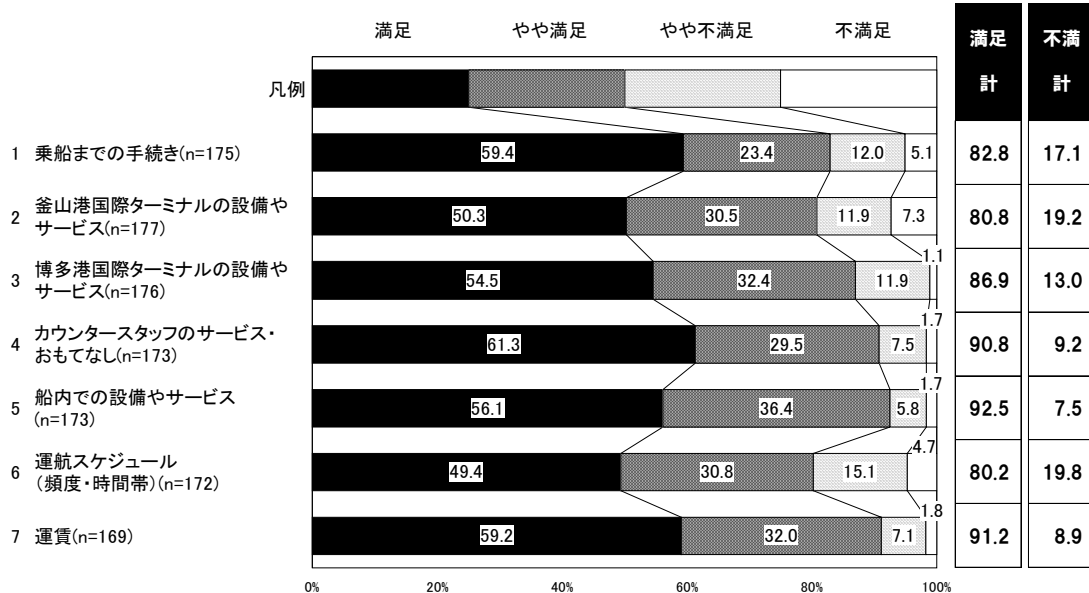
利用意向としては、「利用する」の割合が先の調査の 72.2%に対し、本調査では 87.6%と上回っている。

項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

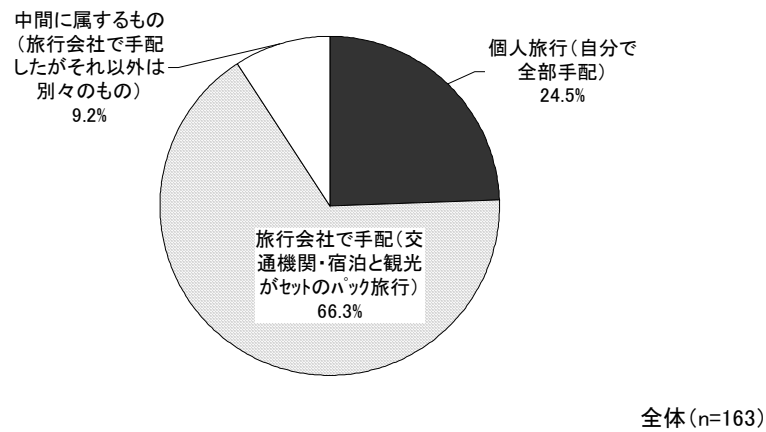
Q15. ニューかめりあに関する満足度

《韓国》「船内での設備やサービス」(92.5%)と「運賃」(91.2%)、「カウンタースタッフのサービス・おもてなし」(90.8%)で満足計(満足とやや満足の合計)が9割を超えている。また不満計(不満足とやや不満足の合計)は「運行スケジュール」(19.8%)、「釜山港国際ターミナルの設備やサービス」(19.2%)で高くなっている。



Q16. 今回の旅行タイプ

《韓国》旅行のタイプは「旅行会社で手配」(66.3%)が最も多くなっている。



ビートル・コピー利用客との比較

旅行タイプとしては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

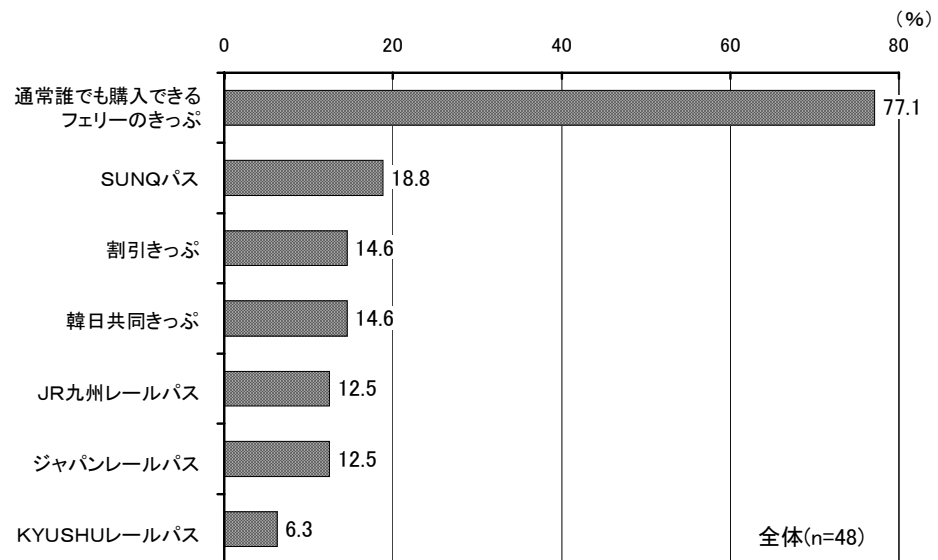
項目別の比較

同行人数別にみると、2人以下では「個人旅行」の割合が高くなっている。

旅行頻度別にみると、月に1回以上で「個人旅行」の割合が6割を超えている。

Q17. 購入および認知しているきっぷ、商品

《韓国》「通常誰でも購入できるフェリーのきっぷ」以外をみると、「SUNQパス」(18.8%)が最も高くなっている。



ビートル・コピー利用客との比較

認知している商品としては、どちらの調査も同様の傾向を示している。

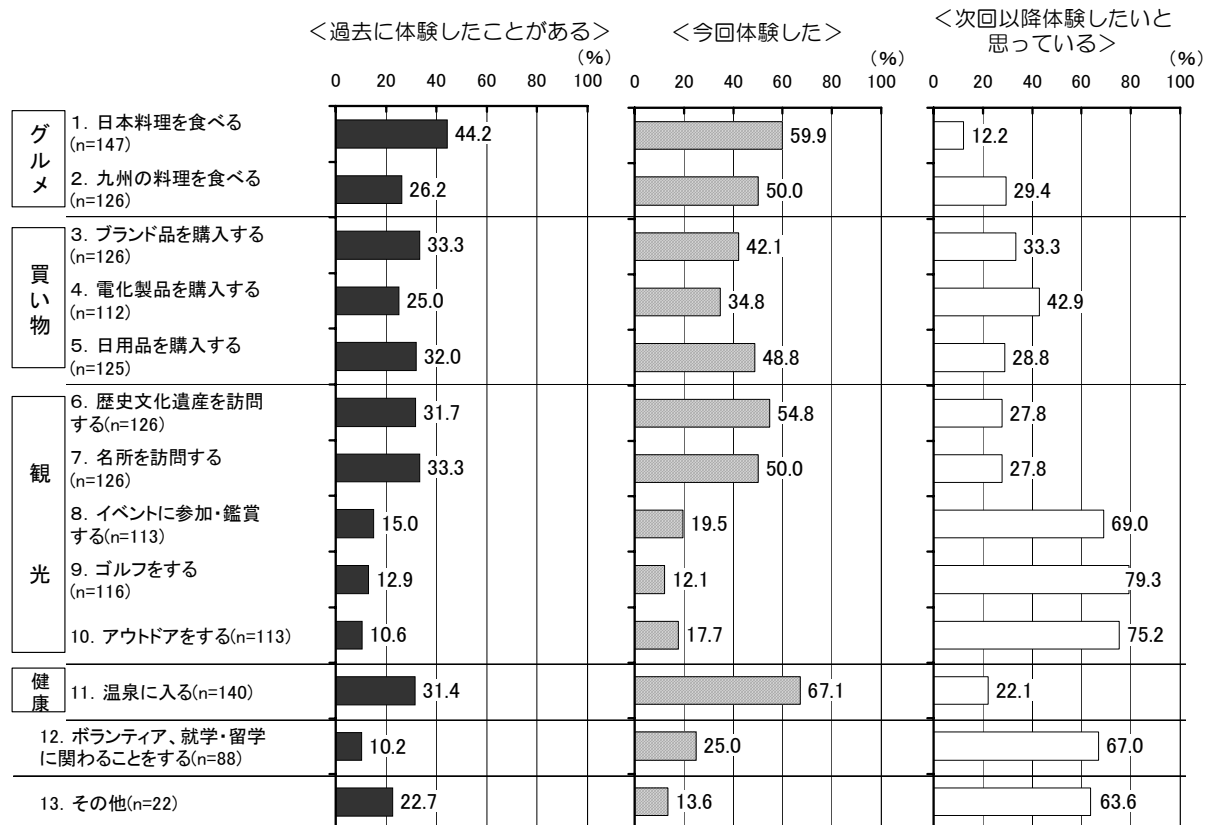
項目別の比較

いずれの項目も、全体の結果と同様の傾向を示している。

Q18. 韓国における体験経験および体験意向

《韓国》今回の旅行の目的を項目別にみると、「温泉に入る」(67.1%)、「日本料理を食べる」(59.9%)、「歴史文化遺産を訪問する」(54.8%)となっている。

次回以降に体験してみたいこととしては、「ゴルフをする」(79.3%)、「アウトドアをする」(75.2%)、「イベントに参加・観賞する」(69.0%)の順となっている。



FA. 訪問地の魅力について

《韓国》福岡市や九州の魅力

先の調査と同様に、「街がきれい」、「人が親切・優しい」といった意見や「温泉」についての意見が多くみられた。

(巻末資料参照)

《ビートル・コピー利用客》

○釜山市の魅力について 《日本票》

【男性・15歳未満】
・ おもしろい
・ カルビ、粥などの食べ物
・ 巨大な都市。カラフルな街
【男性・20～29歳】
・ 海がきれいだった
・ 海に近く福岡から手軽に行ける海外。食べ物がとてもおいしい
・ 海鮮、焼肉がおいしい
・ カジノと射撃。食事はまあまあ
・ 韓国人女性が素敵だった
・ 韓国第2の都市で日本(福岡)から近い。身近な外国
・ グルメ、カジノ
・ コピー商品の豊富さ
・ 食事、ショッピングが楽しめる。友人、親戚に会える
・ 食事がおいしい。日本から近い。物価が安い。いろんなものがある。初めてでも観光しやすい
・ 楽しかった
・ 食べ物がおいしい (3件)
・ 近くて遠い国であること
・ チヂミがおいしい
・ 人の優しさ
【男性・30～39歳】
・ 一番近い外国である。雑然とした活気あふれる街
・ 一番身近な外国の都市
・ 生まれ育った地
・ 活気がある (2件)
・ キムチ
・ グルメ、カジノ
・ 現実から離れることができる場所
・ 自分が住んでいるところは海と山に囲まれているので、釜山も同じような感じで親近感を覚えた。食事口にあっていた。韓国語の勉強をしているのでためになった
・ 食事、カジノ、ショッピング
・ ソウルや済州島と違い、本来の韓国の文化に触れられる気がする。食べ物がおいしい。永住したい
・ 近いこと
・ 日本語が通じるところが多い。料理がおいしい。福岡から近い
・ 日本でできない買物ができる
・ 日本と中国、アジアを融合したような街の様子のおもしろさ。おいしい食べ物が豊富にある
・ 福岡から近い外国で行きやすく手ごろ。特別な休暇を必要としない。食べ物にも違和感がない

釜山市の魅力について 《日本票》 つづき

【男性・40～49歳】
・ アプローチが近くて良い。ソウルに比べ人間が温かく、すぐ友達になれる。肉、魚、鍋、何でもおいしい。街も行くたびにきれいになっている
・ おいしい食事。雑然とした雰囲気
・ オフィスTELを持っているため、日常に便利
・ 開放感。創造的、積極的に生きる韓国人の姿。バイタリティあふれる韓国人の姿
・ カジノがあり良いところ。もう少し勝てるようになればもっと来たい。食事もおいしい
・ 観光についてはあまり魅力を感じないが、ショッピングは値ごろ感があり、また来てみたいと思った
・ 気軽さが良い
・ 気軽な海外旅行
・ グルメ、買い物（5件）
・ 食事がおいしい。日本語が通じる。円で買い物ができる。場所によっては国内よりも近い。活気がある。現地の旅行会社が親切。免税店がある
・ 楽しい街
・ 楽しかった
・ 食べ物、活気
・ 近くて、食べ物おいしい
・ 土・日で気軽にに行ける海外旅行。焼肉は以前より高くなったが、安くておいしいものがまだまだたくさんある。地下鉄が利用しやすくて便利。知人がおり行き来ができる
・ 日本よりも物価が安いので買い物しやすい
・ 福岡から近くて活気があって楽しかった
・ 物価が安い
・ 身近な海外、異文化
【男性・50～59歳】
・ 海鮮がとてもよい
・ 買物の雑踏。日本語だけでも不自由しない
・ カジノが楽しかった。街も全体的に美しくなっていた。食事がおいしかった
・ カジノが良かった（2件）
・ 活力ある街の様子
・ 九州から近い海外
・ 区画された町並みで歩きやすく分かりやすい
・ グルメ、買い物（2件）
・ 今回は新港を視察することが一番の目的だった。その規模、設備、将来性などすさまじいものを見せてもらった。釜山市の人口の減少など少し勢いを失っているなど聞くが、まだこの地の可能性の広がりを感じた。次は美しい慶州の桜かみじの時期を見にこれればよいなと思っている
・ 魚食が日本よりも多様で、実は深い
・ 食事がおいしい。物価が安い
・ 食の豊富さ
・ ショッピングが楽しくできる
・ 住みやすい街で、人が親切
・ 食べ物がおいしい
・ 食べ物がおいしい。タクシー料金が安い
・ 食べ物が安い。活動的な街
・ 近い、安い
・ 近くて大変楽しめる国
・ 手軽に異国文化に触れることができる
・ 似て非なる場所。非日常体験ができる
・ 日本から近いこと。各種市場が楽しい
・ 博多と雰囲気が似ている
・ 人が多く楽しい
・ 人が親切。エキジチック。食べ物がおいしい。買い物が楽しめる
・ 人の活気がある
・ 福岡市に似た港町。食べ物がおいしい
・ 釜山大好き
・ 最も近い外国
・ ゆったり感

釜山市の魅力について 《日本票》 つづき

【男性・60～69歳】
・ 思ったよりも発展していた
・ カジノが良かった
・ 活気・活力がすごい
・ 活気がある。カジノ。海産物が豊富
・ 活気のある都市（2件）
・ 気軽に行ける。自由きままな流行にも適している。食事がおいしい店をみつける楽しみがある
・ 気楽に短い日数で行ける
・ グルメ、観光
・ 食事がおいしい。観光地が多い。タクシー代が安い。イベントが多い
・ 永年の友人がいる。食べ物が安くておいしい。解放感を味わえる
・ 釜山市民がエネルギッシュだった
・ 最も近い外国
・ 最も近い外国。韓国語を学びたい。食べ物がおいしい。活気のある街
・ よく発展していること
【男性・70～79歳】
・ 行きつけのお店ができて友人となり、その人たちに会えるのが楽しみ。また、文通する友人もできたこと。海産物、農産物が安く買えること
・ 活動的で明るい都市である
・ 治安がよく、自由に行動できる
・ 近い。飲食がおいしく、ホテルは高いが一般庶民が利用する食堂は安い
・ 近くていつでも来れる。暇つぶしができる。日本語も通じて不安が少ない
・ 近くで外国ムードが味わえる
【男性・年齢不明】
・ 屋台・飲み屋などがずらりと並んでいる都会の裏通り。朝鮮戦争の時、避難民の住んだ町（サンドンネ）。人との巡りあいができる釜山特有のイベント・空間（在来市場、花火大会、国際映画祭など）

釜山市の魅力について 《日本票》 つづき

【女性・15～19歳】
・ 人が親切なこと。食べ物が安い
・ 料理がおいしい
【女性・20～29歳】
・ 映画「HERO」のロケ地となった
・ エステ、食事、ブランドショッピング
・ おいしい食事。活気ある市場
・ おいしい食べ物がいっぱい
・ 面白い店、屋台等が多い
・ 買い物しやすい
・ 活気がある。ホームに來た感じがする
・ 九州から近い（2件）
・ グルメ。どこに行っても都会
・ 情がある
・ 食と人の温かみ
・ 食べ物がおいしい、安い。アクセサリ類がかわいくて安い。海産物が多い。福岡から2時間55分と近い
・ 食べ物が日本人の口に合う。オモニのやさしさに触れることができる
・ 近い。早い。安い。ご飯がおいしい
・ 近い。夜景がきれい
・ にぎやかな街並み。夜景がきれい。日本語が通じる。食べ物がおいしい
・ 日本から一番近い海外で、気軽に行けること。ごはんがおいしい。飛行機でなく船で行けるので便利
・ 人がたくさんで、毎日がお祭りのよう
・ 人が優しくて温かい。とても親切
・ 福岡から近い。日本と似ている
・ 福岡から近いので気軽に利用できること。日本語を話せるスタッフがいたり、日本人が楽しく旅行できる要素が多いこと
・ 福岡県から近い。日本人が多いので安心できる
・ 福岡に雰囲気が似ており落ち着く。食べ物がおいしい。人が良い。ソウルよりも近く1泊2日で充分楽しめる
・ 釜山の人々。街、市場の活気
・ 物価が安い。市場がさかえている
・ 物価が安い。日本人に優しい。楽しい
・ 梵魚寺がすばらしかった
・ 街がコンパクトで、歩いて港からホテルまで行けること。物価が日本と比べて安く、食べ物がおいしい。夜遅くまでお店が開いている
・ 街がにぎやか。料理がおいしい
・ 街が開けていること。たくさん人がいて、にぎやかなこと。全体的に安く旅行ができる
・ 街のひとたち。福岡から近く、気軽に海外旅行が楽しめる
・ 屋台、焼肉などの食べ物。免税店での買い物
・ 屋台が多く食べ物がおいしい。海産物が豊か
・ 屋台がたくさんあり、毎日がお祭りのよう。とてもにぎやかな街
・ 食べ物がおいしい

釜山市の魅力について 《日本票》 つづき

【女性・30～39歳】
・「熱い」街。がちがちで人間ドラマを感じる。リフレッシュしに来るには最高の場所
・「安い」の一言
・一番近い免税店に行けること
・移動が便利。食事やショッピングが楽しめる
・ウィンドウショッピングや町並みを見るのが楽しかった
・エネルギー、人が親切。ただ、都市化に伴いだんだんと薄れてきたようにも感じる
・活気あふれる場所と人。日本とは違ったマナーや人と人のふれあいも魅力のひとつ。親切な人が多かった
・活気があって面白い。食べ物がおいしい。日本(東京)より物価が安い
・活気のある街。女性のパワーがすごい。食べ物もおいしいし、第二の故郷という気がする
・辛い料理がある。安い。福岡から近いので行きやすい
・韓国料理。芸能(映画)
・グルメ、買い物(値下げ交渉)など。韓国の『おばちゃんパワー』がとてもおもしろい
・ソウルも好きだが、ソウルよりも釜山にはまだ田舎臭さが残っており、親しみが持てる。海産物もおいしく、ソウルより物価が少し安く、買い物しやすい
・食べ物がおいしい
・食べ物がおいしい。コスメ天国
・食べ物がおいしい。近くなので手軽に行ける。日本語が通じる
・食べ物がおいしい。日本語が話せる人が多くて安心
・食べ物がおいしくて安い。乗り物も安い
・近い
・近くてすぐに行ける。釜山弁がおもしろい。人情がある
・土・日を使って気軽に行ける。日本語が通じる。食べ物が安い。人がフレンドリー。地下鉄を使えばどこでも行ける
・日本に近くて異文化に触れることができる
・ビーチが美しく、海鮮がおいしい
・比較的治安がよい
・人と物と食があふれ、活気のある街
・福岡から近い。おいしいものが食べられる
・福岡から近い。食べ物がおいしい。人が親切
・福岡から近くて行きやすい。食べ物がおいしい
・安くておいしいものが食べられる (2件)
・旅費が安い。市場などが多く楽しめた
【女性・40～49歳】
・市場に活気がある。西日本から近く、手軽に訪れることができる
・海産物が安く購入できる。程よい都会で買い物ができる。宿泊ホテルと市場が近い
・活気に満ちている。食べ物がおいしい
・魚がおいしい。ソウルより街が小さいが回りやすい。何よりも近い
・情がある。元気がある。辛いものがある。デザインの良い服・小物がある。人が良い
・食事がおいしい。日本語が通じる
・食事がとてもおいしい。開放感がある
・食べ物がおいしい (2件)
・食べ物がおいしい。日本から近い
・近い
・近いので気軽に訪問できる。食べ物がおいしい
・近くて、買い物も安く、日本にはないおもしろさがあり楽しい。多少汚いところも日本ではない感じがしてすごく良い
・近くて手軽に行ける
・近くて手軽に行ける。食べ物がおいしい
・日本から近い。旅費が安い
・日本語が通じる。焼肉がおいしい。近い
・福岡から3時間で来て食事もおいしく買い物もできて、主婦の私にはとても満足だった。今度はたくさんの友達と来たい
・街がパワフル、人がフレンドリー、食が豊か。嫌な目にあった記憶がほとんどない
・街に活気がある。ショッピングとグルメの両方が楽しめる。日本に近い風土のため親しみやすい
・洋服などは日本より質が良いものが安い。健康に良い食事がある

釜山市の魅力について 《日本票》 つづき

【女性・50～59歳】
・ 1泊2日で楽しめる
・ 垢スリ。観光。グルメ
・ あかすりが一番の楽しみだった
・ 一番近い海外ということで、気軽にリフレッシュするにはもってこいの場所
・ 今と昔の合体。人々の活気
・ 活気ある人々の暮らし方。自分の顔を覚えていてくれる人がいること。食べ物がおいしい。街がコンパクト。治安が良い。市民が親切
・ 活気に満ちている
・ 韓国第二の都市ということで活気あふれる市民の生活の様子や国民性に触れることができる
・ 見学するところが狭い地域にたくさんある。乗り物の運賃が安い。食べ物がおいしい。海がきれい。福岡市から近い
・ 国際市場などの露天が楽しい。食べ物が安くておいしい
・ 食事がおいしい。1泊2日で気軽に行ける
・ 住んでいる地域から船で簡単に行ける。知り合いがいる
・ 大都市で日本語が通じること。街中のいたるところにひらがな、カタカナ文字が表記されており、日本語が通じるので安心して買い物ができる
・ 食べ物がおいしい（3件）
・ 近い。食事がおいしい。旅費の手軽さ
・ 近い外国なので訪れやすい。買物、垢スリが楽しい
・ 近いこと
・ 近くて手頃な旅費で行ける。食べ物がおいしい。ショッピングがしやすい
・ 手軽にいける海外
・ 長崎から近い。手続きが簡単なため、行きやすい
・ 日本から近く、気軽に行ける
・ 日本国内の感覚で行ける
・ 人が親切なところ
・ 目的地までの所要時間が短い
・ 料理がおいしかった
・ 旅行代金が手軽で安い。食べ物がおいしい
【女性・60～69歳】
・ 九州から近いこと。何でも揃う
・ 食べ物(グルメ)、ショッピング
・ 食べ物
・ とても活気のある港
・ 福岡から近い外国。買物、おいしい物、美容・健康の欲求を同時に満たせる
・ 福岡から近く、旅費が安い。日本と雰囲気が似ているので安心できる
・ 古い文化が残っているところ
【女性・70～79歳】
・ 九州から一番近い外国で、行きやすい。何でも揃う
・ 近い。食べ物がおいしい。親切な人が多い
・ 人間性が豊かである。私たち日本人に大変優しく気配りがある
・ 人間性が豊かで親切。日本人にわかりやすく接してもらえ、良く理解してもらえ、買い物等もとても楽しい
【女性・年齢不明】
・ 一番近い外国。垢スリが好き。食べ物がおいしいので何を食べるかいつも迷う
【性別不明・50～59歳】
・ 食べ物
・ 福岡に近い
【性別不明・70～79歳】
・ 月に2回以上利用しているので回数券または超割引券を用意してほしい

○福岡市や九州の魅力について <<韓国票>>

【男性・15歳未満】
・ 遊ぶところが多い
・ 学校と一緒に登校する子供たちが印象的だった
・ 環境(自転車に乗ること)に優しい
・ 韓国にない電車が印象に残る。美味しいお菓子が多い
・ キャナルシティのように、見て楽しめるところが多い。色々な伝統文化(古遺跡地、寺、温泉)を経験した
・ 伝統文化、伝統料理(神宮に行く道に多くあった)が良かった
・ 人々が親切だ。都市の発展、人々の優しさが魅力的だ
・ 人々が優しい
・ 余裕ある日本人の生活。運転マナー(クラクションを鳴らさない)
【男性・15～19歳】
・ 自然景観、温泉が良かった
・ 自然環境。人々が親切だ。住みやすいところ
【男性・20～29歳】
・ 韓国と変わらない物価。韓国に近い
・ 交通、奇麗な街、親切な人々。多様な文化。ナンパ、奇麗な女性が多い
・ 自然環境が良い
・ 人々が親切だ。街が奇麗だ
・ 人々が親切だ。街が奇麗だ。福岡タワーの夜景
・ 釜山から近い。個々人の自由がある
・ 故郷と似ている自然環境。人々が親切だ
・ 街が奇麗だ。人々が親切だ (2件)
・ 街が奇麗だ。人々が親切だ。観光しやすい観光地だと思う。韓国語の案内(バスなど)が充実している
・ 街が奇麗で静かだ
【男性・30～39歳】
・ 美味しい食べ物。街が奇麗だ
・ 韓国から近いので簡単に訪れることができる。韓国語の案内が多くて旅行するのに便利だった
・ 韓国から近いので船を利用して簡単に訪れること
・ 韓国に近い。街が奇麗だ。物価も高くない
・ 奇麗で親切だ、暖かい。都市区域が安定的だ
・ 奇麗な女性が多い。人々が親切だ。街が奇麗だ
・ 近い。韓国とは違う魅力がある。適当に大きくて適当に賑やかな都市
・ 都市が奇麗だ。交通渋滞がない
・ 都市が奇麗だ。人々が親切だ。交通渋滞がない。食べ物が美味しい。交通が便利だ
・ 都市が奇麗で静かだった。自然環境と高速道路が印象的だった
・ ハウステンボスが良かった。しかし、ハウステンボスに行く電車が少なかった。それで、ゆっくり見るができなかったのが残念だ
・ 初めて福岡を訪問したのでよく分らない。日本人の表情が暗い。個人的には満足してない観光だった
・ 人々が親切だ。食べ物が美味しい。温泉が良かった
・ 釜山から近い。親切だ。福岡から近郊(温泉など)への移動が便利だ
・ 街が奇麗だ
・ 街が奇麗だ。人々のマナー
・ 港都市に魅力を感じる
・ 多情多感

福岡市や九州の魅力について <韓国票> つづき

【男性・40～49歳】
・ 暖かい。韓国から簡単に来ることができる。韓国人が多い
・ 温泉
・ 交通秩序。人々が親切だ
・ 港湾都市として清浄地域であり、余裕ある生活ぶりが印象的だった
・ 親切だ
・ 親切な市民。綺麗な街。美味しい食べ物、サービス。よく保存されている伝統文化。便利で快適な交通施設（バス、地下鉄）。豊かなショッピング素材。各地域ごとに便利なハングル案内
・ 人々が親切だ。自然環境が良い。快適で便利な電車
・ 釜山から一番近い。気候が良い。費用が安い。ゴルフ場が多い
・ 釜山から近い
・ 釜山から近い。交通便も良い
・ 釜山から近い。人々が親切だ
・ 釜山から近い。見どころ（伝統、寺、ショッピングなど）が多い。多様な体験
・ 釜山と近い。韓国語の案内と表示があって便利だった
・ 街が綺麗だ。人々が親切だ。温泉が魅力的だった
・ ラーメン、海、温泉、清潔、気候
【男性・50～59歳】
・ 阿蘇山が良かった
・ 韓国から近い。温泉
・ 綺麗で親切だ（2件）
・ ゴルフ場が良かった
・ 自然環境（木と森）、温泉が良かった
・ 自然環境、人々が親切だ
・ 周辺環境（自然環境）がとてもきれい
・ 親切、秩序
・ 都市が綺麗で静かだ。伝統がある。自然環境
・ 本州・北海道などと似ている
【男性・60～69歳】
・ 便利な交通
・ 整備された道路、山林、街が綺麗だ。効率的な空間活用。阿蘇山の噴火口が良かった
・ 温泉（2件）
・ 秩序、清潔
・ 秩序、余裕、物価が安い（生活用品）
【男性・70～79歳】
・ 質素で国民が国の発展のために団結・協調しながら生活しているように感じた
・ 自然環境、街が綺麗だ

福岡市や九州の魅力について 《韓国票》 つづき

【女性・15歳未満】
・ 人々が親切だ
・ 山、温泉が良かった
・ 街が綺麗だ
・ 温泉が良かった（2件）
・ 綺麗な都市、夜景。人々が親切だ
【女性・15～19歳】
・ 美しい海が良かった
・ 街が綺麗だ。情けが多い
【女性・20～29歳】
・ 「温泉」というテーマ観光がとても良かった。家族も大満足だった
・ 美しい港湾都市
・ 海、食べ物
・ 美味しい食べ物（ラーメン、刺身、寿司など）。綺麗な街。親切な人々
・ 温泉が良かった（3件）
・ 温泉が良かった。皮膚がつるつる。ハウステンボスも綺麗だった
・ 各地域ごとに特徴があって良かった。都市がとても綺麗だった。もう一度訪問したいと思った
・ 韓国から近い、移動が便利だ
・ 韓国と近いが、風景（温泉、火山）は相違的だ
・ 韓国に似ている
・ 交通、ショッピング、韓国から近い
・ 今回は、福岡市と九州の観光はできず、東京を観光した
・ 静かで綺麗だ。人々が親切だ。日本人と親しくなりたい（日本語の勉強頑張ります）
・ 自然環境、観光地（福岡周辺施設）、親切な人々
・ すべて
・ 住みやすいところ。温泉、食べ物も負担がない
・ 地下鉄路線が簡単だ
・ テーマパークが綺麗で良かった。車が小さくて可愛い
・ 東京などの大都市とは違い、静かな雰囲気、新鮮な海産物、ラーメンが美味しかった（もつ鍋も美味しい）
・ 都市が綺麗だ。韓国から近くて簡単に來ることができる。物価が東京・大阪より安い。韓国語の案内も充実している
・ 都市が物静かだ。とても暑い。自然環境がよかった
・ 情けが多いところ。住みやすいところ。温泉と日本文化を体験することができた
・ ハウステンボス、雲仙、宿泊施設、温泉などが良かった
・ ハウステンボス・阿蘇ファームランドなどのテーマパーク、阿蘇山の巨大な噴火口、露天風呂が良かった
・ 初めての旅行だが、安心して楽しむことができた。交通の利用も問題なかった。天気も良かった
・ 派手ではないが、温かい日本人の情け
・ 福岡市は、街が綺麗だ。ショッピングセンター従業員のサービスも良かったし、とても親切だった。九州観光地の自然環境は印象深かった。また、九州を訪れたい
・ 釜山と近い。綺麗で静かな都市
・ 街が綺麗だ（道路が混んでない）
・ 街が綺麗だ（2件）
・ 街が綺麗だ。楽しいショッピングセンター、ハウステンボスの花火と夜景が印象的だった
・ 街が綺麗だ。人々が親切だ
・ 街が綺麗だ。人々が親切だ。山と木に囲まれた都市。温泉が良かった
・ 街が綺麗でゴミがない
・ 街が綺麗で静かだ
・ 街が綺麗だ。移動が便利だ。案内所が多くて移動時に質問が用意だ
・ ラーメンが美味しいこと。洋服のセンスが良い人が多いこと
・ 道路・地下鉄などが綺麗だ。自転車が多い。人々が親切だ。コンビニが多い。釜山から近い。色々なショッピングモールがある

福岡市や九州の魅力について 《韓国票》 つづき

【女性・30～39歳】
・ 温泉、火山
・ 温泉、住みやすい
・ 温泉の種類が多い
・ 韓国から近い。ラーメンが美味しい。ショッピングが楽しい
・ 機会があればもう一度訪問したい
・ 綺麗な街、勤勉な生活、毎日お風呂をする。しかし、活気がないので面白くない
・ 交通、綺麗な街
・ 静かな街、美しい自然環境
・ 自然環境、綺麗な街
・ 食べ物。徒歩で可能な旅行だったので良かった
・ 秩序を守る
・ 都市が整備されている
・ 福岡は日本なのに南国の雰囲気がある。また、東洋なのに西洋の雰囲気がある。本州とは違う雰囲気(例えば教会。本州では教会をみる事ができなかった)がある。韓国から近いので利便性が良い
・ 釜山から近い。軽い気持ちで旅に出かけることができる
・ 釜山から近い。楽しいショッピング
・ 釜山と近い。福岡から行ってみたいと思う観光地が近くにたくさんある
・ 街(道路)が綺麗だ。人々が親切だ
・ 街が綺麗だ。食べ物が美味しい
・ 街が綺麗だ。人々が親切だ
・ 街が綺麗だ。人々が親切だ。秩序を守る
・ 街が綺麗だ。人々が親切だ。みんなが平和に見えた
【女性・40～49歳】
・ 400年伝統のうどんを美味しく食べた
・ 田舎風景を感じることができる絢情的な都市
・ 温泉、食べ物が美味しい
・ 温泉が良かった (4件)
・ 快適な環境(自然環境)と道路
・ 火山、温泉
・ 韓国から近い。観光地が多い。温泉が多い
・ 韓国と近い。観光と温泉が容易だ
・ 綺麗な街と秩序、温泉
・ 地獄温泉
・ 自然環境
・ 質素、派手ではない家屋が印象的だ。原爆投下された地域は胸が痛かった。二度とこのような戦争が発生してはならないと思った
・ 質素な生活、秩序を守る
・ 生活環境が安定している
・ 誠実、勤勉、清潔
・ 素質で綺麗だ。しかし、面白くはない
・ そのまま保存されている自然環境が良かった。釜山から近いのでいつでも利用することができる
・ 大都市でもなく田舎でもないところ。親切だ。綺麗だ
・ 秩序、人々が親切だ
・ 派手ではない都市だが、綺麗で空気が清い。みんなが優しい。温泉も良かった
・ 雰囲気が暗い
・ 他の都市に比べて移動が便利だった。特に、別府の温泉は見物も多くて面白かった
・ 街が綺麗だ (3件)
・ 街が綺麗だ。道路沿いに花がたくさんあったら良いだろう
・ 街が綺麗だ。余裕ある生活
・ 未来志向的な都市の建物。韓国語の表示があちこちにあり、不便なく移動することができた
・ ゆったりした気持ちになれること。温泉、人々が親切だ
・ 夜と昼が相反する都市風景が魅力的だ
・ 温泉、街が綺麗で静かだ
・ 質素、ルールを守る、公害が少ない、街(車、建物など)が綺麗だ。とても魅力的な都市だと思う。ガイドの説明で日本を少し理解することができた

福岡市や九州の魅力について 《韓国票》 つづき

【女性・50～59歳】
・ 温泉が良かった（3件）
・ 温泉、火山
・ 温泉、交通渋滞がない
・ 温泉が魅力的だ
・ 韓国から近い
・ 山林と阿蘇の噴火口、韓国と大きく変わらないところが印象的だった
・ 自然環境が良い（2件）
・ 都市が安全だ。自然環境が良かった。楽しい時間を過ごした
・ 都市が安全だ。街が綺麗だ
・ 都市の雰囲気（自由、ゆとり）が良い
・ とても静かで安全な都市だった。第二の故郷のように楽な旅行地だった。他の人に薦めたい都市だった（街が綺麗だ、鬱蒼な森、清い空気など）
・ 人々がとても親切だ
・ 街が綺麗だ。秩序を守る。交通が便利だ
・ 礼儀正しい。人々が親切だ
【女性・60～69歳】
・ 九州の自然史博物館、太宰府天満宮、南蔵院などの自然環境
・ 九州の自然史博物館の施設と資料展示が良かった
・ 自然環境が良かった
・ 釜山居住者にとって交通が便利だ
・ 街が綺麗だ、人々が親切だ
【女性・70～79歳】
・ 韓国から近い。町がきれい。人々が親切。阿蘇山火口のガス噴出光景が良かった。車寄子を借りて良かった
・ 質素、節約
・ 福岡で日本式チャンポンを美味しく食べた
・ 未来志向だ
【性別不明・40～49歳】
・ 街が綺麗で静かだ
・ 秩序を守る、街が綺麗だ
【性別不明・50～59歳】
・ 質素な生活
【性別不明・60～69歳】
・ 温泉
【性別不明・70～79歳】
・ 都市が綺麗だ
【性別不明・年齢不明】
・ 異国の風景と古典がよく保存されている

○今回の旅行についての意見・要望 <日本票>

【男性・15歳以下】
・ ゲームセンターがおもしろかった
・ ビートルに酔った
・ 船に酔った。船内販売があつてとても便利だった
【男性・20～29歳】
・ 24～26日はほとんど店が閉まっていた
・ S級への出会い。ホテルがきれいだった。とても楽しかった
・ 外国にはやはり2、3回行かないと良さがわからない。また行きたい
・ 韓国(釜山)の事前勉強が足りなかった。もう少し勉強しておくべきだったと思う。日本と韓国の似ているところ、似ていないところがわかったことがよかった
・ 韓国では意外と英語が通じなかった
・ たくさんおいしいものを食べることができて良かった
・ ビートルで船酔いした。時間がもっと短くなればよいと思う
・ 釜山の人が優しくかった。ショッピングが楽しかった
・ 物価が安かった
・ 料理がおいしかった。ガンシューティングが楽しかった
・ ロッテのカジノが新しく、なかなか良かった。食べ物は相変わらずおいしかった
【男性・30～39歳】
・ FAXに頼りすぎ
・ 急ぎの用に対応してくれて、受付の対応がとてもよかった
・ 円のレートが低い
・ おいしい料理、おいしいお酒を満喫した。少しでも韓国語を勉強していけばよかった
・ 改善してほしい点は、街が汚いこと、日本人に高い価格を提示すること
・ 買物、食事は楽しめたが、土産物店の店員が強引であった
・ 買物しかないのではつまらなかった
・ 家族で来るところではないと思った。食事が合わなかった
・ 韓国語、ハングルが読める程度の勉強をしておけばよかった
・ キムチがおいしかった
・ 食事、ホテルはよかった。時間が余りすぎた
・ 大変良かった。特に食べ物がおいしかった
・ タクシーの遠回りに不快感を覚えた
・ 短時間とはいえ、初の韓国を楽しめた。国際市場で屋台食を満喫した。行きのビートルで船酔いした
・ 地域の人たちと触れ合えたり、食堂やカラオケなどで交流できよかった。ぜひまた行きたい
・ チケット割引などの情報をもっとオープンにしてほしい。特に駅などで、プサン国際映画祭の情報など、タイムリーな情報をオープンに
・ 船で海外に行けたこと、友人ができたことがよかった
・ もう少し日程が長ければよかった
・ 良い点:食べ物のおいしさ。悪い点:タクシードライバーの運転マナー
・ 焼肉がおいしかった

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【男性・40～49歳】
・ 15:30の出発便がほしい。インターネットの予約時に回数券が使用可能にしてほしい。携帯電話サイトで空席確認、予約ができるようにしてほしい
・ 1泊2日では短すぎたので、少なくとも2泊3日の旅行を計画したい
・ 1泊2日なので時間が足りなかった
・ カニがおいしかった
・ 気軽に旅行できるところが良かった
・ 木村拓哉の『HERO』のロケ地や、彼が食事をした食堂に行けたことがよかった。安くて(1杯400円)、とてもおいしい昼食だった。店の人は日本語は分からなかったがフレンドリーに接してくれた。片言でも韓国語が話せてよかった。韓国人の友人は日本語が話せるので助かるが、こちらをもっと韓国語を話せるようにならないといけないと痛感。文字も読めるようになりたい
・ 個人タクシーに乗った際、港から国際市場まで4200ウォン、同じところから別のタクシーに乗った時は2100ウォンだった。同じ距離で金額が違った
・ 下調べや買いたいものをしっかりと計画せずいきあたりばったりで買い物をしたので、無駄に歩き回ってしまった。言葉を勉強していなかったので、次は簡単な日常会話を勉強して行きたい。ガイドさんはとても若かったが、気持ちが優しく、よく勉強していた。国際市場での買い物が楽しかった。以前と違ってウォンの計算法がややこしくなっており、財布からお金を出すのに手間取った
・ 食事が良かった
・ 天気も良く過ごしやすかった
・ 天候が悪くてあまりまわることができなかった。食べ物がとてもおいしく、また来たいと思った
・ 博多港にビートルを利用すると安くなる駐車場があったが、7時20分でも入れなかったのが残念
・ ビートルチケットがインターネット、平日割引、スペシャル、往復割引よりも安くて良い。ホテルもツアーでなくても安くてきれいなところは探せばいくらでもある。日本もそうであるが、釜山は日本以上に変化が激しく、数ヶ月単位で変わっている。近頃は円安なので買い物がしにくくなった。数円前を知っているので割高感がある
・ ビートルの出港時間の感覚が短すぎる。せめて1時間くらいは空けた方がよい
・ 福岡ターミナルのトイレの便座が割れている。日本なのに汚かった
・ 満足できる食事、名所であった
・ 良かった
・ わりと安心できるところである。危険は少ないようだが地下鉄での物もらいは良くない。日本人に対する態度もわりと良かった。韓国人の知人といつも一緒だからかもしれないが、不安は少ない。物価が高いのが問題である。いつかはこの地で暮らしてみたいものだ
【男性・50～59歳】
・ 行きの便でうたた寝し風邪を引いて観光できなかった
・ 飲食の物価は日本と変わらなかった。早朝着、夜間発など、1泊2日でも長い時間滞在できる便がほしい
・ ウォンの価値がわからなかったなので、コーラ1缶に35000ウォンと言われて支払った。買物袋2個を道端に1分ほど置いていたら盗まれてしまった。信じられない
・ ガイドがすごく楽しかった。意義深い話をしてもらって一層楽しい思い出となった。春にソウルに行ったときもガイドがとてもよく韓国のイメージが楽しいものになっていてうれしい限り
・ 高層ビルが多く、驚いた
・ 国際港としての博多港の設備の充実、博多港の売店の充実を希望する
・ 食事が良かった
・ ショッピングセンターが良かった
・ 親族に会えて楽しかった。大邱の街がよかった
・ 当初の計画どおり、国際市場、チャガルチ市場を歩いて回ることができた。思ったより客引が少なく、安全に行動ができた
・ 博多港ターミナルの駐車料金が高い (3件)
・ ビートルのトイレを増設してほしい
・ 物価が高かった(特にホテル代金)
・ ますます釜山が好きになった。また来たいと思っている
・ 満足できた
・ 身近な感じがした
・ レインボーブリッジが素敵だった。夜景がすばらしかった

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【男性・60～69歳】
・ ガイドの案内する店のずるさにはあきれるばかり
・ 今回の旅行は韓国が盆休みであったため、グルメ・観光が充分できず大変残念であった。次回の訪問に残しておきたい。しかし、地図等を確認しながら場所がよくわかったのでよかった。次回は特にグルメを楽しみにしている
・ 生活習慣に違いがあった
・ ツアーは楽であった。次回は自由に行動したい
・ 天気がよく、スケジュール通りに動けた。たくさんの荷物を持って改札から乗船までの距離を歩くのは大変なので、もう少し短くするか動く歩道にしてほしい。福岡港は建替の時期になっているのではないか
・ 日本人に向く(理解しやすい)メニューを提案してほしい
・ もう少し時間が必要
・ 友人のもてなしに満足した。ウォン高、円安で物価が高く感じた。ロッテホテルのサービス不足。街をきれいに。ビートルの職員はもっと乗船客に挨拶が必要
【男性・70～79歳】
・ 公共の標識に英語または日本語表記を入れてほしい
・ 近くておいしいものが食べられた。マッサージが良かった。ウォン高円安で物価が高い
・ ちょうどお盆休みに当たり休業しているお店が多く、食事に不便であった。チャガルチ市場周辺で道路工事が多く、不都合があった
・ ハングル語の看板が理解できなかった。日本語を理解し、会話できる韓国人が比較的多かった
・ 旅行ガイドが良かった。楽しく過ごせた
・ ロッテホテルでお風呂、マッサージを楽しみ精神休養ができた。円安で物価が高かった

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【女性・15～19歳】
・ 行く時のビートルがとてもゆれて具合が悪くなった。乗務員さんが親切にして下さり、感謝している。安いもの、おいしいものを食べられて良かった
・ ホテルがきれいで、ビビンバや焼肉がおいしかった
【女性・20～29歳】
・ 1年ぶりに釜山に訪れたが、お店が変わったり新しいお店ができていて楽しめた。ホテルは西面の「エンジェルホテル」に泊まった。4名でオンドル部屋で12000円弱。周りには現地の人がいないようやサムギョプサル屋やマッコリ屋があり、グルメを楽しんだ。ウォン高で日本人観光客も減り日本人をあまり街で見なくなったので、価格の見直しをしたらいいかなと思う。マッサージも日本と同じ価格なので、メリットがないと思われる
・ 行きの便では態度の悪い男性の集団が隣で迷惑だった。地域ごとの地図やフリーペーパーなどがあると良い。2Fの荷物置き場が奥にあり遠い
・ 1泊2日はあつという間だった。2泊3日がちょうど良いと感じた。唐津⇄釜山を結んでほしい
・ 面白い店、屋台等とても多く、今回は屋台でごはんを食べてみたいと思う。観光も色々行ってみたい。道が汚かった。出会った人は皆とても優しい人ばかりだった。ショップスタッフのユルさも面白かった。日本語の通じるスタッフも多く、片言だが色々教えてもらえ、とてもよかった
・ ガイドなしのため、自分達の思うままに動けてよかった
・ 帰り(釜山⇒福岡)の便でもっと遅い時間帯があれば良い。燃油など現地払いをチケットに含んでほしい。膝が痛くなるので、足のせをつくってほしいです
・ 韓国の寺社(キョンジュ)、仏国寺などを見て、文化の違いを感じられたことは興味深かった。歴史をきちんと学びたくなった。今回、釜山の街はほとんど見られなかったの、次回は市場に行ってみよう
・ 韓国の人たちがみんな明るく親切であった
・ クーラーがきく場所ときかない場所の差がありすぎる
・ クリスピードーナツが買えたこと。日本では東京に1店しかないのに釜山にはたくさんあって驚いた
・ 現地の人が体験するようなことがたくさんできた。必ずまた来たい
・ 国際市場で客引きが多かった
・ 自分達でプランを立て行動したので、自分流の旅ができた
・ 知り合いを通じての現地のガイドさんがとてもよかった
・ 全てが大満足であった
・ 全体的には満足であったが、クーラーがきかない場所があった
・ ターミナルの免税店をもっと大きくしてはどうか
・ 大半の人が日本語も英語も理解できないため、韓国語を話せない私は苦労した
・ 土・日の方が旅行者が多いのに、日曜日に休みの店が多く、とてもつまらなく思った
・ とても感動した。よかった、おいしかった
・ 発着の便がもっと早いもの、遅いものがあるとよい。15:00発は早すぎる
・ ビートルで指輪をなくした
・ ビートルは船酔いする人にはきびしいかと思った。同行者の一人が行きの船内で苦しそうだった。次は1泊ではなくもっと楽しみたい
・ 釜山⇒博多の最終便が15:00発では早すぎる。もっと夕方～夜の便がほしい。学生なので、いかに安く旅行できるかを最優先に考えるが、今回は出発日が旧盆中ということでビートル+コリアレールバスを購入したが、ソウルまでだと飛行機の方が安かった。実際、ソウル⇄釜山の往復しかなかったの、パスがもったいなかった
・ ホテル、街の方々が優しく接してくれて充実した旅行ができた。しかし、街が汚く、また少し怖い思いをした
・ ホテルがきれいでよかった。現地ガイドさんが親切だった
・ ホテルのテレビに日本語の吹き替えがなかったのでテレビが楽しめなかった。日本語が話せる人が多くて良かった
・ みなさんとてもいい人ばかりだった。日本語が通じる人も通じない人も親切にいろいろと教えてくれた。また釜山に行きたいと思った。しかし、タクシー運転手の運転の荒さと道の汚さには驚いた
・ 焼肉やふぐり、屋台の食べ物などがとてもおいしかった。ガイドさんがいたので初めての旅行でも安心だった。行きのビートルで船酔いしてしまった
・ 行きたいところに行け、食べたいものを食べて、旅を満喫した
・ ロッテホテルに宿泊したので百貨店や免税店で買い物がしやすかった。ホテル近くの屋台の人に日本語が話せる人が多かったの、安心してみてまわられた。食事の時等、ガイドさんがいない時に韓国語で話しかけられて、店の人がどうしたいのかわからず少し困った
・ 市場が楽しかったし夜景が思っていたよりきれいだった。旅行代金も安いので、また行きたいと思う。言葉があまりわからなかったの、もう少し勉強をしておけばよかった

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【女性・30～39歳】
・ 17:00頃の釜山⇒博多の便があると良いと思う
・ 秋夕にあたるためお店が開いていないと聞いていたが、それなりに開いていた
・ 新しいホテルの開拓をした。いつもは主にロッテを使っていたが、オンドルがついたきれいなホテルを知人から教えてもらった。夜はマッコリを死ぬほど飲んで、しばらく見たくないほど飲めたので、楽しかった
・ 行きのコビーが揺れすぎてつらかった。スタッフが袋とティッシュを持って何度も見回りに来たのがさらに気持ち悪くなった。帰りは快適だったが…。KTXが思っていたよりきれいで快適だった
・ いつもどおり楽しく過ごせた
・ ウォンが高いせいか、全体的にマッサージの値段が高い。日本でする方が安い
・ お店の場所がわかりづらかった。日本語のメニューを増やしてほしい。ビートルの遅い時間の便を作してほしい
・ 思っていたよりもビートルがゆれた
・ ガイドが親切だった。帰る時間が早くてもう少しゆつくりしたかった
・ ガイドさんやホテルのスタッフがとても親切だった。慶州の仏国寺に行けたことはよかったが、充分に楽しめなかったのが残念であった
・ ガイドブックを全然見ずに人まかせの旅行だったので、次回は下調べをもう少しきちんとやってから行きたい
・ カジノで楽しんだ
・ 韓国の盆だったため店が開いていないところが多く、残念であった
・ 最近グリーン席が満席で予約できないことがある。もっと席があると良い
・ 違った風土や食事を楽しめたり、交流できたことがよかった。タクシーの運転が荒く怖かった
・ 何でも安いので、色々な体験が気軽にできて楽しめた
・ 値札がなく、相場が不明だとかなり損をと思った。ビートル内でのビールのつまみを増やしてほしい(からあげ、フライドポテト、すり身、チーズ等々)
・ 初めて屋台に挑戦できた。次回は現地の人が行く食堂に行ってみたい
・ ビートルがこれほど揺れるとは思わなかった
・ ビートルスペシャルが決まった日に更新されない
・ ビートルは昔に比べるとすぐ満席になり、取りづらくなってきた。今回も本来は先週の連休に行きたかったが、釜山映画祭と重なって満席だった。ビートルの船内のDVDは泣けるものが多かった(名犬ラッシーや小公女セーラなど)、韓国の旅や、ハングル語講座など、楽しいものにしてくれるとうれしい。事前座席指定ができるようになればよい
・ 福岡のターミナルが素っ気ないので、情報コーナーやおみやげコーナーを充実してほしい。ビートル乗り場の階段の一番下に少しスロープができて、とても便利になった。以前は船内の機関誌があり楽しみにしていたのだが、なくなってしまい残念。HPでも良いのでスタッフのお勧めの品コラムなど、復活させてほしい。インターネットの予約だと、回数券が使えなかったり、不便なことも
・ 釜山⇒博多のもう少し遅い便をつくってほしい
・ ホテルでフロントらしきところから怪しげな電話がかかってきた。道が汚い
・ 行き(9/29)の天候が悪く、揺れがひどかった。博多港で軽食を買って乗り込みたかったが、免税店エリアにはおつまみまたはお土産品しかなく残念だった
・ 良い点:床式のホテル。悪い点:タクシードライバーの運転マナー

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【女性・40～49歳】
・ 1泊2日の旅だったが、船の便が少なく朝出発は8時45分でちょうどよかったが、帰りは14時30分しかなかった。もう少し遅い便があると1泊2日の旅でも満足できると思う
・ あやしい店があり、品物の値段がよくわからなかった
・ ウォン⇒円に両替後、燃料費、利用料がウォンと気づいて再両替した。あれは何とかならないのだろうか
・ ガイドさんがてきぱきしていた。ゆっくりとまわることができた。釜山観光ターミナルの免税店が小規模。釜山全体のトイレが汚い
・ 慶州まで電車を使って行った。とてもよい経験になった
・ 国際線空港に比べて、両国とも港ターミナルがつまらない。ターミナル内の免税店の充実度が低い
・ 通りに名前が付いておらず、住所や番地を見ても目的地にたどり着けない。地下鉄は他都市のように路線ごとに壁や床が色分けされていないので乗り換えのときに構内で迷いそうになった。コピー商品を堂々と売るのは問題だと思う
・ 日本と違い、海鮮のにおいがきつかった
・ ビートルの案内ビデオが1Fにいと音が聞こえなかった。以前のように、ビートル乗船記念グッズがほんの少しでもおいであると良いと思った
・ ビートルの座席に足を置けるステップのようなものがあると3時間が楽に過ごせると思う
・ ビートルの船内で3時間過ごすのが、音がすごくテレビは聞こえない、雑誌はないで時間をもてあました。何か工夫してほしい
・ ビートルはきれいになったけれど、席の間が狭いので少し疲れる。もう少し広ければよい
・ 釜山からの最終便がもう少し遅い時間であつたらよかった
・ ホテル(コモドホテル)の場所が良かった。タクシーが利用しやすかった。気候も日本と同じくらいで過ごしやすかった
・ 行きの際、波が荒くひどく酔った。波が荒いであろうと予測される時は、乗る前に酔い止めを販売して下さればありがたい。子どもが吐いた時に袋に穴があいており、中身がもれて大変だった。飲み物は飛行機のように無料にしてほしい。吐いた後は水がないと苦しいので、水がすぐに飲めるようにしてほしい
・ 良かったと思うが、ホテルの従業員の態度が少し横柄だった

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【女性・50～59歳】
・ 2日間の短い滞在だったが、良いところを見ることができ、おいしいものを食べられて良かった
・ 3泊4日だったので余裕があった。平日レディース割引だったので安く来ることができ、その分買い物がたくさんできた。娘が韓国語を少し話せるのでバスや地下鉄や屋台の食べ物も食べることができ、地元の人が行く焼肉やにも行くことができた。とにかく思っていた以上に都会でびっくりした。日本人だとわかると値段を高め請求されることがあり、これが年配の人の韓国に対するイメージにつながっていると思った。イメージダウンになるので取り締まってほしい。良いところも悪いところも見れた旅だった
・ JTBの現地のガイドがとても親切だった。料理がおいしかった。食事処でトイレトペーパーが有料で戸惑った
・ 秋夕と重なりお店がほとんど閉まっていたのが残念。ロッテホテルの地下までがクローズとは驚きだった。BBBを持っていったが、地下鉄(西面)はわかりにくかった。バスに乗る際、料金は最初に払うことをBBBに掲載してほしい。3年前に行った時よりも街がきれいになっていた。日本語が話せる方が増えたので、どんな店に行っても日本語でほとんど大丈夫だと感じた
・ 旧盆でほとんどのお店が閉まっていたのが残念だった
・ 高層ビルが多く、人も多いので驚いた。もう一泊したいと思った
・ 言葉がわからなかったが、何とか買物ができてよかった
・ 今回、慶州に列車に乗って行った時に、行き方、乗り方などを皆さん親切に教えて下さったことが印象に残っている
・ 今回4回目でもホテルの場所はとても良かったが、悲しいことに蚊が多くさされてしまった。初めての経験だった。ガイドさんがてきぱきしていてとても良かった
・ 幸い天気にも恵まれ、数箇所めぐった観光地もとてもすばらしく良い思い出になった
・ 自由時間が少なすぎた
・ 全員が旅行を楽しむことができ大変よかった。ガイドさんの案内がよく、楽しい旅行ができた。初めての海外旅行だったが、食事の面でも食べてみて安心した
・ 大変おもしろかった。次回は2泊3日で桂州まで行きたい
・ タクシー運転手の愛想が悪く、不親切だった
・ 短時間で、食事、買い物と色々できた。あと一泊できたらと思った。土曜日発の運賃をもう少し安く設定してほしい
・ 地下鉄に乗って移動できた。帰りの便が14時30分と早かったため2日目には楽しめなかった。夏場(10月)は早すぎる
・ ツアーで来たが、個人で食事に行くことができよかった
・ とても満足
・ とにかく市場や色々な所がおもしろかった。日本語が通じるお店が多くて安心できた。親切で、おもてなしをしようという姿勢が見られて感心した
・ 初めての韓国だったが大変良かった。釜山は近くて人も良く、大満足だった。次回はソウルへ行ってみたい
・ 初めての旅行だったが釜山の人や文化に触れ、本当に満足した。全く違和感なく、住んでいるように溶け込むことができ、また行ってみたいところである。次回はゆっくり時間をかけ、もう少し名所を回りたい
・ ビートルはゆれるので次は飛行機で行きたい
・ 非常に良い旅になった
・ ホテル(ロッテホテル)も良かったし、観光も快適だった。夜遅くまで街を散策したが、街中にごみ(紙くず、空き缶など)が散乱していた。これだけの観光地なのだからもう少し清掃していると気持ちよくいられたのにとがっかりした
・ ほぼ満足。ビートルの利用は初めてだったが良かった。国際ターミナルに駐車場が少ないので朝早い便のときはターミナルまで来るのに時間と手間がかかった
・ もっと観光したかった。道路も広いし、高層ビルが多く活気のある街だったが、裏通りにはゴミが多く汚くて臭かった
・ 旅行と韓国のお盆が重なり、飲食店が開いていなかったのが残念だった。一般市民の方の親切さが良かった。国際ターミナルの売店の方の笑顔があまりにもなかったのが残念
【女性・60～69歳】
・ 会話が日本語で支障なく、人間が丁寧、親切で、どこにいても安心感があつた。ホテルの枕が合わず寝つきが悪かったのが残念
・ 車の運転のマナーが悪く感じた。横断歩道を渡るのが怖かった。車のクラクションの音が気になった。買い物に行っても言葉が通じなくて買えなかった。言葉を学んできたならもっと楽しかったと思う
・ 時間が足りなかった。一箇所をもう少しゆっくり回りたい
・ 親切な人に出会い、家庭料理を食べたこと。買い物も不自由がなかった
・ ビートル内のマイクによるインフォメーションが、音声小さく聞き取りにくい
・ ホテルで、室内に入ると同時に汗の臭いがした。特に浴室のカーテンが鼻をつく臭いがし不快だった
・ 安い買物ができた。足つばマッサージができた
・ ライオンズクラブ東洋東南アジアフォーラムに参加したが、スケジュールが窮屈で自分の時間が少なかった。何度も来ているがもっとゆっくりしたかった
・ 添乗員さんの感じが良かった。おみやげ屋さんが親切だった。食べ物がおいしかった。釜山の街中の道路にごみがたくさんちらかっていたのには驚いた

今回の旅行についての意見・要望 《日本票》 つづき

【女性・70～79歳】
・ 1泊だったので軽い気持ちで小遣いを少ししか持参しなかった。次回はブランド品等の買物にカードを持参したい
・ 親切な人に出会ったり、とても楽しい買い物ができたことで、また行きたいと思った
・ 2泊3日の旅だったが、天候に恵まれ雨にあうこともなく、楽しく過ごせた。外国というとすぐに食べ物が嫌になりがちだが、どの料理も日本人に合っておいしかった。女性のガイドさんがとてもきれいで優しかった
・ 2泊3日の旅だったが、皆さんにとっても良くしていただき、韓国の手料理もいただき、良い思い出となった
【女性・年齢不明】
・ ビートルのグリーンを予約したら前の席が一杯で座れなかった。最近物価が高いのが難点
【性別不明・50～59歳】
・ 地下鉄を利用できた

○今回の旅行についての意見・要望 <韓国票>

【男性・15歳未満】
・ キャナルシティが良かった。しかし、キャナルシティ以外の場所も行ってみたい
・ すべてが良かった。しかし、時間が足りなくて残念です
・ 食べ物、ホテルが良かった。他のところも行ってみたい。不満はないです
・ 地下鉄、電車に乗ることができて良かった
・ 日本の伝統文化に触れたことが良かった。音声信号機を多く設置してほしい
・ 船の故障で大変だった
・ 良い勉強になった
【男性・15～19歳】
・ 韓国と異なるコンセント(220V)が不便だった
【男性・20～29歳】
・ 韓国語で書かれている旅行案内書(バス路線、地下鉄路線など)がほしい
・ 綺麗な都市(福岡)が印象的だった
・ 天気が良くて観光が楽しかった
・ 天気がよくてたくさん見物できた。食べ物が美味しかった。ホテルも綺麗だった
・ 通りの音楽隊(なぜ徹夜までしながら歌を歌うのか?)。都心は韓国とほとんど変わらない。ナンパする男性。福岡の女性は綺麗だ。自分の日本語が通じて嬉しかった。食べ物が美味しい(うどん、ラーメン、餃子など)
・ 物価が高い
【男性・30～39歳】
・ JR九州レールバスで市内バスや地下鉄などが使えなかったのが不便だった
・ 飲食店のメニューに英語の表記をお願いします
・ 韓国語の看板・表示がたくさんあること。韓国の案内サイトの不備(案内サイトが提供する地図に主要建物が表示されていない)
・ 九州は綺麗だ。何かを考えさせる旅行だった
・ 宿所が不便だった。中洲の屋台(不親切、ふっかけ料金)の印象が良くない
・ 食事が美味しい
・ 楽しい旅行だった
・ 日本人との親睦に満足(日本語を一所懸命に学習する)。電車の切符に英語の表記を
・ 日本人はとても親切だった。しかし、観光より旅館で送った時間が長かった
・ 日本の文化を経験することができた
・ バスを利用するときにシステムに慣れず苦労した
・ ヤフードームでプロ野球を観戦したが、外国人のための割引チケットがないのが残念だ(他の観光地は割引券がある)。また、入場料が韓国と比べて高い
・ 悪いところはない
【男性・40～49歳】
・ 色々経験(観光、ショッピングなど)できて良かった
・ 温泉が良かった
・ 温泉が良かった。旅館の施設がとても劣悪だった
・ 気候がよくて素晴らしい旅行ができた
・ 汚いホテル(ハウステンボス日航ホテル)。ハウステンボスで自転車を貸与することができない。電車の交通費が高い。韓国人が学んで直さなければならない点が多い
・ 親切な日本人(旅行が楽しかった)。暴走族の騒音で眠れない日が多かった
・ 天気、温泉が良かった。ヤフードーム(王貞治監督が率いるソフトバンク)を見物できず残念だった
・ 日本人の友達の案内があり、色々なところを見ることができた。日本についてもっと知ることができた。しかし、食道街や居酒屋が早く閉まるのが残念だ
・ 日本の風習・風物・社会生活の体験(都心、田舎の体験)ができる観光プランがほしい。長い移動時間が不便だった

今回の旅行についての意見・要望 《韓国票》 つづき

【男性・50～59歳】
・ 阿蘇山と噴火口が印象的だった。温泉も良かった
・ 移動時間が長かった
・ 温泉(湯布院)や案内が良かった
・ 韓国では日本の団体旅行客が泊まるとホテルに日本の国旗を掲げるが、日本のホテルは韓国人の団体客が泊まってもホテルに国旗を掲げない。そして、ホテルロビーに韓国語ができる職員がいない
・ 食べ物が美味しかった
・ 電車の切符などに韓国語・英語の表記がなくて不便だった。以前より日本人の友達と仲良くなった
・ 訪問者のために道路の表示板を改善すべきだ。福岡市内外に案内表示板が少ない。特に、この都市を初めて訪れた人々のための配慮がない
・ ホテルロビーに韓国語ができる職員を配置してください
・ 歴史的な遺物。文化行事。地域民による文化行事(講演、展示、観覧)が良かった。しかし、韓国語の案内・表示版が少ない。旅行者のための日本・九州各都市の地図(案内地図)が少ない
【男性・60～69歳】
・ 交通費・ホテル費が高かった
・ 道路に不法駐停車した車が一台もないこと。経済大国ながら小型車が多いこと。住宅が派手ではなく日本伝統家屋が多いこと。日本人の質素な生活を感じることができた
・ 人々が親切だ
・ 福岡近郊に行ける冊子やパンフレット(時間、金額なども表示)がほしい
【男性・70～79歳】
・ 日本人と交流しながら日本を体験したかったが、言葉が通じなかったのでとても残念だ(意思疎通の不便)

今回の旅行についての意見・要望 《韓国票》 つづき

【女性・15歳未満】
・ 映画を見たが、面白くなかった
・ 食べ物が美味しかった
・ 初めての日本旅行ですが、とても楽しかった
・ ホームステイのおばさんがとても親切だった。すぐ別れるのが寂しかった
・ ホテルが良かった
・ 短い旅行だったが、日本と韓国の大きな差を知った。小銭で計算するとき、表情が硬くなる何人かの店員がいた
【女性・15～19歳】
・ お盆を利用して家族と一緒に旅行ができて良かった。日本の長所を見て帰ること(韓国に帰って実践したい)
・ 人々が親切だった。個人的に船酔いで苦労した
【女性・20～29歳】
・ SUNQバス停留場の情報が韓国のガイドブックに載ってない
・ 暑い。99%の人々が英語を知らない(息苦しい)。良いホテル。さわやかな日本語(面白いです)。始めて乗ったビートル。喫煙者に対する配慮(ウェンデース、マクドナルドなどのファーストフードレストランにも喫煙席が用意されている点はとても印象的だった)
・ 移動時間、船の時間などでゆっくり旅行ができなかった
・ 移動時間が長かった
・ いろいろなところを見て廻りたい
・ 美味しい食べ物、温泉で楽しい旅行だった。疲れもしらずあつという間に3泊4日が過ぎてしまった
・ 美味しいものをたくさん食べた。個人的に足が痛くて苦労した
・ 韓国人の観光客が多かった(韓国の御盆連休のせい)。気まぐれな天気
・ 韓国と変わらない物価だったのでショッピングが楽しかった。韓国語の案内(バス・道路)が充実していること
・ 韓国は天気が悪かったが、福岡は天気が良くて旅行が楽しかった。韓国人の旅行者に対する配慮(バス内での放送)が良かった
・ 交通費が高い。観光地に行く直行バスや地下鉄がない。ショッピングモールの閉鎖時間が早い
・ 交通費が高い。ショッピングモールの閉鎖時間が早い。人々がとても親切だ
・ 食事が塩辛い。物価が高い(服など)
・ 食事が足りない
・ 親切な日本人に出会って良かった
・ タクシー代が高い
・ 食べ物が塩辛い (2件)
・ 長時間の移動で疲れしました。今度は日本人に接してみたい
・ テーマパーク(ハウステンボス、阿蘇ファームランドなど)の店の営業時間を延長してほしい
・ 長い移動時間と暑い気候で少しつまらなかった。今回は2泊3日だったが、今度はゆとりを持ってゆっくり観光したい
・ 日本語ができなくて大変だった。新幹線の時間が合わず苦労した。地下鉄、地図、路線図を見てもよく分らないところが多い。しかし、旅行そのものが経験なので満足している
・ 日本食を経験して良かった
・ 日本の文化や歴史を知ることができた。気まぐれな天気、そして暑かった
・ 日本を知る(理解する)機会になった。温泉が良かった
・ 日本を体験(奇麗な街など)することができた。しかし、英語が通じなかったので不便だった
・ 入国手続きの際にハングルがあつて嬉しかった。入国手続きに関して詳しい韓国語の説明書があればいいと思った
・ 初めての日本旅行ですが、少し日本を知ることができた
・ パッケージ旅行だったので、バスに乗る時間が多く、日程にも余裕がなく、とても不便だった。二度とパッケージ旅行はしない
・ パッケージ旅行だったので、福岡の日常を経験できず残念だった。次は、自由旅行で色々なところを行ってみたい
・ 船酔いで苦労した
・ ホテルの客室、食べ物、日本人の親切な対応が良かった。ホテルの3人室(ベット2つだけ)が不便だった。110Vのコンセントが別途にあつてほしい
・ 短い期間の旅だったので、今度来るときはゆっくり観光したいです
・ 安い物価でショッピングが楽しかった。コビーはビートルより奇麗だが、荷物置き場が狭くて不便だ
・ 夜の福岡市内の風景が印象深かった。みんなが親切だった
・ 悪い点は、時間に覆われて買い物ができなかったこと。日本人と接する機会が少なかったこと。良い点は、パッケージ旅行だが、自由時間が多かったこと。宿泊施設や食べ物などが良かった。温泉もとても良かった
・ 温泉が良かった。寿司をたくさん食べたかった
・ 韓国の天気と違い、湿度が高く、移動時に暑さに大変だった
・ 日程が短かった (2件)

今回の旅行についての意見・要望 《韓国票》 つづき

【女性・30～39歳】
・ 9月25日、釜山に帰港するときに発生した問題について、旅客船会社の対応(説明不足など)が残念だった。韓国人として恥ずかしかった
・ 飲食店のメニューに英語の表記が必要。道案内など親切に教えてくれる日本人。また、日本人の礼儀とマナがとても印象的だった
・ 英語が通じない(ホテルの従業員も)。でも、親切に教えてくれる
・ 美味しい食事と温泉が良かった。ハウステンボスの景観が美しかった。悪い点は、外国人のためのサービス(通訳イヤホンの無料使用など)を強化してほしい
・ 温泉、人々が親切だ
・ 空港利用は韓国より不便だったが、行ってみたい旅行地への宿泊施設や交通便の連係などがとても便利だった
・ 熊本城がとても素敵だった
・ コビエの運航時間(特に日曜日)が不便だ
・ 日本についてもっと知るようになった
・ 日本の食事が良かった。人々が親切だ。しかし、物価が高い
・ パッケージ旅行だったので、十分に楽しめなかったのがとても残念だ
・ 人々が親切だ。街が綺麗だ。自然環境を大事にする
・ 免税店の利用時間が短い
・ もう一度訪問したい
・ 湯布院の温泉が良かった
・ 旅行が短かったので、十分に見物することができなかった
・ 今度は日本語を勉強し、日本人とたくさん話してみたい
【女性・40～49歳】
・ 阿蘇山の噴火口を見たかったが、悪天候で見れなかったのが残念。街が綺麗だ。硫黄のある温泉がとても良かった
・ あまり悪いことはなかった。しかし、ホテルなどでは韓国人だから分からないが、いつも下の階の客室を用意してくれた気がする。(私も高いところで寝てみたい！)
・ 移動時間が長かった
・ 温泉、比較的宿泊施設が綺麗だ
・ 温泉が良い。娯楽施設が少ない
・ 温泉が良い。日本文化が合わない
・ 温泉をもっと楽しみたかった
・ 家族と一緒に旅行して楽しかった
・ 観光地にコンビニが少なくて日用品を買うときに不便だった
・ 観光日程や宿所がいまいちだ。デパートでのショッピングができなかったこと
・ 質素な生活。人々が親切だ
・ 質素な生活。不始末な観光地
・ 食事が合わない
・ 食事が美味しかった。しかし、移動時間に比べ、観光時間が少なくて残念だ
・ 食事がまずい
・ 都市が綺麗だ。人々が親切だ。しかし、食べ物がまずい
・ 長崎のハウステンボスに観光目的で行ったが、交通連係や宿泊施設は便利だった。しかし、旅客ターミナルの使用はとても不便だった
・ 日本人の表情が明るくない
・ 不満は移動時間が長いこと
・ 別府(とても期待したが・・・)より菊池温泉のほうが楽しかった。物価が高いこと
・ 便利な交通。親切な人々。韓国語の案内と放送が良かった。国際都市なのに英語がほとんど通じなかった。宿泊するホテルが他の国に比べて狭かったのが驚いた
・ ホテル(エレベーター、火災時の危険)、温泉(狭い、水質もよくない)に不満がある
・ 良い点は、温泉が良かった。悪い点は、物価が高い、食べ物が口に合わない
・ 良い点は、清潔・勤勉・節約など
・ 日本の食事習慣は理解に苦しむ(野菜やおかずがほとんどない)。また、食べ物が甘くて塩辛い。食べ物が合わなかったものでまた今度来るかは分からない

今回の旅行についての意見・要望 《韓国票》 つづき

【女性・50～59歳】
・（韓国人に）食事について若干の配慮がほしい
・ 温泉
・ 温泉（湯布院）がとても良かった
・ 温泉が狭かった。温泉施設や宿所もよくなかった
・ 韓国と日本を比較してみることができた。日本の文化。秩序を守る日本人が印象的だった。ただ、とてもキムチを食べたかった
・ 韓国に住んでいる私の孫たちに日本人の「人に対する配慮、礼儀正しい、勤儉、節約」などを教えたい。また、機会があれば日本はもちろん、いろんな国々を旅行し、多様な文化に触れたい
・ 自然環境が良い。しかし、食事が合わない
・ 自然環境が良かった。しかし、移動時間が長かった。食べ物がいいまいちだ
・ 質素、節約、礼儀正しい。しかし、食事がまずい
・ 質素な生活。街が綺麗だ
・ 食べ物が合わない
・ 日本人は時間をちゃんと守る
・ 人々が親切だ（2件）
・ 船の増便をお願いします
・ ホテルの施設に不満がある
・ 街がきれい、人々が優しい、秩序を守る。しかし、食べ物は日本より韓国のほうが美味しい、遊興街が少ない。個人的には温泉に入れず残念だった
【女性・60～69歳】
・ 住宅・建物などがちゃんと整理されている。綺麗で静かなところ。親切的な日本人、綺麗な街、秩序を守る
・ 親切的な日本人。宿泊費が高くて負担だ
・ 初めての日本旅行だったが、安全で便利な旅行でした。また、美しい自然環境が良かった。良い経験でした
・ 短い期間に多くの地域（観光地）を訪問しようとしたので、旅行が中途半端に終わった。今度は地域をしぼって一か所をゆっくり観光したい
【女性・70～79歳】
・ ハウステンボスで空きホテルがなくピラに泊まった
・ 人々が親切だ。個人的には意思疎通の問題があった
【性別不明・40～49歳】
・ 再び訪れたい都市
【性別不明・50～59歳】
・ トイレ文化（良い点）
・ 街が綺麗で、空気が清い
【性別不明・70～79歳】
・ ターミナルに案内放送が不足

《ニューかめりあ利用客》

○福岡市や九州の魅力について 《韓国票》

【男性・15歳未満】
・ 温泉観光
・ 食べ物が美味しく、とても韓国より綺麗だ。韓国にない物がたくさんある
【男性・20～29歳】
・ (ソウルより)暖かい天気、自由奔放、人々の親切と余裕
・ 韓国から船が着く一番近いところで船便の選択肢も多く日本に来ることが容易である。遊び回るところも多い。言葉は通じないが、道を尋ねたら親切に教えてくれる日本人の市民意識が良かった
・ 韓国との距離が近くて運賃が安い。日本語を分らなくても、ある程度の旅行が自由にできる
・ 綺麗な街(随時、掃除する姿)、躍動的な雰囲気
・ 自然景観が美しく、天気が暖かくて良かった
・ 都市がきれい。平穏な雰囲気が良かった
・ 日本人の親切、都市の清潔、日本の文化、食べ物
・ 人々が活気に満ちて自由だ。たくさんの服屋、食堂の特徴
【男性・30～39歳】
・ いい天気、独特な地形(火山、温泉)
・ 温泉
・ 温泉と阿蘇の火山
・ 温泉と自然、素朴な農村・都市
・ 韓国から近い距離と簡単に体験できる日本文化
・ 韓国と近い距離
・ 韓国より物価が安い(特にゴルフの場合)、釜山から近い。利用可能な交通便が多い、親切だ
・ 他の大都市に比べて物価が安い、他地域への移動が容易だ
【男性・40～49歳】
・ きれい、静かだ
・ 静かだ
・ 街が綺麗で自販機が多い
【男性・50～59歳】
・ 生き生きしている。街の空気が清い、きれい
・ 温泉、きれいな街、親切な人々
・ 温泉が良かった。時間があれば九州の古家や寺などを観光したい
・ きれいな都市
・ 自然環境
・ 都市全体が綺麗で秩序がある。来れば来るほど交通信号を守らない車が目立つ(事故に会ったことがある)。特に、夜間に歩行者がいるのに違反する車を目撃したことがある
・ 歴史体験、温泉体験、一般風景体験
【男性・60～69歳】
・ (街が)静かで綺麗だったが、ホテルはあまり良くなかった
・ 火山
・ 自然環境の保存状態が良い。温泉。見掛けはとても親切だ。西欧より街が綺麗だ。運転文化(特に、警笛音を鳴らさない)が良い
・ 地下図書室(?)が魅力的だ
・ 釜山と近い。暖かい。温泉が良い
【男性・70～79歳】
・ 自由で快適な自然とグリーン都市

福岡市や九州の魅力について 《韓国票》 つづき

【女性・15歳以下】
・ 阿蘇山の噴火口が素晴らしかった
・ 自販機が多い
・ 街が綺麗で自販機が多い
【女性・15～19歳】
・ 露天風呂がある温泉が良かった。夜に入る温泉はとても良かった
【女性・20～29歳】
・ 九州温泉、旅館サービス。バス路線と移動が便利
・ 静かだ
・ 都市がとてもきれい。日本の品物は高価なものもあれば、100円ショップなど、安くて良い物も多く、たくさん購入することができた
・ 福岡では九州地域への移動が便利だ。ほとんどの駅と交通センターが近いところにあって良かった
・ 短い時間に(週末を利用して)安くて負担なく海外旅行ができる。日本の他地域よりは物価が安い。日本の自然環境を経験することができた。温泉や休養地が近くてゆっくり休むことができた
・ 秩序整然、きれいな、親切、優しさ
【女性・30～39歳】
・ いい天気と火山地区
・ 温泉、湯布院がとても綺麗だった
・ 温泉が気に入った。きれいな、親切
・ 温泉観光
・ 観光するところが多い。ショッピング、特に食べ物がきれいで美味しい
・ 静かで、何より温泉がとても良かった。そして、日本人が親切で優しく接してくれた
・ 自然親和、きれいな
・ ショッピング、キャナルシティ(子供たちが遊びやすいところ)
・ とても静かで休養するのに良い所だ。ショッピングや観光目的としては今一だ
・ 街が綺麗で人々が親切だ
・ 清潔で整頓された感じ、人々の印象が良い
・ 秩序整然な市民意識と交通秩序、こじんまりして可愛らしい周辺景観がとても良かった
【女性・40～49歳】
・ 温泉旅行 (4件)
・ 開放的な姿と人情味
・ きれいな、親切、自然保存がよくできている。食事が良かった。海、山、温泉など、よく調和された天恵の観光地である
・ 綺麗で親切だ
・ きれいな街がとても良かった (2件)
・ 自然環境が優れている。綺麗な街。親切な人々。開発されてない自然が与えてくれる豊かさを感じた
・ 日本は資源がとても豊富で、国が金持ちのようだ
・ 都会全体がきれいで質素だ。親切さを体で感じた
【女性・50～59歳】
・ 楽しかった
・ 穏やかで暖かい気候、きれいな環境、親切で保安が徹底している
【女性・70～79歳】
・ 綺麗だ
・ ショッピング
・ 山勢が美しくきれいだ
【女性・年齢不明】
・ 街の環境がきれいだ
【性別不明・50～59歳】
・ 田園風景と温泉施設が気に入った。日本式伝統料理が気に入った
【性別不明・60～69歳】
・ 自然環境がとても良かった
・ 福岡の市民は親切だが、税関の調査が厳しい
【性別不明・年齢不明】
・ 露天風呂はとても良かった。湯布院は綺麗だった

○今回の旅行についての異見・要望 <<韓国票>>

【男性・15歳以下】
・ 韓国では食べられなかった「チョコビ」をたくさん食べた
【男性・20～29歳】
・ オフシーズンなので人々が比較的になかった。静かで良かった。カメリアの釜山リターン時間をもう少し延ばしてほしい
・ 九州地方には高速鉄道(新幹線)がないので運行時間が長い。また、物価と宿泊費が高い
・ 様々な経験ができた。特に、阿蘇山の噴火口の火山ガスは、一生忘れることができない
・ 宿泊費が他地域に比べて少し高く、経済的に福岡に長く泊まりにくい。もう少し安い宿泊地を案内してほしい
・ 初めての日本旅行だが、平素より知っていた日本と日本人の姿は違った。日本という国を改めて見る事ができた。また日本を訪れたい
・ 初めての日本旅行だったが、親切な人々と新しい見もの、そして美味しい食べ物などが良かった
・ 良い点:たくさんのことを見て感じる事ができた。特に、日本人の勤勉・誠実を学ぶことができた。悪い点:午後6時以後はほとんどのところが暗い(市内は違う)
【男性・30～39歳】
・ 韓国側の出入国管理国の職人たちの不親切(なかなか直らないと思うけど・・・)、カメリア乗船時、団体客より個人客を先に手続きする必要があると思う
・ 剣道修練を通した韓・日交流
・ 次回は大阪のユニバーサルスタジオジャパンを訪問したい
・ 日本語ができず、あまり日本人と話せなかったことが残念だ
・ バスでの移動時間が長くて同伴した子供が大変だった
・ 飛行機の利用時の出国手続き(韓国→日本)が不便だ。美味しい鍋料理、タイ焼き。(韓国より)静かで温かい
・ 船の待機時間が長い
【男性・40～49歳】
・ 子供たちが楽しいそうだった
・ 食べ物が口に合わない
・ 出入国手続き時の指紋採取
【男性・50～59歳】
・ 忙しいせいか、ホテルのサービスが不十分だった。ますます観光地化するような気がする
・ 静かでよく整頓された全体イメージが良かった
・ 実習をするようになった病院関係者に感謝する。宿泊したホテルのみなさんの親切さに深く感謝する。道路が狭くて移動時間(スピードを出せなかった)が長くなった
・ 大自然、草原地帯は時間の浪費(滞在時間か)が多い
・ 文化的な差はあるが、全体的に満足する
・ 便利な観光施設
【男性・60～69歳】
・ いい気持ちで旅行を終えることができた
・ 温泉
・ 観光バス運転手の不親切(若い人)。観光ホテル職員の不親切
・ 道路がとても狭い。食べ物が口に合わない(不満足)

今回の旅行についての異見・要望 《韓国票》 つづき

【女性・15歳以下】	
・ 温泉	
・ 食べ物が口に合わない（2件）	
【女性・20～29歳】	
・ 言葉が通じなくて大変だった	
・ 全体的にきれいな都市イメージが良かった	
・ 都市が綺麗で風景がとても良かった。次にまた訪れたい	
・ 日本人はみんな親切だった。しかし、店が遅く開いて早く閉まるので、まともに見ることができなかった	
・ パッケージで来日したのは初めてだ。旅行会社で日にちに合わせて商品を選んだが、親孝行観光なのか分からなかった（旅行会社側の詳細な説明と相談が惜しい）。動線（目的地間の距離）が長くて移動時間が多かった。ショッピング場所も限定されたのでショッピングもあまりできなかった。食べ物（観光パッケージの一部だったので）も日本食より韓食が多くて残念だ	
・ 釜山港に6時半まで集合したのに、船は10時に出発した。フェリー旅行は初めて。ただ、船が出発する10時までやることもなく、見ることもなく、とても時間が惜しくてつまらなかった。もう少し待機時間を減らしたら・・・。値段も安いのでよく利用すると思う。博多港に着いてからもやはりすることがなくてつまらなかった。（アンケート調査をありがとうございます！一生懸命アンケートを作成しました）。カメラ号の2人部屋はとても静かで良かった	
・ 別府の温泉が一番記憶に残る。ホテルの屋上に露天風呂があって特別な経験であった	
・ 良かった点:バス(サンQバス)利用が易しかった。悪かった点:福岡以外の地域は、バス停がとても小さくて調べにくかった。英語案内がほとんどない。船(カメラ)内の待機時間がとても長かった	
・ 旅行が大変だと思ったが、思ったより福岡の位置と旅行地を簡単に探すことができた。しかし、別府など、バス停の標識がとても小さくて調べるのに時間がかかった	
【女性・30～39歳】	
・ 温泉がとても良かった。また訪れたい。食べ物は口に合わなかった	
・ 温泉観光	
・ 温泉観光をした後の皮膚のつるつるが幻想的だった。次の旅行の際は、親と一緒に温泉観光をする予定である	
・ 食事と交通、観光地のすべてが良かった	
・ すべてが良かった（2件）	
・ 日本の食べ物が気に入った。人々が親切だ	
・ 日本への入国時間がとても長い	
・ 船酔い	
・ 良かった点:食べ物が美味しい。物を忘れた(タクシーに置き忘れる)が、捜すことができた	
・ 表で見た日本ではない日本の文化や生活ぶりをたくさん見たような気がする。温泉文化がとても発達されている	
【女性・40～49歳】	
・ いつも思うが、良いところが多い。しかし最近では、親切だった日本のイメージが薄れているようで残念だ	
・ 家族と旅行するのに良い所だ	
・ 宿泊施設はきれいで静かだったが、ショッピング・道しるべ・人々の親切さは昔より落ちている	
・ 親切な人々と温泉を楽しんで良かった。食べ物は口に合わなかった	
・ トイレの水がたくさん出たのが・・・以外だった。ホテルの親切さに感謝する	
・ とても良かった（2件）	
・ まあまあ良かった（2件）	
【女性・50～59歳】	
・ 意思疎通が大変だった(日本人は韓国語ができない)	
・ 韓国の案内版がもっと多かつたらいいと思う。自由旅行をする時に博多駅で(日本人との)意思疎通が難しかった(英語ー鉄道職員は簡単な英語ができなかった)	
・ 楽しかった	

今回の旅行についての異見・要望 《韓国票》 つづき

【女性・60～69歳】
・ 船の部屋と寝具が汚くて不潔だった
【女性・70～79歳】
・ 温泉地帯がとても小さいけど、美しかった。日本らしい趣を感じた。木が多くてよく管理されている
【女性・年齢不明】
・ 初めてだが、とても良かった。また次回に訪問し、もっといろいろと経験したい
【性別不明・50～59歳】
・ 良い点：(船が)振動なく静かだ(1等室)。悪い点：乗船前－手続きに時間がかかる。乗船後－19時に乗船して22時に出発したこと
・ 良くない経験はなかった。入国時の指紋検事問題で入国手続きが遅くなって不便だった。しかし、ホテル職員の親切はとても印象に残る
【性別不明・60～69歳】
・ すべてのものに満足した

《ビートル・コビー利用客》

ビートル・コビー お客様

—B—

アンケート【福岡ー釜山】調査票

調査日 月 日

実施主体：JR九州高速船・未来高速（株）／（財）福岡アジア都市研究所

アンケート責任者：092-733-5686（小牧、野口）

本アンケート調査は、福岡～釜山間におけるお客様の「満足度の向上」を目的とし、実施するものです。ご移動中のお疲れのところ大変恐縮ですが、どうぞご協力をお願い申し上げます。

なお、アンケートにご協力いただいたお客さまにはビートル船内にてご利用いただける1ドリンク券（ホット・アイスコーヒー、ソフトドリンク・ビールからおひとつお選びいただけます）を進呈いたします。また、付属のボールペンにつきましてもご自由にお持ち帰りください。

※これから向かわれる方は、ご予約をお書きください。

Q.1 今回の訪問予定地（乗りかえなどの短時間滞在は除く）をお知らせください。（○印はいくつでも）

1. 釜山 <Q2へ> 2. 慶州 3. 大邱 4. 大田 5. ソウル 6. その他（ ）

Q.2 Q1で「1.釜山」とお答えになった方で、釜山の訪問先をお知らせください。（○印はいくつでも）

1. 南浦洞（釜山タワー、龍頭山公園、チャガルチ市場、国際市場、PIFF広場など）
2. 西面（釜山ロッテホテル・免税店・百貨店、デヒョン地下商店街、西面食堂通り、ミリオレ など）
3. 海雲台（パラダイスホテル・免税店、海水浴場、釜山アクアリウム、海雲台市場 など）
4. 東? 温泉 5. 影島・太宗台 6. 機張・龍宮寺 7. その他（ ）

Q.3 今回の旅行で、目的にしている体験・行動は何ですか。（○印はいくつでも）

1. 観光 2. グルメ 3. 買い物 4. 美容・健康 5. 商用（出張、営業など）
6. 各種交流活動（スポーツ交流、文化交流など） 7. その他（ ）

Q.4 次の項目のうち、1. 過去に体験したことがあるもの、2. 今回体験したもの、3. 次回以降体験したいと思っているものはどれですか。（○印はいくつでも）

項目	過去	今回	次回以降
A. グルメ：焼肉（牛肉・豚肉・鶏肉など）を食べる	1	2	3
B. グルメ：鍋物（キムチチゲ・海鮮鍋・サムゲタンなど）を食べる	1	2	3
C. グルメ：その他（韓定食・屋台料理・韓国酒など）を食べる・飲む	1	2	3
D. 買い物：ブランド品（衣料、バック、化粧品、宝飾品など）を購入する	1	2	3
E. 買い物：日用品（食料品・キムチ・のり、化粧品など）を購入する	1	2	3
F. 観光：市場（チャガルチ市場、国際市場、釜田市場、機張市場など）を訪問する	1	2	3
G. 観光：歴史文化遺産（寺社仏閣、博物館、美術館など）を訪問する	1	2	3
H. 観光：名所（海水浴場、公園、遊園地など）を訪問する	1	2	3
I. 観光：イベント（スポーツ、映画、演劇、コンサートなど）に参加・鑑賞する	1	2	3
J. 美容：美容（エステ、美容院、整形・矯正など）に関わることをする	1	2	3
K. 健康：健康（温泉、マッサージ、韓薬など）に関わることをする	1	2	3
L. ボランティア、就学・留学（ ）に関わることをする	1	2	3
M. その他（ ）をする	1	2	3

Q.5 今回のご旅行は、何人でいらっしゃいましたか。また、どなたといらっしゃいましたか。(○印はいくつでも)

() 人

1. ひとり 2. 妻・夫 3. 子ども 4. 母・父 5. その他家族 6. 友人 7. 職場の方(上司・同僚など)
8. サークルなど所属団体の仲間 9. その他 ()

Q.6 釜山へのご旅行は何回目ですか。また、どのくらいの頻度で訪問されますか。(○印は1つだけ)

() 回目

1. 週に1回以上 2. 月に1回以上 3. 半年に1回以上 4. 1年に1回以上 5. 1年に1回未満
6. 今回が初めて

Q.7 今回のご旅行の日程は以下のうちどれに該当しますか。(○印は1つだけ)

1. 日帰り 2. 1泊2日 3. 2泊3日 4. 3泊4日 5. 4泊以上半月未満 6. 半月～1ヶ月未満
7. 1ヶ月以上 8. その他 ()

Q.8 今回のご旅行の計画はいつごろされましたか。(○印は1つだけ)

1. 1週間前 2. 半月前 3. 1ヶ月前 4. 2～3ヶ月前 5. 6ヶ月以上前

Q.9 今回のご旅行のタイプは次のどれに当てはまりますか。(○印は1つだけ)

1. 個人旅行 (自分で全部手配する) <Q10へ>
2. 旅行会社で手配 (交通機関・宿泊と観光がセットになったパック旅行)
3. 1・2の中間に属するもの (旅行会社で手配はしたが交通機関・宿泊・観光など別々のもの) <Q10へ>

Q.10 Q9で「1. 個人旅行 (自分で全部手配する)」または「3. 1・2の中間に属するもの」とお答えになった方で購入された、またはご存知のきっぷ、商品をお知らせください。(○印はいくつでも)

1. 通常どなたでも購入できるビートルのきっぷ (片道、往復割引など)
2. 割引きっぷ (平日往復割引、団体・学生・身障者割引、6枚回数券、ナイスゴーイングカード割引など)
3. ビートルの平日・誕生日限定の割引きっぷ (シニア・夫婦・レディース・学生・バースデー割引など)
4. ビートルのインターネット限定割引きっぷ (ビートルスペシャル・超ビートルスペシャルなど)
5. コリアレール&ビートルパス (高速船(博多～釜山)の往復と期間中韓国鉄道乗り放題がセット)
6. 日韓共同きっぷ (JR、フェリー(下関～釜山)または高速船(博多～釜山)とKTX(釜山～ソウル)がセット)
7. フレンドリーガイド (釜山観光協会などが選抜した日本語を話せる現地学生が行うお手軽な通訳ガイド)
8. インターネットを介した素材組み合わせ商品 (楽天トラベルの楽パックなど)

Q.11 釜山訪問の場合の交通機関を、どの比率で利用されていますか(比率を記入)

高速船(ビートル・コピー) %: フェリー %: 飛行機 %

Q.12 次回以降行ってみたいと思うところをお知らせください。(○印はいくつでも)

1. 南浦洞(釜山タワー、龍頭山公園、チャガルチ市場、国際市場、PIFF広場など)
2. 西面(釜山ロッテホテル・免税店・百貨店、デヒョン地下商店街、西面食堂通り、ミリオレ など)
3. 海雲台(パラダイスホテル・免税店、海水浴場、釜山アクアリウム、海雲台市場 など)
4. 東?温泉 5. 影島・太宗台 6. 機張・龍宮寺 7. その他 ()

Q.13 今回の一人当たりの旅行の予算（交通費を含む）について差し支えない程度でお知らせください。

（○印はいくつでも）

- | | | | | |
|--------------|--------------|------------|-------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 | 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 | 5. 10～15万円未満 |
| 6. 15～20万円未満 | 7. 20～30万円未満 | 8. 30万円以上 | | |

Q.14 「高速船ビートル」は何で知りましたか。（○印はいくつでも）

- | | | | | | | |
|----------|--------|--------|-----------|---------|-------|------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ | 3. ラジオ | 4. パンフレット | 5. ポスター | 6. 雑誌 | 7. インターネット |
| 8. 知人・友人 | 9. その他 | （ ） | | | | |

Q.15 本日の博多港までの交通手段を教えてください。（○印はいくつでも）

- | | | | | | |
|------------|-----------------|---------|---------|--------|-------------|
| 1. 団体の観光バス | 2. 路線バス | 3. 高速バス | 4. タクシー | 5. 地下鉄 | 6. 列車（JRなど） |
| 7. レンタカー | 8. 友人・親戚などの送りの車 | 9. 徒歩 | 10. その他 | （ ） | |

Q.16 釜山港からの目的地までの交通手段を教えてください。（○印はいくつでも）

- | | | | | | |
|------------|-----------------|---------|---------|--------|--------------|
| 1. 団体の観光バス | 2. 路線バス | 3. 高速バス | 4. タクシー | 5. 地下鉄 | 6. 列車（KTXなど） |
| 7. レンタカー | 8. 友人・親戚などの迎えの車 | 9. 徒歩 | 10. その他 | （ ） | |

Q.17 ビートルに関して次の項目にどの程度満足していただいていますか。（○印はそれぞれ1つだけ）

項目	満足度
A. 乗船までの手続き	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
B. 博多港国際ターミナルの設備やサービス	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
C. 釜山港国際ターミナルの設備やサービス	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
D. カウンタースタッフのサービス・おもてなし	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
E. 船内での設備やサービス	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
F. ビートルグリーン席での設備やサービス	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
G. 運航スケジュール（頻度・時間帯）	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足
H. 運賃	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満足 4. 不満足

Q.18 今後も機会があればビートルを利用して韓国・釜山にご旅行されたいですか。（○印は1つだけ）

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1. 利用する | 2. 利用しない | 3. わからない |
|---------|----------|----------|

【あなたのことについて】

性別	1. 男性 2. 女性	居住地	県	市 (区)	町	村
国籍	1. 日本 2. 韓国 3. その他 ()					
年齢	1. 15歳未満 2. 15～19歳 3. 20～29歳 4. 30～39歳 5. 40～49歳 6. 50～59歳 7. 60～69歳 8. 70～79歳 9. 80歳以上					
職業	1. 経営者・自営業 2. 会社員 3. 公務員 4. 派遣社員、パート・アルバイト 5. 専業主婦 6. 無職 7. 学生 8. その他 ()					
海外経験	() カ国・地域					
韓国語	1. ほとんどわからない 2. 片言なら話せる 3. 基本的な日常会話がができる 4. 流暢に話せる					

あなたにとって釜山市の魅力とはなんですか、ご自由にお答えください。

[illegible]

今回のご旅行について良かった点、悪かった点など、ご意見やご感想などがございましたらご自由にお答えください。

【ご回答欄】	

ご協力ありがとうございました。

ビートル・コピー お客様

— A —

アンケート【福岡-釜山】調査票

調査日 月 日

実施主体：JR 九州高速船（株）・未来高速（株）／（財）福岡アジア都市研究所

アンケート責任者：092-733-5686（小牧、野口）

本アンケート調査は、福岡～釜山間におけるお客様の「満足度の向上」を目的とし、実施するものです。ご移動中のお疲れのところ大変恐縮ですが、どうぞご協力をお願い申し上げます。

なお、アンケートにご協力いただいたお客さまにはビートル船内にてご利用いただける１ドリンク券（ホット・アイスコーヒー、ソフトドリンク・ビールからおひとつお選びいただけます）を呈いたします。また、付属のボールペンにつきましてもご自由にお持ち帰りください。

※これから向かわれる方は、ご予約をお書きください。

Q 1. 今回の訪問予定地（乗りかえなどの短時間滞在は除く）をお知らせください。（複数選択可）

- 1.福岡市（Q 2 へ） 2.太宰府市（天満宮、九州国立博物館など） 3.阿蘇 4.ハウステンボス 5.別府
6.湯布院 7.久住（九重） 8.雲仙 9.長崎市 10.唐津（唐津城、名護屋城など） 11.鹿児島
12.宮崎（シーガイアなど） 13.その他（ ）

Q 2. Q 1 で「1.福岡市」とお答えになった方で、福岡の訪問先をお知らせください。（複数選択可）

- 1.天神地区（天神、西通り、大名、西鉄電車天神福岡駅、西鉄バスセンターなど）
2.博多地区（博多駅、キャナルシティ、中洲歓楽街 など）
3.近郊地区（マリノアシティ、二日市温泉など 4.その他（ ）

Q.3 今回の旅行で、目的にしている体験・行動は何ですか。（複数選択可）

- 1.観光 2.グルメ 3.買い物 4.商用（出張、営業など）
5.各種交流活動（スポーツ交流、文化交流など） 6.その他（ ）

Q.4 次の項目のうち、1. 過去に体験したことがあるもの、2. 今回体験したもの、3. 次回以降体験したいと思っているものはどれですか。（複数選択可）

項目	過去	今回	次回以降
A. グルメ：日本料理（寿司、てんぷら、うどん）を食べる	1	2	3
B. グルメ：九州の料理（もつ鍋、水炊き、ラーメン）を食べる	1	2	3
C. 買い物：ブランド品（衣料、バック、化粧品、宝飾品など）を購入する	1	2	3
D. 買い物：電化製品（掃除機、炊飯器、PC 周辺機器など）を購入する	1	2	3
E. 買い物：日用品（100 円ショップ・食料品、化粧品など）を購入する	1	2	3
F. 観光：歴史文化遺産（寺社仏閣、博物館、美術館など）を訪問する	1	2	3
G. 観光：名所（海水浴場、公園、遊園地など）を訪問する	1	2	3
H. 観光：イベント（スポーツ、映画、演劇、コンサートなど）に参加・鑑賞する	1	2	3
I. 観光：ゴルフをする	1	2	3
J. 観光：アウトドア（釣り、山登り、ハイキング）をする。	1	2	3
K. 健康：温泉にはいる	1	2	3
L. ボランティア、就学・留学（ ）に関わることをする	1	2	3
M. その他（ ）をする	1	2	3

Q.5 今回の九州へのご旅行は何人でいらっしゃいましたか。また、どなたといらっしゃいましたか。
(複数選択可)

() 人

1. ひとり 2. 妻・夫 3. 子ども 4. 母・父 5. その他家族 6. 友人 7. 職場の方 (上司・同僚など)
8. サークルなど所属団体の仲間 9. その他 ()

Q.6 今回の九州へのご旅行は何回目ですか。また、どのくらいの頻度で訪問されますか？

() 回目

1. 週に1回以上 2. 月に1回以上 3. 半年に1回以上 4. 1年に1回以上 5. 1年に1回未満
6. 今回が初めて

Q.7 今回のご旅行日程は以下のうちどれに該当しますか。(1つに ○を)

1. 日帰り 2. 1泊2日 3. 2泊3日 4. 3泊4日 5. 4泊以上半月未満 6. 半月～1ヶ月未満
7. 1ヶ月以上 8. その他 ()

Q.8 今回のご旅行の計画はいつごろされましたか。

1. 1週間前 2. 半月前 3. 1ヶ月前 4. 2～3ヶ月前 5. 6ヶ月以上前

Q.9 今回のご旅行タイプは次のどれに当てはまりますか。(1つに ○)

1. 個人旅行 (自分で全部手配する) (Q10へ)
2. 旅行会社で手配 (交通機関・宿泊と観光がセットになったパック旅行)
3. 1・2の中間に属するもの (旅行会社で手配はしたが交通機関・宿泊・観光など別々のもの) (Q10へ)

Q.10 Q9で「1. 個人旅行 (自分で全部手配する)」または「3. 1・2の中間に属するもの」とお答えになった方で購入された、またはご存知のきっぷ、商品をお知らせください。(複数選択可)

1. 通常どなたでも購入できる高速船コビーのきっぷ (片道運賃など)
2. 割引きっぷ (団体・学生・身障者割引、6枚回数券など)
3. 韓日共同きっぷ (JR、フェリー (下関～釜山) または高速船 (博多～釜山) とKTX (釜山～ソウル) がセット)
4. SUNQパス (九州内バス乗り放題券)
5. KYUSHU レールパス (高速船 (博多～釜山) の往復と期間中JR九州の鉄道乗り放題がセット)
6. JR九州 レールパス (期間中JR九州の鉄道乗り放題券)
7. KTX+コビーパス (往復の高速船 (コビー船のみ博多～釜山) とKTX (ソウル～釜山) がセット)
8. ジャパンレールパス (外国人向け全国JR路線乗り放題券)

Q.11 九州訪問の場合の交通機関を、どの比率で利用されていますか (比率を記入)

高速船 (ビートル・コビー) % : フェリー % : 飛行機 %

Q.12 次回以降行ってみたいと思うところをお知らせください。(複数選択可)

1. 天神地区 (天神、西通り、大名、西鉄電車天神福岡駅、西鉄バスセンターなど)
2. 博多地区 (博多駅、キャナルシティ、中洲歓楽街 など)
3. 近郊地区 (マリノアシティ、二日市温泉など 4. その他 ()

Q 1 3 今回の一人当たりの旅行の予算（交通費を含む）について差し支えない程度でお知らせください。
（複数選択可）

1. 3万円未満	2. 3～5万円未満	3. 5～7万円未満	4. 7～10万円未満	5. 10～15万円未満
6. 15～20万円未満	7. 20～30万円未満	8. 30万円以上		

Q 1 4 「高速船コビー」は何で知りましたか。（複数選択可）

1. 新聞	2. テレビ	3. ラジオ	4. パンフレット	5. ポスター	6. 雑誌	7. インターネット
8. 知人・友人	9. その他	()				

Q 1 5 本日の釜山港までの交通手段を教えてください。（複数選択可）

1. 団体の観光バス	2. 路線バス	3. 高速バス	4. タクシー	5. 地下鉄	6. 列車（KTXなど）
7. レンタカー	8. 友人・親戚などの送りの車	9. 徒歩	10. その他	()	

Q 1 6 博多港からの目的地までの交通手段を教えてください。（複数選択可）

1. 団体の観光バス	2. 路線バス	3. 高速バス	4. タクシー	5. 地下鉄	6. 列車（KTXなど）
7. レンタカー	8. 友人・親戚などの迎えの車	9. 徒歩	10. その他	()	

Q. 1 7 ビートルに関して次の項目にどの程度満足していただいていますか。

項目	満足度			
A. 乗船までの手続き	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
B. 釜山港国際ターミナルの設備やサービス	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
C. 博多港国際ターミナルの設備やサービス	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
D. カウンタースタッフのサービス・おもてなし	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
E. 船内での設備やサービス	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
F. ビートルグリーン席での設備やサービス	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
G. 運航スケジュール（頻度・時間帯）	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足
H. 運賃	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. 不満足

Q. 1 8 今後も機会があればコビーを利用して九州にご旅行されたいですか。

1. 利用する	2. 利用しない	3. わからない
---------	----------	----------

【あなたのことについて】

性別	1.男性	2.女性	居住地	道	市（	区）	洞
国籍	1. 韓国	2.日本	3.その他	（ ）			
年齢	1.15歳未満	2.15～19歳	3.20～29歳	4.30～39歳	5.40～49歳		
	6.50～59歳	7.60～69歳	8.70～79歳	9.80歳以上			
職業	1.経営者・自営業 2.会社員 3.公務員 4.派遣社員、パート・アルバイト						
	5.専業主婦 6.無職 7.学生 8.その他（ ）						
海外経験	（ ）カ国・地域						
日本語	1.ほとんどわからない 2.片言なら話せる 3.基本的な日常会話ができる 4.流暢に話せる						

あなたにとって福岡市や九州の魅力とは何でしょうか、ご自由にお答えください。

[illegible]

今回のご旅行について良かった点、悪かった点など、ご意見やご感想などがございましたら自由にお答えください。

[illegible]

ご協力ありがとうございました。

ニューかめりあ お客様

— A —

アンケート【福岡-釜山】調査票

調査日 月 日

実施主体：カメラライン（株）／（財）福岡アジア都市研究所
アンケート責任者：092-733-5686（小牧、野口）

本アンケート調査は、福岡～釜山間におけるお客様の「満足度の向上」を目的とし、実施するものです。ご移動中のお疲れのところ大変恐縮ですが、どうぞご協力をお願い申し上げます。なお、アンケートにご協力いただいたお客さまには粗品（チョコ菓子）を進呈いたします。

【あなたのことについて】

性別	1.男性 2.女性	居住地	道 市（ 区 ） 洞		
国籍	1. 韓国 2. 日本 3. その他（ ）				
年齢	1. 15歳未満 2. 15～19歳 3. 20～29歳 4. 30～39歳 5. 40～49歳 6. 50～59歳 7. 60～69歳 8. 70～79歳 9. 80歳以上				
職業	1. 経営者・自営業 2. 会社員 3. 公務員 4. 派遣社員、パート・アルバイト 5. 専業主婦 6. 無職 7. 学生 8. その他（ ）				
海外経験	経験回数：（ ）カ国 ただし、今回の旅行は含まない。 国 名：（ ）				
日本語	1. ほとんどわからない 2. 片言なら話せる 3. 基本的な日常会話ができる 4. 流暢に話せる				

Q 1. 今回の訪問予定地（乗りかえなどの短時間滞在は除く）をお知らせください。（複数選択可）

1. 福岡市（Q 2 へ） 2. 太宰府市（天満宮、九州国立博物館など） 3. 阿蘇 4. ハウステンボス 5. 別府
6. 湯布院 7. 久住（九重） 8. 雲仙 9. 長崎市 10. 唐津（唐津城、名護屋城など） 11. 鹿児島
12. 宮崎（シーガイアなど） 13. その他（ ）

Q 2. Q 1 で「1. 福岡市」とお答えになった方で、福岡市での訪問先をお知らせください。（複数選択可）

1. 天神地区（天神、西通り、大名、西鉄電車天神福岡駅、西鉄バスセンターなど）
2. 博多地区（博多駅、キャナルシティ、中洲歓楽街 など）
3. 近郊地区（マリノアシティ、二日市温泉など） 4. その他（ ）

Q 3. 今回の旅行で、目的にしている体験・行動は何ですか。（複数選択可）

1. 観光 2. グルメ 3. 買い物 4. 商用（出張、営業など）
5. 各種交流活動（スポーツ交流、文化交流など） 6. その他（ ）

Q 4. 今回の九州へのご旅行は何人でいらっしゃいましたか。また、どなたといらっしゃいましたか。（複数選択可）

- 人数（ ）人
1. ひとり 2. 妻・夫 3. 子ども 4. 母・父 5. その他家族 6. 友人 7. 職場の方（上司・同僚など）
8. サークルなど所属団体の仲間 9. その他（ ）

5. 今回の九州へのご旅行は何回目ですか。また、どのくらいの頻度で訪問されますか？（1つに ○）

訪問回数（ ）回目

- 1.週に1回以上 2.月に1回以上 3.半年に1回以上 4.1年に1回以上 5.1年に1回未満
6.今回が初めて

Q.6 今回のご旅行日程は以下のうちどれに該当しますか。（1つに ○を）

- 1.日帰り 2.1泊2日 3.2泊3日 4.3泊4日 5.4泊以上半月未満 6.半月～1ヶ月未満
7.1ヶ月以上 8.その他（ ）

Q.7 今回のご旅行の計画はいつごろされましたか。（1つに ○）

- 1.1週間前 2.半月前 3.1ヶ月前 4.2～3ヶ月前 5.6ヶ月以上前

Q.8 九州に訪問する場合の交通機関は、どれくらいの比率で利用されていますか（比率を数値で記入）

フェリー %： 高速船（ビートル・コビー） %： 飛行機 %

Q.9 次回以降行ってみたいと思うところをお知らせください。（複数選択可）

- 1.天神地区（天神、西通り、大名、西鉄電車天神福岡駅、西鉄バスセンターなど）
2.博多地区（博多駅、キャナルシティ、中洲歓楽街 など）
3.近郊地区（マリノアシティ、二日市温泉など 4.その他（ ）

Q.10 今回の一人当たりの旅行の予算（交通費を含む）について差し支えない程度でお知らせください。
（複数選択可）

- 1.3万円未満 2.3～5万円未満 3.5～7万円未満 4.7～10万円未満 5.10～15万円未満
6.15～20万円未満 7.20～30万円未満 8.30万円以上

Q.11 「ニューかめりあ」は何で知りましたか。（複数選択可）

- 1.新聞 2.テレビ 3.ラジオ 4.パンフレット 5.ポスター 6.雑誌 7.インターネット
8.知人・友人 9.その他（ ）

Q.12 本日の釜山港までの交通手段を教えてください。（複数選択可）

- 1.団体の観光バス 2.路線バス 3.高速バス 4.タクシー 5.地下鉄 6.列車（KTXなど）
7.レンタカー 8.友人・親戚などの送りの車 9.徒歩 10.その他（ ）

Q.13 博多港からの目的地までの交通手段を教えてください。（複数選択可）

- 1.団体の観光バス 2.路線バス 3.高速バス 4.タクシー 5.地下鉄 6.列車（KTXなど）
7.レンタカー 8.友人・親戚などの迎えの車 9.徒歩 10.その他（ ）

Q.14 今後も機会があればニューかめりあを利用して九州にご旅行されたいですか。（1つに ○）

- 1.利用する 2.利用しない 3.わからない

Q.15 ニューかめりあに関して次の項目にどの程度満足していただいていますか。（それぞれ1つに ○）

項目	満足度			
1. 乗船までの手続き	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足
2. 釜山港国際ターミナルの設備やサービス	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足
3. 博多港国際ターミナルの設備やサービス	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足
4. カウンタースタッフのサービス・おもてなし	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足
5. 船内での設備やサービス	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足
6. 運航スケジュール（頻度・時間帯）	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足
7. 運賃	1.満足	2.やや満足	3.やや不満足	4.不満足

Q.16 今回のご旅行タイプは次のどれに当てはまりますか。（1つに ○）

- 1.個人旅行（自分で全部手配する）（Q17へ）
- 2.旅行会社で手配（交通機関・宿泊と観光がセットになったパック旅行）
- 3.1・2の中間に属するもの（旅行会社で手配はしたが交通機関・宿泊・観光など別々のもの）（Q17へ）

Q.17 Q16で「1. 個人旅行（自分で全部手配する）または 3.1・2の中間に属するもの」とお答えになった方で購入された、またはご存知のきっぷ、商品をお知らせください。（複数選択可）

- 1.通常どなたでも購入できるフェリーのきっぷ（片道運賃など）
- 2.割引きっぷ（団体・学生・身障者割引、6枚回数券など）
- 3.韓日共同きっぷ（JR、フェリー（下関～釜山）または高速船（博多～釜山）とKTX（釜山～ソウル）がセット）
- 4.SUNQパス（九州内バス乗り放題券）
- 5.KYUSHUレールパス（高速船（博多～釜山）の往復と期間中JR九州の鉄道乗り放題がセット）
- 6.JR九州レールパス（期間中JR九州の鉄道乗り放題券）
- 7.ジャパンレールパス（外国人向け全国JR路線乗り放題券）

Q.18 次の項目のうち、1. 過去に体験したことがあるもの、2. 今回体験したもの、3. 次回以降体験したいと思っているものはどれですか。（複数選択可）

項目	過去	今回	次回以降
1. グルメ：日本料理（寿司、てんぷら、うどん）を食べる	1	2	3
2. グルメ：九州の料理（もつ鍋、水炊き、ラーメン）を食べる	1	2	3
3. 買い物：ブランド品（衣料、バック、化粧品、宝飾品など）を購入する	1	2	3
4. 買い物：電化製品（掃除機、炊飯器、PC周辺機器など）を購入する	1	2	3
5. 買い物：日用品（100円ショップ・食料品、化粧品など）を購入する	1	2	3
6. 観光：歴史文化遺産（寺社仏閣、博物館、美術館など）を訪問する	1	2	3
7. 観光：名所（海水浴場、公園、遊園地など）を訪問する	1	2	3
8. 観光：イベント（スポーツ、映画、演劇、コンサートなど）に参加・鑑賞する	1	2	3
9. 観光：ゴルフをする	1	2	3
10. 観光：アウトドア（つり、山登り、ハイキング）をする。	1	2	3
11. 健康：温泉にはいる	1	2	3
12. ボランティア、就学・留学（ ）に関わることをする	1	2	3
13. その他（ ）をする	1	2	3

あなたにとって福岡市や九州の魅力とは何でしょうか、ご自由にお答えください。

【ご回答欄】

今回のご旅行について良かった点、悪かった点など、ご意見や感想などがございましたら自由にお答えください。

【ご回答欄】

ご協力ありがとうございました。

報告書作成担当者

研究主査 小牧 重己

主任研究員 野口 誠

理事長 樗木 武

アンケート調査業務担当

西日本リサーチ（株）

木原 将希 徳永 健太郎

アンケート協力

J R九州高速船（株）

北海 昭 荒巻 良考

カメラライン（株）

平野 雄二

「福岡・釜山圏における日常交流圏の形成に関する研究」シリーズN o 2
船舶利用者の需要動向と旅行形態、旅行意識に関する研究

－報告書－

2008 年 3 月

財団法人 福岡アジア都市研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神 1 丁目 10 - 1

Phone 092 - 733 - 5686

E-mail info@urc.or.jp

URL <http://www.urc.or.jp>
